025.1
Sy998
T2
00256967

×
複写

サトト-1 58

出版年鑑

1933

東京書籍商組合版

東京開成館編輯所編◆小形英和としての標準辭典◆

The Standard English-Japanese Dictionary

標準英和辭典

ポケット型・六四〇頁
革製 一圓五〇錢
布製 一圓三〇錢

鹽谷榮先生編◆初學者本位リーダ中心の英和辭典◆

Beginners' English-Japanese Dictionary

ビギナズ英和辭典

ポケット型・五四〇頁
革製 一圓五〇錢
布製 一圓三〇錢

東京開成館 東京 東京小石川 振替貯金口座 東京五三五二二

推薦激賞の優良圖書

文部省推薦！優良圖書

女子教育の理念

東京帝大教授 文學博士 吉田熊次著
菊判天金 五二〇頁 定價參・八圓 送二〇錢

女子教育の根本的研究にして女子の社會的心理的研究を基礎とし、女子教育の本質、發達の歷史、批評、將來を說ける唯一最高權威書！

世界的名著！人間中心綜合哲學新潮

現代哲學の根本問題

廣島文理大教授 文學博士 勝部謙造著
菊版最上製 五八〇頁 定價參・八圓 送廿二錢

生哲學、新現象學を對比し、發達の歷史、本質、批評を叙述し著者の新哲學を提唱せる世界的名著！

日本圖書館協會推薦の名著!!

國民道德原論

廣島文理大教授 文學博士 清原貞雄著
菊版天金 六八〇頁 定價四・八圓 送廿二錢

新社會生活原理を基礎とし日本精神を中心とせる國民道德の全系を明快に組織的に叙述せる好評嘖々の最新最良書！

現代思想問題の綜合徹底的解明書

社會思想の批判的研究

東京帝大教授 文學博士 深作安文著
菊版最上製 六五〇頁 定價四・五圓 送廿二錢

現代社會改造思想の全般に亘り其の發達の歷史、本質觀、國民思想との關係批判を徹底的に究明せる現下唯一の最高權威書！

大阪朝日新聞激賞の名著!!

國史教育原論

廣島文理科大學教授 栗田元次著
菊版天金 五二〇頁 定價參・八圓 送廿二錢

新時代の國史教育の本質、方法を解明せる清新明快要を盡せる近來稀に見る第一の書！

教育思潮の根本的綜合的解明書

現代教育思潮大觀

東京帝大教授 文學博士 入澤宗壽著
菊版天金 四八〇頁 定價參・五圓 送廿錢

現代教育思潮の全般に亘り各思潮の基礎、發達の歷史、本質、批評を明快に叙述せる唯一最高權威書！

東京市 仲町三丁目 東京市 谷四丁目 同文書院 振替口座 東京一三一六番

昭和八年版

出版年鑑

東京書籍商組合

文學博士　狩野亨先生　共編
岩上方外先生

書畫落款印譜大全

第一輯　明治以前　鳥羽僧正より幕末まで三百數十名三千餘の印章を集む。
第二輯　維新以後　維新以後より明治、大正、昭和の故人となつた畫家名士の一切を集む。

◉四六倍判背皮不折題字豪華製本、定價各金十二圓、送料金五十六錢、紙數六百頁全寫眞銅版印刷

狩野博士と岩上先生とは現代に於ける書畫鑑定界の巨人である。本書は兩氏が十年の歳月を勞して鳥羽僧正より明治大正までの名人畫家壹千名、約壹萬五千個の印影を年代順に收錄したものである、しかも尤も科學的の寫眞技術を用ゐ、原彩と一厘一毫も相違なく寫出してゐる、されば文晁、鄰山、椿山、探幽、小竹、象山等の一冊五十圓以上の價値ある印譜だけでも數十冊を收容した最も完備した現代唯一の印譜大全集である。

醫學博士　杉浦清先生完譯　特價　金四圓八拾錢

モル氏性慾科學大系

いよ〳〵中卷出來（大系中尤も興味ある一卷）

紙數　六百五十頁　菊判

堂々たる大著　挿畫寫眞三百

モル氏の性慾科學大系は、國逸に於てさい容易に入手する能はざる珍書であるモル氏は自費を以て出版し好の士にだけ頒けたもので、勿論日本に於て之れを購はんとしても到底その目的を達し得ないのである。モル氏は全卷を大體『男女性器の研究』と『性風俗文化の研究』と『性病の研究』の三つに分けてゐるが、本書『中卷』は性風俗文化に關する部分を全部譯述したもので全卷のうちで尤も興味ある箇所である。本書はさすがに性慾研究の大本山であることに讀者も驚異の眼を見張るであらう。

藥學士　久保格先生著（菊判洋製美本）特價金三圓

媚藥新考

◆世界最新の性愛　藥の寶典！

◆夫婦愛の欠陷に惱めるもの、一般研究學徒は讀め！

本書の出現に依つて從來の類書は必ずや光を失ふであらう。古代から現代に至る媚藥の史的考察は同時に又、人類生活の史的考察である。著者は嚴正なる科學的見地から媚藥の製法、其正しき用法並に効果に就て詳說すると共にまた人類性生活に關する興味深き一面をも叙してゐる。性生活の欠陷者、學者、教育家、宗教家、一般學徒、特に醫家藥劑家の一讀を薦む。

東京市芝區南佐久間町二の十
振替東京三四〇六〇番

武俠社

025.1
Sy998

序

輓近文化の進展に伴ひ、新刊圖書の發行は增加し、從つてこれが圖書目錄は多種多樣に刊行されて居るが、官公署版を始め書店版の一切の書目を網羅したるものは、月刊物は別として、我東京書籍商組合發行の「出版年鑑」以外には之を他に求め得られぬのである。茲に本年鑑の必要が痛感される理由ある所以である。また他に出版年鑑と稱し、或は圖書目錄と稱するもの數種あるが、それ等の收容する書目數は凡そ五千種程度に過ぎぬ。然るに本年鑑にあつては毎年約壹萬四五千種の書目を收容し、年々の新刊書要目を網羅する點に於て、斷然他の追隨を許さゞるものである。これ讀書家及び各種專門研究家にとつて、本年鑑の最も歡迎せらるゝ理由である。

抑も本組合が、今を距る四十年前、明治二十六年に第一版「圖書總目錄」を刊行して以來、凡そ四五年毎に其の新版を刊行し來り、恰も本年は其の第八版を刊行すべく目下編纂を進めつゝある。別に、明治三十五年以來毎月間斷なく「圖書月報」を發行し來り、現在は其の第三十一卷を重ねて居る。さりながら、新時代の要求は、月刊の斷片物や、又は四五年の間隔あるものを空しく袖手待望するに忍びずとする。仍て昭和四年、他に率先して「出版年鑑」

日本政治動向論

東京帝國大學教授 蠟山政道著 最新刊

菊版・五八〇頁・上製箱入・定價三圓八十錢・送料二十二錢

1 政治學及び政治思想の動向
2 歐洲戰後日本デモクラシーの展望
3 ファシスタクラシーと經濟政策
4 我國無産政黨の發生と其後
5 日本に於ける議會政治の不振
6 議會を繞る政黨と大衆
7 議會改造と選擧革正
8 世界恐慌とデモクラシーの危機
9 我國に於ける立憲的獨裁
10 新國家主義への反動

三倍増補 独乙文章論

東京帝國大學教授 田中康一著

國際版・二八〇頁・上製箱入・定價二圓・送料十四

此書は、イゼの獨逸文典から文章論の部を譯述し、それに詳細な註解を添へたもので、一總論に於ては文章の要素種類等を略述し、二本論に於て詞と詞との結合、文章の構成、文章と文章との複合を詳述し、三例題は全部譯文を附して初學者の便を計り、四卷末に詳密な內容索引を添へて字句の用法のみならず文法用語の說明をも容易に檢索し得るやうにしてある。文章論の好參考書に乏しき時、田中氏の此著は獨逸語界の缺陷を補充して餘りあるものと信ずる。三浦吉兵衛先生

會計學概論

東京商科大學教授 太田哲三著

菊版・四百餘頁・上製箱入・定價二圓八十錢・送料十六

六版

產業合理局委員、遞信省囑託として事業會計の確立に盡瘁せられ又計理士試驗委員及檢委員として學界に重ずる著者が多年の蘊蓄を傾倒して、學理的、且つ實際的、總ての會計學上の諸問題の橫斷的說明を與へ餘す所なき辭典的參考書

明日の初等教育

東北帝國大學教授 廣濱嘉雄著

菊版・約五百頁・上製箱入・定價三圓六十錢・送料二十二

二版

本書の大方針は既にその標題が示してゐるやうに、我國初等教育將來の進路を示すにあることである。然も、單に獨りよがりの主觀的な主張でもなく、又只管に或る特殊の部面から考察せられた偏倚の意見でもなく十分に博大な基礎と見地からの、正しく確なる途の開拓にあつたことである。然もこの事たる實に、教育の如き複雜な事象に於ては決して容易なことでない、然るに、氏の結論は、その取扱つた何れの問題に就いても、全く動かないものを示してくれた。

（東京高師教授 佐々木秀一先生御批評の一部）

東京・神田・小川町一 内神田ビル 高陽書院 振替東京九〇〇九 電話神田一七二四〇〇三

東京帝國大學 田中康一 蔵書
国立国会図書館 256967

を創刊し、爾來版を重ぬること四回、昨年よりは從前の菊判を四六判に改め、價格も半減して大いに讀書大衆の便益を計つたところ、昨年版に於ては實に豫想外の大歡迎を受けた。茲に第五版「出版年鑑」を刊行するに際し、亦極めて廉價と普及の實質を備へしむることに努力した。斯くて毎年の本年鑑を注意保存せらるゝに於ては、最も完備したる出版總目錄として、讀書家並に書籍業者の絶好指針たるべきを信ずるのである。

昭和八年四月

東京書籍商組合
組長　上原才一郎

凡例

一、本年鑑（昭和八年版）に輯錄した新刊圖書目錄は昭和七年一月より同十二月まで、一箇年間に刊行された單行本である。

一、昭和三・四・五・六年の刊行書については本年鑑の昭和四年版・同五年版・同六年版・同七年版の四卷に依つて調査されたい。

一、定價の明記なく非賣とも豫約とも記してないものは多く自費出版にして、奥附に何等の明記なきもので、官版も亦同じである。

一、判型については次の略符を以てこれを示した。

◎は菊判　○は四六判　△は菊判以上の大型　×は四六判以下の小型

一、本年鑑の丁附（頁數）は、例へば本文欄は本一、廣告欄は廣一、目錄欄は單に一と、三樣に別ちてある。

一、畫集・樂譜・その他に於て判型を簡明に記し難い場合、或は其の頁數を記す必要を認めない場合には、凡て之を略した。

一、教科書については煩を避くる爲め頁數を略記したものもある。

一、本年鑑に掲載された出版廣告は、他面また刊行書の説明でもあり亦七年度前後の記錄でもあるから、特に廣告索引を編して、其れ等の檢索に便した。

一、本年鑑編纂上に不備の點、お氣付の點あらば次年度編纂の參考までに、東京書籍商組合「出版年鑑」編輯部宛御教告を乞ふ。

編者

昭和八年版 出版年鑑目次

昭和七年出版界展望……本一
學術雜誌に就て……本五
出版界一年史……本一〇

昭和七年一月

昭和六年の納本總數……本一〇
書籍雜誌の輸入統計……本一一
紙の製造、販賣、輸入統計……本一三
東京書籍商組合定時總會……本一三
東京出版協會總會……本一四
中等教科書協會總會……本一四
日本雜誌協會總會……本一四
東京雜誌販賣業組合總會……本一四
大阪書籍雜誌商組合總會……本一四
京都書籍雜誌商組合總會……本一五
凶作地に教科書を寄附……本一五
雜誌運賃發行元負擔の運動……本一五

二月

名古屋組合の紛爭事件……本一六
雜誌協會の博讀會問題……本一七
中等教科書の取引規程改正……本一七
教科書注文の概數問合せ……本一八
出版協會通信市の成績……本一八
兵庫縣組合總會……本一八
業界から出た代議士……本一八

三月

左右兩思想の取締嚴重……本一九
卸業總會の市會……本二〇
實話で菊地氏訴へらる……本二〇
「一代男」の佛譯完成す……本二〇

圖書館制度の革新……本二〇
ゲーテ百年忌紀念文献展……本二一

四月

極左出版物の横行……本二一
出版業の滿洲國進出……本二三
ラヂオ著作權確定……本二三
英書展覽會……本二三

五月

不良教科書取締……本二五
第十二回大寶會……本二六
全國兵書組合の設立……本二六
原稿料請求の訴訟……本二七
出版關係者圓卓會議……本二七

六月

鐵道荷物運賃規則の改正……本二八
中等教科書の献本問題……本二三
林前組長表彰……本二三
聯合會の林前會長表彰……本二四
雜誌協會と新聞社の懇談……本二五
賣上カード案實施運動……本二六
雜誌割引率申合せ……本二六

七月

雜誌のアンカット案……本二七

八月

全國中等教科書販賣業大會……本二九
殘本業者の反對運動奏効……本四〇
日本雜誌組合創設さる……本四〇
大阪組合總會……本四〇
出版界の多額納稅者……本四一
色刷教科書……本四一
賴山陽全書完成……本四一
大塚周吉氏逝く……本四一

九月

文部省圖書課長更迭……本四三

十月

第三十回圖書大市會……本四三
地方協會總會……本四三
全國聯合會總會……本四三
中等教科書販賣者の團結……本四三
三大製紙會社合同……本四五
雜誌編輯の功勞者表彰……本四五
警保局檢閲事務の擴大……本四六
滿洲國地圖の改訂……本四六
滿洲國の教育出版……本四六

十一月

圖書館週間……本四七
京都の讀者週間……本四七
販賣制度改善意見の問合せ……本四九
東京書籍商組合定時總會……本五九
東京出版協會總會……本五九
中等教科書協會總會……本五九
日本雜誌協會總會……本六〇
東京雜誌販賣業組合總會……本六〇
大阪組合の總會……本六〇
大阪出版組合總會……本六〇
學習帖値下げ陳情……本六〇
印刷代値上げの交渉……本六一
一月中の新聞廣告……本六一
出版物類別月表……本六三
出版物月次增減表……本六八
新聞紙月次增減表……本七〇
出版物縣別統計表……本七四
官衙印刷工場機構一覽……本七六
當業團體の規約及役員……本八三
東京書籍商組合規約……本八三
同　評議員……本八八
全國書籍商組合聯合會規約……本八九
東京朝日と雜誌協會の廣告問題……本九〇
東京朝日と雜誌協會の廣告問題解決……本九一
早稲田大學出版展覽會……本九三
「青い鳥」飜譯權事件……本九三
東京圖書雜誌組合總會……本九四
實業教科書に檢定制採用……本九四
故林平次郎氏の傳記編纂……本九四
著作權保護の昇格……本九五
圖書館令改正……本九五
天正使節の紀念展覽會……本九六

十二月

滿洲國地理訂正……本九七
活版界先覺者紀念會……本九七
小泉八雲氏の紀念館建設……本九七
英文「俳句集」完成……本九八
シーボルトの「植物志」……本九八

昭和八年一月

全國書籍商組合聯合會常任幹事……本九九
東京出版協會規約……本九九
同　協議員……本九九
中等教科書協會規約……本九七
同　幹事……本一〇〇
日本雜誌協會規約……本一〇〇
同　評議員……本一〇三
東京雜誌販賣業組合規約……本一〇四
同　幹事……本一〇九
東京書籍商組合員分布情態……本一一〇
東京書籍商組合員一覽……本一一一
雜誌發行所一覽……本一五六
全國書籍商組合一覽……本一七八
商標登錄の書名一覽……本一八一
出版權法案……本一九〇
圖書館統計……本一九二
全國主要圖書館一覽……本二六五
出版法規……本一九三
著作權法……本一九三

著作權法施行細則……本二〇〇
著作權登錄樣式……本二〇五
著作權ニ關スル登錄出願書式……本二〇七
登錄稅法……本二〇九
教科用圖書檢定規則……本二〇九
教科書檢定ニ關スル願屆書式……本二一一
中等學校用教科書定價標準……本二一三
檢定出願教科用圖書定價標準內規……本二一七
軍隊教育用圖書檢閱規則……本二一九
出版法ニ據リ刻版印本ヲ差押ヘタルトキ取扱處分方……本二一九
差押出版物ノ分割還付ニ關スル件……本二二〇
新聞紙法及豫約出版法ニ據ル保證金ニ充ツルコトヲ得ル有價證券ノ種類……本二二一
刑法……本二二一
民法……本二二二
治安警察法……本二二二
警察犯處罰令……本二二二
菊御紋竝禁裏御用等ノ文字濫用ヲ禁ス……本二二二
第三種郵便物ニ關スル願屆書式……本二二二
第三郵種便注意事項……本二二五
約束郵便取扱承認規則……本二二六
郵便規則摘載……本二二七
約束郵便ニ關スル注意……本二二八
約束郵便ニ關スル願屆書式……本二二〇
內國通常郵便物料……本二二二
內國小包郵便料……本二二三
文部省圖書推薦規程……本二二三
文部省圖書認定規程……本二二四

◇

號數活字（舊活字）の大きさ……二二六
九ポイント系統活字の大きさ……二二三
書籍の名稱……本一〇九
書籍の判型と紙の取方一覽……二九六
書籍の仕上り寸法……二四二
新聞段數の變遷と廣告料……二九八
英國の重なる出版業……二八〇
佛國の重なる出版業……二二八
御肖像ニ關スル取締方……本二二二
弘曆者ノ外頒曆取扱ヲ禁ス……本二二三
本曆略本曆頒布及一枚摺略曆出版方……本二二三
一枚摺曆出版ノ規定……本二二四
神社寺院ノ守札及神佛號記載ノ畫像出版ニ關スル達……本二二四
大日本帝國憲法……本二二四
未發表ノ著述ノ稿本ニ關スル民事訴訟法……本二二四
文學的及美術的著作物ノ保護ニ關スル「ベルヌ」條約……本二二五
出版法……本二二四
出版ニ關スル願屆書式……本二二七
豫約出版法……本二二八
豫約出版ニ關スル願屆書式……本二四一
新聞紙法……本二四二
新聞紙法ニ關スル願屆書式……本二四七
納本ニ就テノ注意……本二四九
第三種郵便物認可規則……本二五〇
郵便規則摘要……本二五二
獨逸の重なる出版業……二四一
米國の重なる出版業……二七四
ベルヌ條約國及調印列席者……四一六
出版物及新聞紙取締法規沿革一覽……四四一

◇

圖書類別目錄索引……索一〇

◇

圖書類別目錄……一

◇

廣告掲載店名索引……索一九
廣告圖書類別索引……索二三

◇

輯錄圖書統計表……廣一〇〇
奥附……廣一〇〇

圖書類別目錄索引

第一類　皇室・國體……一

〔一〕勅語・勅諭・歷代天皇……一
〔二〕明治天皇・今上・皇族……一
〔三〕皇室雜・皇陵……二
〔四〕國體・國民精神……三
(ア)皇室・國體・天皇研究……三
(イ)國民精神・國民運動……三

第二類　宗教……七

〔一〕宗教一般……七
(ア)宗教學・宗教論……七
(イ)無神論・反宗教・批判……七
(ウ)信仰記……八
〔二〕佛教……八
(ア)佛教哲學・佛教研究……八
(イ)諸宗派……九
(ウ)經典講義……一〇
(エ)信仰問題・記錄……一四
(オ)傳記・寺院・雜……一六
〔三〕基督教……一六
(ア)研究・教理・教會……一六
(イ)聖書・註釋……一七
(ウ)基督・使徒傳……一八
(エ)信仰書・信仰生活・雜錄……一九
〔四〕神道・雜……二二
(ア)神道研究……二二
(イ)神宮・神社・祭式作法……二二
(ウ)天理教・其他雜……二三

第三類　哲學……二五

〔一〕哲學……二五
(ア)哲學研究・哲學概論……二五
(イ)ヘーゲル・カント其他哲學……二五
(ウ)マルキシズム哲學(近代唯物論)……二六
〔二〕東洋哲學……二七
(ア)印度支那哲學……二七
(イ)儒教・其他……二七
〔三〕倫理學・論理學……二八
(ア)倫理研究・概論……二八
(イ)國民道德・東洋道德……二八
(ウ)論理學……二八
〔四〕心理學……二九
(ア)心理學研究・概論……二九
(イ)精神研究・神靈……二九
〔五〕思想……三〇
(ア)思想研究・文明社會批判……三〇
(イ)ファシズム・日本思想……三一
(ウ)人間研究・雜……三一
〔六〕修養・處生……三一
(ア)修養訓話・生活修養……三一
(イ)青年修養・知識……三四
(ウ)處生・成功……三五

第四類　教育……三七

〔一〕教育一般……三七
(ア)教育學・教育史・教育思潮……三七
(イ)各種教育研究・教育思想……三八
(ウ)鄉土教育……四〇
〔二〕實地教育……四一
(ア)各科教育……四一
—修身・公民・算術・國語・國史・地理・其他……四一
(イ)各科教授資料……四三
—公民・修身科・國語・漢文……四三
—算術・歷史・地理……四六
—理科・圖畫・唱歌・體操・其他……四七
—全科教授・指導……四九
〔三〕學事・學界・雜……五〇
(ア)學校・學級經營……五〇
(イ)青年兒童指導研究・職業指導……五一
(ウ)學校史・行事・學校案內……五一
(エ)教育・雜錄……五二
〔四〕受驗・學習……五三
A　受驗・準備(軍事遞信其他參照)……五三
(ア)高文・文檢・小學教員・其他……五三
(イ)大學・專門・高等學校・師範……五四
(ウ)巡査・消防・看手・憲兵・官吏其他案內……五五
B　習學……五六
(ア)國文・文法・作文・習字……五六
(イ)漢文……五九
(エ)數學・珠算・代數・幾何……六二
(オ)物理・化學・一般理科……六四
(カ)其他學習一般・雜……六四
〔五〕教科書……六五
(ア)公民・修身・教育……六六
(イ)國文・鄉土讀本・文法・綴方・習字……六九
(ウ)漢文・國漢副讀本……七二
(エ)國史・東洋史・西洋史……七七
(オ)日本地理・外國地理・通論……八〇
(カ)數學・珠算・算術・代數・幾何・三角……八二
(キ)理科・物理・化學……八五
(ク)博物・動植物・鑛物……八八
(ケ)農業・蠶業・園藝其他……九一
(コ)商業・工業・簿記・圖畫・手工……九三
(サ)家事・裁縫・音樂……九六
(シ)體育・醫學・其他雜……九七
〔六〕兒童用書……九九
(ア)兒童讀物・童謠・童話……九九
(イ)兒童文・踊劇・舞踊・唱歌……一〇三
(ウ)各科學習・受驗準備……一〇四
(エ)學科知識・軍國意識・其他雜……一〇七

第五類　文學及び言語學……一〇九

(甲)言語學……一〇九
〔一〕言語學研究・音韻・國字問題……一〇九

〔二〕方言・文法……一〇九
(乙)國文・漢文學……一一〇
〔一〕國文學……一一〇
(ア)國文學・國學研究……一一〇
(イ)萬葉・紀記・源氏物語……一一一
(ウ)平安・鎌倉・室町文學・和歌……一一二
(エ)江戸文學・軟派・稀書復刻・雜……一一三
〔二〕漢文學……一一四
(ア)漢文學研究・漢籍解釋……一一四
(イ)漢詩……一一六
(丙)文藝一般……一一七
〔一〕藝術文學研究……一一七
(ア)藝術文藝理論・研究・プロ文藝……一一七
(イ)各國文藝研究・ゲーテ其他……一一八
〔二〕文藝作品……一一九
(ア)創作……一一九
(イ)戯曲……一二二
(ウ)飜譯物……一二二
(エ)プロレタリア文藝……一二七
〔三〕隨筆・書簡・遺稿……一二八
〔四〕大衆讀物……一二二
(ア)文藝讀物……一二二
(イ)探偵・實話物・怪談……一二九
(ウ)ユーモア・漫畫・エロ・グロ物……一三〇
(エ)暴露物・軍事物……一三二
〔丁〕演劇映畫……一四五
〔一〕演劇……一四五
〔二〕映畫研究・映畫人……一四六
(戊)詩・歌・俳句・俗謠……一四六
〔一〕詩……一四六
—詩研究・詩集……一四六
〔二〕歌……一五一
—短歌研究・歌集……一五一
〔三〕俳句・川柳・民謠……一五五
(ア)俳諧研究・句集……一五六
(イ)川柳……一五八
(ウ)民謠……一五九

第六類　外國語……一六一

〔一〕ローマ字・エスペラント語……一六一
〔二〕支那・滿蒙・日本語……一六一
〔三〕英語……一六三
(ア)初等英語・學習……一六三
(イ)英語研究・英文學・英文讀物……一六四
(ウ)英語リーダー……一六九
(エ)英作文……一七一
(オ)英文法……一七三
〔四〕獨逸語……一七四
(ア)獨逸語學習・研究……一七四
(イ)獨文讀物……一七五
〔五〕ロシア語……一七七
〔六〕佛・希・羅・拉・馬來・西藏語……一七七

第七類　歷史・地理……一七九

(甲)歷史……一七九
〔一〕歷史理論・歷史研究・考古・民俗學……一七九
〔二〕世界史……一八〇
(ア)西洋史一般……一八〇
(イ)東洋史一般……一八一
〔三〕日本史……一八一
(ア)日本史研究・雜說……一八一
(イ)古代文化史研究・各時代史……一八二
(ウ)資料一般・社寺城史……一八二
(エ)鄕土資料・鄕土物語・年表……一八五
〔四〕人物傳……一八九
(ア)日本人……一八九
(イ)外人……一九三
(乙)地理……一九三
〔一〕地理學・地理研究……一九三
〔二〕世界地理……一九四
〔三〕日本地理……一九五
(ア)日本地理研究……一九五
(イ)鄕土誌・市町村……一九五
〔四〕紀行・寫眞・地圖……二〇〇
(ア)各地紀行・寫眞……二〇〇
(イ)地圖……二〇一
〔五〕各種案內……二〇三
(ア)旅行知識……二〇三
(イ)都市旅行案內……二〇三
(ウ)史蹟・名勝案內……二〇五

第八類　政治・外交・軍事・法律……二〇九

(甲)政治・外交・軍事……二〇九
〔一〕政治研究・政界……二〇九
(ア)政治學研究……二〇九
(イ)政治小論……二〇九
(ウ)世界政局と日本……二一二
(エ)政黨・內閣・政界人……二一二
(オ)議會・選擧……二一三
〔二〕外交・海外事情・植民……二一四
(ア)外交・日本關係……二一四
(イ)國際聯盟・リットン報告……二一六
(ウ)滿蒙・支那關係(滿蒙上海事變)……二一七
(エ)海外事情……二二二
(オ)植民問題・移民案內……二二三
〔三〕軍事……二二四
(ア)軍事學・戰爭論……二二四
(イ)戰術・兵器・諸兵便覽……二二五
(ウ)國防・演習……二二六
(エ)滿洲上海事件・附美談……二二七
(オ)雜錄・軍歌……二三〇
(カ)陸海軍入營・訓練……二三一
〔四〕地方行政……二三二
(ア)自治研究・選擧・自治續・町村制……二三二
(イ)縣市町勢一般……二三四
(ウ)租稅問題……二三六
(エ)警察・消防……二三七
(乙)法律……二三八
〔一〕法學……二三八
(ア)法制史・法學研究・通論……二三八
(イ)外國法制……二三九
(ウ)各種法制研究・勞働・陪審法……二三九

〔二〕六法釋義……二三九
(ア)憲法……二四〇
(イ)民法……二四〇
(ウ)商法……二四一
(エ)刑法……二四二
(オ)訴訟法(民事・刑事)……二四二
(カ)行政法……二四三
(キ)六法全書・國際法……二四四
〔三〕判決例……二四四
〔四〕各種法令・法規集……二四五
(ア)六法・法令全・地方廳令……二四五
(イ)產業・土木・建築……二四六
(ウ)工場・勞働・警察……二四七
(エ)電氣・交通・海事……二四七
(オ)學事・藥事・其他雜……二四八
〔五〕通俗法律知識……二四九
(ア)法律知識……二四九
(イ)受驗……二四九
(ウ)プロレタリア法律知識……二五〇
(エ)願書々式……二五〇
〔六〕法曹界……二五一

第九類　經濟・財政・社會……二五三
(甲)經濟學……二五三
〔一〕經濟學・經濟學史・研究……二五三
〔二〕世界經濟・日本經濟・年報……二五五
〔三〕サヴエート・マルクス主義經濟……二五六
〔四〕資本主義・統制計畫・非常時經濟……二五七
〔五〕經濟知識・小論・鄉土經濟……二五七
(乙)財政金融……二五九
〔一〕財政學・財政史・財政研究……二五九
〔二〕財界恐慌・景氣問題……二五九
〔三〕貨幣・金融關係……二六〇
(ア)貨幣・爲替・インフレーション……二六〇
(イ)金融論・金問題……二六一
(ウ)銀行・會社・保險・無盡……二六二
〔四〕相場・投資……二六五
〔五〕經濟・雜……二六七
(ア)消費組合……二六七
(イ)通俗經濟知識……二六七
(ウ)貨殖……二六八
(エ)財閥……二六八
(丙)社會學……二六八
〔一〕社會學・社會史研究……二六九
〔二〕社會思想・社會運動……二六九
(ア)左翼主義……二七〇
(イ)社會運動……二七一
(ウ)サヴエート同盟・鬪爭史……二七一
(エ)プロレタリア知識・アヂテーション……二七二
(オ)ファシズム・批判(日本主義國家社會主義)……二七二
(カ)左翼思想觀察……二七五
〔三〕社會問題・社會政策……二七五

(ア)社會相・小論……二七六
(イ)農村・農業問題・自力更生……二七七
(ウ)勞働失業・借家問題……二七七
(エ)財產・職業……二七八
(オ)融和・公娼・女給問題……二七八
(カ)雜錄……二七九

第十類　產業……二八一
(甲)一般產業……二八一
〔一〕產業研究・產業史・各國產業……二八一
〔二〕產業合理化・產業組合……二八一
〔三〕產業界一般・鄉土產業……二八二
(乙)農業……二八三
〔一〕農政一般……二八三
(ア)農業政策・農業問題・恐慌……二八三
(イ)農業・農村經營・組合……二八四
(ウ)農村問題・自力更生・雜記……二八四
〔二〕農學・農事……二八六
(ア)農學・農業研究……二八六
(イ)土肥・農作……二八六
(ウ)蠶糸業・蠶糸經營……二八七
(エ)農家知識・蔬菜園藝……二八八
〔丙〕林業・牧畜・水產・鑛業……二九〇
〔一〕林業……二九〇
(ア)林學・林業研究……二九〇
(イ)果樹栽培法……二九一
〔二〕牧畜……二九二
(ア)牧畜研究……二九二
(イ)養禽……二九二
〔三〕水產・鑛業……二九三
(ア)水產・養魚……二九三
(イ)鑛業・鑛山……二九四

第十一類　商・工業・交通・遞信……二九七
(甲)商業……二九七
〔一〕商業學・商業研究……二九七
(ア)商學・商業經營……二九七
(イ)企業・商工案內……二九八
(ウ)商人・商業知識……二九八
〔二〕市場・取引……二九九
〔三〕貿易・關稅……三〇〇
〔四〕商店經營・販賣・廣告……三〇〇
(ア)商店經營……三〇〇
(イ)販賣術……三〇一
(ウ)宣傳廣告・商標……三〇一
〔乙〕工業・工學……三〇二
〔一〕工業・工場……三〇二
(ア)工業學・工業研究……三〇二
(イ)化學工業・金木工業……三〇三
(ウ)紡績業……三〇四
(エ)工場研究・工場管理……三〇五
〔二〕土木一般……三〇五
〔三〕工學・機械學・電氣學……三〇六
(ア)一般工學・建築・土木工學・雜……三〇六
(イ)電氣工學・電氣一般……三〇七
(ウ)機械工學・一般機械……三〇九
〔四〕測量・度量衡・製圖……三一〇
(ア)測量・度量衡・メートル法……三一〇
(イ)製圖……三一
〔五〕印刷・謄寫……三一

〔丙〕交通・遞信……三一一
〔一〕交通一般……三一一
〔二〕海運……三一二
(ア)海運界……三一二
(イ)航海術……三一二
〔三〕運輸……三一三
(ア)鐵道・運送……三一三
(イ)電車・電氣鐵道……三一四
(ウ)自動車・運轉手受驗……三一四
〔四〕航空・飛行家……三一五
〔五〕遞信 郵便・無線電信・電話……三一六
(ア)遞信事業・事務・受驗……三一六
(イ)電信・電話研究……三一六
(ウ)ラヂオ・テレヴイジョン……三一七

第十二類 醫學・衛生……三一九

(甲)醫學・醫事……三一九
〔一〕醫學研究・醫學史……三一九
〔二〕基礎醫學……三一九
(ア)病理學・組織學・細菌學・解剖學……三一九
(イ)其他基礎學……三二〇
〔三〕臨床醫學……三二〇
(ア)內科・外科・眼科……三二〇
(イ)產科婦人科・小兒科・診斷其他……三二一
(ウ)其他臨床法……三二一
〔四〕醫事・醫藥……三二三
(ア)藥學・藥事……三二三
(イ)產婆・看護婦一般……三二四
(ウ)醫藥・醫師・診療・通俗醫話……三二五
(乙)衛生……三二六
〔一〕通俗衛生……三二六
(ア)衛生一般・榮養……三二六
(イ)家庭醫學・治療……三二六
(ウ)各種健康法……三二八
(エ)美容・理髮・受驗……三二九
〔二〕民間療法……三二九
(ア)肺病・性病・其他療法知識……三二九
(イ)藥草・漢方術……三三一
(ウ)鍼灸術・マッサージ・吃音矯正……三三一

第十三類 理科學……三三三

〔一〕自然科學研究・科學界……三三三
〔二〕天文學・氣象……三三三
〔三〕物理學・化學……三三四
(ア)物理學・物理研究……三三四
(イ)化學・化學研究……三三五
〔四〕數學……三三六
(ア)高等數學……三三六
(イ)算術・代數・幾何・三角……三三七
〔五〕生物學……三三七
〔六〕動物學・植物學……三三八
(ア)動物學・動物研究……三三八
(イ)植物學・植物研究……三三九
〔七〕鑛物・地質……三四〇

第十四類 美術工藝……三四三

〔一〕美學・美術史・繪畫研究……三四三
(ア)美學研究・美術史……三四三
(イ)繪畫論・繪畫技法……三四三

〔二〕畫集・日本繪……三四五
(ア)一般畫集……三四五
(イ)古代近世美術・繪畫……三四七
(ウ)浮世繪・錦繪……三四八
(エ)圖案・版畫・紋樣……三四八
(オ)展覽圖錄……三五三
〔三〕工藝一般……三五三
(ア)工藝研究・玩具……三五三
(イ)書道・法帖・印譜……三五四
(ウ)陶磁器・彫刻・刀劍……三五五
(エ)印刷術・寫眞……三五六
〔四〕建築……三五七
(ア)建築史・一般建築研究……三五七
(イ)住宅・家具・造園……三五八

第十五類 婦人・家庭附易斷……三六一

〔一〕婦人教養・知識……三六一
(ア)修養・知識……三六一
(イ)作法・職業婦人……三六二
(ウ)性愛・結婚・產兒調節……三六三
(エ)育兒・家庭教育……三六三
〔二〕裁縫・手藝……三六五
〔三〕華道・茶道……三六六
(ア)華道……三六六
(イ)茶道……三六七
〔四〕家庭生活・家庭知識……三六七
〔五〕家事一般……三六八
(ア)家事・洗濯・被服……三六八
(イ)料理・釀造……三六九
(ウ)菓子・酒……三七〇
〔六〕易斷・觀相・姓名判斷……三七一
(ア)曆・運勢判斷・易學……三七一
(イ)觀相……三七二
(ウ)姓名判斷……三七二

第十六類 音樂・運動・娛樂……三七五

(甲)音樂……三七五
〔一〕音樂研究・音樂界……三七五
〔二〕洋樂……三七五
(ア)樂器・奏法……三七五
(イ)歌曲・樂譜……三七六
〔三〕邦樂……三七九
(ア)謠曲・能・雅樂・長唄・歌澤……三七九
(イ)琵琶・琴・尺八……三八二
(ウ)三味線・箏曲……三八五
(エ)小唄・民謠・雜……三八八
(乙)運動・スポーツ……三八八
〔一〕運動……三八九
(ア)體育・體操……三八九
(イ)劍道・柔道・弓・相撲・其他……三八九
(ウ)登山・乘馬・獵……三九〇
〔二〕スポーツ……三九一
(ア)オリムピック・競技研究……三九一
(イ)野球・蹴球・庭球・籠排球……三九二
(ウ)水泳・スキー……三九二
(エ)拳鬪・競馬・ゴルフ……三九三
(丙)娛樂……三九四
〔一〕遊戲……三九四
(ア)學校遊戲・體育ダンス……三九四
(イ)社交ダンス……三九四
〔二〕娛樂・趣味……三九五

(ア)圍碁・將棋・聯珠……三九五
(イ)犬・釣・魚……三九五
(ウ)琉菜・園藝……三九六
(エ)雜……三九七

第十七類　雜……三九九

〔一〕名簿・職員錄・商工錄・年鑑……三九九
(ア)各種名鑑・名簿……三九九
(イ)職員錄……四〇三
(ウ)商工錄……四〇四
(エ)各種年鑑……四〇五
〔二〕辭典……四〇七
(ア)和・漢・洋語辭典……四〇七
(イ)百科辭典・醫學辭典……四〇九
(ウ)其他・雜……四一〇
〔三〕圖書・新聞……四一一
(ア)書誌學・研究……四一一
(イ)圖書目錄……四一三
(ウ)新聞研究・新聞知識……四一三
〔四〕簿記・會計・統計・速記……四一四
(ア)各種簿記……四一四
(イ)會計・計理……四一五
(ウ)統計學・各種統計……四一五
(エ)速記學・速記術……四一六

第十八類　講座・全集・叢書・叢約……四一七

〔一〕社會・經濟・政治・法律……四一七
(ア)經濟・社會……四一七
(イ)法律・軍事……四一八
〔二〕思想・哲學・教育……四一九
(ア)思想……四一九
(イ)哲學・教育……四二〇
〔三〕宗教……四二一
〔四〕文學・文藝作品……四二三
(ア)國文學・漢文學……四二三
(イ)文學論・文藝作品……四二六
〔五〕歷史・地理……四二九
(ア)歷史……四二九
(イ)地理……四三三
〔六〕理科學・醫學・產業……四三四
(ア)理科學・醫學……四三四
(イ)產業理論……四三六
〔七〕美術・音樂……四三六
(ア)美術一般……四三六
(イ)音樂……四三八
〔八〕婦人家庭・娛樂……四三九
(ア)婦人家庭……四三九
(イ)娛樂……四四〇

廣告掲載店名索引

青野書店……廣…五三
秋田魁新報社……廣…一八八
朝日グラフ……廣…七九
アルス……廣…八三
有斐閣……廣…六
有朋堂……廣…二〇・二一
育成洞……廣…九一
岩波書店……表ノ四…廣…一・二・三
內田老鶴圃……廣…一四八・一四九
芸艸堂……廣…一四四
英進社……廣…一〇三
越中新聞社……廣…一九〇
大分新聞社……廣…一九四
大倉書店……廣…八・九
大倉廣文堂……廣…六七
大倉洋紙店……廣…一六四
大阪朝日新聞社……廣…一六九
大阪每日新聞社……廣…一七〇
大平洋紙店……廣…一六七
王子製紙會社……廣…一六一
岡村書店……廣…五一
岡本商店……廣…一六五
萩原星文館……廣…六九
小樽新聞社……廣…一九五
音樂世界社……廣…二四
開拓社……廣…七〇
開隆堂……廣…七一
海文堂……廣…五九
科學知識普及會……廣…五四
學習社……廣…九六
柏原洋紙店……廣…一六三
考へ方研究社……廣…八九
九州新聞社……廣…一九二
九州日々新聞社……廣…一九三
九州日報社……廣…一九一
共同印刷會社……廣…一五六
共立社……廣…六一
栗田書店……廣…二二九
警醒社……廣…二八
敬文堂書店……廣…九三
教育研究會……廣…一六〇
京城日報社……廣…一八三
京文社……廣…七四・七五
研究社……廣…四二・四三
健文社……廣…三八・三九・四〇

興教書院……廣…一二六
興文社……廣…四四・四五
厚生閣……廣…三〇
光風館……廣…一三・一三
神戸又新新聞社……廣…一九四
高陽書院……扉裏
交蘭社……廣…一四五
黑龍會出版部……廣…一九八
三省堂…後付……廣…一・七
三都合同新聞會社……廣…一七四
山陽新報社……廣…一八七
時事新報社……廣…一七三
實業之日本社……廣…二七
出版タイムス社……廣…一三五
下野新聞社……廣…一八六
秀英舍……廣…一七八
受驗研究社……廣…一〇八・一〇九
松榮堂……廣…八八
小學館……廣…三二
裳華房……廣…二三〇
尙文堂……廣…一二一
辰文館……廣…一五三
駸々堂……廣…一〇七
杉本書店……廣…三一
聖公會出版部……廣…一七
正則英語學校出版部……廣…八三
成美堂……廣…三三
盛文館……廣…九七
積善館……廣…一三八
關根印刷所……廣…一七六
創元社……廣…二一〇
創造社……廣…一五〇
大乘社東京支部……廣…六三
大東館書店……廣…一四三
大同書院……廣…二一
大同洋紙店東京支店……廣…一六八
大日本圖書會社……廣…二九
大日本雄辯會・講談社……廣…一四六・一四七
大明堂……廣…四一
大連新聞社……廣…一九六
タイムス出版社……廣…一三
臺灣日々新報社……廣…一八三
高岡本店……廣…三三
武田交盛館……廣…一三三
立川書店……廣…一一八
田中宋榮堂……廣…一一九
中外商業新報社……廣…一八一
つるや書房……廣…四八
東海堂……廣…一四一
東京朝日新聞社……廣…一七一
東京開成館……前付…一

東京出版社……廣…六〇
東京書籍商組合……廣…一九九
東京堂……廣…一四〇
東京日々新聞社……廣…一八〇
東方書院……廣…一五二・一五三
東洋經濟新報社……廣…三五
刀江書院……廣…一〇・一一
同文館……廣…一二八
同文書院……前付…二
內外出版會社……廣…一二七
內外書籍會社……廣…七三
中井商店……廣…一六六
長崎書店……廣…一八
長門屋書房……廣…八四
長野新聞社……廣…一八四
永澤金港堂……廣…一三二
名古屋新聞社……廣…一八二
南光社……廣…七八
南山堂……廣…三三
新潟新聞社……廣…一八五
新潟每日新聞社……廣…一八五
二松堂……廣…八一
日英社……廣…六二
日清印刷株式會社……廣…一五七
日東書院……廣…八五・八六・八七
日獨書院……廣…一五四
日本出版社……廣…一二六・一二七
日本新聞聯盟……廣…一七五
俳書堂……廣…一三四
培風館……廣…三六・三七
博多成象堂……廣…一〇三
博文館……廣…三一
博報堂……廣…一九八
白水社……廣…一六
檜書店……廣…九二
武俠社……前付…三
冨山房……廣…三四・三五
藤井佐兵衞……廣…一二四
藤井書店……廣…六四
婦人之友社……廣…一三一
文華堂……廣…一三五
文學社……廣…五〇
文藝社……廣…一三六・一三七
文書堂……廣…六八
文明社……廣…一三九
文友堂……廣…一一四・一一五
文理書院……後付…二・三
兵用圖書會社……廣…五五
平樂寺書房……廣…一二三
報知新聞社……廣…一七二
寶文館(東京)……廣…五

寶文館（大阪）……廣…九八・九九
法文館……廣…一三五
法律評論社……廣…九〇
北越製紙會社……廣…一六二
北國新聞社……廣…一九〇
北隆館……廣…二六・一四二
北陸每日新聞社……廣…一八九
前田文進堂……廣…一二〇
松邑三松堂……廣…六五
丸善……廣…四六・四七
滿洲日報社……廣…一九七
三宅書店……廣…一〇一
都新聞社……廣…一七六
宮本印刷所……廣…一五八
武藏野書院……廣…五八
明治書院……廣…一九
明治圖書會社……廣…四九
明文館……廣…八〇
明文堂……廣…一三
目黑書店……廣…四
森山書店……廣…一四・一五
柳原書店……廣…一七七
湯川弘文社……廣…一〇〇
雄山閣……廣…一〇四・一〇五・一〇六
雄風館書房……廣…一三九
謠曲界發行所……廣…五七
吉田書店出版部……廣…五六
讀賣新聞社……廣…一五五
龍吟社……廣…一七九
立命館出版部……廣…一三二・一三三
良書普及會……廣…九四・九五
料理の友社……廣…七六・七七
露西亞通信社……廣…七二

廣告圖書類別索引

○皇室

君が代と萬歲……廣…二
二十大詔勅（附）勅諭奉釋……七一

○宗教

佛教辭典……廣…一三
聖語錄……廣…一三
日蓮聖人全集……廣…一三
日蓮宗聖典……廣…一三
眞宗聖典……廣…一三
禪宗聖典……廣…一三
淨土宗聖典……廣…一三
眞言宗聖典……廣…一三
前田慧雲師語錄……廣…一三六
大聖釋尊の生涯……廣…一三六
佛教の現代的意義……廣…一三六
眞宗聖典……廣…一三六
八宗綱要解說……廣…一三五
佛教學概論……廣…一三五
大般若理趣分轉讀加持法……三四
主イエス……廣…一七
自然のさゝやき……廣…一七
梵鐘・燈籠輯錄……廣…一三六
天路歷程……廣…一三八
我子の思い出……廣…一三八
求安錄……廣…一三八
日蓮上人を論ず……廣…一三八
母の典型……廣…一三八
母の愛……廣…一三八
石を積む……廣…一三八
人類への宣言……廣…一三八
日々の祈り……廣…一三八
病者の福音……廣…一三八
伏屋の曙……廣…一三八
創造的禮拜……廣…一三八
新約聖書ロマンス……廣…一三八
ハレスチナの今昔……廣…一三八
にげゆく想い……廣…一三八
舊約物語……廣…一三八
基督教大辭典……廣…一三八
讃美歌……廣…一三八
對註新約聖書……廣…一三八
般若波羅密多心經講話……廣…六五
佛說阿彌陀經講話……廣…六三
妙法蓮華經講話……廣…六三
觀世音菩薩……廣…六三
他力眞宗……廣…六三
第一義諦……廣…六三
佛教の要諦……廣…六三
佛教の大意……廣…六三
佛教の原理……廣…六三
極樂莊嚴……廣…六三
見眞大師……廣…六三
一休和尙文集……廣…一三二
白隱禪師文集……廣…一三二
佛教笑話集……廣…一三二
佛教和讃集……廣…一三二
佛教圖繪……廣…一三二
法華經……廣…一三二
釋迦如來傳……廣…一三二
弘法大師傳……廣…一三二
行戒上人文集……廣…一三二
聖書の神の國思想……廣…一三四
パウロ思想概說……廣…一三四
日本基督教史要……廣…一三四
イエス傳……廣…一三四
概說教會史……廣…一三四
讃美歌小史……廣…一三四
基督教の本質……廣…一三四
新約文學序說……廣…一三四
基督教々程叢書……廣…一三四
地上の人釋迦……廣…八一
神道の根本研究……廣…一三五
佛像圖鑑……廣…一三五
妙法蓮華經講義……廣…一三二
淨土三部經講義……廣…一三二
般若心經金剛經圓覺經講義……廣…一三二
華嚴經講義……廣…一三二
俱舍論講義……廣…一三二
唯識論講義……廣…一三二
正法眼藏講義……廣…一三二
碧巖集講義……廣…一三二
因果經……廣…一三二
日蓮上人傳……廣…一三二
淨土三部經……廣…一三二
觀音經講話……廣…一三二
正信偈講話……廣…一三二
佛典講話……廣…一三二
眞宗概論……廣…一三二
日蓮宗概論……廣…一三二
道元禪師傳……廣…一三二
宗教行政法要論……廣…九三
日本宗教史……廣…九三
禮拜的基督教……廣…一八

恩寵と眞實……廣一八
基督教世界觀……廣一八
神の愛と神への愛……廣一八
ロマ書の精神……廣一八
基督教の中心問題……廣一八
聖アウグスチヌスの研究……一八
信仰と道德……廣一八
豫言者の研究……廣一八
森明選集……廣一八
十字架の十字架性……廣一八
テサロニケ前後書……廣一八
ガラテヤ書……廣一八
コリント前書……廣一八
カルヴキエズム……廣一八
義認と聖化……廣一八
基督教神學及び教會教理の成立……廣一八
原始母神論……廣五八
宗教・教育の心理的基礎……六八
比較宗教夜話……廣六八
聖書を讀む人の爲に……廣六八
釋迦の生涯……廣一三六
基督の一生……廣一三六
日蓮の生涯……廣一三六
佛教入門……廣一三七
佛陀の福音……廣一三七
基督の福音……廣一三七
宗教早わかり……廣一三七
宗教的人間……廣一
宗教哲學……廣一
宗教と國家……廣一
日日聖典……廣一三七
日本佛教年表……廣一三七
神宮典略……廣七三
神と苦難の克復……廣二七
子供聖書(新約)……廣二七
佛教大辭典……廣八

○哲學

達明の研究……廣三四
吉凶開發傳……廣三四
萬年曆鑑……廣三四
四柱推命極意秘密皆傳……三四
四柱推命大奥極秘傳……廣三四
精神科學……廣一四
孟子通解……廣一九
論語解義……廣一九
周易講義……廣六九
孫子新註……廣六三
國民の自覺……廣六三
帝國の前途……廣六三
富民强身……廣四
西洋哲學史要……廣二九
心理學通義……廣二九
倫理學概論……廣四一
全譯論語詳解……廣三八
全譯孟子詳解……廣三八
美談逸話集……廣一四六
修養雜話……廣一四六
社會思想の批判的研究……廣前付二
國民道德原論……廣前付二
現代哲學の根本問題……前付二
大日本思想全集……廣一五五
日本思想史……廣一六〇
歐洲思想大觀……廣一四〇
現代哲學概論……廣一四〇
眞と善との生活……廣五八
美と信との生活……廣五八
實踐哲學概論……廣五八
四書講義……廣四四
清朝儒學史概說……廣六八
日本國民性の史的研究……廣六八
教育勅語謹解……廣一三七
世界の格言と警句……廣一三七
倫理學の話……廣一三七
平凡道德……廣一三七
精神修養……廣一三七
向上發展の基礎……廣一三七
斯の如き人は成功する……一三七
心理學の話……廣二七
青年の進むべき道……廣一三七
論理學早わかり……廣一三七
思想善導……廣一三七
偉人の修養……廣一三七
哲學早わかり……廣一三七
立志より成功への近道……一三七
國民としての常識……廣一三七
新しき修養……廣一三七
プラトーンプイレーボス……一
プラトーンビステース……廣一
スピノーザとヘーゲル……廣一
ヘーゲル哲學概論……廣一
ヘーゲル哲學と辯證法……廣一
吠檀多哲學の研究……廣一
印度哲學史……廣一
全體の立場……廣一
無の自覺的限定……廣一
時間及空間論……廣一
純粹現象學考案……廣一
歷史哲學……廣一
論理學……廣一
判斷力批判……廣一
大論理學……廣一
精神現象學……廣一

小論理學……廣一
日本精神史論纂……廣一
人生の道……廣一
カトリシスムの本質……廣一
王道天下之研究……廣三七
文化哲學概論……廣三七
ベルグソンの哲學……廣三三
詳解樂訓文訓……廣二六
祭日祝日護話……廣七三
新生命の獲得……廣二七
本能と道德生活……廣八五
神性の體驗と認識日本より全人類へ……廣八五
青年期の研究……廣八五
西洋哲學史……廣八五
自然科學思想史……廣八五
論理學概說……廣八五
唯物論は眞理か……廣八五
現代心理學……廣八五

○教育

完成實習全科の總仕上……一〇八
完成實習地理、國史、理科の仕上……廣一〇八
完成實習讀方算術の仕上……一〇八
完成實習地理、國史、理科……一〇八
完成實習讀方算術……廣一〇八
小學校書方練習手本解說……一〇七
小學校書方練習手本……廣一〇七
習字教育の根本的革新……一〇七
道德教育……廣一四
學習研究……廣一四
教育思潮研究……廣一四
學習指導……廣三三
小學國語讀本細目式指導日案……廣三三
小學國語讀本解說並に教授細目……廣三三
尋五新地理指導日案……廣三三
尋六新地理指導日案……廣三三
教育的心理學……廣六四
人格觀的教育思潮の進展……六五
教育的測定學……廣六五
三科仕上げの要點……廣一三
聽取書取の急所……廣八八
高等學校—進路と展望……廣八九
兒童教養の考へ方……廣八九
受驗者の取るべき道……廣八九
明日の初等教育……廣扉裏
現代教育思潮大觀……廣前付二
國史教育原論……廣前付二
女子教育の理念……廣前付二
小波お伽全集……廣一五五
子供叢書……廣一五〇
教育學原論……廣六〇
教育辭典……廣六〇
理論的教育學……廣六〇
圖書月報……廣一九九
王朝教育史資料……廣一八
小學生全集……廣四四
小學童話讀本……廣四四
公民科教授資料……廣四四
新時代の處女會及其施設經營……廣四四
書の科學及書の教授……廣六八
思索・體驗・實踐……廣六八
續高等試驗指針……廣九一
高等試驗指針……廣九一
成人教育の話……廣三七
教育學の話……廣三七
學生思想問題……廣一
教育哲學……廣二七
ペスタロッチーの教育思想……廣一三
東鄕元帥愛國讀本……廣二七
新滿洲國讀本……廣二七
學事例典小學篇……廣七六
教育學習の眞轉回……廣八五
社會學的教育說……廣八五
個性教育膝栗毛……廣八五
教育的心理學……廣八五
自律主義の訓練……廣八五
自律主義の教育……廣八五
自然信仰の教育……廣八五
新ロシア教育の研究……廣八五
新興教育運動の展望……廣八五
教育深化の光、熱、力……廣八五
教育改造と社會改造……廣八五
文檢一年通過法……廣八五
ペスタロッチの生涯とその事業……廣八五
教育說要論……廣八五
教育學大系……廣八五
新教育の理論と實際……廣八五
裁縫教授の實際的新主張……八五
圖畫教授の實際的新主張……八五
綴方教授の實際的新主張……八五
算術教授の實際的新主張……八五
讀方教授の實際的新主張……八五
地理教授の實際的新主張……八五
歷史教授の實際的新主張……八五
理科教授の現代化……廣八五
地理教授の綜合的研究……廣八五
讀方新教授法……廣八五

讀方の心理學……廣八五
讀方算術の教育的測定……廣八五
尋四の算術教育……廣八五
尋三の算術教育……廣八五
尋一の算術教育……廣八五
算術學習の心理……廣八五
二十錢の學習便覽叢書……廣九六

○文學及言語學

支那女流詩講……廣九四
嘘無情と後の巖窟王……廣八〇
鐵假面と破天荒……廣八〇
幽靈塔と人の運……廣八〇
捨小舟と嬢一代……廣八〇
死美人と怪の物……廣八〇
野の花と白髮鬼……廣八〇
人外境と巨魁來……廣八〇
非小說と人の妻……廣八〇
活地獄と武士道……廣八〇
山と水……廣八〇
新撰俳諧辭典……廣八
新式辭典……廣八
言泉……廣八
モダン流行語辭典……廣二七
巖窟王……廣八〇
新作仇討全集……廣四四
水滸傳……廣四四
桂月全集……廣四四
南總里見八犬傳……廣四四
慣用句五百題……廣四四
川柳雜俳集……廣四四
近代日本文藝讀本……廣四四
西鶴名作集……廣四四
浮世草子集……廣四四
怪談名作集……廣四四
膝栗毛其他……廣四四
讀本集……廣四四
酒落本集……廣四四
滑稽本集……廣四四
人情本集……廣四四
修紫田舍源氏……廣四四
黃表紙廿五種……廣四四
近松名作集……廣四四
歌謠音曲集……廣四四
淨瑠璃名作集……廣四四
俳文俳句集……廣四四
芭蕉全集……廣四四
和文和歌集……廣四四
歌舞伎脚本集……廣四四
狂文狂歌集……廣四四
大正文學十四講……廣六〇
明治文學十二講……廣六〇
短篇小說新研究……廣六〇
文學鑑賞讀本……廣六〇
國文法論纂……廣五〇
漢文副詞の位置に關する通則……廣五〇
國文鑒……廣五〇
古事記に於ける特殊なる訓法の研究……廣五〇
徒然草……廣五〇
歌集明治より昭和へ……廣五〇
短歌は如何して作るか……一三六
新しい詩は如何して作るか……廣一三六
俳句は如何して作るか……一三六
川柳の社會觀……廣一三六
俳趣情景……廣一三六
新興詩人選集……廣一三六
新撰書簡文……廣一三六
口語體書簡文……廣一三六
美文精選……廣一三六
文章組立法……廣一三六
新時代の論文……廣一三六
新しき日記文……廣一三六
劇と映畫の話……廣一三七
文章春秋……廣一三六
文章三百六十五日……廣一三六
文章報國……廣一三六
鶯里隨筆……廣一三六
警鐘の亂打……廣一三六
鈴蘭の歌へる……廣一三六
若人の胸へ……廣一三六
運命に從ふ者……廣一三六
國文法の知識……廣一三七
修辭學の要領……廣一三七
國語學の知識……廣一三七
現代文學の輪廓……廣一三七
文學概論……廣一三七
國文學史概要……廣一三七
藝術の話……廣一三七
速記術手ほどき……廣一二四
川柳家庭行事……廣一二四
文學の近代的研究……廣一
續日本隨筆索引……廣一
一般文法の原理……廣一
ソーニヤ、コヴアレスカヤ……一
戰爭と平和物語……廣一
苦桃……廣一
砂濱……廣一
萬葉集研究年報……廣一
萬葉集年表……廣一
しづかな流……廣一
續冬彥集……廣一

青丘雜記……廣一
ゲーテ研究……廣一
國漢文要語辭典……廣二〇
國語漢文學修參考圖鑑……廣七一
國語漢文學修要覽……廣七一
哲人文士圖鑑……廣七一
英國自然美文學の研究……廣七一
詭辯の研究……廣二七
三體千字文……廣二九
詳解十六夜日記……廣一六
詳解方丈記……廣一六
詳解徒然草……廣一六
詳解增鏡……廣一六
詳解大鏡……廣一六
詳解平家物語……廣一六
詳解保元平治物語……廣一六
詳解源平盛衰記……廣一六
詳解太平記……廣一六
詳解枕の草紙……廣一六
詳解花月草紙……廣一六
詳解玉かつま……廣一六
詳解東西遊記……廣一六
詳解常山紀談……廣一六
詳解日本文典……廣一六
日本文學叢書……廣七三
一茶さん……廣二七
紅雀……廣二七
受驗模範作文……廣八八
新短歌入門……廣八八
若き日の藝術家の肖像……一〇八
あらゆる受驗問題の漢文……一〇八
倚松庵隨筆……廣一一〇
風流百話……廣一一〇
優曇華……廣一一〇
參考枕の草子詳解……廣一〇八
參考平家物語詳解……廣一〇八
參考大鏡詳解……廣一〇八
參考增鏡詳解……廣一〇八
參考玉かつま詳解……廣一〇八
參考徒然草詳解……廣一〇八
參考古今和歌集詳解……廣一〇八
國民習字教範……廣一〇七
辻本三體千字本……廣一〇七
俳句文法……廣五
廣辭林……廣七
新漢和大字典……廣七
小辭林……廣七
明解漢和辭典……廣七
國漢文辭典……廣七
常用漢字新辭典……廣七
歌まなび……廣二〇
和歌ういまなび……廣二〇
增鏡解釋……廣五一
最新字典……廣五一
國語の學習……廣一〇三
歌に入る道……廣一一〇
和歌講話……廣一一〇
源氏物語湖月抄……廣一〇四
平家物語講義……廣一〇四
徒然草講義……廣一〇四
新釋國漢文叢書……廣一〇四
文字のくづし方……廣五三
漢字のくづし方……廣五三
式辭演說大觀……廣五一
讀方仕上げの要點……廣一一三
綴方仕上げの要點……廣一一三
伊勢物語新講……廣五一
土佐日記新講……廣五一
徒然草講義……廣五一
增鏡新講……廣五一
平家物語新釋……廣五一
古代文學研究……廣五一
現代手紙大鑑……廣五一
新選一萬歌集……廣五一
方丈記評釋……廣一九
枕草子通解……廣一九
增鏡通解……廣一九
徒然草詳解……廣一九
平家物語評釋……廣一九
唐詩選詳說……廣一九
名詩類選評釋……廣一九
國文學研究史……廣六三
無題錄……廣六三
白百合の便り……廣八八
ペン習字女性の便り……廣八八
現代青年手紙……廣八八
現代女子ペン習字書翰文……八八
若き女のペン習字書翰文……八八
現代男子ペン習字書翰文……八八
若き男のペン習字書翰文……八八
女子日常の便り……廣八八
三體漢字のくづし方……廣八八
新青年手紙と端書文……廣八八
新女子手紙と端書文……廣八八
應用速記術……廣八八
模範式辭挨拶演說……廣八八
受驗小說選集……廣八九
寮歌集……廣八九
俳句の考へ方と作り方……廣八九
國語漢文問題練習カード……八九
漢文學び方考へ方と解き方……廣八九
國文學び方考へ方と解き方……廣八九

作文學び方考へ方と作り方……廣八九
カード式書取及文法學び方の考へ方と解き方……廣八九
漢文初歩學び方考へ方と解き方講義……廣八九
國文初歩學び方考へ方と解き方講義……廣八九
八代集選釋……廣四一
國語說鈴……廣九四
徒然草諸抄大成……廣九四
異本徒然草……廣九四
國語、國文法の理論と演習……九四
國文法概說……廣九四
俳句新釋……廣九四
俳句の道……廣九四
芥川龍之介論……廣九四
新俳句提唱……廣九四
明治大正俳句史……廣九四
短歌文法七十講……廣九四
短歌用語小辭典……廣九四
和歌の研究……廣九四
國語史概說……廣九四
俳句表現辭典……廣九四
俳句文法六十講……廣九四
詩語集成……廣九四
漢詩入門……廣九四
作歌入門……廣九四
昭代一萬歌集……廣九四
百人一首の講義……廣九四
短歌初學……廣九四
青年日本の歌……廣九四
短歌論攷……廣九四
南窓歌話……廣九四
新古今集の鑑賞……廣九四
日本和歌史……廣九四
落窪物語精解……廣三八
古事記精解……廣三八
紫式部日記釋……廣三八
吉野拾遺評釋……廣三八
近世國文詳解……廣三八
玉かつま詳解……廣三八
國文解釋法……廣三八
簡明國文解釋法……廣三八
歌で覺える國文法……廣三八
漢文釋解法……廣三八
大日本國語辭典……廣三四
詳解漢和大字典……廣三四
大言海……廣三四
新撰國漢叢書……廣三八
白夜は明くる……廣一四六
心の日月……廣一四六
仇討新八景……廣一四六
嘆きの都……廣一四六
子……廣一四六
母……廣一四六
一粒の麥……廣一四六
新版義士銘々傳……廣一四六
いのちの洗濯……廣一四六
うき世さまざま……廣一四六
われ等の陸海軍……廣一四六
敵中横斷三百里……廣一四六
亞細亞の曙……廣一四六
少女純情詩集……廣一四六
少年詩集……廣一四六
少年模範文……廣一四六
のらくろ上等兵……廣一四六
漫畫常設館……廣一四六
漫畫の儘語……廣一四六
漫畫のお祭……廣一四六
長靴の三銃士……廣一四六
日本人オイン……廣一四六
現代青年雄辯集……廣一四六
五分間演說集……廣一四六
十分間演說集……廣一四六
テーブル・スピーチ……廣一四六
座談術……廣一四六
榮えゆく道……廣一四六
體驗を語る……廣一四六
處世の道……廣一四六
出世の礎……廣一四六
書道新講……廣八一
俳人許六の研究……廣三四
俳諧史上の人々……廣三四
五元集全解……廣三四
俳人惟然の研究……廣三四
故人春夏秋冬……廣三四
連句入門……廣三四
俳諧大要……廣三四
子規句集講義……廣三四
古俳句講義……廣三四
古俳句輪講合本……廣三四
梨葉句集……廣三四
句集道しば……廣三四
白水郎句集……廣三四
句集淺草川……廣三四
俳諧お遍路さん……廣三四
俳諧古典集……廣三四
一茶おらが春……廣三四
燕村新花摘……廣三四
芭蕉書簡集……廣三四
新釋奥の細道……廣三四
俳句季寄せ……廣三四
俳句用語……廣三四

青年作文……廣一〇二
女子青年作文……廣一〇二
新制自習辭典……廣一〇三
枕詞正解辭典……廣一四五
俳句季語解……廣一四五
新成歲事記……廣一四五
二十五年の體驗を語る……一三九
文學概論……廣一四〇
ミツキーマウスの冒險……一四三
俳句新講座……廣一四三
東雲のまぶた……廣一八
雜林……廣一八
星影……廣一八
檸檬……廣五八
スワン家の方……廣五八
魚眠洞隨筆……廣五八
魚眠洞發句集……廣五八
一人旅する者……廣五八
車塵集……廣五八
西鶴・成美・一茶……廣五八
現代文集成……廣五八
一茶の研究……廣五八
芭蕉襍記……廣五八
歌學……廣五八
日本叢書索引……廣五八
斷碑斷章……廣五八
近松國文學研究……廣五八
近松研究の序篇……廣五八
支那文學新選……廣五八
武藏野とその文學……廣五八
日本傳說集……廣五八
竹取物語全釋……廣六七
枕草子全釋……廣六七
土佐日記全釋……廣六七
紫式部日記全釋……廣六七
萬葉集全釋……廣六七
近年の我輩……廣四四

○外國語

英文法參考書……廣一〇八
センチュリー英和辭典……廣後付一
獨和法律經濟辭典……廣一四一
獨文詳解……廣一四一
ソヴエトロシア略語新語辭典……廣一三
露西亞語基礎單語四〇〇〇……一三
基本新佛蘭西語文法……廣一三
佛蘭西語基礎熟語三〇〇〇……一三
獨逸文法整理ノート……廣一三
新聞ドイツ語の讀み方……一三
獨逸語基礎單語四〇〇〇……一三
分解式英文和譯……廣一三
佛蘭西語基礎單語四〇〇〇……一三
時と可能法の研究……廣三三
獨逸文法諸變化一覽表……廣三三
分解式和文英譯……廣一三
英語のパンクチュエーション……廣一三
英語書取の聽き方書き方……一三
英語對照現代米語小辭典……一三
新聞英語の讀み方……廣一三
英語會話練習帳……廣一三
和文英譯基礎單語句四〇〇……一三
英語入試問題の種本調べ……一三
英語基礎熟語八〇〇……廣一三
新和文英譯基礎八〇項……一三
新英文解釋基礎一五〇項……一三
受驗英語新單語……廣一三
英語基礎單語四〇〇〇……一三
現代獨逸短篇小說……廣三三
獨逸歌謠曲集……廣三三
ハイネ詩集……廣三三
趣味の獨逸語會話……廣三三
和文獨譯の秘訣……廣三三
和文獨譯練習書……廣三三
アウトデイダクト……廣三三
獨文和譯法……廣三三
獨作と和獨要語……廣三三
和文獨譯法……廣三三
名詞冠詞代名詞の研究……廣三三
動詞形容詞の用法……廣三三
獨逸語强變化動詞暗記法……三三
袖珍獨逸文典……廣三三
獨逸語發音辭典……廣三三
獨和動詞辭典……廣三三
和獨動詞辭典……廣三三
獨和動詞辭典……廣三三
獨逸一千熟語集……廣三三
獨逸單語四千と熟語六百……三三
新複式獨逸單語カード……廣三三
獨逸重要單語カード……廣三三
獨逸語五千語B版……廣三三
獨逸語五千語A版……廣三三
休暇中の獨逸語……廣三三
最新獨逸語獨習書……廣三三
獨逸語五週間上達法……廣三三
獨逸語の第一步……廣三三
前置詞大完……廣八三
ユース・オブ・ライフ全譯講義……廣五一
英語單語一萬五千……廣五一
英作文の書方……廣五一
英語の解釋法……廣五一

實用英文典……廣八三
英語重要單語の統計的研究……廣六五
英語の初步學び方……廣八八
三四年の英文法……廣八八
カード式英文和譯學び方考へ方と解き方……廣八九
英語基本單語集……廣八九
英語考へ方問題撰集……廣八九
英語學び方考へ方と解き方……廣八九
學生英文學選……廣八八
改訂英文構成法……廣八八
新式英文和譯狙ひ所……廣八八
新式和文英譯狙ひ所……廣八八
根本的單語研究……廣八八
英語アクセント、讀方、句讀法、書取研究……廣八八
立體幾何學問題研究……廣八八
大英和辭典……廣八四
註解和獨辭典……廣八四
滿洲語會話獨修……廣八一
獨逸文章論……廣肆襄
標準英和辭典……廣前附一
ビギナズ英和辭典……廣前附一
支那語辭典……廣一五一
ポケツト滿日會話……廣一五一
支那語作文……廣一五一
ザイデル簡易支那語文典……廣一五一
中等必修五千英單語集……一四三
上級必修五千英單語集……一四三
新英和大辭典……廣四二
スクール英和新辭典……廣四二
新英和小辭典……廣四二
新和英大辭典……廣四二
五千字記憶法……廣四四
音聲學入門……廣四四
英文戶外叢書……廣四四
英文學詳解……廣四四
限部英文短句集……廣四四
英語アクセント心得……廣四四
英語各科講義集成……廣四四
英文實踐商業通信……廣一二四
受驗生の英作文……廣六二
常用英文熟語例解……廣六二
齋藤和英大辭典……廣六二
英和中辭典……廣六二
受驗基礎單語集……廣七〇
標準英語單語集……廣七〇
標準英單語の合理的覺え方……廣七一
中等英語讀本參考圖鑑……廣七一
一、二年の英語讀本……廣七一
一、二年の英文法……廣七一
動詞時制の研究……廣七一
英文法汎論……廣七一
英語の發達……廣七一
エスペランドの手紙書き方と文例……廣後付二
獨和辭典……廣八
露和大辭典……廣八
新佛和辭典……廣八
新和佛辭典……廣八
獨和大辭典……廣八
英和辭典……廣八
大英和辭典……廣八
日支會話提要……廣八五
ふらんす……廣一六
佛和兵語辭典……廣一六
佛蘭西語不規則動詞逆引辭典……廣一六
新佛和熟語辭典……廣一六
白水社和佛辭典……廣一六
新佛和小辭典……廣一六
標音佛和辭典……廣一六
模範佛和大辭典……廣一六
佛蘭西語講習錄……廣一六

○歷史・地理

參考日本外史鈔本詳解……一〇八
參考十八史略鈔本詳解……一〇八
參考日本歷史……廣一〇八
參考東洋歷史……廣一〇八
參考西洋歷史……廣一〇八
參考地理學通論……廣一〇八
參考外國地理……廣一〇八
參考日本地理……廣一〇八
神皇紀……廣五一
地理文庫日本の誇……廣四九
十八史略新解……廣一九
神皇正統記評釋……廣一九
野口英世博士傳……廣一三九
西洋歷史學び方考へ方と解き方……廣八九
家系々圖の合理的研究法……九四
日本外史詳解……廣三八
十八史略詳解……廣三八
簡明日本地理……廣三八
簡明世界地理……廣三八
リンカーン物語……廣四六
プリユータク英雄傳……一四六
猛獸境探檢記……廣四六
大隈重信……廣一四六
二宮尊德……廣一四六
大石良雄……廣一四六
九條武子夫人……廣一四六
ムツソリニ傳……廣一四六
エヂソン傳……廣一四六
世界十傑傳……廣一四六
ナポレオン……廣一四六
日本喫煙史……廣一五九
異說日本史……廣一五九
東洋藝術史講座……廣一五九
日本服裝史……廣一五九
楠氏研究……廣一三八
日本文化史概論……廣一四〇
箱根遊覽と富士五湖めぐり……廣一四三
伊豆半島の旅附大島めぐり……廣一四三
俺が房總……廣一四三
氣まゝな旅……廣一四三
全國書籍商組合員名簿……一九九
東京書籍商組合史……廣一九九
日本文化史……廣一五七
一貫齋國友藤兵衛傳……廣一五八
橋本左內……廣一五八
吉田松陰の研究……廣一五八
日本風俗史要……廣一五八
日本文學者年表……廣一五八
古事記全釋……廣六七
參謀本部地圖陸地測量部……四八
講談日本外史……廣一四四
風俗圖繪集……廣一四四
最新日本地圖……廣一四四
日本外史講義……廣一四四
全譯日本外史……廣一四四
朝鮮・關東州……廣一四九
大楠公……廣一三六
新田義貞……廣一三六
曾我兄弟……廣一三六
豐臣秀吉……廣一三六
武田信玄……廣一三六
眞田の知謀……廣一三六
赤穗義士……廣一三六
高山彦九郎……廣一三六
日本歷史の知識……廣一三七
東洋歷史の知識……廣一三七
西洋歷史の知識……廣一三七
日本歷史年表……廣一三七
明治大正の事蹟……廣一三七
今日の歷史……廣一三七
日本地理の知識……廣一三七
全國名所めぐり……廣一三七
新しき年中行事……廣一三七
天才人……廣一
佐久間象山……廣一
獨逸史學史……廣一
國史の研究……廣一
西洋人名辭典……廣表の四
偉人周布政之助翁傳……廣二〇
梅田雲濱遺稿竝傳……廣二〇
木戶松菊公逸事……廣二〇
最新滿洲國大地圖……廣七一
日本地理……廣一八
西洋史……廣一八
東洋史……廣一八
日本史……廣一八
世界地理……廣一八
歐米巡遊……廣一三
參考東洋史……廣一三
參考國史……廣一三
詳解古事記……廣一二六
詳解日本地理……廣一二六
詳解世界地理……廣一二六
詳解日本歷史……廣一二六
詳解東洋歷史……廣一二六
詳解西洋歷史……廣一二六
海外交通史話……廣七三
令集解釋義……廣七三
復古記……廣七三
地理的日本歷史……廣八五
日本神話の新研究……廣八五
本邦俠客史の研究……廣八五
日本死刑史……廣八五
歷史に關する新考察……廣八五
大奧秘史……廣八五
國史辭典……廣九六
地理辭典……廣九六
世界地名大辭典……廣七八
岩波西洋人名辭典……廣表の四
近代大阪……廣一一〇

○政治・法律・外交・軍事

特許、意匠、商標、登錄の受け方……廣一一〇
特許、意匠、商標、新案法……一一〇
出版關係法規……廣三六
六法全書……廣五一
日本の決意……廣一四六
新聞政治外交記事の基礎知識……廣二九
兵書と地圖……廣五五
赤字時代の財政諸問題……廣九四
地方稅改革問題……廣九四
英雄待望論……廣一
永井柳太郎氏大演說集……一四六
少年海軍讀本……廣八一
少年陸軍讀本……廣八一

日本政治動向論……廣扉裏
公法判例大系……廣六
法律早わかり……廣一四三
軍人小訓……廣五八
軍紀の研究……廣五八
春畝遺稿……廣四四
法律年鑑……廣九〇
法律學說判例要旨集……廣九〇
法律學說判例總覽
（正續編）……廣九〇
商法總論……廣九〇
出版法規總覽……廣一三六
憲法早わかり……廣一三七
法律の知識……廣一三七
陪審法早わかり……廣一三七
陸軍の話……廣一三七
公民としての心得……廣一三七
普通選擧の話……廣一三七
政黨早わかり……廣一三七
法政、社會、經濟論文總覽……一〇
占有理論……廣一
海商法要義……廣一
統一船荷證券法論……廣一
會社法概論……廣一
世界法の理論……廣一
仲裁の調停……廣一
物權法……廣一
聽積陳重遺文集……廣一
日本政治經濟年鑑……廣一
民主政治と獨裁政治……廣一
法學研究……廣一
顧屈書式大全……廣後付二
民事訴訟法論文集……廣一二七
商法要論……廣一二三
經濟法律文獻目錄……廣九八
選擧法講話……廣七六
比例代表の概念と
その技術……廣七六
選擧事務提要……廣七六
例規判例選擧法規……廣七六
選擧運動取締規範……廣七六
兵役法並關係法規……廣七六
戸籍事務提要……廣七六
商業及法人登記手續……廣七六
不動產登記手續……廣七六
警邏勤務論……廣七六
警察と政治……廣七六
治安警察法論……廣七六
警察史研究……廣七六
警察罰及執行手續……廣七六
水ニ關スル法令並例規……廣七六
新恩給法釋義正續……廣七六
公文例規及公文例……廣七六
產業組合法規集……廣七六
產業組合法要義……廣七六
農村行政……廣七六
農會法正義……廣七六
小作調停法原理……廣七六
行政法規提要……廣七六
日本行政講義……廣七六
行政執行法論……廣七六
行政裁判所判決總覽……廣七六
土木例規類纂……廣七六
土木行政要義……廣七六
土地收用法學說實例總覽……七六
道路及道路交通……廣七六
治水及利水……廣七六
土地收用、事業助成……廣七六
郡市計畫の理論と法制……廣七六
都市計畫法規類集……廣七六
市町村事務提要……廣七六
市制町村制並附屬法規……廣七六
市町村條例……廣七六
市町村例規提要……廣七六
公營事業論……廣七六
地方自治の研究……廣七六
市町村の自治權……廣七六
地方制度解說……廣七六
地方制度輯攬……廣七六
地方自治と東京市政……廣七六
市制町村制實例總覽……廣七六
地方制度講話……廣七六
大戰外交秘史……廣八五
日本フアツショ運動の展
望……廣八五
非常時日本に躍る人々……廣八五
太平洋大海戰……廣八五
風雲急！俎上の日本……廣八五
滿洲事變實誌……廣八五
新興日本の苦悶……廣八五
日韓合邦秘史……廣一九八

○經濟・社會

明治大正財政詳覽
明治大正國勢總覽（一組）……二五
アサヒグラフ……廣七九
滿洲國之將來……廣六三
不動產金融の仕方……廣六九
土地家屋擔保の話……廣六九
支那の將來……廣六三
支那の國民性……廣六三
支那事變と我國民の覺悟……六三
新聞經濟記事の基礎知識……二九
社會學入門……廣二九

日本米價變動史……廣四
新時代の農家經濟……廣四
生絲市場論……廣四
蠶絲業統制論……廣四
滿洲國の財政經濟……廣九四
米專賣の問題……廣九四
漁村問題と其對策……廣九四
農村經濟の窮乏と對策……廣九四
支那風俗春秋……廣九四
勸業債券の話……廣九四
金及通貨論……廣九四
新滿洲國寫眞大觀……廣一四六
富と有價證券……廣八一
布哇と比律賓……廣八一
新日本主義……廣八一
帝國歲計豫算の話……廣一三
世界經濟機構と景氣變動……五七
國民經濟組織の缺陷と世
界恐慌……廣五七
景氣變動……廣五七
常識經濟學……廣五七
滿洲民族變遷史……廣五九
滿蒙移植民問題……廣五九
滿洲幣制の現在及將來……廣五九
滿蒙經營の抱負を語る……廣四四
サウエート現勢資料……廣六六
社會問題早わかり……廣三七
金解禁早わかり……廣三七
貯金のすゝめ……廣三七
新聞を讀む基礎の知識……三七
經濟學の知識……廣三七
思想關係出版物總攬……廣一〇
唯物論と經濟批判論……廣一
解釋學の成立……廣一
英國經濟史及學說……廣一
經濟學研究……廣一
經濟學新講……廣一
經濟學辭典總索引……廣一
經濟學辭典……廣一
ファツシズム……廣一
統計利用に於ける基本問
題……廣一
經濟思想及制度……廣三七
米國經濟學の史的發展……三七
經濟綱要……廣三七
世界經濟の基礎概念……廣九八
保險研究……廣九八
貯金法百種……廣三七
勞働問題教程……廣七六
社會學概論……廣七六
新聞研究室第一回研究報
告……廣七六
國有財產法詳論……廣七六
地方財政要綱……廣七六
地方財政の實際問題……廣七六
地方財政改革論……廣七六
地方財政調整論……廣七六
市町村財務規程……廣七六
市町村の豫算……廣七六
市町村財務總覽……廣七六
地方稅制講話……廣七六
新地方稅制の運用……廣七六
家屋賃貸價格調査令詳解……七六
市町村稅戸數割正義……廣七六
市町村稅制限外課稅……廣七六
地方稅延滯金早見表……廣七六
市町村公債……廣七六
救貧法制要義……廣七六
公益質屋法要論……廣七六
心靈の飛躍……廣八五
社會を診斷する……廣八五
幸福の獲得……廣八五
貧乏の科學……廣八五
開け行く滿洲……廣八五
日本文化の再建……廣八五
現代都市文化批判……廣八五
經濟圖表の見方……廣二五
金融の基礎知識……廣二五
經濟年鑑……廣二五
株界二十年……廣二五
短期新東日々表……廣二五
經濟年報……廣二五
金本位制の研究……廣二五
日本金融論……廣二五
日本の景氣變動……廣二五
半世紀財界側面誌……廣二五
戰時經濟の全貌……廣二五
新聞經濟面の讀み方……廣二九
金に關する各國法政集谷
國貨幣法定平價換算表……二九
經濟學書……廣七七
日本之亞細亞……廣九八
最新亞細亞大觀……廣一九八

○產業

農家の副業……廣五四
球根草花の話……廣九七
溫室植物の話……廣九七
大輪朝顏栽培秘法……廣九七
新しき園藝……廣九七
花卉裝飾の話……廣九七
草花栽培の話……廣九七
近世簿記精義……廣二八
會計監査……廣二八

實用鐵道會計……廣二八
株式會社會計……廣二八
相場戰術百態……廣二五
利權物語……廣二五
財づる物語……廣二五
日本產業の合理化……廣二五
株式會社年鑑……廣二五
生命保險會社の批判……廣二五
會社かゞみ……廣二五
大日本外國貿易月表……廣二五
外國貿易五十六年對照表……二五
會社經營効率の研究……廣二五
東株日々高低精覽……廣二五
園藝十二ケ月……廣五一
養鷄百科全書……廣五一
繭生糸の將來……廣二九
株式年鑑……廣二一
兎の蕃殖……廣四
農用藥劑學……廣四
肥料學……廣四
日本桑樹栽培論……廣四
實驗稻作新說……廣四
滿蒙の產業とその資源……廣四
日本出版大觀……廣二五
江戸書籍商史……廣二五
京阪書籍商史……廣二五
全國優秀農家組合行脚……二三
成功せる農村振興策……廣二三
肥料詳說……廣二三
農事小組合活動の實際……二三
農業經營と農政……廣二三
日本の農業……廣五七
我國主要產業に於けるカルテル的統制……廣五七
產業貿易……廣五七
貸借對照表の作成と吟味……五七
庭と木……廣五八
滿洲の農畜產業の現勢……廣五九
滿洲の水田……廣五九
滿洲の鑛產資源……廣五九
日本產業地域圖掛軸……廣四四
食用作物學……廣四四
畜產學……廣四四
蠶學……廣四四
絹絲學……廣四四
實用農產製造學……廣四四
產業組合論……廣四四
土壤微生物學……廣四四
森林生產學……廣四四
水產化學……廣四四
米……廣四四
出版の實際知識……廣二六
商事要項……廣二七
實修商業簿記……廣二七
農村發展の基礎……廣二七
歐文タイプライターの手引……廣二四
タイプライターの知識と練習……廣二四
商學研究……廣一
兩替年代記……廣一
銀行經營濟論……廣九八
廣告の心理學……廣八五

○工業・工學・交通・遞信

工業簿記と原價計算……廣三八
工業簿記提要……廣三八
ラヂオ組立修繕取扱の智識……廣一〇四
ラヂオペントード管ヴアリミュ管の特性と配線圖……廣一〇四
エリミネーター受信機設計と組立……廣一〇四
高等圖學……廣一三〇
初等ベクトル解析……廣一三〇
電氣學磁氣學……廣一三〇
波動音響物理光學……廣一三〇
鐵鋼及機械工業……廣二九
日本工業政策……廣二九
最新ラヂオ受信機の組立方……廣八八
毒ガスと煙……廣四八
花火の研究……廣四八
纖維素塗料……廣四八
石鹼製造化學……廣四八
香料製造化學……廣四八
熱傳導論……廣四八
鐵鋼の腐蝕と防錆の研究……四八
耐酸耐蝕金屬及合金……廣四八
金屬總論……廣四八
近代の金屬材料……廣四八
治金學……廣四八
東洋鍊金術……廣四八
電氣化學……廣四八
電氣化學實驗法……廣四八
金屬と人生……廣四八
建築土木標準規格解說……二三
日本產石材精義……廣二三
工業概論……廣五七
支那住宅志……廣五九
一般圖法……廣四四
最新手工趣味の厚紙建築……六八
建築施工法……廣四六

換氣暖房の計算必携……廣四六
給水給湯及消化設備……廣四六
建築機械設備……廣四六
新らしき建築學階梯……廣四六
競技場建築……廣四六
新興獨逸建築作品集……廣四六
復興建築圖集……廣四六
中村の建築構造……廣四六
建築材料學……廣四六
鐵筋混擬土の理論及其應用……廣四六
鐵筋コンクリート早割出……四六
鐵筋コンクリート計算法……四六
鐵筋混擬土計算及其資料……四六
構造强弱學……廣四六
剛節構理論……廣四六
圖式力學……廣四六
建築工學ポケットブック……四六
英和建築語彙……廣四六
日本建築辭彙……廣四六
レース工業……廣四六
織物組織及製造學……廣四六
絹絲紡績……廣四六
力織機構學……廣四六
力織機構學……廣四六
絹紡織學……廣四六
最新機織法……廣四六
織物分解及設計篇……廣四六
計算篇……廣四六
織物原料篇……廣四六
精練漂白篇……廣四六
浸染篇……廣四六
捺染篇……廣四六
整理篇……廣四六
實用機織法……廣四六
實用色染學……廣四六
最新染色法……廣四六
人造絹絲……廣四六
樺太工業會社製品一手販賣廣告……廣一六八
印刷工場增設に關する廣告……廣一五六
彫塑の手ほどき……廣三一
新しい家庭工業……廣五四
燃料問題圖說……廣五四
短波長電波の話……廣五四
航海の話……廣五四
圖解化學工業……廣五四
化學工業概說……廣五四
常識化學……廣五四
無線電話早わかり……廣一三七
無線電話の知識……廣一三七
自動車實務要項……廣二四
自動車修繕工學……廣二四
自動車寶典……廣二四
日本の住宅……廣一
日本水制工論……廣一
珪酸鹽類工業概論……廣一
天文學……廣一
建築手續早わかり……廣後付二
家作を貸す秘訣……廣後付二
歐船來往考……廣八五

○醫學・衛生

參考生理衛生學……廣一〇八
食……廣六三
家庭の醫學と治療法……廣二九
榮養と食餌療法……廣二九
生理植物學……廣一四
乳學……廣四
療養夜話……廣一八
性慾科學大系……廣前付三
媚藥新考……廣前付三
法醫學叢話……廣一四
姙娠と育兒のしるべ……廣二四
日常生活の生理學……廣一
檢歷法と其應用……廣一
治らずに治つた私の體驗……廣後付三
生理衛生學……廣二八
傳染病の話……廣二七
詳解生理衛生……廣二六
西式斷食療法……廣二七

○理科學

高等三角法……廣一三〇
高等立體幾何學……廣一三〇
高等解析幾何學……廣一三〇
高等平面三角法……廣一三〇
初等解析幾何學……廣一三〇
初等微分積分學……廣一三〇
數學諸論大要……廣一三〇
新編高等代數學……廣一三〇
高等積分學……廣一三〇
高等微分學……廣一三〇
微積分學深義……廣一三〇
函數論……廣一三〇
光學……廣一三〇
熱學……廣一三〇
重學……廣一三〇
理論熱學……廣一三〇
群論と量子力學……廣一三〇
理論光學……廣一三〇

理論電氣磁氣學……廣一三〇
變形する物體力學……廣一三〇
一般力學……廣一三〇
高等力學……廣一三〇
初等力學……廣一三〇
力學通論……廣一三〇
あらゆる受驗問題の幾何學……廣一〇八
あらゆる受驗問題の代數……一〇八
代數學重要問題の解き方……一〇八
幾何學重要問題の解き方……一〇八
代數學重要受驗問題の解き方……廣一〇八
幾何學重要受驗問題の解き方……廣一〇八
化學精義……廣一〇八
物理學精義……廣一〇八
參考博物通論……廣一〇八
參考鑛物學……廣一〇八
參考植物學……廣一〇八
參考動物學……廣一〇八
參考化學……廣一〇八
參考物理學……廣一〇八
あらゆる受驗問題の物理學……廣一〇八
人生化學……廣一〇八
算術の學習……廣一〇三
鑛物岩石學講義……廣一一一
一年生の代數學……廣一一〇
二年生の代數學……廣一一〇
一、二年生の幾何……廣一一〇
學生の代數學……廣一一〇
學生の幾何學……廣一一〇
算術重要問題模範問題精解……廣一一〇
算術重要問題考へ方解き方……廣一一〇
五桁常用對數表……廣一一〇
珠算の彈き方……廣一一一
算術仕上げの要點……廣一一三
新式珠算教本……廣一五一
算術熟達自修書……廣一五一
幾何學の獨力解決……廣一五一
代數學の獨力解決……廣一五一
岩石地質學……廣一六九
花……廣一六三
昆蟲七〇〇種……廣一六五
算術の學び方……廣一八八
代數學初步學び方解き方……八八
幾何學初步學び方解き方……八八
三角法初步學び方解き方……八八
珠算の學び方……廣一八八
工業數學便覽……廣一八八
受驗幾何學の根柢……廣一八八
受驗代數學の根柢……廣一八八
動物學提要……廣一二九
實驗鑛物界講義……廣一二九
無機化學……廣一二九
平面解析幾何學……廣一二九
平面解析幾何學問題詳解……一二九
微分學問題詳解……廣一二九
積分學問題詳解……廣一二九
高等代數學問題詳解……廣一二九
解析幾何學び方考へ方解き方……廣一八九
微分積分學……廣一八九
高等教育代數學……廣一八四
數學概論……廣一八四
新高等代數學……廣一八四
微積分概念……廣一八四
實函數論……廣一八四
解析幾何學問題解義集……廣一八四
數學問題解義集……廣一八四
數學問題練習カード……廣一八九
化學學び方考へ方と解き方講義……廣一八九
動物學び方考へ方と解き方……廣一八九
物理計算學び方考へ方と解き方……廣一八九
物理學び方考へ方と解き方講義……廣一八九
代數學び方考へ方と解き方……廣一八九
幾何學び方考へ方と解き方……廣一八九
カード式代數學び方考へ方と解き方……廣一八九
算術學び方考へ方と解き方……廣一八九
代數初步學び方考へ方と解き方講義……廣一八九
幾何學初步學び方考へ方と解き方講義……廣一八九
平面三角法問題研究……廣一三八
幾何學解法の目標方向と補助線の着眼……廣一三八
最新數學公式……廣一三八
物理學問題研究……廣一三八
徹底せる物理研究……廣一三八
徹底せる化學研究……廣一三八
フーリエ級數及積分論……一四八
ローレンツ微分積分學……一四八
微分積分の意味と用法……一四八

代數學……廣一四八
高等數學通論……廣一四八
高等代數學通論……廣一四八
平面幾何學通論……廣一四八
立體幾河學通論……廣一四八
立體解析幾何學講義……廣一四八
平面解析幾何學講義……廣一四八
化學語彙……廣一四八
化學本論……廣一四八
無機化學實驗法詳解……廣一四八
無機化學の基礎……廣一四八
化學理論及計算……廣一四八
近世有機化學講義……廣一四八
有機化學構造論……廣一四八
有機合成化學……廣一四八
物理學通論……廣一四八
物理學詳解講義……廣一四八
物理學……廣一四八
物理學計算問題集……廣一四八
應用物理學實驗……廣一四八
物理學精解……廣一四八
ベクトルヒテンソル……廣一四八
電子論……廣一四八
新電子論……廣一四八
質點の力學……廣一四八
物理學の發展……廣一四八
マツハ力學の發達とその歷史的批判的考察……廣一四八
流體力學と翼並に水力機の理論……廣一四八
飛行機の理論と設計……廣一四八
鐵及鋼の研究……廣一四八
解析幾何講要……廣一三三
微分積分早わかり……廣一三三
解析幾何學講話……廣一三三
微分積分學講話……廣一三三
球面三角法講話……廣一三三
微分積分の講義……廣一三三
確率及最小自乘法……廣一三三
實用高等數學綱要……廣一三三
初等微分方程式附變分學……一三三
統計數學……廣一三三
高等數學十講……廣一三三
高等平面三角法……廣一三三
代數的解析論……廣一三三
最近微分積分學精義……廣一三三
高等化學計算法……廣一三三
幾何學つれづれ草……廣一三三
會計學概論……廣扉裏
算術新教育……廣一六〇
代數・幾何學精解狙ひ所……一三九
力・物理・無機化・有機化學演習……廣一三九
代數・微分・積分・解析幾何學演習……廣一三九
重要幾何學問題集……廣一三九
重要代數學問題集……廣一三九
人類學概論……廣一四〇
菌類界の特異現象……廣一三三
動物學概論……廣一三三
無機化學要論……廣一三六
有機化學要論……廣一三六
横觀無機化學……廣一三六
横觀有機化學……廣一三六
物理學一般……廣一三六
物理學實驗法講義……廣一三六
生物々理學要論……廣一三六
電磁氣學要論……廣一三六
演習高等數學講座……廣一六一
實驗化學講座……廣一六一
初等數學講座……廣一六一
高等數學講座……廣一六一
日本昆蟲圖鑑……廣一三六
日本植物圖鑑……廣一三六
日本動物圖鑑……廣一三六
應用動物圖鑑……廣一四三
動物圖鑑……廣一四三
動物採集便覽……廣一四三
昆蟲採集便覽……廣一四三
植物名彙……廣一四三
蟻と蜂……廣一五四
日本の寄生蟲と其病害……廣一五四
傳書鳩……廣一五四
メートル法の知識……廣一三七
萬有科學の知識……廣一三七
自然科學の進化……廣一三七
科學萬能の世界……廣一三七
宇宙の秘密……廣一三七
家庭科學の話……廣一三七
日常科學の話……廣一三七
秋の七草の話……廣一一四
花シャウブの話……廣一一四
日本昆蟲大圖鑑……廣一〇
高等化學問題と解義……廣一
炭素化合物……廣一
化學概說總論……廣一
高等物理學……廣一
地震に伴ふ發光現象の研究及資料……廣一
雲を掴む話……廣一
氣象學講話……廣一
蛙發生……廣一
抽象代數學……廣一
數學教育史……廣一

日用化學講義……廣三
日用物理學講義……廣三
動物學……廣一八
植物學……廣一八
化學……廣一八
物理學……廣一八
鑛物學……廣一八
詳解代數學……廣一八
詳解幾何學……廣一八
詳解動物學……廣一八
詳解植物學……廣一八
詳解物理學……廣一八
詳解化學……廣一八
詳解一般理科……廣一八
圖形教材の取扱……廣八五
算術教育の根本的研究……廣八五
算術新教授法……廣八五
算術の心理學……廣八五
理科辭典……廣九六
家禽圖鑑……廣三三

○美術・工藝

支那古陶瓷……廣六三
藝術寫眞の知識……廣八二
長崎系洋畫……廣一一〇
樹木と藝術……廣一四四
草と藝術……廣一四四
動物と藝術……廣一四四
魚介と藝術……廣一四四
棲貝の栞……廣一四四
篆刻の栞……廣一四四
落款と箱書の栞……廣一四四
日本畫自在……廣一四四
推古より天平……廣一四四
天平より藤原へ……廣一四四
五節句の話……廣一四四
陶寄……廣一四四
浮世繪師人名辭書……廣一四四
近代友禪史……廣一四四
光悅……廣一四四
慶州之美術……廣一四四
淺井忠……廣一四四
芥子園國譯釋解……廣一四四
西陣史……廣一四四
花と藝術……廣一四四
寫眞術の初步……廣八八
寫眞のうつし方……廣八八
藝術寫眞と夜間撮影……廣八八
原板の手入……廣八二
フイルム寫眞術……廣八二
寫眞のうつし方……廣八二
寫眞術の第一步……廣八二
私の寫眞……廣八二
趣味の寫眞術……廣八二
引伸寫眞術……廣八二
寫眞問答……廣八二
寫眞術五十講……廣八二
寫眞の失敗と其原因……廣八二
人物寫眞のうつし方……廣八二
パテーの自家現像……廣八二
現像の實際……廣八二
露出の秘訣……廣八二
整色寫眞の研究……廣八二
寫眞の構圖……廣八二
商業寫眞術……廣八二
寫眞處方集……廣八二
整色寫眞のうつし方……廣八二
プロモイル印畫法……廣八二
藝術寫眞の作畫法……廣八二
南宗畫法……廣四四
美術辭彙……廣四四
水繪の手ほどき……廣三一
版畫の手ほどき……廣三一
美術工藝の手ほどき……廣三一
油繪の手ほどき……廣三一
寫眞印畫の手ほどき……廣三一
世界出版美術史……廣一三六
日本美術の知識……廣一三七
落款印譜大全……廣前付三
廣重……廣一
西洋美術史研究……廣一
日本繪畫史……廣八五

○婦人・家庭

池の坊生花の手引……廣一二〇
池の坊生花の挿し方……廣一二〇
投入花と盛花……廣一二〇
投入盛花實現挿法……廣一二〇
茶の湯道しるべ……廣一二〇
煎茶法式……廣一二〇
趣味と實用の日本料理……一二一
素人に出來る支那料理……一二一
家庭で出來る和洋菓子……一二一
家庭向きフランス料理……一二一
四季の家庭料理……廣一二一
育兒讀本……廣一二一
母と子の榮養學……廣一二一
婦人子供洋服裁縫講義錄……一二一
毛絲あみもの全集……廣一二一
母の知識……廣一五一
禮儀作法……廣一五一
和服の仕立方……廣一五一
新型毛糸編物のをしえ……廣一五一
和洋料理の拵へ方……廣八八
婦人の進むべき道……廣一三七
理想の家庭……廣一三七
文化生活の基調……廣一三七
絕對的生活……廣後付三
ベビーブツク愛兒發育の記入帖……廣二七
料理の友……廣七二

○音樂・運動・娛樂

英米現代劇の動向……廣一一〇
近代名曲解說……廣一一〇
體育と競技……廣一四
昭和幼年唱歌……廣一四
昭和少年唱歌……廣一四
體育ダンス新教本……廣三二
ジャズ音樂……廣二四
ヴアイオリン音樂解說……廣二四
樂典の講義……廣二四
音樂理論講義……廣二四
音樂解說……廣二四
音樂年鑑……廣二四
社交ダンス叢書……廣二四
現代ラグビーの見方……廣五一
野球實際の知識……廣五一
社交ダンス第一步……廣八八
戲曲の見方と考へ方作り方八九
國史唱歌……廣一三九
五番綴搨本……廣九二
稽古用一番本……廣九二
觀世流昭和版謠本……廣九二
釣りと魚……廣五八
謠曲三百五十番集……廣四四
オリムピツク畫報……廣四四
世界體育史……廣六八
運動哲學……廣六八
理想の體育設備と用具設計並に其解說……廣六八
大形五番綴觀世流改訂讀本……廣五六
大形五番綴梅若流謠本……廣五六
中形五番綴觀世流改訂謠本……五六
昭和新版觀世流參考讀本……五六
縮刷觀世流參考謠本……廣五六
觀世流謠曲全集……廣五六
觀世流袖珍一番本……廣五六
觀世流獨吟全集……廣五六
觀世流小謠全集……廣五六
觀世流獨吟小謠集……廣五六
一番綴稽古本……廣五六
謠曲界……廣五六
野球の話……廣三七
野球讀本……廣一
ゴルフ自由日記……廣八五
日本野球戰史……廣八五
本邦洋樂變遷史……廣八五
童謠唱歌名曲全集……廣七四
オルガン名曲全集……廣七四
茶道銀杏之木蔭……廣一三

○雜

八大學習雜誌……廣三

○講座・全集・叢書・豫約

レコード叢書……廣二四
音樂の知識……廣三七
國民叢書……廣三七
學生叢書……廣一六
廣文庫……廣七三
羣書索引……廣七三
羣書類從……廣七三
古事類苑……廣七三
水戸學全集……廣八五

○雜廣告

圖書雜誌大取次……廣九七
新刊圖書目錄及既刊の詳細に就ては……廣三〇
三都合同新聞……廣一七四
下野新聞……廣一八六
優良圖書一覽……廣六五
岡本商店……廣一六五
大倉洋紙店……廣一六四
中井商店……廣一六六
北越製紙株式會社……廣一六二
柏原洋紙店……廣一六三
王子製紙株式會社……廣一六一
日清印刷株式會社……廣一五七
大阪毎日新聞……廣一七〇
名古屋新聞……廣一八二
秀英舍……廣一七八
讀賣新聞……廣一七九
中外商業新報……廣一八一
書籍出版代理部……廣一八一
山陽新報……廣一八七
宮本印刷所……廣一五八
報知新聞……廣一七二
オフセット印刷……廣一七六
新潟毎日新聞……廣一八五
秋田魁新報……廣一八八
北陸毎日新聞……廣一八九
大連新聞……廣一九六
都新聞……廣一七六
滿洲日報……廣一九七
九州日報……廣一九一

九州新聞……廣一九二
長野新聞……廣一八四
小樽新聞……廣一九五
新潟新聞……廣一八五
新愛知……廣一七五
福岡日日新聞……廣一七五
東京朝日新聞……廣一七一
越中新聞……廣一九〇
北國新聞……廣一九〇
滿洲年鑑……廣一五九
滿洲國地圖……廣一五九
河北新報……廣一七五
北海タイムス……廣一七五
大平カバーペーパー、大平紙クロース其他……廣一六七
一般圖書教科圖書大取次……一〇〇
神戸又新日報……廣一九四
大分新聞……廣一九四
大阪朝日新聞……廣一六九
時事新報……廣一七三
三宅莊藏書店……廣一〇一
九州日日新聞……廣一九三
東京日日新聞……廣一八〇
臺灣日日新報……廣一八三
滿洲日報……廣一八三
京城日報……廣一八三

岩波書店

昭和七年度

新刊書目

東京神田一ツ橋通町
電話一八七一・一八八
九段一八九・一八〇〇
振替東京二六二四〇〇

岩波書店刊行書

哲學叢書(4)改版 **論理學** 速水滉著 四六判 四七八 一・八〇 二〇

續哲學叢書(1) **歷史哲學** 三木清著 四六判 三二四 一・五〇 二〇

無の自覺的限定 西田幾多郎著 菊判 六〇〇 三・五〇 三〇

全體の立場 高橋里美著 菊判 四七六 二・八〇 三〇

印度哲學史 宇井伯壽著 菊判 七五六 四・〇〇 三〇

吠檀多哲學の研究 金倉圓照著 菊判 四六二 三・〇〇 三〇

ヘーゲル哲學と辯證法 田邊元著 菊判 四一二 二・八〇 三〇

ヘーゲル哲學概論 高橋里美 武市健人譯 菊判 三四〇 二・〇〇 二〇

スピノーザとヘーゲル 國際ヘーゲル聯盟日本版 菊判 三一八 二・〇〇 二〇

プラトーンソピステース 鹿野治助譯 菊判 二六二 二・〇〇 二〇

プラトーンフィレーボス 後藤孝弟譯 菊判 二二六 二・〇〇 二〇

宗教的人間 前田利鎌著 菊判 三五四 一・〇〇 二〇

カント著作集(4) **判斷力批判** 大西克禮譯 菊判 七一四 四・〇〇 三〇

カント著作集(5) **宗教哲學** 安倍能成譯 菊判 四九二 三・〇〇 三〇

ヘーゲル全集(1) **小論理學**(哲學體系I) 眞下信一 脇坂光次譯 菊判 五四四 三・八〇 三〇

ヘーゲル全集(4) **精神現象學**(上卷) 金子武藏譯 菊判 三八六 二・六〇 三〇

ヘーゲル全集(6) **大論理學**(上卷) 鈴木權三郎譯 菊判 六九六 四・五〇 三〇

ヘーゲル全集(10) **歷史哲學** 鈴木權三郎譯 菊判 八四六 五・五〇 三〇

哲學論叢(43) フッサールの「純粹現象學考案」 ナトルプ著 細谷恒夫譯 菊判 六〇 〇四五

哲學論叢(44) **時間及空間論** ブレンターノ著 和田治平譯 菊判 六〇 〇四五

哲學論叢(45) **解釋學の成立** ディルタイ著 池島重信譯 菊判 六四 〇四〇

レーニン **唯物論と經驗批判論** 佐野文夫譯 菊判 六二六 四・五〇 三〇

日本精神史論纂(第一卷) 日本精神史學會編 菊判 二三〇 一・二〇 二〇

穗積陳重遺文集(第一册) 菊判 六六八 五・〇〇 三〇

物權法(民法講義II) 我妻榮著 菊判 三七八 二・二〇 二〇

仲裁と調停 池田寅二郎著 四六判 二七〇 一・五〇 一五

岩波書店刊行書

世界法の理論（第一卷）　田中耕太郎著　菊判　五六〇　五・〇〇　三〇

再訂增補 會社法概論　田中耕太郎著　菊判　八一八　四・五〇　三〇

統一船荷證券法論　小町谷操三著　菊判　四三八　三・〇〇　三〇

海商法要義（上卷）　小町谷操三著　菊判　三九四　二・五〇　二〇

占有理論　岩田新著　菊判　一〇〇八　八・〇〇　四五

法學研究(1)　東京商科大學研究年報　菊判　四二六　一・七〇　二〇

民主政治と獨裁政治　ハンス・ケルゼン著　西島芳二譯　四六判　二一四　一・八〇　一〇

日本政治經濟年鑑（昭和七年版）　東京政治經濟研究所編　菊判　三四八　一・五〇　二〇

經濟學辭典（全五卷）　大阪商科大學經濟研究所編　四六倍　各六一〇　七・〇〇　五〇

經濟學辭典 總索引　大阪商科大學經濟研究所編　四六倍　三九四　四・〇〇　三〇

經濟學新講V（變動の理論）　高田保馬著　菊判　五四四　三・二〇　三〇

經濟學研究(1)　東京商科大學研究年報　菊判　四六四　一・八〇　二〇

アシュレー英國經濟史と學說　野村兼太郎譯　菊判　八五六　五・五〇　三〇

校註 兩替年代記（原編資料篇）　江戸本兩替仲間原修　三井高維增補　四六倍　六五〇　各一〇・〇〇　四五

商學研究(1)　東京商科大學研究年報　菊判　三〇八　一・二〇　二〇

統計利用に於ける基本問題　蜷川虎三著　菊判　三〇〇　二・八〇　三〇

ファッシズム —思想・運動・政策—　土方成美著　菊判　二六六　一・二〇　二〇

學生思想問題　河合榮治郎　蠟山政道著　菊判　一五八　〇・四〇　八〇

增訂改版 氣象學講話　岡田武松著　菊判　三五六　二・五〇　二〇

通俗科學叢書(5) 改訂 雲を摑む話　藤原咲平著　四六判　四一六　二・二〇　二〇

地震に伴ふ發光現象の研究及び資料　武者金吉編著　四六倍　三五〇　四・八〇　三〇

高等物理學（上卷）　竹內潔編　菊判　四四二　二・八〇　三〇

高等物理學（下卷）　竹內潔編　菊判　四一〇　二・八〇　三〇

化學概說(1) 總論 1　玉蟲文一　白井俊明著　菊判　二六二　二・〇〇　二〇

化學概說(V) 炭素化合物　菅原義健　藤原清次郎著　菊判　四七八　二・八〇　三〇

高等化學問題と解義　津田榮　北岡馨著　菊判　三七八　二・五〇　三〇

天才人　エルンスト・クレッチュメル著　內村祐之譯　菊判　本文三四四　二・七〇　三〇

醫學生物學研究領域に於ける其應用　檢壓法と　藤田秋治著　菊判　五四四　五・二〇　三〇

日常生活の生理學　加藤元一著　菊判　二三四　一・八〇　二〇

蛙發生　岡田彌一郎　馬場菊太郎著　四六倍　六六　四・〇〇　二〇

岩波書店刊行書

デラップセル スチュアート 天文學　鈴本敬信譯　菊判　一〇一八　七・八〇　三〇

工業物理叢書 振動學　妹澤克惟著　四六倍　五五〇　一三・〇〇　四五

珪酸鹽類工業概論　內田宗義著　菊判　四三八　四・三〇　三〇

日本水制工論　眞田秀吉著　菊判　三七四　三・二〇　三〇

日本の住宅（普及版）　藤井厚二著　四六倍　一六四　二・八〇　二〇

數學教育史 —一つの文化形態に關する歷史的研究—　小倉金之助著　菊判　三七四　二・五〇　三〇

高等數學叢書 抽象代數學　正田建次郎著　菊判　四二八　四・三〇　三〇

更訂 國史の研究（各說上）　黑板勝美著　菊判　五四〇　三・五〇　三〇

獨逸史學史　坂口昂著　菊判　六六六　三・五〇　三〇

佐久間象山　宮本仲著　菊判　七五〇　五・五〇　三〇

ソーニャコヴァレフスカヤ　野上彌生子譯　四六判　三一八　一・五〇　〇〇

批判的解說 一般文法の原理　小林英夫著　菊判　二二〇　二・〇〇　二〇

續日本隨筆索引　太田爲三郎編　菊判　九一六　六・五〇　四五

文學の近代的研究 —文學の理論及び解釋の序論—　モウルトウン著　本多顯彰譯　菊判　六三四　二・三〇　三〇

百年祭記念 ゲーテ研究　日獨文化協會編　菊判　五九八　三・五〇　三〇

青丘雜記　安倍能成著　四六判　三七九　二・〇〇　二〇

續冬彥集　吉村冬彥著　四六判　四四〇　二・〇〇　二〇

しづかな流　中勘助著　四六判　五〇〇　二・二〇　二〇

萬葉集年表　土屋文明編　菊判　六七〇　三・八〇　三〇

萬葉集研究年報（第二輯）　萬葉三水會編　菊判　一四六　〇・九〇　〇六

歌集 砂濱　高田浪吉著　四六判　二一六　一・五〇　一五〇

歌集 苔桃　久保田不二子著　四六判　三五六　二・二〇　二〇

戰爭と平和物語　米川正夫著　四六判　三七四　一・六〇　二〇

トルストイ 人生の道（下卷）　原久一郎譯　四六判　二九八　一・七〇　二〇

西洋美術史研究 上卷（ギリシアの部）　澤木四方吉著　菊判　七一六　圖三六　五・五〇　三〇

廣重 特製版 英文目次附　內田實著　四六倍　二二　圖四〇一　三〇・〇〇　四五

宗教と國家 —エレミヤの研究—　江原萬里著　四六判　四六六　一・八〇　二〇

カトリシスムの本質　カール・アダム著　吉滿義彥譯　四六判　三六六　一・〇〇　二〇

野球讀本 守備及攻擊の基本　ラングレン著　藤田信男譯　菊判　一一八　一・七五　一〇

岩波西洋人名辭典　岡井慶雄　高橋孝信　野上豐一郎　石原純　四六判　一五五六　六・五〇　三〇

富民强身

故本山彦一閣下述　價一・二〇　送一〇

後藤農林大臣をして昭和の二宮尊德先生と嘆稱せしめた故本山彦一先生こそは、疲弊に呻吟せる現下農村の偉大なる救世主であつた。本書は實に先生が昭和四年以降に口述された唯一の農村農民に關する貴重な訓話集である。農民にとりては起死回生の妙藥であり、技術者にとつては新視野の擴大となり、爲政者にとつては經世の一大指針である。

中澤辨次郎著

日本米價變動史

肇國の劈頭以來、わが瑞穗の國の歷史は亦米價變動史上の歷史に盡される。げに米穀はわが國民生活一切の中心であつた。本書は米穀を中心とする社會各般の史的展望を背景として古代より現代特に昭和七年末までの米價及米價關係記錄を大成した稀有の勞作である。就中、明治以降に於ては東京・大阪及地方十六大取引所に亘る年次月別相場(正米・定期—當・中・先限—相場)の精確な記錄と米價構成諸要素の精密な分析及米價關係政治・經濟・社會情勢の詳述は正に先人未踏の領野を啓明したもので凡そ本書の如何なる部分と雖も社會各方面史の活用に任ずるであらう。(菊判六〇〇頁・口繪六・本邦貨幣圖七〇圖入・定價六圓八十錢・送料卅三)

□新時代の農家經濟　大久保敬　定價一・二〇　送料一・二〇八

□生絲市場論　志村茂治　定價三・五〇　送料三・三〇

□蠶絲業統制論　近藤康男　定價一・八〇　送料一・一二〇

□滿蒙の產業とその資源　滿鐵東京支社　定價一・二〇　送料一・二〇八

□生理植物學　纖纖理一郎　定價七・八〇　送料三・三〇

□乳學　正義里　定價一二・〇〇　送料五七〇

□兎の蓄殖　芝田清吾　定價三・五〇　送料三・三〇

□改訂農用藥劑學　內田・野口　定價五・五〇　送料三・三〇

□肥料學　川瀨惣次郎　定價九・五〇　送料三・三〇

□日本桑樹栽培論　遠藤・樋口　定價六・五〇　送料四・五〇

□實驗稻作新說　武田總七郎　定價四・五〇　送料三・三〇

東京・神田・錦町一　明文堂　振替東京一三一九〇

廣四

◆理學博士　龜高德平著

化學と人生

(重版)　定價金五圓八拾錢　送料金貳拾貳錢

菊判　定價　金四圓八拾錢
洋裝　送料　金拾四錢

◆本書は著者が、七年前に公にした「化學と人生」の續編で著者一生の目的である化學の知識を普及せしめん爲最近數年間の論文、講演等を集め更に、著者以外知名の士の獨特の論文をも併せ輯錄したものである。然も一般的に興味を基として面白く有益に書かれたものである。

◆同氏著

俳句文法

文學博士　幸田露伴序文
高潮主幹　服部畊石著

◆本書は著者先考と二代の苦心に關するもので、古今の名句を基として、之を國文法學上より研究したるもので、未だ如斯俳句の文法書は絕無であつた、本書一冊は國文法研究者は勿論俳句に志す人々に取つても俳句の手引となり同時に、古今名句の最大句集である。切に一本を備へられん事をお薦めする。

四六判八百五拾頁　定價　金參圓八拾錢　送料　金拾四錢

人生化學

東京市日本橋區室町四丁目
大阪市西區阿波堀通四丁目
株式會社　寶文館
振替口座東京二四〇大阪四三番

廣五

東京帝國大學教授法學博士 美濃部達吉先生著

最新刊

評釋 公法判例大系

上卷 上製 金四圓八拾錢 送料（內地二十二錢 朝鮮六十二錢）

本書は美濃部博士が公法上のあらゆる問題に關する判例を學問的に系統を正して分類彙集し之に詳細なる解說と評論とを加へたものである。載錄した判例は主として大正元年より昭和七年迄の行政裁判所及大審院の別例中行政法問題に關するもので、現行法の適用に參考となるべきものは明治年間の判例と雖も特に採錄したのが尠くない。每判決要旨を掲ぐる外、事實の要點と法律上の爭點の在る所を摘記し、重要なるものには懇切なる評釋を加へてゐる。全部を上下二卷に分ちその上卷は博士の名著たる「行政法提要」上卷（總論）に相當する部分の判例で下卷には同書下卷卽ち行政各部に關する判例を集錄さる。故に本書は學者、實際家は勿論公法判例研究者の座右に備ふべき無二の參考良書である。（下卷續刊）

東京市神田區通神保町 振替東京三一五五五 三省堂

東京市西區阿波座下通 振替大阪八一三〇〇

東京橋通神田町 有斐閣 振替東京七〇三番

新學年に新しき辭書!!

文學博士 金澤庄三郎編 小辭林 机上用大型版 二圓卅錢（送料十錢） ポケット用小型版 一圓九十錢（送料四錢）

文學博士 宇野哲人編 明解漢和辭典 增訂版 ポケット版 特價一圓八十錢（送料四錢）

三省堂編輯所編 ◇新發賣◇ 模範國漢文辭典 附・外來新語解 四六判 レザー裝 普及版 九十五錢（送料十四錢）

三省堂編輯所編 ◇新版◇ 常用漢字新辭典 文部省國語調査會新査定 ポケット版 定價二十錢（送料二錢）

文學博士 宇野哲人先生編・全國指定辭書・ 新漢和大字典 四六判・レザー裝一九〇〇頁 特價二圓五十錢（送料二十二錢） 漢和辭典として完璧の稱ある本書は、今や全國的に大歡迎を受けてゐる。新學年の座右に必ず一册備へ給へ。

文學博士 金澤庄三郎先生編 新四六判 レザクロス裝

廣辭林（くわうじりん）

特價提供 短期 三月十日より五月十日まで 三圓三十錢（送料二十二錢）

本書は辭林界の最高權威書として長年學界の信用を博し來れるもの。學者、學生の机上に必備の寶典!!

帝大教授・文學博士

藤岡勝二著

EJD

大英和辭典

全二冊

一世の翹望を擔ふ、燦たり國家的大業

佛のルース、獨のランゲンシャイトを以て任じ、創業以來、大小數十種の各國語辭典を刊行して、「辭書は大倉」の聲譽を博し來れる我等は、今亦茲に、藤岡博士主宰の下に帝大言語學科出身の俊才を網羅し、巨資を投じ全力を傾け拮据經營前後三十年を閲せる「大英和辭典」を刊行し得た事を光榮とする。

本書は、その收載語數三十五萬、即ち普通一般語・專門學術語・新語・古語・故事・成句・熟語・外來語・略語・等、凡そ英語の範圍に入る語の一切を蒐集して完全を期し、紙數また三千八百に及ぶ未曾有の大辭典である。

學生・實務家の模範的師友、學者・教員・研究者の標準的伴侶として、又、諸官衙・學校・圖書館・銀行・會社・商店・團體・倶樂部・等の絶對必須の顧問として、本書こそ永劫永滅の寶典である。是非一部を備へ給へ！

四六判函入洋布裝挿圖一千七百餘

特價拾圓

一卷・四五〇　二卷・五五〇

送料各冊三十三錢（定價十四圓）

東京日本橋　大倉書店

振替東京二二八

内容見本贈呈

★文化の象徴・大倉の辭書★

落合直文著・芳賀博士改修

日本大辭典　改修言泉　全六卷

普及版各六・五〇　豪華版各一一・〇〇

四博士監修・織田得能著

補訂　佛教大辭典

縮版一七・〇〇　大版三〇・〇〇

芳賀博士著・藤村博士改修

改修　新式辭典

特價三・〇〇　郵税・三三

岩本梓石・宮澤朱明共著

增訂　新撰俳諧辭典

特價四・八〇　郵税・三三

大倉書店編輯所編

新譯　英和辭典

特價一・五〇　郵税・一四

登張信一郎著

新式　獨和大辭典　普及版

特價三・八〇　郵税・三三

登張信一郎著

新譯　獨和辭典

特價二・八〇　郵税・一五

八杉教授・鈴木教授・松本圭亮共譯

新譯　露和大辭典

特價六・五〇　郵税・三三

野村泰亨著

增訂　新佛和辭典

特價二・八〇　郵税・二一

松井教授・上田教授共著

新和佛辭典

特價二八〇　郵税・二一

東京日本橋　大倉書店

振替東京二三八

（各辭典の内容見本進呈）

最近十年間に於ける思想關係出版物總攬

附 思想團体要攬

内務省囑託 法學士 野間忠藏序
内務省警保局圖書課 安田新榮 石倉俊雄 編

四六版・四二〇頁 布裝・函入

定價一圓八十錢 送料十四錢

最新刊

内務省圖書課に於ては、全國出版物を通じて思想の動搖、世相の推移を知ると共に社會動態調査の根幹を把握することが容易に出來るのである。本書は、全國無數の出版物の中から時代と社會との波に滲み出でたる諸思潮を鳥瞰して社會問題研究者の便益に資すると共に、社會情勢の正しき常識に備へんがために編纂せられたるものである。

類を政治、法律、經濟、社會、哲學の五部門に分ち、五十音書者名別及び發行年月順に整理配列して、容易に檢出し得る樣意を用ひ、簡にして明且つ正確なる資料を基としてゐる點は、絶對に他の追從を許さぬものである。眞に本總攬は唯一無二の思想著書索引たるばかりでなく、一面思想百科全書を兼ねたるものゝ必備の寶典であらう。

京都帝國大學司書 天野敬太郎編

法政・社會・經濟 論文總覽

正篇 四六判・千三百五十七頁 定價五・八〇
追篇 四六判・五百七十七頁 定價四・〇〇

東京・聖橋・神田通 刀江書院 振替東京七三三一 電話神田一一七二 八一一八 九

廣一〇

昆蟲研究の至寶

理學博士 農學博士 松村松年著

日本昆蟲大圖鑑

菊判・背革總布裝 天金・原色刷十葉 本文千五百頁 索引二百餘頁

定價十八圓 特價十五圓（送料五十七錢）

本書の優越的特色

〔一〕約六千餘種の標本は、著者四十年間苦心採集の總決算とも稱すべきもので、これを集大成して人生に最も利害あり興味ある昆蟲の知識を學的正確を失はない範圍に於いて而も通俗平易簡潔を旨とした一大昆蟲全書である。

〔二〕本書が特に誇るべき點は、その記述並に編纂が一人の指揮に依つて大成したといふ事である。從つて圖版及び解説に完全な統一整備が期せられ、この種圖鑑としての使命を最も善く果してゐる。

〔三〕合計六千七百餘個に達する圖版は何れも著者監督の下に描寫し、これを精巧な寫眞版としたもので、前後三十年に亘る努力の蓄積であり、結晶である。

〔四〕本書の解説は最新分類學に基く極めて秩序整然たるもので學名・和名・異名を列記し、形態特徴・分布區域・昆蟲の雌・雄別・食餌・出現期・蕃殖期・人生との利害關係に就いて記載は懇切を極めてゐる。

〔五〕解説は、目、科以外を全部アルファベット順に配列記錄し、屬名にて知る能はざるものは種名にて知り得るやう、卷末に本書獨特の「檢出索引」を附してある。故に本圖鑑は日本昆蟲に對する至便なる一大辭典である。

〔六〕一國の全領土に蕃殖する全昆蟲の最大多數を一書に網羅圖解したる如きは、未だ世界にも比類を見ざるところの壯觀であつて、正に現代日本昆蟲學に於ける一大資料室の公開とも稱すべきである。

東京・聖橋・神田通 刀江書院 振替東京七三三一 電話神田一一七二 八一一八 九

廣一一

◉東京女子高等師範學校・日本女子大學校教授◉

◇近藤耕藏著◇

日用物理學講義

全貳冊　菊版　總布上製
定價　各　金參圓五拾錢
郵稅　各　金拾四錢

本書の特色　日常生活を基調として、あらゆる物理現象を理論的に、明確にしかも平易に解說した事である。

本書の價値　文檢受驗者にとつて、參考書の選擇は成・不成の鍵であるが本書の如きは參考書として絕對的價値ありと云つても過言ではない。

家事科學研究者にとつても極めて適切な參考書である。又小學校・中學校・女學校・師範學校・實業學校等に於ける物理學教授上の參考書として必要な事は多言を要せざる所である。

日用化學講義

全壹冊　菊版　總布上製
定價　金參圓八拾錢
郵稅　金拾四錢

久しく絕版であつた本書は、入念の改訂正に成つて內容外觀共に全く一新して、玆に再び江湖に見ゆるに至りました。

本書の內容については、既に定評のあつた「日用化學講義」に著者近藤耕藏先生が數年かゝつて訂正を加へられたと申すだけで、世は既に肯いて下さる事と思ひます、

全國の小學校・實業學校・高等女學校の高等科・專攻科・補習科に於て、化學を敎へる人若しくは學ぶ人、家事科を學ぶ人、若しくは敎へる人並に家事及理科の文檢準備をなさる方々に謹んで本書をお薦め致します。

東京市神田區通神保町六番地　光風館書店　振替東京三二七番　電話神田三〇八七番

文部省圖書監修官　和田信二郎著

君が代と萬歲

裝幀　菊版總布上製
頁數　總頁數三五六頁
定價　金壹圓八拾錢
送料　金拾四錢

教育界待望の良書

一、本書は小學校を初め諸種の中等學校及圖書館には缺くべからざる良書である。諸學校に於ける實際教育者は勿論社會教育講演者諸士にとつても必讀の好參考書である。

一、國歌「君が代」の研究はまだ完備の域に達してはゐないが、宮內省、海軍省、陸軍省等に所藏せられる當時の文書に據つて詳密なる研究調査を重ねた。

一、本書の叙述は平易ではあるが、其の研究態度は通俗に陷らず飽迄も學術的良心に據り典據は總べて之を明示し、研究論斷の態度を明かにし、同時に研究者のために根本資料を提供して餘すところがない。

一、本書は諸家珍藏の「君が代」の出典を網羅し、寫眞版を以て一々之を示し、又作歌作曲に就いての研究に於ては從來不明であつた作曲完成の日を確め、同時に文部省の國歌資料として作られ未發表の明治頃四篇の內今回その一篇を發見したるは一大收穫である。

一、「萬歲」の研究では、その起原を詳述し海軍に於ける祝聲の沿革を述べ、尙二重橋の意義に就いても意見を發表してゐる。

東京市神田區通神保町六番地　光風館書店　振替東京三二七番　電話神田三〇八七番

◇學藝會の御準備に絶好書◇

小松耕輔先生・梁田貞先生・葛原茵先生共著

新作 昭和幼年唱歌

伴奏附樂譜四輯迄出來・定價各四十錢・送料各二錢

梁田貞歌曲集　梁田貞先生曲　五輯迄價各、五〇

小松耕輔歌曲集　小松耕輔先生曲　三輯迄價各、五〇

遊戯のついた　子供の唱歌集　梁田・奥野先生共著　價一、〇〇送、一二

唱歌遊戯　戸倉ハル先生著　價一、四〇送、一二

子供のための　ピアノ小曲集　梁田貞先生著　價一、五〇送、二

童謡新曲　一、なくした鉛筆　二、お月さんと遊ぼう　三、お山は赤い　小松・西條・葛原・小林　價一、二〇送、一二

文部省認定　小學歌曲選集　小松・梁田・葛原共著　價一、二〇各、一二

大正幼年唱歌合本　小松・梁田・葛原共著　價二、五〇送、一二

大正少年唱歌合本　小松・梁田・葛原共著　價二、五〇送、一二

小松耕輔先生・梁田貞先生・葛原茵先生共著

新作 昭和少年唱歌

伴奏附樂譜四輯迄出來・定價各四十錢・送料各二錢

東京市神田區三河臺町三丁目　目黒書店發行　振替口座東京第八二〇九番

二目黒書店の五大雜誌二

月刊

學習研究

奈良女子高等師範附屬小學校學習研究會編輯

一冊、四〇　六冊二、八〇〇　一二冊五、六〇〇　税〇、〇二（税共）（增刊號共）（税共）（增刊號共）

道德教育

東京文理科大學內道德教育協會編輯

一冊、三五　六冊二、〇〇　一二冊四、〇〇　税〇、〇四

年四回

教育思潮研究

東京帝國大學文學部教育學研究室編輯

會員募集。年五、五〇（税共）

價各一、五〇　税、一二

年四回

精神科學

廣島文理科大學精神科學會編輯

各冊、八〇　送料各、〇六

會員年三、〇〇（税共）

月刊

體育と競技

東京高等師範學校大日本體育學會編輯

一冊、四〇　六冊二、四〇〇　一二冊四、八〇〇　税、〇一五（税共）（税共）

圖書報知　學泉　贈呈

東京市神田區三河臺町三丁目　目黒書店發行　振替東京二八九〇

出版年鑑

昭和七年出版界展望

（昭和八年版）

社會の反映であるところの出版界、即ち昭和七年度に於ける出版界は、如何なる狀況であつたか、玆に統計を標準として大略を述べやう。要するに昭和七年の出版界は、其の發行種數の量に於ては好況時代の其れと殆んど大差なきも、質に於ては全集もの、エロ、グロものは殆んど下向きとなり、之に代るに人間生活、社會生活、國家生活に關する出版物の多數に發行されたことゝ、尙一つは宗教物の激增とに注意すべきである。これは生んが爲めの現はれとも云ふべきである。

單行本は、こゝ數年來は大體一ケ月平均千九百種の發行數である一年を通じて最も多く發行される月は、四月、五月、十一月、十二月の四ケ月で、各二千種と突破して居る。最少の月は、一月、七月八月の三ケ月で、各千五百種の發行數である。七年後の月別發行統計を示せば左の如くである。

一月	一、四三六種	二月	一、六九一種
三月	一、八五九種	四月	一、八四九種
五月	一、九六五種	六月	一、八六〇種
七月	一、五四八種	八月	一、六四一種
九月	二、〇〇三種	十月	二、〇八〇種
十一月	二、二六八種	十二月	二、〇四四種

昭和七年の出版物數は合計實に二萬二千百四種であつた。その十二月分を六年の十二月に對比するときは四五の增加であり、七年度の總計を六年度と對比するときは六の減少を來して居る。

次に形態的に類別して統計を示せば左の如くである。

左表の單行本とは普通云ふ書物の云ひであつて、總數六割五分を占めて居る。特に注意すべきはビラの發行が近時著しく增加し、今後ます〳〵增加する傾向がある、內容は思想宣傳ものや勞働爭議に

陸軍士官學校教授
田島清講述
趣味の
佛蘭西語講習錄

著者は佛語教育に多年の經驗を有し、尙數年間巴里に生活して、佛蘭西語の機微と要領を熟知され、その豐富な經驗と異常な熱心を以て編纂せられた本書は、平面的な講義を巧に生かし、初步から興味深く、途中倦怠もなく、容易に習得せしめるやう周到な用意と纖細な注意が全卷を貫いてゐる。

全六卷・三ヶ月完了　內容見本呈
分拂（一冊）金五十錢
一時拂（六冊）金二圓八十錢
送料（一冊につき）四錢

模範佛和大辭典 增補版
專門十大家共編
定價九圓
送料三十三錢

標準佛和辭典
山本直文編
定價二圓
送料十五錢

新佛和小辭典
佛蘭西文學會編
定價二圓八十錢
送料十五錢

唯一の
初中級佛蘭西語雜誌
すんらふ
斯界の權威者のみによつて編まれてゐる本誌は、語學雜誌の通弊を悉く脫して豐かな趣味談笑の間によくフランス語の眞髓に徹し得るやう、あらゆる方面から指導誘掖する語學研究の無二の好伴侶である
月刊
定價三十錢・送料一錢
一ケ年　三圓三十錢
半ケ年　一圓七十錢

東京神田區駿河臺下
振替東京一一九二二
電話神田三五八九
白水社
圖書目錄
月報進呈

白水社和佛辭典
丸山順太郎編
定價三圓八十錢
送料二十一錢

新佛和交語辭典
德尾俊彥編
定價二圓八十錢
送料十五錢

佛蘭西語本規則詞逆引辭典
野口洪基編
定價二圓五十錢
送料十五錢

談佛和兵語辭典
J・ルノンドオ編
定價二圓八十錢
送料十五錢

種別＼月別	單行本	リーフレット ペンフレット	ビラ	寫眞、玩具類 地圖、樂譜、圖畫	合計
一月	842	402	69	123	1.436
二、三月	1.046	457	73	115	1.691
三月	1.245	370	64	180	1.859
四月	1.160	482	41	166	1.849
五月	1.175	615	34	141	1.965
六月	1.134	546	58	122	1.860
七月	944	457	41	106	1.548
八月	1.148	336	49	108	1.641
九月	1.377	441	67	118	2.003
十月	1.345	456	58	221	2.080
十一月	1.494	476	48	110	2.128
十二月	1.332	485	44	183	2.044
合計	14.242	5.523	646	1.693	22.104

關する宣傳文書などが多數を占める。このビラは第一に經濟的に安價に、而も簡單に印刷が出來る爲めに、今後は一層一般に利用される可能性がある。故に當局でも、思想宣傳、其の他激文などの類は嚴重に取締るべきを以て特に注意すべきである。

寫眞は高貴のお方のが多い。地圖は七年十月大東京市實施以來、大東京地圖の類が激增した。

次に七年度に發行された單行本を種類別にし、それを六年度と比較すれば左表の如くである。(○印は增加)

種目	昭和七年	昭和六年
教育	二、三二四	二、四八二
○文學	二、二七二	二、二三九
教科書	二、一二三	二、一三九
○社會	一、三二一	一、二七九
宗教	一、〇二三	一、四〇二
音樂	一、〇〇九	一、一六九
○經濟	九二六	九一四
○語學	八一三	七八〇
美術	七一二	八一七
地誌	七四一	七六九
醫學	六九五	七〇三
家庭	六七二	七八五
○政治	六四一	五一八
法律	五七四	五八〇
哲學	五四八	五五六
娯樂	四六三	五八三
○理學	四六一	四二三
○歷史	四二一	三〇九
產業	三八四	四七三
工學	三七三	五七四
○傳記	二八四	二一五
○兵事	一六二	一二七
○辭書	一三八	一三七
○統計	一一七	一二四
數學	八〇	一一〇
技藝	六四	八六
交通	四五	八〇
紀行	三九	八四
叢書	二六	二四
評論	八	二六
雜	二、五一〇	二、五七七
	三、一一〇	三、一〇四

種類別に依る統計の結果、發行數の第一位は「文學」書の二、二七二種であり、最下位は「評論」書の八である。(雜書は之を除外する)。而して單行本全體を通じて其の動向を概觀すれば、數年來急激な增加率を以て發行された社會、經濟問題に關するものは、七年度に於ては例年の如き增加を示さゞるに反し政治問題に關するものが七年度に於ては非常に增加率を示した。

	七年度	六年度
社會	一三二一種	一二七九種
政治	六四一種	五一八種
經濟	九二六種	九一四種

この結果は何うであるか、滿洲問題も年末は軍事行動が中止せられ外交問題として國際聯盟の俎上にあるを以て、日支紛爭問題は世界注視の焦點となつて居る。從つて我國民の關心も本問題に向けられ、殊にリットン報告書の公表さるゝや、之に關する紹介、批判、或は攻擊的のものなどが盛んに發行された。又、時局の重大、非常時など叫ばるゝ折柄、これに關する論評、研究、對策などの單行本が非常に多く刊行された。殊にファッシズム運動が新聞紙上に於て盛んに論評さるゝや、出版界も俄然ファッシズム運動に關する單行本が續出し、之と同時に右翼的の思想物も頓に活況を呈して來た。ファッシズム運動に關する出版物及び右翼的出版物は七年度の特殊

性とも觀察される。それから宗教書がこゝ二三年急激に增加した事も注目に價する。世が不景氣になれば宗教に關する、出版物が多く發行される。これは單行本のみならず、月刊雜誌も然りである。苦しい時の神だのみで、人間の本心を暴露したものであらうか。

軍事及び外交に關する圖書も七年度は六年度に比較して稍々增加して居る、これは時局の反映である。

要するに、昭和七年度の出版界は前述の如く、人間生活、社會生活、國家生活に緊要なる關係あるものを內容としたものが多く發行せられた。七年當初に於ては經濟社會物の圖書は比較的少數であつたが、下半期になつて次第に增加の傾向を示した。

	一月	二月	三月	九月	十月	十一月
經濟	六九	七九	四六	七九	八六	八三
社會	九五	一〇二	九七	一三五	一三二	一二七

昭和七年度發行の圖書の發行地を府縣別にすれば、先づ第一位は東京市で、全國發行數の六割以上を占めて居る。次で大阪府であるが、東京に比較すると問題にならぬ發行數である。以下京都府、愛知縣、福岡縣の順になるが、最下位は沖繩縣で、一月二月五月八月は單に一冊づゝ、九月十月十一月は二冊づゝ、三月四月六月七月は零である。

最後に二萬二千餘の圖書が當局の嚴重なる檢閲の關內を如何なる記錄を殘して通過して居るかと云ふに、圖書に於ても新聞紙と同樣に、風俗物の行政處分は少なく、之に反して安寧物の行政處分は驚くべき數字を示して發賣禁止の憂目を蒙つて居る。これも世相の反映の結果と見るべく、深刻なる不況と共に、內外情勢の急迫につれ、險惡なる思想の發表など盛んに出版された。その禁止された兩者の比率を統計的に示せば左の如くである。

一月　安寧一二　風俗一
二月　同　二二　同　一
三月　同　一七　同　一
十月　同　四　同　一
十一月　同　九　同　一

大略右の如き割合であつて、總じて七年度に於ては六年度に比し、安寧、風俗共に禁止處分數が增加して居る。

次に新聞紙、これは新聞紙法に依つて發行する雜誌も含むのである、七年十一月末現在で一〇、九六〇の發行數を示し、六年の同月に比較すると五七九の增加である。七年末よりのインフレ景氣も多分に反響せるものか漸次增加の傾向がある。一〇、九六〇の內、有保證金が六、七六一種で、前年同月に比較し七五の增加であり、無保證金は四、六九七で、前年同月に比較して五〇四の增加である。特に無保證金の月三回以下發行のものが前年同月に比較して三一四の增加を示して、七年十一月現在の無保證金新聞紙は月三回以下のもの四、〇六五である。これは種々なる原因にも依るならんが當局が出版法第二條第二項の學術雜誌に關する規定を嚴格に適用せる結果、雜誌の內容が學術、技藝廣告、統計に關するものは無保證金新聞法に依らしめたものと推定される。

次に新聞紙雜誌が當局の檢閲を如何なる統計を殘してパスして居るか。七年度に於ける行政處分は安寧六に對する風俗一の割合で、發賣禁止及び注意處分を受けて居る。風俗物は七年以前と比較して著しく減少して居る。これは世相の險惡を示したものである。七年度に於て行政處分を受けたものゝ內安寧と風俗とを比較すれば左の如くである。

學術雜誌に就て

	安寧	風俗		安寧	風俗
一月	五七	一	十月	七	一
二月	三四	一	十一月	一三	一

右の表に依ると、七年一月二月に於ては安寧ものゝ行政處分を受けたもの多數で、これは不況の急迫と共に人心の荒廢、思想の惡化せるを如實に示した數字である。而して三月以後漸次安寧ものは減少し、反對に風俗ものが次第に增加を來し、十月十一月の統計に依れば一月二月に比較して問題にならぬ程の差を示して居る。卽ち七年末よりのインフレ景氣が社會に反響し幾分景氣も引立ちたる氣配である。

近年急速の文的の進歩、科學の發達は機械文的の長速の發展と共に出版界は今や文字の洪水とも云ふべき時代を出現せしめた。全く現代人にとつては文字の恐怖時代である。また一面之は教育の普遍化の叫ばれる今日之を促進するの最大の意義を有する事は勿論であり大いに喜ぶべき傾向である。即ち各種統計に計上せらるゝ如く新聞紙と稱せらるゝもの全國各府縣に亘り約一萬種を越へ雜誌また然り單行本一年間に約二〇、〇〇〇種と云ふが如き多數出版せらるゝの狀態にあり、年々歳々益々著しく增加するの傾向を有するのである。

出版界の傾向を見るに出版物程如實に時代相を反映するもの無きの感を深くする程時々刻々世相の流れと共に著しく移り變り行きつゝあるのである。古代の文獻を繙き其の各時代の世相、風俗、文物の狀態を洞察し得るが如き故あるに就である。

此處には出版界の一部たる各種學術雜誌に就てのみ少し書く事とする。

學術雜誌と云ふのは出版法第二條但書に所謂專ら學術、技藝、統計、廣告の類を記載する雜誌の謂である。從つて重要なる雜誌であつても一般時事を內容とするものには言及せぬ。

此の學術雜誌も現在に於ては約一萬種の多きを算する程多數發行せられて居る。而して一日平均約二十種創刊發刊せらるゝの現狀である。以下順次各種類別に述べる

一、學術に關する各種雜誌

此の種雜誌は所謂學術雜誌總數の約六分の二を占めて居り學術雜誌の中心をなすものである。

先づ法律に關する雜誌に就て云へば種類數は割に少く十年一日の如く現狀維持の程度で增加の傾向は非常に少い。然し內容たるや充實せるもの多く大部分日刊ものである。

哲學、評論に關する雜誌は少數ではあるが社會及び思想の複雜化に從ひ幾分增加するの傾きあり。最近「唯物論」「唯物論研究」の如き發刊せらる。

產業、統計に關する雜誌は相當多數發行せられてゐる。此の產業に關するものは農業、工業、商業を

含むものである。

農業雜誌は各縣の農會報及び各自治團體としての農會報を主としてゐる。特殊のものとしては養蠶、養鷄、養兎、養蜂に關するもので農村救濟の副業として大いに研究せられ今後も此の種雜誌は增加する傾向がある。

工業雜誌は科學、各種工業の發達に伴ひ著しく增加の道を辿りつゝある。專門學校、大學にて發行するものも多數ある。近時出版せられるものには金屬に關するもの、セメント工業、機械工業、建築、電氣に關するもの等がある。建築雜誌としては「Der Bau」「The Racticol Civil Engineering」の如き英語を參照したる小型のもの出版せらる。それから文化住宅に關するもの發行せらるゝに至つた。また電氣雜誌としてはラヂオの普及に伴ひラヂオに關するもの至つて多くある。

宗教に關する雜誌も多數發行せらる。其の三分の二は基督教のものが占めてゐる。而して東京、横濱神戸、長崎地方より大多數發行せられてゐて、益々增加の傾向にある。佛數に關するものは多くは修養雜誌で禪に關係してゐる。

教育に關する雜誌としては兒童教育に關するものが頗る多い。其の中でも「學習指導」「教材王國」「尋一の教育—高二の教育」の如き代表的のものにして各學年に亘り一冊宛學年別に發行しつゝある。教育の普遍化と第二國民の養成に資せんが爲めに時々此の種雜誌發行せらる。特殊のものとしては聾唖教育に關するもの少數發行せられてゐる。

次に語學雜誌は英、獨、佛、露、支語等があり、相當數多く發行せらるゝも英語に關するもの最も多く、獨語之に次ぐ。エスペラント語のものも相當ある。英語が我が國中等學校の必須科目として課せられてゐる以上此の種雜誌中英語に關するもの多きは當然である。

近年の傾向として最も著しき增加の傾向を示すものは國際語としてのエスペラント語であらう。交通機關の發達と世界文明の進步は世界をより時間的にまた距離上狹少にし世界各國の關係は相互に相接近するに及び各種交涉上世界語國際語の必要に迫らるゝに至りエス

ペラント語の渤興を見る樣になつたのである。都會地方は申すに及ばず、內容としては貧弱乍らも地方の寒村あたりからも時々エスペラント語雜誌が出版せられてゐるのは注目すべきである。それからもう一つは支那語に關するものが出初めつゝある。此の種雜誌に於ても時代の要求に應じ時代の反映現象がうかゞはれるのである。次にローマ字に關するものも少數あり、各地のローマ字會より出版せらる。それから日本の假名文字の統一使用の高く叫ばれてゐる今日各地に散在するカナモジ會よりパンフレツト型のもの（雜誌の表紙より奥付に至る迄假名文字のみ使用せる）が少數發行せられてゐる。歷史に關するものも數多發行されつゝある。多く述べる程の事なきも近來の傾向に就て云へば數年前迄は考古學研究的のものが多くあつたが近年民俗學研究熱の高まるに從ひ之に關するもの次第に多く發行せられて其の位置を代へるに至つた事である。民俗學と云ふのは各地に現在迄傳承せられてゐる傳說、民間傳承、祭事、各種風習等を研究するもので鄕土研究と稱せられるものである。世界の列强に伍して冠たる我國民性、民族性の根元を究めんとする一運動である。中國の廣島、東北の仙臺、佐渡等鄕土研究盛に行はる。各地農村の鄕土玩具に關するもの、また各地方の方言の研究等實に著しい增加振りである。

地理に關する雜誌に就ては大した增減はない。

醫學雜誌は全國三百種位出版せられてゐる。醫學の進展、醫學校の增設に伴ひ時々發刊せらる。帝國大學を始め各醫學專門學校より發行せるものが其の中心を爲してゐる。近年漢法醫學の研究熾烈となるに及び此の種雜誌は增加せられつゝある。最近藥草に關するもの

二、三出版せらる。

美術音樂に關する雜誌は近代人の趣味向上と、之等のものが智的生活に無くてはならないものとなつた結果勢ひ此の種雜誌の增加は必然の事である。然し美術雜誌は印刷の困難、費用の高價等の爲め數としては少數である。大判型の獨立美術最近發行せらる。音樂雜誌はレコード鑑賞に關するものが多い。

技藝雜誌としては生花、茶道に關するものが多數を占め、生花雜誌は最も多くある。そして主として生花に關するもの時々發刊せられてゐる。

二、文學に關する雜誌

文學雜誌は主として同人雜誌の形成のもので上述の學術雜誌と略々對立して此の種雜誌の總數の六分の二を占める多數發行せられ同樣學術雜誌の中心をなしてゐる。一般に云ふ雜誌の典型的のものである。天地自然、人間生活の存する限り物皆文學の對象ならざるものなく、五官を通じて心の琴線に觸れて止まる事なき自然の移り變りは今後限りなく幾多の文學を作り出す事であらう。此の種雜誌は思想、時代相の極まりなき變轉と共に時々刻々目まぐるしい迄に移り變り增加しつゝある。文學雜誌中では詩歌雜誌最も多數に全國津々浦々迄分布の狀態にあり、創作的小說文學之に次いでゐる。詩歌雜誌では短歌と俳句が大多數で川柳雜誌は極く少數である。最近の傾向は進步的小說文學は月刊の形式に依らず年四季（クオータリー）の形式により、體裁は單行本に近きもの發行せられつゝある。

三、其の他の雜誌

先づ映畫、演劇雜誌がある。數的に見て多數發行せられてゐるとは見られないが少數なりと雖も內容的には充實したものが多い。近代人の朗らかな生活の重要なる要素となつた映畫演劇雜誌は益々增加の傾向がある。映畫雜誌としては大判型の「キネマ旬報」「映畫之友」があり、普通雜誌型としては「キネマ」「大松竹」「松竹」「大日活」「日活」「蒲田」「新興キネマ」「キネマ王國」がある。「新興キネマ」は最近發行せられたのである。寫眞專門雜誌としては「Close Up」「Screen Pictorial」があり共に最近の發行にかゝるものがある。演劇雜誌は從來演劇專門雜誌としては極く少いものであつたが近來「藝術殿」「舞臺」「劇作」「演劇新論」と云ふが如き續々發行せられ相當賑かさを加へるに至つたのである。

次に著るしき增加を示すものにスポーツ雜誌がある。先づ健康のモツトーの下に、またオリムピツ

クの素晴らしい活躍にスポーツ黄金時代を招來し此の種雜誌は增加しつゝある。細く述ぶれば際限のない事であるから以上で大體雜誌界の一展望と見る事が出來よう。特に付け加へて述べたい事は昨今出版界の顯著なる隆盛に伴ひ書物に關する雜誌の增加である。「書物展望」「書物趣味」「書誌學」の如き共に最近の發行にかゝる。書物展望は古書、絕版書の各種紹介に務め、書物趣味は各書物の裝幀技術等の研究に意を注ぐ面白い趣味雜誌として活躍してゐる。書誌學は八年一月創刊號を發行したばかりである。

また童踊舞踊の研究の擡頭は雜誌に影響し時々發刊せられつゝある。一般舞踊に關しては八年一月に唯一の「舞踊評論」なる雜誌が生れ出づる樣になつたのである。終りに現在の雜誌の思想的傾向は此處にも社會の動向を如實に反映し從前の左翼的のものより右翼的のものが續々發刊せられつゝある

出版界一年史

一月

六年度の納本總數

內務省警保局の調査に依る昭和六年度の納本統計は總計二萬三千百十種を算へ、これを五年度の二萬二千四百六十七種に比較すれば六百三十四種を增し、四年度より千九百九十九種を增してゐる、最も多いのは依然教育書で前年より九十三種を增し、次が文學であるこれは前年より四百三十二種を減じてゐる、第三位の教科書は六百十二種增し、第四位社會、第五位音樂、第六位宗教の順となつて何れも千臺に上り前年より多少の增加を見せてゐるが、前年音樂より下位にあつた社會關係書が二百七十六種を增して第四位に變つたことは世相の現れであらう。

類別六年度累計　五年度累計

政治	五八	四五四	法律	五八〇	四八八
經濟	九一四	九〇七	社會	一、二七九	一、〇五三
統計	一二四	七五	評論	二八	一七
神書	二五一	二九	宗教	一、一五三	一、〇三八
哲學	五六六	四五五	教育	二、四八二	二、三八九
教科書	二、一二九	一、五二七	文學	二、二二九	二、六六一
語學	七八〇	七八八	歷史	三〇九	三三七
傳記	二二五	二五八	地誌	七六九	七八七
紀行	八四	七二	數學	二一〇	二一七
理學	四三三	四三四	工學	五七四	四三七
醫學	七〇三	七三一	產業	四七三	二五三
交通	八〇	四四	兵事	二二七	一四四
美術	八一七	六七〇	音樂	一、一六九	一、一三〇
技藝	八六	八〇	辭書	一二七	八九
叢書	二四	八八	家庭	七六五	七七二
娛樂	五八三	七七〇	雜	二、五一〇	三、二〇一
合計	二三、一一〇	二三、四七六			

これを種類別に見ると

單行本	二三、七六九	
リーフレット	七、四二二	
パンフレット	一、〇三七	
ビラ	一、八九二	
寫眞玩具地圖樂譜圖書	二三、一一〇	
合計		

となつて居り單行本は約五割五分强の割合を占めてゐる。

書籍雜誌の輸入統計

◇英書が過半數を占む—横濱稅關で取扱ふ輸入書籍雜誌の概數は一ケ年約百萬冊と見て差支へないであらう。昭和六年の統計は横濱本關扱八五二、〇〇三冊、東京支所扱二一七、三二一冊、合計一、〇六九、三二四冊であつた。この數字は丸善その他の輸入書は勿論、小包或は託送、旅客携帶、引越貨物に至るまで含まれてゐる事勿論である。總數一、〇六九、三二四冊中八五パーセント卽ち九一八、五五〇冊が書籍、次いで約一パーセント卽ち一二六、六四九冊が雜誌、殘りはパンフンツト、

が現狀である。國難來るの非常時皇民運動の影響であらう。（政治、經濟、社會、評論雜誌及娛樂大衆雜誌の傾向に付ては多くは新聞紙法によるもの故別の機會に讓る。）

新聞其他一切を合計しても二四、一二五部に過ぎない。一方國語別で分類して見ると英書が五四八、三二九冊で過半數を占め以下獨、佛、露、支の順となつてゐる。

◇スポーツ研究書激增—書籍の內容別は醫學、工學、土木、電氣經濟等各方面の學術書が大部分で文學書が僅か二割に過ぎぬのは意外ではあるが、オリンピツクを控えて一九三一年以來ゴルフ、テニス、スキー其他のスポーツ研究書が急激に廣汎な地歩を占めて來たのは國內のスポーツ熱の反映である、他方一九三二年に入つて現れた現象としてアメリカ物のロシヤ研究書が目立つて來た "God of the Golden" 或は「スターリン研究」等が先鞭をつけたが、マルキシズムは飽かれたなどうはさゝれる米國讀書界がその實一九三一年末以來マルクスものへの再出發に向つてゐることを指示してゐる。

◇輸入禁止は極く僅か—輸入禁止の件數は統計にないが總數の八千分の一程度で我々の想像以下に少ない。風俗取締から見たエロ本三に對して思想方面が二の割合となつてゐる。思想方面の禁止本は主としてマルクスもの、而も殆んど全部が獨逸書である。最近の代表的なものに國際勞働者出版所版「マルキシズムとアンチ・マルキシズム」並に國際反戰研究會版「クリク・デン・クリゲ」がある後者は滿洲事變に災せられ輸入を禁ぜられた。

◇種類別と國別統計　尙統計中に日本書一七七、二八二冊があり英、獨に次ぎ佛よりも高位にあり珍現象を呈してゐるが、これはハワイ、米本土、滿洲其他邦人居住地日本書籍店からの積戻しで勿論變態的現象に過ぎない。統計は左の通りである。

種類	横濱本關	東京支所
總冊數	八五二、〇〇三	二二七、三二一
書籍	七二六、一三八	一九二、四一二
雜誌	一三一、七〇〇	四、九四九
新聞	二、六五五	九
其他	一、五一〇	一九、九五一
國別	横濱本關	東京支所
日	五八、〇一八	一二九、二六四
英	四九〇、四九三	五七、八六三
獨	二二一、二〇四	八、〇一二
佛	五三、五八三	四、八〇一
露	二、七六〇	六三六
支	一七、四四七	六、〇〇六
其他	八、四九五	二、七六六

紙の製造、販賣・輸入統計

日本製紙聯合會調査に成る昭和六年度同會々員富士、王子、樺太工業、三菱、北越、日本紙業、乾日本、西野以上九紙會社の製造販賣高は

製造一、三三〇、五八四、一五一封度に對して

販賣一、三二九、五八四、四四二封度で操短の結果販賣率は九割九分九厘を示し、これを前年度の製造一、三六七、五三四、二九〇封度

販賣一、三四七、一八八、二九九封度

に比較すれば製造では二分七厘を販賣では一分三厘を各々減少してゐるが販賣率に於ては九割八分五厘に對して一分四厘を增した。

輸入高激增　尙紙の六年度總輸入高は一億四千六百三十一萬四千五百八十九封度、一千百七十四萬五千五百十六圓にして前年の夫れは九千八百四十一萬九千八百四十一封度一千七十三萬七百十八圓を算し、卽ち六年分は數量四割八分價格九分四厘を共に增加した。これは印刷用紙の內五十八瓦未滿が三千八百三十萬封度（八割九分增）の大量增加を首位とし、包裝及燐寸紙の七百四十萬封度（二割八分增）模造羊皮紙の三百九十萬封度（五割六分增）で、以下降りて模造日本及チツシューの六十萬封度筆記用紙の三十萬餘封度圖畫用紙の十萬封度、廢紙の二萬封度の增加順序となり其他悉く減少に因る

東京書籍商組合總會

東京書籍商組合の七年定時總會は十日午後二時半から麴町區丸之內東京府商工奬勵館で開かれた。上原副組長議長席に着き一場の挨拶を述べ、次で二百六十三名の七年以上勤續店員表彰式を擧げ、目黑氏から六年度の庶務、並に會計を報告二三の質問があつて承認を得た後、七年度豫算案を可決、次に規約一部の修正案を審議し、昨秋全國聯合會の決定したる東京書籍商組合代表議員七名を十名に改むる規約第二十四條第四項の修正を卽決、それより議長の指名で選擧委員二十名を擧げて同五時閉會直ちに順番に依り評議員の投票に移り七時選擧を終つた。

東京出版協會總會

東京出版協會の七年定時總會は二十三日午前十一時同協會樓上で開催し、本期間の評議員（任期二ケ年）改選を行つた。

中等教科書協會總會

中等教科書協會では二十日午後二時半丸の内東京會館で七年定時總會を開催、今期間の幹事を改選、正副會長は互選の結果會長に坂本氏、副會長に森下氏が重任に決定。

日本雜誌協會總會

日本雜誌協會の七年定時總會は二十日午後三時東京書籍商組合會議室で開催、出席者五十九名、會長實業之日本社長增田義一氏議長となり先づ六年度の庶務報告、次いで會計監督東京堂大野孫平氏から六年度會計を報告し一括承認を求め、巖松堂藤田知治氏から七年度豫算案について質問、異議もなく僅か二十分間で議事を終了し、直ちに評議員（任期二ケ年）の選擧に移つた。それより正副會長を互選したが會長には實業之日本社重任、副會長には新潮社が當選した。

東京雜誌販賣業組合總會

東京雜誌販賣業組合の定時總會は二十四日午後二時から丸の内東京府商工奬勵館で開かれた。先づ七年から初めて實行される勤續店員の第一回百七十七名の表彰式を擧げ、それより六年度の庶務を報告し、會計北隆館石塚隆美氏から六年度決算、七年度豫算案を一括して說明報告可決し四時半議事を終了し幹事の改選を行つた。

大阪書籍雜誌商組合總會

大阪書籍雜誌商組合では七年定時總會を十四日午前十時から府立實業會館で開催、出席者約五百名組合長三木佐助氏議長席に着き先づ恒例の第十二回の勤續店員八十四名の表彰式を擧げて三木議長より昭和六年度の庶務報告を爲し、次いで六年度の會計報告、七年度の豫算案審議に移つたが滿場異議なく可決され、規約修正の審議に入る。田中正二郎氏の說明で一瀉千里に修正案を可決し二時半から評議員の改選に入つたが、今次の規約修正では評議員の被選擧權を滿三年以上營業繼續者に制限することになつた。

京都書籍雜誌商組合總會

京都書籍雜誌商組合では十七日午後二時半から組合昭和圖書館に於て七年定時總會を開催、組長代理須摩勘兵衞氏議長となつて先づ功勞者故西村七兵衞、故木村德太郎、一井利喜藏三氏並に勤續店員三十三名の表彰式を擧げ、六年度庶務並に會計報告、七年度豫算案について承認を求め、それより二三の建議案を審議し最後に七年度の幹事改選を行つた。

凶作地に教科書を寄附

北海道、東北地方の凶作罹災地學童の救濟については貧困學齡兒童就學奬勵費救護法による生活扶助費により教科用圖書學用品等を給與し就學の奬勵をはかつたが、日本書籍株式會社から罹災地方學童救濟の爲め國定教科書約五萬冊の寄附申込みがあつたので、當局では直ちにこれを受けることに決し、該地方學務當局に照會を發して學齡兒童數國定教科書所要冊數を報告せしめ嚴密に調査し四月の新學年に各罹災地方學務當局から學校を經て兒童に配給せしめた。

雜誌運賃發行元負擔の運動

雜誌の運賃は發行元に於て負擔して貰ひたいといふ販賣業者の要望は、廣島縣書籍雜誌商組合から六年七月札幌市に開かれた全國書籍雜誌商大會に提出可決され、越えて十月の地方協會には廣島縣組合と全國同業者大會が共同で提出され、再び滿場の賛成を得て直ちに實行運動に移り、十名の交渉委員を擧げ十月十日京橋萬安樓に都下大取次四社代表者と會見を遂げ一方地方協會から正式交渉を受けた日本雜誌協會では幹事渡邊福三郎氏を委員長に十名の特別委員會を組織し研究せしめ、この運動は着々奏効し具體化するに至つたが十一月に至つて雜誌協會は此の要求に應じ難しと決定した爲め一時の停頓止むなきに至り其後持越されてゐたところ二十日熱海に於て博文館日記の抽籤會が開かれ地方協會幹事の會合の機會があつたので、此の機會に改めて雜誌協會と會見する事になり、二十二日午前十一時から麴町區丸の内東京會館に懇談的會見を遂げた。出席者は

地方協會から會長柏佐一郎氏以下十六氏、雜誌協會から實業之日本社外十八社、合計三十五名、午餐の後先づ會長實業之日本社小倉營業部長から一場の挨拶があつた。

販賣業者各位から御提案の雜誌運賃發行元負擔は至極尤もなことで、七年十月交渉を受けると直ちに研究委員會を設け種々と御意に添ふべく研究したのであつたが、今日の狀態では發行元も決して樂でなく要求に應ずることは出來ない事情にある、併しこの問題は各位と共に將來共研究を續け早晩解決せねばならと思ふ。

と雜誌協會として誠意のあるところを傳へ直ちに討議に入り、發行業者、販賣業者双方から種々意見の開陳があつたが、究極するところは、

雜誌發行業者も現在の如き不況の際直ちに運賃を負擔することは不可能である、販賣業者としても此の要求を爲すことは元より發行業者の立場を充分考慮に入れてゐることであつて、何等の定見もなく運動したものではない。如何にすれば現在より以上に賣上げを增加せしむべきかは絕えず研究努力してゐるところであるが、近來賣行きに反比例して運賃は倍加し利益は益々減少しつゝある。

——先づ運賃發行元負擔を具體化するには、現在より各々が努力し二倍の賣行增加を圖ればよいわけで、これには販賣業者が充分の販賣統制を計り雜誌販賣規程といふべきものでも作り、多少手數は繁雜になるであらうが毎月の雜誌について其の到着數、販賣數、殘本數を統計し、無暗に殘品を殘さぬ樣、その過不足を補つて行つたならば印刷部數に對する賣行部數、返品部數の調節も出來、双方利益するところが多い。故に販賣業者としては今後努めて販賣に努力すると共に充分調節を行ふことにしたい。而して斯る重大問題は決して一朝一夕には決定し難いことであるから、今後双方から具體案を示し合ひ双方の利益する樣研究努力して行きたい。

といふ所に一致し、三時半散會した。

二月

名古屋組合の紛爭事件

名古屋市内に於ける新刊業者と古本業者の反目は六年十一月愛知縣中等教科書販賣協會の設立が動機となつて一層激化され、組合は全く古本業者によつて占領されてしまつたので、新本業者側では收まらず、新組合の設立を計り奔走中であつたが、愈々機熟し川瀨、星野氏等初め十三名は八日上京、聯合會幹事會に對して經過報告を爲すと共に請願書を提出し、中京書籍雜誌商組合設立方の承認を求めた。

雜誌協會の博讀會問題

雜誌販賣業組合、日本雜誌協會等で屢々問題となつた回讀會或は博讀會等の回覽業者は、依然として讀者層に根强い勢力を扶殖しつゝあり、雜誌發行販賣業者はこれが對策として回覽業者の宣傳策の一たる新聞廣告について新聞社と交渉しこの種廣告掲載の遠慮を求めつゝあつたが、一部の新聞社に在つては廣告原稿の不足から雜誌業者の希望を容れず、依然掲載してゐるので、日本雜誌協會では十日の幹事會に於ける決議に基いて十三日付を以て都下の各新聞社廣告部長に宛て「博讀會及び回讀會といふが如き雜誌回覽業者の讀者勸誘の廣告は掲載せざるやう」といふ意味の懇願的通告を發した。

中等教科書の取引規程改正

中等教科書協會では二十六日午後三時協會事務所に定例幹事會を開催取引規程中の返品に關する件について協議を遂げた。即ち議題の中心となつた問題は現行取引規程第四條第一項

返品の取引價格は賣渡價格より定價—臨時定價の場合は臨時定價—の五分引とし返送運賃は販賣業者の負擔とす

であつて、從來出版元が販賣業者から返品を受くる場合、販賣業者は定價の五分を負擔する事になつてゐるが、斯る規定は今日まで適用された例も少く且つ實行不可能であるといふ理由に依つて削除する事に決定した。また取引規程中の返品に關する條項を改正する事になつた。改正された部分は左の通り。

第四條　販賣業者の注文に應じて發送したる教科書は返品を受けざるものとす但し左の事情によるものに限り返品を受くるを妨げず

一、學校の都合に依り俄に教科書を他と變更したる場合

二、同一教科書の新版舊版を誤つて注文したる場合

三、注文後發行者の送荷が甚し

く遲延したる爲にその大部分が不要となりたる場合

右の場合の返品期間は地方は現品到着後三十日以內、市內は現品引渡後一週間以內とし返品運賃は販賣業者の負擔とす。

教科書注文の概數問合せ

師範學校、中學校の教授要目の改正に伴ふ教科書の新版改版は相當多數に上り從つて從來の如く概數の注文の場合は返品の量も嵩むので中等教科書協會では豫て之れが緩和の方法について協議中であつたが、二十二日付書面を以て全國師、中學校長に宛て、需要冊數を豫め通知してくれるやう依賴した。

本年は例年と異り師範、中學の教授要目の改正に伴ひ別して教科書の新版改版多數に上り之れが供給準備については發行者一同少からず焦慮致し居る次第に候へば誠に御手數ながら本年度御校教科書御決定の上は何卒その書名需要冊數等豫め各發行者へ御通報下され候樣御配慮相願ひたくさすれば各發行者に於てもその準備上至大の便益を得從つて供給上の圓滑をも期し得らるべしと存候間くれ〴〵も右事情御賢察下され宜しく御高配の程此の際特に折入つて奉希上候、尙御便宜上一括して本會へ御通知下され候ても苦しからず候へば可然御取計ひ願上候

出版協會通信市會の成績

八日を以て締切られた東京出版協會の十二回通信市會は六年より成績良好で、計算の結果は正味四萬七千百十四圓を擧げ六年に比すると三千三百六十四圓增しといふ出來高であつた。

兵庫縣書籍雜誌商組合總會

兵庫縣書籍雜誌商組合の第二十四回定時總會は十五日午後三時五十分神戶市商工會議所で開會、勤續店員の表彰式を擧げ

一等賞十年勤續九名、二等賞七年勤續十一名、三等賞五年勤續二十三名、四等賞三年勤續六十八名

合計百十一名に對して賞狀を授與し、協議事項を終つて役員選擧を行つた。

業界から出た代議士

二十日施行された第十八回衆議院議員總選擧に當選の榮をかち得た出版關係の衆議院議員は左の諸氏であつた。

▲高橋守平氏（民政）平凡社取締役、埼玉縣第二區、師範學校卒業、當選三回、三十九才。

▲土屋清三郎氏（民政）雜誌「日本之醫界」社經營、千葉縣第三區、獨學、當選四回、五十一才

▲森蟲昶氏（政友）山形製本印刷取締役、千葉縣第三區、當選四回、四十九才。

▲加藤知正氏（政友）南光社社長新潟縣第三區、東京高等蠶糸專門學校卒業、當選四回、六十才

▲增田義一氏（民政）實業之日本社社長、新潟縣第四區、早大卒業、衆議院副議長、當選五回、六十四才。

▲星島二郎氏（政友）元隆文館社長岡山縣第二區、東大卒業、辯護士、當選五回、四十六才。

▲野依秀市氏（政友）實業之世界社長、大分縣第一區、慶大夜學部卒業、大分日日社長、當選一回四十八才。

▲鹽月學氏（政友）第一出版社々長、大分縣第一區、東大卒業、東京市議、當選一回、四十一才。

三月

左右兩思想の取締嚴重

共產黨の潛行運動の深刻化に對し右傾團體のファッショ熱が俄然擡頭し左右兩極の火花を散らす折柄井上、團兩氏の射殺事件などが起り不安を釀しつゝあるので、警視廳では赤、黑兩思想取締を嚴重にすべく協議を重ねた結果、これ等の根源は青年大衆を獲得する思想的維誌、パンフレット、書籍等にあるとして思想指導機關誌に目を光らせることになり、從來單なる行政處分として發賣禁止、差押へ程度の處分に止めてゐたが當局の差押へを脫れる爲め發送した後に納本する方法をとり實質的には何等の痛痒をも感じない有樣で、今後は司法處分として新聞紙法第四十二條の朝憲紊亂に當て嵌め二年以下の禁錮、三百圓以下の罰金を適用する事になつた。この最初の槍玉に擧げられたものはプロレタリア文學で同中央執行委員長文士江口喚氏以下六名は朝憲紊亂として五日一件書類を東京地方檢事局に送られたが、毎月發禁差押へを食ふ左翼物は大衆の友（戰旗の更生）プロ文學、プロ科學、プロ

文化等の雜誌パンフレツトから反戰鬪爭ビラ等七八十件乃至百件に達してゐる。

卸業組合の市會

東京圖書卸業組合では六日午前十時から神田區錦町松本亭で恒例の延市會を開催、有力書店から多數の出品があり不景氣の折柄にも拘らず出來高三萬圓を突破した。

實話で菊池氏訴へらる

文藝春秋の實話が問題となつて同社及び社長菊池寛氏に長崎居留の英人上海市シドニー・ジョセフハルス氏から損害賠償慰籍料一萬圓及び謝罪廣告請求の訴へを七日東京地方裁判所に出された。問題の實話といふのは文藝春六昨年四月特別號に掲載された「退去命令を鼻で笑ふ英人」と題する記事で名こそフユースとなつてゐるが、少し原告を知つてゐる者ならば直ちにそれと氣付かれる書振りで原告が多數の日本娘を弄んだ如く筆を極め原告の名譽を傷けたもので原告はロンドン大學、王立美術學院建築部大學院を卒業した上海有數の技師であるが、この實話の爲めに非常な損害を豪つたといふのである。

「一代男」の佛譯完成す

江戸文學のうちで人情物として名高い井原西鶴の「好色一代男」がフランス人の手によつてフランス語に譯され出版された。譯者はフランス大使館のボンマルシヤン書記官で、約二年に亘る努力の結果遂に「一代男」を一言一句かさず全部を見事飜譯してしまつたがこの飜譯は元祿時代の原本そのまゝの裝釘で紙も無論日本紙、挿繪も昔の物をそのまゝ使ふといふ豪華版で非常に高價な豫約出版である。

圖書館制度の革新

文部省では現行圖書館制度はいづれも時勢の進運に伴はず從つて現在の圖書館はその數少く內容も貧弱であつて一般の利用價値殆んどなきものが多きため、今回社會教育上の重要機關たる圖書館の增設奬勵、內容充實等を計るべく圖書館制度の根本的刷新を行ふ事となり社會教育局に於て立案中であつたが、この程漸くその成案を得るに至つた圖書館改善案の大綱は

一、圖書館の普及
二、圖書館內部の充實
三、圖書館機能增進
四、財政の圓滑
五、圖書館利用の奬勵

等であつて、その眼目は圖書館をして社會教育の中心たらしめんとし、府縣圖書館は必ず設置せしめ又市町村圖書館も出來得る限りこれを設けしめてその職員の待遇も從來あまり低かつた實情を顧みこれが向上も計つて大いに圖書館機能を發揮し社會に向つて積極的に活動せしめる方針となつた。

ゲーテ百年忌紀念文獻展

七年はゲーテの百年忌に當るので各地の各團體ではゲーテ紀念祭を催し文藝思想雜誌も擧つて紀念特輯號を發行してゐるが丸善では十五日から二十五日まで日本橋本店の階上でゲーテの著作物及び彼に關する著作物並に繪畫等約一千點を陳列し紀念文獻展を開催したその中には今日殆んど絕版に近いワイマル版ゲーテ全集百四十三卷揃ひや、プロビレーン版、ウルスタイン版、コツタ版の各種ゲーテ全集、獨逸ゲーテ協會のグーテ年鑑四十三冊揃、その他特に取寄せたゲーテ關係の輸入品が多數出品されてゐた。

四月

極左出版物の橫行

官憲當局の嚴重なる警戒取締りがあるに拘らず都下大學の學生間に各種の左翼出版物が秘密に傳播され、これの影響をうけて學生の左翼へ轉向するもの少からぬ現狀にあるので警視廳特高檢閲係では過般の帝大生檢擧を機會にこの禍根を一掃すべく左翼出版業者の一齊檢擧に當つてゐたが、その結果檢擧の網にかゝつたもの多數あり、印刷所から押收した左翼出版物は四月一日までに三千部に達してゐる。而して購讀者の多い大學は帝大、早大、文理大、明大、法政、日大等で、これ等各大學の學生は學園內の消費組合の手を經て購入しつゝあつたものである。購讀書籍は何れも發賣禁止に處せらるべき種類のものであるが、これ等出版業者は若き學生達の讀書慾が盛んなのを幸ひ儲けの的確なのに惑はされて危險を知りつゝ違反行爲を犯しつゝあつたもので、都

下は勿論各地方及び遠く朝鮮、上海方面とも秘密通信を以て連絡をとり、上海方面に三百部密送された事實まで判明してゐる。尙檢擧した出版業者に對しては出版法違反で處分する事になり檢閲係の淸水警部が主任となつて取調べた。

出版業の滿洲國進出

滿洲國の建設に伴つて宏大な新天地が開け我が內地商品は滿蒙へ滿蒙へと新販路を擴大しつゝあり內地で出版される書籍雜誌も將來非常に期待をかけられるので先づ儲け口は新滿洲國へと業界は一樣に眼を見張つてゐたが、東京出版協會では十二日の四月定例協議員會に於て新たに「滿洲文化に關する調査委員會」を設け、滿洲各地に支店出張所を設け盛んに活躍して川流堂の小林又七氏を長に擧げ七氏を委員に任命、實地調査に當り如何にして商品を賣捌くかを研究せしめる事になつた。

ラヂオ著作權確定

日本放送協會では毎日の放送に使用する脚本、歌詞、歌曲等につき著作權に依る放送使用料を支拂はねばならぬので、文藝家協會、大日本作曲家協會、日本作歌者協會の三團體と個別に交渉を進めた結果、四月下旬契約が成立し、直に之を實行することになつた。改正著作權法は六年八月から實施され、放送に就ても著作權が保護されることになつたので、著作者は放送出演者が協會から放送謝金を受けるのと同樣に使用料を受ける權利が生じたのである。放送協會は當時既に遞信省の認可を濟ませた豫算に右使用料の豫算が計上されて居なかつた爲め、その實行を一般に對し當分猶豫を求め一方種々外國の事例等を研究し、使用料は著作者に個別的に支拂ふべきものだが、金額等に付ては團體的に交渉するを便利とし、先づ前記三協會と契約し、續いて他の各種團體と交渉を進むる事にした。前記三協會との契約の內容は左の如くである。

文藝家協會　會員の文藝的著作物に付ては

一、作詞（譯詞を含む）演奏時間十分以內のもの三圓、二十分以內八圓、二十分以上十七圓。

二、映畫物語、放送映畫劇の原作脚色は自作自演を除き十圓乃至五十圓。

三、舞臺脚本五十圓乃至百圓、但實演中繼は三分の二。

四、其他放送脚本、ラヂオ風景脚本朗讀、小說を脚色したもの、童話劇、童話等に付それ〴〵一定範圍金額を定めた。

作曲家協會　會員の樂曲一曲に付ては

一、五分以內のもの三圓、十分以內六圓、二十分以內十二圓二十分以上廿五圓、但オペラの場合は別に協定する。

二、ラヂオ風景、ラヂオドラマ映畫物語、童話、童話劇、講演、講座の內に樂典（レコードを含む）を放送した場合も同樣。

三、樂曲の一部を放送したる時は半額。

作歌者協會　會員の作詞（譯詞を含む）作歌に對しては

一、十分以內のもの三圓、二十分以內八圓、二十分以上十七圓。

二、童謠、唱歌等の歌を基調とした童話劇、童話は原作に對し五圓乃至十圓。

右の三契約を通じ右金額はJOAK大人の時間に放送の場合で、BKでは其四割、其他の各局では二割と定め、全國中繼でもローカル放送でも差別はない。子供の時間に使用した場合は半額とする。レコード放送に對しては放送プロに豫告した時に限り支拂ふ。契約の期間は四月一日から一年、使用料も四月一日に遡つて支拂ふ。右契約は將來の放送著作權料問題の指針となるものであり、從來はラヂオ風景等で出演者にのみ謝禮を拂へば濟んだものが、今後は其脚本、歌詞、樂曲に對しても一々支拂はれる事になつたので玆に始めて放送著作權は事實上に確立した。

英書展覽會

四月廿日から三十日まで、日本橋丸善で駐日英國大使リンドレー氏後援の下に英國出版協會並に丸善主催の新刊英書展覽會が開かれ、一九三一——二年に於ける主要新刊書二千三百三十九點が、左記五十二軒の出版元から出陳、英國大使を始め內外の名士學者學生等の來觀が頗る多かつた。因に左記五十二の出版元は現代英國の出版界

を代表するものである。

George Allen & Unwin Ltd. 1
Edward Arnold & Co..... 2
G. Bell & Son, Ltd,..... 3
Ernest Benn, Ltd..... 4
A. & C. Black, Ltd. 5
Blackie & Son, Ltd..... 6
Basil Blackwell. 7
Thornton Butterworth' Ltd.... 8
Cambridge University Pres....9
Jonathan Cape Ltd.....10
Cassell & Co., Ltd.....11
W. & R. Chambers, Ltd.....12
Chapman and Hall, Ltd.....13
Chatto and Windus, Ltd.....14
Christophers. 15
Wm. Collins, Son & Co., Ltd. 16
Constable & Co., Ltd.....17
Peter Davies, Ltd. 18
J. M. Dent & Sons, Ltd.....19
Gerald Duckworth & Co., Ltd. 20
Faber & Faber Ltd.....21
George Gill & Sons, Ltd, ...22
Grayson & Grayson Ltd. ...23
The Gregg Publishing Co., Ltd. 24
Hamish Hamilton Ltd. 25
George G. Harrap & Co., Ltd. 26
Wm. Hienemann, Ltd. 27
Hodder and Stoughton, Ltd. 28
The Hogarth Press. 29
Marin Hopkinson Ltd. 30
Gerald Home Ltd. 31
John Lane the Bodley Head Ltd. 32
T. Werner Laurie Ltd. 33
Longmans, Green & Co., Ltd., ...34
Sampson Low, Marston & Co', Ltd.,.....35
McDougall's Educational Co., Ltd. 36
Mancmillan & Co. 37
Elkin Mathewa & Marrot Ltd. 38
The Medici Society Ltd.....36
Methuen & Co., Lid. 40
John Murray.....41
James Nisbet & Co., Ltd. ...42
Oxford University Pcess. ...43
Sir lsaac Pitman & Ssns, Ltd. 44
Religious Tract Society. 45
George Routledge & Sons, Ltd. and Kegan Paul, Tsench, Trubner & Co., Ltd. 46
Seeley, Service & Co., Ltd....47
Sidgwick & Jackson, Ltd. ...48
Student Christian Movement Press. 49
University of London Press. 50
University Tutorial Press Ltd· (W. B. Clive).....51
Williams & Norgate, Ltd....52

五　月

不良教科書取締

文部省の不良學校調査による教育界革正の鋭鋒は一轉してわが業界に及び不良教科書の一掃、不良出版業者の調査となり文部省圖書局では山崎發行課長自ら地方に出張し各地のインチキ教科書濫用の實情を調査し、續いて堀屬を九州地方に出張せしめ調査を進めた結果各府縣中學校女學校に極めて多數の不良教科書が採用され普通教育に豫想外の惡影響を與へてゐる事實を認め當局も今更の如くあきれ徹底的に取締ることになつた、文部省の云ふ不正事實とは

一、檢定不合格、未檢定の教科書が多數使用されてゐる事

一、檢定濟み教科書のないものは各中等學校又は教員を誤魔化すため「例言」又は規定による「中學校用」「女學校用」の文字を抹消削除して中學教科書を女學校に女學校教科書を中學校に賣込んでゐる事實が極めて多い事

一、檢定濟の教科書に全く檢定のない副教科書類似の別冊をつけ宛ら檢定濟の如く見せかけて賣込み不純な競爭を行つてゐるもの

等で極めて夥しい數に上り文部省の教授要目乃至教育方針を根底から攪亂し當局の檢定方針を蹂躙してゐるので、圖書局ではこれを非常に重大視し取締處分には斷固たる態度を以て臨むことになり、檢定の効力なき圖書を檢定濟みの如く見せかけて販賣したものは容赦なく告發して二十五圓以内の罰金又は二十五日以下の禁錮刑によつて處斷し、修正その他により檢定の効力を失つた圖書を檢定濟み又

はこれに類する文字を使用して發行したものゝうち、甚だしいものは今後その出版業者の圖書一切の檢定を拒否して事實上教科書出版業たる存在を不可能ならしむべしといふ方針を立てた。

不良學校糺彈から中等學校教科書のうちに不良教科書、不正出版業者のあることを發見した文部省では圖書局から當業者に警告を發する事になり、十二日午前十時芝田局長は中等教科書協會長富山房坂本嘉治馬、幹事開成館松本繁吉同三省堂亀井豐治の三氏を電話を以て文部省に招致し山崎發行課長藤岡編修課長も出席

一、檢定以外のものを學校で用ひさせぬやうにすること

一、販賣競爭の結果景品的な附錄などをつけて檢定したものゝ如く見せかけることは絶對嚴禁

の二點につき注意し、同協會を通じて全國會員に至急通告するやう嚴重に言ひ渡したが、この外協會に入つてゐないものが全國では六七十店あるのでこの方面には文部省より警告を發することになり正午まで二時間半に亘つて懇談的に注意を與へた。

第十二回大實會

大阪寶文館が肝煎りの第十二回大實會は十四日神戸市海岸通京橋畔神戸商工會議所並に六甲山上で開かれた午前九時神戸商工會議所へ集合、九時半より開會、紀念撮影の後午餐會に移りそれよりバスにて阪急電車六甲停留所に向ひ登山觀光遊覽し模擬店にて夕食をとり散會した、七年は時間を節約する意味に於て通信市の形式に依り各出版元からの代表的出版物も多數出品され尚當日は會員の講話もあつて賑ひを呈した。

全國兵書組合の設立

東京大阪名古屋其他全國の兵用圖書業者を以て全國兵書組合を設立すべく六年來屢々協議されつゝあつたが八日午後二時から東京書籍商組合樓上で創立總會を開いた出席者は四十九名、組長には東京つるや岸他丑、副組長には東京成武堂横尾民藏、大阪滿韓堂川崎友次郎氏が就任、幹事は詮衡の結果東京七名、各衛戍地から各一名宛を任命し、兵書の定價販賣確立其他につき協議するところあり六時より赤坂幸樂で懇親會を催し散會

した。

原稿料請求の訴訟

深刻な不況によつて弱小な雜誌社を始め出版業者の文筆業者に對する原稿料不拂ひはたう〳〵として風をなしてゐる、執筆者側としては大家は別として區々たる文筆業者は出版業者に對して極めて弱い立場にあるため不拂ひにも泣寢入りの形であつたが、この問題に一石を投ずる原稿料請求訴訟が東京地方裁判所に出た、原告は作家評論家の加藤武雄、龍膽寺雄、福田正夫、久野豐彦、新井紀一氏等其他八名から原稿料の債權を讓り受けた文士岡下一郎氏で、堀江徹夫辯護士を代理人として雜誌「創造」社西谷淳一郎氏を相手取り三百餘圓の請求訴訟を起したもので著作權問題のやかましく法律的にも議論されてゐる折柄この文士の原稿料請求訴訟といふのは始めてのことであり、この結果今後は原稿賣買問題にも一般商取引と同じく契約書の取交し等のせち辛い商慣習を生ずることになるかも知れぬと注目された。原告の主張するところによれば被告訴人の雜誌「創造」は昭和六年十月創刊以來當時の同誌文藝編輯主任岡下氏が友人關係によつて龍膽寺其他の文士から時價以下の原稿料で原稿を依頼したが、一二の作家を除く外は殆んど支拂はず法律的な方法を知らずに人を頼んで交渉し暴力團と間違へられ拘留處分を受けたものさへ出たといふ、これ等の文士達は契約書といふものがないので取れないものとあきらめてゐたが原稿と雖も商品と同じでこれを支拂はぬのは出版企業者の私腹を肥やすのみで文筆業者の生活を脅かすものであるといふにある。尚同社の不拂稿料はこの外にも多額に上るが先づ法律的効果の成行を見るため三百餘圓のみの訴訟を提起し大取次店の回收金を假差押へしたものである。

出版關係者圓卓會議

府下北豐島郡の書籍雜誌販賣業者を以て組織する城北睦會では郡部聯合會解散の爲め若干の剩餘金が生じたのでこれを有意義に使用すべく同會が主催となり出版販賣及び一般讀者を加へて「出版關係者圓卓會議」を開くことになり

一、讀者層の傾向、解剖、その

研究
二、出版業者の宣傳及廣告と、小賣業者の協力によつて如何にその經費が節減し得らるゝか
三、附錄時代の傾向、讀者の關係
四、小賣業者の賣上增進について（副業問題を含む）

の各項について出席者の意見を徵して決議をなし、之れを纏めて聲明書を作り全國の各組合に發表して研究を乞ふと共に實行に努力して右決議を効果あらしめんことを期する下にその第一回を五月十八日午後一時から池袋驛前の池袋ビルに開催した。

六月

鐵道荷物運賃規則の改正

鐵道省では現行の旅客並に荷物運送規則に大改正を施し愈々八月一日から實行することを發表したが、當局では之が實施に先立つて二十一日午後二時から都下各新聞社發送擔任者及び四大取次店幹部を運輸課に招き、改正に伴ふ注意事項を示し諒解を求むる所があつた、今回の改正規則では從來第三種郵便物は期間の如何に拘らず特別扱をして來たが、これに制限を設け、雜誌は發行者の立場と現在の返品期間百日間を考慮に入れて印刷納本の日より二ケ月以内に限り特別扱とする事を規定した、即ち今回の改正に依つて發行者及び小賣業者は何等影響する所はないが、從來特別扱に依り便宜を得てゐた殘本業者には直接の大打擊となるわけである、改正規則は次の通り、

旅客及荷物運送規則抜萃

第二百十九條　手荷物及託送手廻品は鞄行李、籠、笈、行囊等に之を收納し運送中の取扱に堪る程度の荷造を爲すべきものとす

品名　新聞紙、雜誌

荷造の標準　布包、紙包

摘要　必要あるときは包裝又は包裝用掛繩に着色を施すこと

稚内港大泊港間又は下關釜山間航路に依り運送する雜誌は丈夫なる澁紙、ハトロン紙、油紙、油布又は布を以つて包裝すること

第二百廿三條　特別扱新聞紙、雜誌の荷送人は其の包裝に左の事項を記載すべきものとす

一、荷送人及荷受人の氏名又は商號
二、箇數（二箇以上を一口と爲す場合に限る）
三、發着驛名
四、託送月日

第二百六十八條第四號「イ」に該當するものなるときは「何々驛より逆送」と、第三百二十三條に依る不着品の代品なるときは「何月何日發送の分不着に付再送」と赤書すべきものとす

第二百五十三條

三、新聞紙、雜誌

第三種郵便物の認可を受けたる新聞紙（發行の日より十日以内のもの）雜誌（印刷納本の日より六十日以内のものにして閲讀に供せらるゝもの）

註七　第三種郵便物の認可を受けたる新聞紙、雜誌の添付物にして本誌の重量を超過せず（官報を除く）本紙と同性質の記事廣告又は書、畫、圖を印刷し之に本紙の名稱、番號並に發行の年月日附錄の文字を記載し且つ冊子と爲さざるものに限り之を附錄として本紙と同樣に取扱ふべし、但し冊子と爲したるものと雖も新聞紙に在りては月一回に限り一瓩迄のものを、雜誌に在りては本誌の重量の二分の一迄のものを附錄として本紙と同樣の取扱を爲すべし

第二百六十二條　第二百五十三條第三號の新聞紙、雜誌に對しては特別扱の請求を爲すことを得

前項の特別扱を受けんとする荷送人は新聞紙雜誌特別申込書二通を提出すべきものとす

第二百六十四條　新聞紙、雜誌の荷送人にして特別扱の契約を締結したるときは指定の期日までに一箇月分に相當する運賃概算額（最底額十五圓）を豫納すべきものとす

第二百六十五條　新聞紙、雜誌の特別扱に關する契約を解除せんとするときは當事者の一方より他の一方に書面を以て通告すべきものとす

第二百六十六條　特別扱新聞紙、雜誌の荷送人は列車、汽船又は自動車が託送驛を出發する時より二時間前迄に其の託送驛に新聞紙雜誌託送書を提出すべきも

のとす

第二百六十七條　新聞紙、雜誌託送書の樣式は左の如し（略す）

第二百六十八條　新聞紙雜誌託送書に荷送人に於て左の各號に依り之を作製すべきものとす

一、省線着と連絡線着とは各別葉を使用し、連絡線着（通過の場合を含む）のものは更に着連帶線毎に別葉に各其の必要事項を記入すること

二、運賃計算重量は一罫一口毎に實重量（一瓩未滿の端數は一瓩に切上）を記入すること但し一箇の重量三瓩未滿なるときは三瓩として之を記入すること

三、不着の結果代品託送の場合に於ては更に本書を作成し余白に「代品託送に付再送」と記入すること

四、記事欄には左の事項を記入する事

イ、逆送のものなるときは「何驛より逆」

ロ、發行月日又は印刷納本月日

ハ、着驛名及び經由線名（二途以上ある場合に限る）

第三百一條　發賣頒布を禁止せられたる新聞紙、雜誌其の他の出版物に對する差押執行命令に因り荷物の一部引渡したる場合に於て開裝の爲特に費用を要したるときは荷送人又は荷受人より之を收受す

第三百十二條　旅客、荷送人又は貨物引換證、船荷證券の所持人が左に揭ぐる處分又は變更を爲さんとするときは切符、貨物引換證又は船荷證券を呈示し其の旨を申出づべきものとす

一、託送取消（手荷物、小荷物及附隨小荷物に限る）

二、發驛への返送（手荷物、小荷物及附隨小荷物に限る但し手荷物、附隨小荷物に在りては旅客が旅行を見合せたるときに限る）

三、荷受人の變更（特別扱新聞紙、雜誌及貸切扱小荷物以外の小荷物に限る）

四、着驛の變更（特別扱新聞紙雜誌及船荷證券を發行したる小荷物及貸切扱小荷物を除く並に手荷物、附隨小荷物及託送手廻品の發送後に於ける着驛の變更は旅客が旅行を見合せたるとき、旅行を中止したるとき若は乘越又は方向變更を爲したるときに限る）

五、經路變更（手荷物、附隨小荷物及託送手廻品に限り且つ旅客が經路變更を爲すときに限る）

六、引渡の差止及其の解除（特別扱新聞紙、雜誌及貸切扱小荷物以外の小荷物に限る）

七、配達の請求及取消又は屆先の變更運送上支障を生ずる虞ありと認めたるときは前項の處分又は變更の請求に應ぜざることあるべし

第三百二十一條　特別扱新聞紙、雜誌の受託後品名相違を發見したる場合に於ては前條に依るの外荷受人より左の書式に依る書面を徵したる上之が引渡を爲す

品名相違物受領書

何月何日何驛何某送出弊店宛荷物何箇は特別扱新聞紙（雜誌）として託送したるものに有之候處現品は何々に有之品名相違致居候得共全く弊店着のものに相違無之候につき受領致候

昭和　年　月　日

荷受人　何　某

何々驛長殿

第三百二十三條　特別扱新聞紙、雜誌が運送中に所在不明となりたる場合に於て其の荷送人より之に代るべき新聞紙、雜誌の託送を受けたるときは無賃にて之を運送す

前項に依り新聞紙、雜誌の再託送を受けたる後先送の新聞紙雜誌の所在判明したるときは其の一方を無賃にて之を返送す

第三百三十七條　小荷物運賃は左の各號に依り之を計算す

一、發着時間の最短距離（天災事變其の他已むを得ざる事由に由り運行不能となりたる區間を含む）の粁程に依り之を計算す但し運送經路を特約したる小荷物の運賃は實際に運送する經路の粁程に依り之を計算す

二、一箇毎に之を計算す但し第二百五十六條に依る一口數箇の小荷物に對する運賃は其の總重量を總箇數を以て除したる一箇平均重量に依り之を計算す

三、特別扱新聞紙、雜誌の運賃

は豫納とし左の各號に依り之を計算す

イ、一發驛一日分新聞紙雜誌託送書記載の總重量に依り其の運賃額を計算し厘位を生じたる時は之を切捨つ

ロ、一箇月毎に之を精算す此場合に於ける契約の始期又は終期の屬する月は其の日數に拘らず一箇月として之を計算す

ハ、前條第三號第一項但書の運賃に依るものにして一箇月の託送重量千八百瓩に滿たざるときは千八百瓩分の運賃を收受す尙品名の相違したる荷物の重量は責任重量外とす

ニ、第二百六十四條の豫納金又は精算運賃の不足額を指定期日までに納入せざるときは其の期日經過後特別扱を停止し且つ其の延滯したる日數に對し百圓に付日步四錢の割合を以て延滯償金を收受す此の場合延滯償金納入の日は時間に拘らず之を一日として計算す

第三百五十二條　特別扱新聞紙、雜誌の包裝布にして左の各號の要件を具備するものは其の發驛迄無賃返送の取扱を爲す

一、ヅツク又は之に準ずべき丈夫なる布にて造りたるもの

二、豫め鐵道の承認を受けたるもの

前條第二項の規定は無賃返送の取扱を爲す新聞紙、雜誌包裝布に之を準用す

第三百六十七條　荷物受託後に於て品名又は總量（特別扱新聞紙雜誌及貸切扱小荷物に限る）相違し要償額申告書の記載又は旅客又は荷送人の申告に基き計算したる運賃が前條に依り計算したる正當運賃に不足するときは不足賃の外其の三倍に相當する增運賃を收受す

品名相違と數量相違（特別扱新聞紙、雜誌及貸切扱小荷物に限る）とが重復せることを發見したるときは正當運賃より旣收運賃を控除したる額（不足運賃と其の三倍に相當する增運賃）とを收受す

第三百八十六條　稚內港大泊港間又は下關釜山間航路に由り運送する雜誌にして第二百十九條に定むる荷造を爲さざるに因り生じたる損害に付ては鐵道は之が賠償の責に任ぜず

第三百八十八條　第三百五十二條乃至第三百五十四條に依り無賃にて返送する空容器の損害に對しては鐵道は之が賠償の責に任ぜず

中等教科書の献本問題

中等教科書販賣界の癌と云はれる獻本を如何にして市場より驅逐し一掃すべきかは業界に與へられたる重大な而も多年の宿題として從來屢々研究論議されつゝあるが七年初頭名古屋書籍雜誌商組合の紛糾の導火線となつた愛知縣中等教科書販賣協會では、六月五日付を以て「中等教科書販賣に就て全國同業者に寄す」と題する聲明書を發表、全國同業者に飛檄して獻本賣買を排擊することになり、地方各代表者の意見を纏めて中等教科書協會に提案すべく猛運動を開始した。

全國同業者に寄す　我國教育の根幹たる小學校及び中等學校の教科書を見るに、小學校に於ては旣に國定によりて全國を統一され、之れが販賣に從事する者亦有資格者を以てし多くの問題を聞かずと雖も、中等學校は中學校、高等女學校、各種實業學校等其種類多岐に亘り、教科書亦千差萬別加ふるに每年の改善甚しく之が取扱業者は常に深甚なる注意と重大なる責任を痛感して、只管教授上支障無からんを期するの狀態にあり、而して此の責任を重んずる者は卽ち多年の經驗と信用に立脚し業務に忠實なるに因て學校の信頼を得、以て教科書指定取次人の光榮を保續するものなり。

然るに頃者一部古本業者は市場に流布する獻本販賣の目的を以て濫りに新本を混入し顧客吸收の策を構へ遂に學生及び父兄をして其正閏を誤らしめ布きて獻本に因る教科書の誤謬を正當業者の罪なりと誤認するの例少しとせず、今に於て之が對策を考究し、吾人業者の權益を擁護せざるに於ては臍を噛むの悔近きにあるべし。

吾等是に鑑るところあり先づ其第一聲を揚げんとして成立したるもの卽愛知縣中等教科書販賣協會にして奮然起つて之が解決の第一線に躍進せんとす、元より微力然も單獨の能くするところにあらず翼くば同業者各位の贊同を得協力一致以て斯界の發展に資せん事を。

東京組合の林前組長表彰

東京書籍商組合では豫て表彰委

員に托して製作中であつた前組長故林平次郎氏の胸像（藤澤古實氏調塑）及び油繪（安宅安五郎氏畫）が美事出來上つたので胸像を林家へ贈呈すべく二階會議室を式場として周圍に鯨幕を張り、正面議長席に祭壇を設け、林家遺族林善七加藤治助、林武次三氏の參列を乞ひ評議員一同整列、除幕の後上原組長から左の彰功狀を朗讀同二時胸像授移の式典を終へた。

彰功狀

故　林平次郎殿

昭和七年六月六日、本組合前組長故林平次郎君の胸像成り、玆に遺族を招して授移の式典を擧ぐ、君は明治二十九年以降本組合の委員評議員たること實に三十有六年、其の間、明治四十四年以降副組長に就任し組長を補佐すること十九年、更に昭和五年組長の重職に就き組合を統轄すること二年、當業の進展と組合の發達に盡瘁せられたる功勞枚擧に遑あらず可惜、昭和六年十一月三十日病の爲めに勿然として逝去せらる。君は文久元年の生にして資性豪邁濶達、早くより出版界に志して業成れり其の後進を誘掖するや寛厚、而して職務に忠實なる鞠躬力を盡して倦まず、本組合の基礎革固を致したるもの洵に君の力與つて大なりと言ふべし、然るに今や顯幽遠く隔りて君が音容に接すべからずと雖、本組合總會全員一致の議決に基き、君が多年の功績に酬ふる爲め胸像を作りて之を君が起居せられたる家庭に安置して佛貌を永遠に傳へ以て君が遺功を表彰す

昭和七年六月六日

東京書籍商組合組長　上原才一郎

聯合會の林前會長表彰

全國書籍商組合聯合會では八日午後二時東京組合會議室に常任幹事會を開き、前會長故林平次郎氏の表彰について打合せをなしたが靈前に捧ぐる香爐も美事出來上つて來たので目黒副會長から献納することになり目黒氏は十日午前十時上野櫻木町林邸を訪ひ遺族に會見した上忝々しく佛前に香爐を捧げ香を焚いて引下つた。香爐は三つ組價格三百圓のもので林家の紋三個には金をちりばめた美麗なものである。

雜誌協會と新聞社の懇談

日本雜誌協會では十六日丸の內會館に東京各新聞社廣告部長、地方有力新聞社支局長並に廣告取扱店等約四十名を招待し、協會側からは會長實業之日本社以下十二社出席、會長代理實業之日本社小倉氏が座長となつて挨拶を述べ

一、雜誌博讀會の廣告の件

二、新聞廣告にインチ制採用の件

三、雜誌週間開催の件

の三問題について意見の交換を行つた。先づ第一に雜誌博讀會の廣告の件について懇談す。

▽博讀會の廣告問題　雜誌博讀會の廣告について協會では最近雜誌回覽の廣告が全四段五段を使用して頻々と新聞に現はれ雜誌協會は從來も屢々この種廣告の掲載は遠慮して貰ひたい旨の懇談的希望を申込んだが雜誌發行業者は勿論販賣業者も博讀會から蒙る影響は甚大なものである。しかし博讀會は合法的營業であり新聞廣告をなしてゐるものであるから新聞社にとりて大事な顧客であり新聞廣告掲載の拒絕を要求することは妥當ではないが、雜誌發行業者、販賣業者の立場をも參酌し充分考慮して貰ひたい

と希望しこれに對して新聞社側は諒として今後成るべく希望に添ふやう努めたいと回答

▽廣告インチ制の提案　第二の廣告インチ制採用問題は、現在の廣告行數計算は各社とも行數を異にしその不統一から非常に不便を感ずるので合理的なインチ制を採用して貰ひたいと提案し新聞社側の意見を求めたがこれは新聞社、代理店にとりて極めて重大な問題で長い習慣を急に改革することは困難であるばかりでなく、歐文の如く横組みなどのときインチ制を採用する場合は全然現在の活字を改めなければならない事活字を改造せず現在の活字を以てインチ制を採用するとすれば各社の活字の差違によつて却つて煩雜を來す事など種々の理由で反對意見もあつたが、課題として研究の上回答することになつた

▽雜誌週間の開催　第三の雜誌週間開催の件は豫て特別委員によつて研究立案され協會の問

題となつてゐたが、一般的不況によつて最近雜誌の賣行はまゝ〳〵減退する一方なので大衆に向つて雜誌愛の運動を起させるため愈々今秋を期して全國的に實行することに內定し、新聞社側の贊助を求めたところ、この計畫に對しては絕大の贊意を表し、出來るだけ後援すると述べて會談を終り同四時散會した。

賣上カード案實施運動

業界の不振は今日より甚だしきはなく出版業者も販賣業者も今玆で何等かの打開策を講じないことには、いつ景氣が好轉するとも見透しのつかぬ現下の狀態に於ては早晩行詰りを來すものとして、販賣制度、取引習慣の改善意見も種々と研究され提案されてゐるが、實行運動に平素先鞭をつけてゐる大阪業界の有志の四氏は二十三日打揃つて東上、都下有力發行元、取次店小賣業者を歷訪し「書籍に賣上カードを添付し、發行元は販賣店奬勵の意味で一點十部每に一割の率を以て其の書籍を本社より直接販賣店に贈ること、又一書店の出版物取合せ十部以上のカードの纏つた場合は舊刊物を含むが故に五分以上に相當する書籍を割戻しとして贈ること」即ち販賣店から言へば賣上カードを出來る丈け多く纏めることに努力し、其のカードを書籍に化するといふことで自然一層の努力を拂ひ、積極化に向ふ一大奬勵となり、又出版元との直接關係を深め平素より連絡が結ばれることゝなるが故に出版元に特別の計畫等のある場合には特に力を入れる結果となり、斯く出版元の奬勵と販賣店の努力と合致して賣上は勢ひ增加し、出版元は小賣店を通じての販賣網に賴つて不必要に近い厖大な新聞廣告を爲さずとも極めて効果的に書籍を賣捌き得るといふ相互利得の腹案を示し、之が即時實行を要望すると共に取次に對しては機運の釀成に特に諒解を求め、又販賣業者に對しては東西相呼應して實現を期すべく申合せた。

雜誌定價割引率申合せ

日本雜誌協會では雜誌定價割引率一定に關し左の如き申合をなした。

一、三ケ月以上五ケ月迄の讀者に對しては發行所に於て郵稅を負擔することを得

一、六ケ月以上十一ケ月迄の前金拂込の讀者に對しては發行所に於いて郵稅を負擔する外更に定價の百分の二迄割引することを得

一、一ケ年分前金の讀者に對しては發行所に於いて郵稅を負擔する他更に定價の百分の四まで割引することを得

但し增大號の割引金は別に申受くるものとす

尙二種以上並讀する場合と雖も右の規定により例外を認めざることゝす

七月

雜誌のアンカツト案

日本雜誌協會ではかねて會員から提案されてゐた不正販賣、不正返品防止の對策として雜誌をアンカツトにする案（製本を假綴のまゝにして置く事）について七月十五日協議した、卽ち一般の不況に押されて雜誌の賣行きは著しく減退しつゝあるに反比例して店頭の素讀客は增加する一方にあり、小賣店は賣上減少のために返品と素讀客を利用して一度顧客に賣つたものを定價の半額位にて買取り、これを返品する不正販賣者もあるので一つには素見客を寄せつけぬため、一つには販賣者の不正返品を防ぐため假綴のまゝにして置いたならば、通讀上小刀か鋏を入れねばならぬから眞面目な讀者は常にキレイな品を求める事が出來、快い感を與へ、又如何に巧妙な手段を以てしても一度賣つたものを買戻し返品することは出來ぬから不正返品は根絕し得て正に一擧兩得であるといふのが、このアンカツト提唱の理由である。尙「雜誌が賣れないのは不正販賣者があるからだ」と斷定したことは販賣業者を侮辱するものであり偏見も甚だしいといふので猛烈な反對議論が起り、主婦之友社では左の如き反對意見を具陳した。

拜啓昨七月十五日開催の日本雜誌協會特別委員會に於て「不正販賣」並に「不正返品」防止對策とし雜誌を「アンカツト」とする案件に付審議有之、更に七月二十日開かるべき臨時評議員會に上程の運びと相成居候得共弊社に於ては愼重考究の結果左記理由に據り同案に對しては到底贊成致し難き立場に有之候、本件に

關しては何卒今一應の御審議を願ひ他に然るべき方法御採擇相成るやう懇願旁々特に得貴意候

理由

小數の不正を防止する爲めに多數の不正に非ざるものに不便、不利、不快を與へることは社會通念上當然避くべき事に有之、殊に文化的使命を有する雜誌の進歩發達を阻害するものとして忍び得ざる處に有之候

一、讀者の立場より觀れば頁數の少きものゝ場合は兎も角頁數五六百にも及ぶ雜誌がアンカットなる場合に於ける通讀上の煩瑣、不便は蓋し想像に餘りあるものに候特に大部數を擁するものにありては論ずる迄も無之事に候

二、主婦之友の如き家庭雜誌に於ては讀者たる母が子に添乳を爲しつゝ讀み、或は料理、裁縫などに從事しつゝ讀む場合決して尠からず然るに斯る場合一々切斷せざるべからざる不便と不快とを與ふるは正に雜誌を讀者の手より奪ふに等しく結局讀者を激減喪失するの一大原因と相成可く候

三、電車、汽車、汽船等に於て娯樂として通讀せんとする場合にも一々切斷せざれば讀めずといふ事になれば勢ひ購讀を中止せしめるの結果と相成る可く候、之は吾人が或る雜誌の讀者として經驗に徵するも明白なる事實に有之候

四、娯樂のための場合のみを考慮するも右の如く明かなるのみならず近時單行本に於てすらアンカットが少くなりつゝあるはアンカットが如何に書籍の販路を狹めつゝあるかの實驗上の被害的立場を最も明かにせるものと存候

五、讀者が書店の店頭に於て二三選擇して購買する場合にはその內容を充分に點檢比較し得られたる後初めて購ふものなるが故にアンカットにすることは購讀心を激減するの結果となり一部不正者によりて蒙りつゝある損害よりも更に著大なる損害を招來するものと存候

六、一部不正販賣業者を取締る爲めに不正に非ざる多數同業並に讀者に如上の迷惑不便を與ふる事は正義觀念に背馳する事に相成るべく候

七、廣告主はアンカットにより必然的に廣告効果を減殺せらるゝ爲め現に猛然反對を唱ふ者あり、之が爲め廣告揭否問題、延いては廣告料に對する諸問題を惹起し經營上由々しき惡結果に導くの虞れ有之候

右は單に弊社のみの問題には無之、其の及ぼす所雜誌業者は勿論大取次店並に全國小賣店の發展に關する重大問題と思考仕候につき敢へて以書中諸賢の御再考を煩はしたる次第に有之候

八月

全國中等教科書販賣業大會

献本の排擊を叫びこれが處分方法を衆議に諮るべく愛知縣中學教科書販賣協會が主催した全國中等教科書販賣業者大會は三日名古屋市舞鶴公園の市公會堂で開かれた出席者約百五十名、午前十一時半愛知縣販賣協會長榊原彦三郎氏登壇開會を宣して簡單な挨拶を述べ次いで川瀨書店支配人阿部米助、星野書店星野松次郎兩氏は献本の弊害とこれが排除の對策について檢討を試み、終つて名古屋商工會議所會頭代理原田鎗三、中等教科書協會副會長森下松衞兩氏の祝辭あり、本會議に移つて會長の指名で大阪田中庄二郎氏滿場の拍手の裡に議長席に着き協議事項に入つた。

各府縣出席から提出された協議事項案は左の通り

一、出荷運賃諸掛り出版元負擔の件（愛知販賣協會及び熊本縣泉萬次郎氏）は實行委員に附託

二、定價引下げの件（千葉縣福井幾平氏）は反對意見が出て撤回

三、献本不採用の場合之を出版元に返戻し絕對に拂下げを爲さざる件

四、献本方法改色の件

五、献本を指定教科書販賣人に全部拂下げの件

六、献本は表紙を附せず或は白紙とし献本流用防止の件

第三項より第六項は一括協議、中等教科書協會へ交渉することに可決

七、出版元にして學校へ直接教科書類似の參考書濫賣防止の件（愛知協會）は滿場一致可決

八、農業學校圖書刊行會より學校へ直接教科書供給防止の件（三重縣岡村常三郎氏）可決

九、各府縣に販賣協會を設立し中等教科書を準國定たらしむべく協力の件（鹿兒島久永光一氏）希望案として認む

十、地方に中教販賣協會設立の件（愛知協會）可決

斯くて午後三時半協議を終り同四十分再開左の宣言及び決議をなし四時散會した

宣言

教科用圖書は生活の品性、陶冶人格向上の根幹たるを以て之が取扱は愼重を要し供給は必ず圓滑ならざるべからず、然るに中等教科書に於ては

献本の跋扈甚だしく遂に本來の使命を沒却するの奇現象を呈し其の旨甚だ不純なるものありて思想善導上惡影響を來すや必ず本大會は之が惡弊打破の爲め左記事項の實現を期す

全國中等教科書販賣業者大會

決　議

一、献本濫用の惡弊を排除し教科書配給の圓滑を期す

殘本業者の反對運動奏効

鐵道貨物運賃の改正に伴ひ殘本業者の營業は頗る不利となるので都下殘本業者は死活の問題としてこれが實施の反對運動を起したがその結果當局でも諒として左の如く改訂した。

一、第三種郵便物の認可あるもの

二、印刷納本の日より百八十日以內

三、閲讀に供せらるゝもの

四、包裝に月後と朱書したるもの

日本雜誌組合創設さる

雜誌運賃改正問題から東都殘本業者有志間に於いては同業組合組織の必要性を叫ばれてゐたが、五日午後四時より同業者二十名が上野の鶯亭に集合し、同業組合組織の件につき意見を交換した。其結果滿場一致で新組合を組織することに決定を見、直に幹事の選擧を行ふ事となり東京から七名、地方から三名を選ぶことゝなつた。而して當日は中央選出幹事七名の選擧にとゞめて地方幹事三名は中央幹事に於て適宜選任することゝなつた。當選役員は、組長に河野源氏、會計に川津、西濱の兩氏と決定した。

大阪書籍雜誌販賣業組合總會

大阪書籍雜誌販賣組合の第二回臨時總會は十八日午後二時日本橋筋五丁目大槻記念館に開き、田中組長以下二十數名出席左記の如く決議を爲し役員の改選を行つた。

決　議

一、役員制修正の必要可否は可と認め三十五名とす但し特に必要を生じたるときは增員することを得

一、組合今後の對策として當組合を大阪組合に承認せしむること而して年額千圓程度の補助金の交付を受け販賣上の直接問題を研究する完全なる機關とし併せて業界の向上進歩を計ること。

出版界の多額納稅者

十九日東京府から發表された今回の貴族院多額納稅者議員の互選人資格によると講談社々長野間清治氏が東京府下に於ける長者番付の筆頭で直接國稅納稅額は十一萬五百四十四圓となつてゐる、互選人納稅額の番付によると納稅額十萬圓以上は野間清治氏一人

五萬圓以上二人、三萬圓以上七人、一萬圓以上四十二人、七千圓以上四十五人、五千圓以上六十五人、五千圓未滿三十八人で合計二百人

東京府に於ける二百名の互選有資格者中業界人は左の通り

小立鉦四郎氏　七、一七四、九二
都河龍氏　四、七四二、九二
上原才一郎氏　四、六〇六、六五

又大阪府に於ける二百名の互選有資格者は三木佐助氏（五萬九千八百二十圓）一人である。

色刷教科書

文部省の國定教科書の尋常小學一年用の國語讀本卷一及び二の改正を行ひ、歐米各國のものと同樣色刷りにすると同時に、從來の讀本に比し五割以上の增頁を行つて內容を充實し、八年度から使用せしむる事となつたので、一部には教科書値上げ說が流布されたけれども、經濟界不況の今日例へ僅少でも父兄の負擔を重加する事は出來るだけ避くべきであるとの趣旨から、先般來國定教科書發行所たる日本東京及び大阪の三書籍會社は折衝を重ね、現定價七錢のまゝ全然値上げせぬ事になつた。

賴山陽全書完成

賴山陽遺蹟顯彰會が二ヶ年三ヶ月の日子を費した賴山陽全書は、八月下旬全八卷八千餘頁の大出版を完成した。內容は不朽の名著日本外史日本政記以下の全著述と豪華精妙な詩文などを集錄したもので、裝釘は菊判特製の美裝表紙は麻布、天金仕立表紙及び見返しの圖案、色調は南薰造畫伯の考案で文字は山陽の筆跡、各卷を通じコロタイプ八十餘頁である。

大塚周吉氏逝く

東都販賣界の重鎭にして東京書籍商組合副組長、東京雜誌販賣業組合副組長、全國書籍商組合聯合會常任幹事、東京圖書雜誌小賣組合組長等の公職を兼ね業界に功勞

多き共同書籍株式會社々長、太洋堂店主大塚周吉氏は永らく胃腸病を患ひ今春來市外池袋の自宅に靜養中であつたが二十八日午後五時家族近親に見護られつゝ遂に永眠した、享年六十九歳、告別式は三十日午後一時から二時まで日本橋區本銀町の太洋堂に於て佛式に依り盛大に執行された。

東京書籍商組合では故大塚副組長の告別式に際して左の如き弔辭を贈つた。

弔　辭

東京書籍商組合副組長、太洋堂主大塚周吉君病み、醫療其の力を盡したるも効なく、遂に八月二十八日、蓋然として逝去せらる、君は大正九年以降選ばれて本組合評議員たること十有一年本年一月副組長の要職に就き、常に販賣業者の意見を代表して當業の副利增進を圖り、當業の進展に盡瘁せられたる功勞尠なからず、今や業界多事なるに方り、君の力に俟つこと多かりしに幽冥永く鎖して、再び君の聲容に接すべからず、哀悼何ぞ極らん、嗚呼悲しい哉、玆に君が告別式に列し棺前に悼辭一章を捧げ虔みて弔意を表す

昭和七年八月三十日

東京書籍商組合組長上原才一郎

九月　文部省圖書課長更迭

文部省圖書局發行課長山崎犀二氏は今回普通學務局庶務課長に榮轉し、後任には普通學務局會計課勤務の文部省事務官宮原義一氏が新に就任した。

十月　東京組合の圖書大市會

東京書籍商組合主催第三十回圖書大市會は七、八兩日神田區一ツ橋教育會館四階で華々しく開催、本年は數年來の競賣の外に陳列と通信の三方法を併用し四回に亘つて文書宣傳を爲した爲めか出席率も想外に多く、二日間を通じて入場者五百五十名あり、從つて出來高も不景氣にも拘らず全體を通じて總額八萬五千三百圓を計上したこれを前年の四萬三千九百二十圓に比較すると四萬一千三百八十圓即ち倍額に達した。

地方協會總會

全國書籍雜誌商組合地方協會の第十回定時總會は八日午後一時から麴町區富士見町九段坂上國際文化會館三階大廣間に於て開催された、出席百〇七名、正常任委員柏佐一郎、副常任委員中村信以氏着席、正常任柏氏議長となつて開會を宣し庶務報告決算、豫算案を協議の後左の諸案を協議した。

全國聯合會總會

全國書籍商組合聯合會の第十四回定時總會は十日午前十一時から東京組合事務所に開催出席各組合代表六十三名、昭和七年度庶務並に會計報告に次いで八年度豫算案を審議可決、各府縣組合の協議案について協議した後會長の選擧に移つたが、會長選擧は目黑議長の指名を以て北海道（中村）京都（前田）兵庫（柏）東京（大倉、龜井）の五氏を詮衡委員に擧げて協議したる結果、會長に目黑甚七氏、副會長に上原才一郎氏が決定就任した。協議事項左の如し

一、圖書業に關する建議案（京都組合提出）

二、加入承認の件「各組合に於て加入申込者に對し正當の理由なくして其加入を拒み又は加入を遲延せしめる時は常任幹事會の決議を以て其者に各組合員と商取引を爲す事を許す事を得、但し該組合の規約は之を遵守せしむ」を決議する事（聯合會常任幹事會提出）

第一案可決、第二案は原案を左の如く修正可決す

各組合に於て加入申込者に對し正當の理由なくして其加入を拒み又は加入を遲延せしめる時は當該組合に諮問の上幹事會の決議を以て特に各組合員と商取引を爲す事を許す事を得但該組合の規約は之を遵守せしむ

中等教科書販賣者の團結

各地中等教科書販賣協會の統制連絡を圖り供給の圓滑を期すべく結成された日本中等教科書販賣協會聯合會の創立總會は十一日午前十一時から神田區小川町東京出版協會會議室で開かれた、各府縣協會代表者七十八名出席議長に柏佐一郎氏推され挨拶を述べ、田中庄二郎氏（大阪）から創立の經過報告があり、會長に柏氏を推すことを提議承認を求め直ちに規約草案の審議に移り左の規約を可決した

規　約

第一章　總　則

第一條　本會は日本中等教科書販賣協會聯合會と稱す

第二條　本會は各府縣の中等教科書販賣協會を以て組織す

第三條　本會の本部を大阪市に置く

第二章　目的

第四條　本會は中等教科書の販賣に關し供給の圓滑と斯業の發達を圖らんが爲め中等教科書協會と聯絡し各地中等教科書販賣協會の統制を期す

第三章　會員

第五條　各府縣を一協會の區域とし一協會毎に代表者とす
但し左記の協會に於ては代表者二人以上を增す事を得
東京、大阪、京都、兵庫、愛知、新潟、廣島、福岡、北海道、朝鮮滿洲

第六條　各協會は其規約及附屬規定を本會に提出し承認を得べし其變更したる場合亦同じ

第七條　各協會の協會員は協會に加入せざる同業者と中等教科書に關する商取引をなす事を得ず

第八條　各協會は其協會員の異動あり

たる時は直ちに本會に報告すべし

第九條　各協會に於て協會員を違約處分に付したる時は其理由を具し之を本會に報告すべし
前項の報告ありたる時は本會は常任幹事會に於て之を調査し其處分を適當なりと認めたるときは中等教科書協會及各地中等教科書販賣協會に通知し適當の處理をなす

第十條　本會は協會間又は協會と協會員との間に起りたる營業上に關する紛議を調停する事あるべし

第四章　會議

第十一條　會議を分つて左の四種とす
一、定時總會　二、臨時總會　三、常任幹事會　四、幹事會

第十二條　定時總會は毎年十月之を開き左の事項を附議す
一、前年度庶務、收支決算及財産目錄の報告　二、收支の豫算　三、前各項の外豫め會長より發案したる事項

第十三條　會長は必要と認めたるときは臨時總會を開くことを得

第十四條　各協會の建議案は幹事會に於て之を審議し總會に提出の可否を決す

第五章　役員

第十五條　本會に幹事十二名を置く其任期を三ヶ年とす
役員は會長一名副會長一名常任幹事三名を互選す

第十六條　會長は常任幹事會の決議を經て會務執行に必要なる附屬規定を設くることを得

第六章　會計

第十七條　本會經費の負擔は代表者一人に付き年額金二十圓とす

附則

第十八條　本規約は總會の決議に非ざれば變更する事を得ず

第十九條　本規約は昭和七年十月十一日より之を實施す

三大製紙會社合同

製紙界四年來の懸案たる王子、富士、樺工の三大製紙會社の合同問題は、比率問題の難關に逢着し進展容易ならずと見られてゐたが、大資本による製紙界獨占に對する各方面よりの世論漸く硬化せんとするに至つて斡旋役として裁定を一任された池田成彬、結城豐太郎兩氏は八日東京倶樂部に會合取急ぎ合併問題につき協議した結果左の如く決定し、直ちに藤原王子、大川富士樺工社長を招致し右裁定書を交附した處兩氏も之れを受諾した、よつて玆に於て本邦製紙生産高の九割を獨占する畫期的の一大トラストが三井財閥によりいよ〳〵結成された譯である。

三大製紙會社の合併條件は左の通り

▽王子製紙株百株に對し▽富士製紙株百四十株▽樺太工業株二百四十五株

而して右條件決定の事情は三社現在の一、收益狀態、二、資産及び負債の狀態、三、株式の市價、四、將來の業績の四項につき愼重考慮した結果である。

合併の斡旋役たる裁定委員は合併による獨占的の暴利といふ世評に對して次の通りの聲明書を發表した

三社の製紙生産高は本邦全生産高の約九割に近く從つて合同の結果獨占の弊に陷り市價をつり上げ利益をろう斷するの恐れあり、かくの如きは社會の木鐸たる新聞紙、全國小國民の教科書其他日用必需品たる關係上消費者其他社會公衆の利益を害する獨占的利益ろう斷の弊を避け品質優秀にして市價低廉なる製品を消費者に供給し會社の業礎を强固ならしむると共に內外に向つて發展を期せられ事を望む

雜誌編輯の功勞者表彰

東京編輯者協會では十四日朝日講堂で雜誌編輯に從事して廿年の長きにわたり功勞のあつた人達の表彰式を擧げた。表彰された人々は左の如し主婦の友社石川武美、演藝畫報社渥美淸太郎、博文館大橋進一、新潮社佐藤義亮、中央公論社島中雄作、婦女界社都河龍、新潮社中村武羅夫、講談社野間淸治實業之世界野依秀市、講談社淵田忠良、實業之日本社增田義一、改造社山本實彥の諸氏。

警保局檢閲事務の擴大

思想關係乃至風紀上の峻烈な取締りから發賣頒布の禁止處分に附される出版物の數は少なからず、殊に近時滿洲事變の影響を受けて外交、政治、經濟等時局に關する出版物が著しく增加の傾向にあり從つてこれ等出版物にして發禁の憂目を見るものも相當數に上つてゐる現狀に鑑みこれが直接監督の立場にある內務省では出版業者及び文藝家協會方面の要望に應じて出版業者の立場を考慮し、今回警保局圖書課の檢閲機關の擴張を斷行し新たに事務官一名囑八名を增員し、差押出版物の分轄還付をなさしめ、禁止に依つて多大の不利益を餘儀なくされてゐた出版業者をして速かに改訂再版の機會を得せしめることに決定、これが經費八萬圓を八年度豫算に計上した。今回の檢閲機關擴充は時局物等にありては往々當局の禁止事項を知らずして揭載する如き事があり、出版業者の惡意に基くものではない場合が多いので善意的解釋に出たものであるが、發禁に惱まされた出版業者にとつては一大福音である。

滿洲國地圖の改訂

滿洲國が世界にその獨立を宣言してから八ケ月、我國ではこれを承認しておきながら現在全國の各小學校で使用してゐる地理の國定教科書と地圖は獨立前のまゝで教科書には支那の一部として揭載されてゐる、地圖も同樣で支那と同じ色で塗りつぶされてゐる隣國であるから滿洲の知識をどの國よりも詳しく注入しようといふ譯で八年の新學期から教科書と地圖の改訂を行ふことになつた。これがため同省圖書局では廿八日午前九時半から圖書監修官並びに教科書編纂關係者の協議會を開催したが、改訂は滿洲國のみでなく大正十四年以後變つた各國の事情をも加へ挿畫も全部新らしく入替へするはずである滿洲國の項目には地勢、各省、產業、政治等にわたり詳細に記述するので多少增頁を餘儀なくされるらしい。

滿洲國の教育出版

滿洲國政府は大同元年（昭和七年）九月國務院總務廳から「滿洲國政府公報」を創刊し、引續き同十月、同政廳文教部より「普及建國精神之教育資料」第一集を刊行した。誌名の示す如く建國精神を全滿洲教育界に普及するを目的とするもので、菊判七〇頁卷尾には約菊判四頁大の「官公署一覽表」を添えてあるが、本誌內容目次は左の通りである。

▲建國宣言▲滿洲國執政宣言▲對外通告▲王道救世之要義（鄭國務總理）▲全國教員講習會訓辭（許文教部次長）▲全國教員講習會講演（趙立法院長）▲同（丁交通部總長）▲同（許文教部次長）▲全國教育講習會講演（上村文教部學務司長）▲經學之本旨（榮吉林省公署教育廳長）▲滿洲建國之歷史地理的考察與滿洲之國際關係（盧元善）▲滿洲建國論（金粟佛）▲滿洲建國源史略▲附・官公署一覽表

十一月

圖書館週間

圖書文化普及を目的とする日本圖書館協會主催の七年度の「圖書館週間」は十一月一日から全國主要都市に於て一齊に開かれたが東京市は例によつて市の主催として市立二十圖書館の合同で讀書週間が開かれた、催物は

▲講演會　二日午後六時から上野自治會館に於て市社會教育課長藤岡眞一郎氏の挨拶、子母澤寬氏の「彌太郎笠を中心に」の講演「彌太郎笠」上下二篇の映寫あり

▲京橋區史料展覽會　一日から五日まで午前九時から四時迄京橋圖書館に於て

▲キャンプ圖書館　神田橋公園、西小川公園、錦華公園に於て無料公開

▲婦人講演會　五日午後二時から千代田小學校に於て倉橋惣三氏の講演と映畫

▲兒童の夕　七日午後六時から淺草圖書館に於て竹內善作、出雲路宏兩氏のお話と映畫

この外に週間中二十圖書館に於て選定された昭和六年十月より七年九月に至る推奬圖書、多讀新刊圖書、推奬兒童圖書を東京堂、三省堂、巖松堂、丸善等大書店及び三越（市內本支店）松坂屋、松屋（銀座、淺草）白木屋等で陳列し、顧客を呼んだ。

京都の讀書週間

京都組合の提案になり此秋全國聯合會總會に於て可決されたる

「圖書祭」は來年度より毎年、十一月一日から一週間以内期間を定めて全國組合に於て一齊に開催の豫定であるが、玆に提案者たる京都組合に於ては豫ての計畫に從ひ三日明治節の佳き日を卜して全國に卒先、圖書祭最初の試みとして「第一回讀書週間」を擧行した、翩翩として秋空の下に映ゆる日の丸の旗と交錯して赤地に白く染め抜いた讀書週間の幟は全市書店の店頭にはためき、今酣の京洛の秋は旗、ハタ、旗で埋まるばかり、折柄一方に圖書館デーの僅しがあり是と互に脈絡して詢學藝淵叢の地に相應しい光景であつた、斯くて全組合員總動員の下に左の如き數々の催しと街頭に、戸別に整然として實行運動を展開しつゝ九日極めて意義深き週間を終つた。

一、圖書館無料公開（府及京都組合）十一月四、五、六の三日間

二、記念文化大講演會
七日午後六時華頂會館に於て、北島府圖書館長「讀書のすゝめ」野上文學博士「文字と書物」新村文學博士「讀書の趣味」の講演の他兩洋中學バンドの演奏、先斗町少女レビュウの餘興があつた

三、飛行機宣傳（讀書週間號）
五日午後京日機にてビラ十萬枚撒布

四、京都日日新聞讀書週間記念號
四日朝刊四頁增頁二萬部を餘分に刷り午前中宣傳ビラと共に組合青年團員の手により市内要所廿ケ所にて一齊配布

五、雜誌勸誘デー
五、六、七の三日間簡單なる週間の意義を解き月極契約勸誘の書狀を印刷、組長の名を以て一般に發送し、勸誘期間中各書店より戸別訪問

六、新刊書廣告デー
六、七、八、九の四日間各書店任意に

七、自轉車行列宣傳
三日自動車五臺、組合青年團員自轉車隊百臺午前出發全市の主要道路を行進

八、分類圖書總目錄發行（組合編纂）
三百頁のもの三萬部を各書店を通じ顧客に贈呈

九、讀書宣傳標語懸賞募集（京日後援）
以上の通りで此の一切の費用は圖書目錄に收載せる各發行所の掲載料金中より捻出せしものである。

尙宣傳標語は八日午後京都日日新聞社に於て嚴選の結果
進む文化に遲れぬ讀書
が首席として選に入つた
其他幾百の應募があつた。

販賣制度改善意見を問合す

定價販賣制度の緩和——七年の初協議員會に於て組織されて以來毎月の協議員會毎に委員會を開きながら極めて愼重な態度を以て沈默を續けて來た東京出版協會の販賣制度改善調査委員會では、研究に研究を重ねた結果、改善を要すべき研究事項は定價販賣制度の緩和と、返品制度の確立に歸結し、協議員會毎に本案を議題として改善案を進めてゐたものであるが、最近漸く成案を得たので取あへず非常時に於ける實際問題たる

一、定價變更、特價販賣、見切品の處分の時期を出版元の隨意とするの可否

二、讀書祭、誓文拂の如き町内聯合賣出しの場合に景品を添附するの可否

三、一冊賣りにても多數賣りにても一律の定價販賣は不都合に非ざるか（初等及中等學校の教科用書を除く）

の三項を中心に置いて改善を計る可く左の如き質問の要旨を印刷物にして十五日全會員に對し質問書を送附した。

定價變更、特價販賣、見切品の處分の時期を出版元の隨意とするの可否——現在書籍商組合の販賣規定に依れば、書籍は總て發賣後一ケ年を經過せざれば定價の變更、特價販賣、見切品の處分等は出來なくなつて居ります。之は新刊書籍が發賣の日より二三月の後に於て賣價が廉く變更さるれば、其の以前に小賣店の仕入れたる商品が仕入値段よりも廉く賣る樣な事になる惧れがあり、又一面それ迄に買はれた顧客に失望を與へる爲からであります、確かに顧客に對しこの迷惑は察せられまするが、一方顧客は發賣早々に手に入れられる譯ですから若干滿足を與へる點もある筈ですが、他方出版元の立場から申しますと、若し賣行が豫想外に悪いか、或は他から突然同種の競爭品が比較的廉價に出版された場合に、この規約の存するが爲めに一ケ年間指を喰へてその蹂躙に委せねばならぬと云ふが如きは實に堪え得られざる苦痛です、そこで此の場合各地に散在する商品を特殊の條件で引替へる事が履行せられるならば小賣店に迷惑をかけないのであるから從

來の規程にある制限を改めて定價の變更、特價販賣、見切品の處分等の時期は出版元の自由にしたいとの說が高まつて參りました。之に就ての各位の忌憚なき御意見を承り度し

讀書祭、誓文拂の如き町內聯合賣出しの場合に景品を添附するの可否——全國何處の都市にも誓文拂とか町內聯合賣出しとか又讀書祭なぞ催される事は隨分あるものですが、此の場合書籍に限り景品を付けられぬ事となつてゐる然し純然たる書籍のみを賣つてゐる店では、町內にどんな催があつても冷然として旗も出せねば附合的景氣を出す事も出來ませぬ斯る場合書籍店としては殘本の樣なものとか、手帳、文具、扇子、團扇の樣なものを景品として添附し得ることに改めても、三日とか一週間とか限られたる町內附合の爲めであるから、敢て弊害のないやうにも考へられます、之に就き同樣御意見承り度し

一冊賣りにても多數賣りにても一律の定價販賣は不都合に非ざるか（初等及中等學校の教科書用書を除く）——書籍は嚴に定價賣りを原則として居りますが、一冊賣つても百冊賣つても同一値段を以て押し通すと云ふ事は如何でしようか、大凡如何なる商品でも多數と大量との間には必ず取引値段に相當の差を存するのが常態であります、其の中に書籍のみが不融通なる一律定價販賣を强行することは、經濟原則と矛盾したる販賣方法ではありますまいか、顧客の方でも當然の事と思つて多數を購入する時は割引を要求せられる、此處に定價一定上の矛盾が生じて來ます、此の場合にいつまでも一律値段では顧客が承服せられないことでせう、我々出版元としては若干の開きを設けても成るべく多數賣れる樣に購買心を唆ることが得策ではありますまいか、右に對する御腹藏なき御意見承り度しと。

東京朝日と雜誌協會の廣告問題

雜誌博讀會の跳梁に惱まされる日本雜誌協會では博讀會が堂々と新聞廣告を以て會員を募集する時は發行本社の蒙る打擊は甚大なので之れが撲滅のため再三新聞社側に對し「博讀會の廣告を掲載せざるやう」申入れ或は廣告代理業を通じて交渉しその結果各新聞社とも雜誌協會の申出を容れて博讀會の廣告を中止して來たが、東京朝日は最近三回に亘つて案內欄に博讀會の廣告を掲載してゐたので、協會では直ちに東京朝日廣告部に對して不文協定無視の不德義を詰問したところ東朝側では

博讀會の廣告は案內廣告にして一般廣告に非ず、雜誌協會の申出は一般廣告面に掲載する事を拒絕して貰ひたいと云ふのであるから、案內欄に掲載する分には何等差支へはない

と協會の詰問を拒絕した爲め、協會側は俄然硬化し十日の定例評議員會に之を緊急議題として審議した結果、廣告不掲載の決議をなし博報堂及び電通の兩代理店を通じて東朝新田廣告部長に通告した。

雜誌協會の決議——一方協會ではこの紛爭に飽まで協會としての所信態度を鮮明に目的を貫徹すべく左の如き十日の評議員會決議を全會員に通知し評議員會の意のある所を表明全會員の決議參加方を勸誘した。

決議　東京朝日新聞へ十一月十二日以後本協會評議員は廣告（書籍雜誌共）を掲載せざること

理由　東京朝日新聞社は本年六月十六日丸の內會館に於て本協會評議員一同と東京有力廣告取次店並に東京及地方三十有餘新聞社との間に成せる滿場一致の不文契約を蹂躙せるに依り本協會は數回交渉を重ねたるも尙ほ協約を履行せざるに依る

東京朝日と雜誌協會の廣告問題解決

雜誌博讀會の廣告掲載に端を發し紛爭中であつた日本雜誌協會對東京朝日の廣告の拒絕問題は各雜誌の新年號發賣を目前に控へて成行きは一般から憂慮されてゐたが、朝日側では「普通廣告面に掲載したものなら兎も角案內廣告欄に掲載したのだから協會との申合せを無視したわけでなく何等不德義ではない」との最初の强辯を取消して誠意を披瀝したので、協會側ではこれ以上に固執せず十七日午後二時から日本橋事務所に緊急評議員會を開き和解に奔走した廣告代理業博報堂瀨木社長、同山形

常務、電報通信社木下課長等立會の下に東朝石井營業局長、同新田廣告部長出席全評議員と會見し、石井局長から卒直に陳謝の挨拶を述べ今後は絶對に博讀會の廣告を掲載せざる旨を誓ひ退席したので、直ちに評議員會に移り協議した結果東朝の誠意を諒として紳士的に廣告拒絶の決議を撤回することに決定左の決議をなした。

決　議

本月十日本協會評議員會に於て決議せる東京朝日新聞へ廣告不掲載の件は同社の誠意ある釋明を諒とし來る十一月二十二日付夕刊よりこれを解除す

斯くて廣告不掲載と云ふ不祥事も双方の紳士的妥協互讓によつて目出度く不掲載決議より僅か五日にして圓滿解決し二十二日から先づ婦人雜誌の追廣告をはじめ協會幹部の廣告は平常に復し續々掲載された。

早稻田大學出版展覽會

早稻田大學出版研究會は第四回の展覽會を「ジヤーナリズム展望臺」と題して十一月十四、十五、十六の三日間早大圖書館ホールにおいて開催した。この展覽會は第一回第二回においては出版行程一般出版知識についての基本的展覽をし第三回においては「早稻田から見た出版展」と題して出版界における早稻田人の活躍狀態を示したが、今度はかなりに目先を變へて題名のやうな相當廣汎な領域にわたる一般ジヤーナリズムの全面的鳥瞰を試みたものである。

同展覽會は三つの部門に分れた。第一が時局出版物に關するもので次がこの展覽會の主體であり最後が出版に關する特殊參考資料一般圖表等の部門になつてゐる。第一の部門においては最近の時局すなはち滿洲問題、外交軍事の諸問題、農村問題および特に右傾的思想の擡頭による政治經濟界の諸問題に關する特殊の出版物、いはゆる時局物もしくは際物として最近（ことに昭和七年度）の出版界における顯著な傾向を示した出版物三百三十餘種をこれらの諸問題に關する地圖々表等とゝもに陳列したもので最近の時局を一眸のもとに收められるものであつた。第二はこの展覽會の主體であつて先づジヤーナリズムの發生を説明

し、書籍雜誌新聞等のいはゆる舊ジヤーナリズムの方面から映畫、レコード、ラヂオ、テレビジョン等のいはゆる新ジヤーナリズムの方面まで相當體系的に陳列したものである。その主なるものは全國新聞、大學新聞、各國主要新聞、明治以前および初期の新聞、二萬號を超えた新聞四種とその歴史、昭和七年創刊雜誌、各國主要雜誌凸版印刷工程、サダグラビア印刷工程、地圖印刷、ソビエートの印刷と出版、原稿より製本までの出版行程、映畫製作工程、レコード、ラヂオ、テレビジョン等の諸圖、寫眞ニュース並びに圖表として通信事業圖、新聞の政黨色、出版諸圖表等で相當充實したものが蒐集陳列せられてゐた。第三は出版、ジヤーナリズムに關するあらゆる統計、圖表等が集められてあり、その他藏書票、美術印刷、マツチの出版廣告等趣味的な參考資料も多數あつた。

「青い鳥」飜譯權事件

メーテルリンク作「青い鳥」の飜譯權所有者若月紫蘭氏が菊池寛氏、興文社、富山房、楠山正雄氏等を相手取つて提起した著作權侵害排除、損害賠償慰謝料請求の訴訟事件は足かけ四年の長きに亘つて文壇及び出版界の問題となつてゐたが十一月十日東京地方裁判所第四民事二部で原告若月保治氏の敗訴の判決言ひ渡しがあつた。事件の起りは昭和四年二月菊池氏が問題の「青い鳥」を飜譯、小學生全集第七十五卷として興文社から發行したがこれより先若月氏は大正二年メーテルリンクから直接日本における飜譯の讓渡を受け、飜譯出版してゐるにも拘らず、菊池氏は無斷で飜譯したといふので著作權の侵害として若月氏は菊池氏を相手どつて六萬二千五百圓の損害賠償を東京地方裁判所に提起した。然るに若月氏がメーテルリンクから受取つた手紙には「日本に於て飜譯することを貴下にオーソライズする」となつてゐる、これを若月氏は飜譯の讓渡と解釋し、菊池氏側ではこれは單なる許可であつて權利の讓渡ではない、從つて若月は飜譯權を所有するものではないといふ解釋をして互に讓らず裁判所でも大事を取り東大文學部助教授辰野隆博士、佛法の權威

杉山直次郎博士その他に右の「オーソライズ」なる一語の鑑定を依頼して居たところ右の諸鑑定人の多數の意見が讓渡でなく許可といふことに一致したゝめ、著作權を侵害せずと判決を下したものである。

東京圖書雜誌小賣業組合總會

東京圖書雜誌小賣業組合の定時總會は十七日午後一時から神田美土代町日本基督青年館二階講堂に於て開催出席組合員約百五十名、副組長塚越郁四郎氏議長席につき開會の挨拶を述べ

一、七年度庶務報告
二、七年度會計報告
三、八年度豫算案
四、規約修正案
五、組合員意見交換會
六、幹事選擧

の順序を以て平穩に終り七時散會した。

實業教科書に檢定制採用

文部省では實業學校普通學科目の教科書に對し師範學校、中學校、高等女學校等と同樣に檢定制度を設くることになつたので、これに關し二十五日付官報を以て省令教科用圖書檢定規則の改正を公布すると同時に全國地方長官に對し通牒を發した、省令檢定規則改正の要點は左の通りで尙檢定新教科書の普及期並に新舊教科書使用急變更に伴ふ父兄負擔の增加を考慮して當分のうち從來通り無檢定教科書の使用を二ケ年間許すことになつてゐる。

一、今後實業學校普通學科目の圖書に對して檢定を行ふ
但し職業學校の專攻科高等科及び實業補習學校の教科用圖書に對しては行はず。
一、無料頒布を目的とする圖書に對しても檢定を行ふ
一、檢定を與へた圖書にして變更ありたる時は該圖書の檢定はこれを取消し得る規程を設く
一、檢定規則に違背したる者の處罰を重くし從來二十五圓以內の罰金を百圓以內の罰金に、二十五日以下の禁錮を三月以下の禁錮に改む

林氏の傳記を編纂

巨人林平次郎氏が逝いて早や一年、林家一族及び氏が生存中殊に親交の深かつた目黑甚七、上原才

一郎、大葉久吉、江草重忠、大橋光吉、石川正作氏等によつて命日たる十一月三十日夜上野池の端休昌院に於て極く肅かな內輪だけの法會が營まれた。七十一年の生涯を出版界に捧げた氏の數限りない功績を讃へ或は逸話を語り合つて生前の俤を偲んだが、來年は三周忌に當るのでそれまでに翁の傳記を編纂しやうと云ふ話が出てとん〳〵拍子に其場で決まり、取あへず前記諸氏が發起人となつて編纂事務所を日本書籍株式會社內に置き直ちに編纂に着手することになつた。各方面から故人に關する限りの材料の提供を乞ひ八年八月までには發行の豫定であると。

著作權保護の昇格

著作權を國際的に保護する「文學的美術的著作物保護に關するベルヌ條約」に於る加盟國は現在卅七ケ國で、執行機關は著作權保護國際事務局と稱しジュネーヴに置いてあるが、この事務局の規定によると加盟國全部は四萬六千四百四十圓を負擔する義務があり、負擔率は一等國廿五、二等國廿、三等國十五、四等國十、五等國五、六等國三となつて居る。日本がこの條約に加盟したのは明治卅二年七月で、當時二等國として規定通り廿の負擔率を課せられ、爾來卅年間三千八百六十五圓の負擔金を課せられて來た。ところがどこから見ても立派な一等國の日本を二等國並に扱ふのはをかしいといふので、七年十一月本部から一等國として待遇するから規定の負擔率五增しの三百七十三圓餘を餘計に拂込まれたいと通牒して來た。つまり藝術の國日本は卅年ぶりで漸く一等國となつたわけで、內務省圖書課はいそ〳〵と八年度負擔額四千二百卅八圓を大藏省に要求した。

圖書館令改正

文部省は今回明治三十二年勅令四二九號圖書館令及び大正十年勅令三三六號公立圖書館職員令を根本的に改正し、整備せる圖書館の設置及內容の充實を計ると共に職員の待遇改善を行ふ事となり、社會教育局において具體案を調査研究の結果、十一月漸く其成案を得審査委員會の議に付した。改正の要點は現行において北海道、府縣郡市町村は「圖書を收集し公衆の

閲覽に供せしむるため圖書館を設置する事を得」と定めてあるを北海道、府縣及市に於ては「圖書館を設置すべし」と命令したこと。但市に對しては一定の猶豫期間を置き設置を容易ならしめたこと。及び圖書館の設置廢止を道府縣及び市立は文部大臣その他は地方長官の認可を要するものとした點であつて職員の待遇は館長の最高官等四等を三等となし、一定年數在職して功績顯著なる者には勅任待遇となす途を拓いたこと。並に奏任待遇司書の最高官等現在五等を四等に高めた點等であつて、現行制度に比し頗る進歩的なものである。

天正使節の紀念展覽會

天正年間九州の大友、大村、有馬の諸侯が四使節をイスパニア、ポルトガル、ローマに派遣してからこゝに三百五十年であるが、このことがキリスト教の布教と西歐文化東漸の勢を助けたことは非常なものであつた。丸善ではこれを紀念し、使節關係文献及び南蠻人渡來前後の事情、切支丹興廢に關する貴重な珍籍の展覽會を東京本店では十一月十七日から廿四日まで、大阪支店は八年一月十四日から同廿日まで開催。今回の丸善の蒐集は實に見事なもので、珍籍奇書垂涎措く能はざるものが多い。特に慶長四年出版の「ぎやどべかどる」の日本譯書で中世キリスト教神學の觀念、思想、情操が見事に傳へられてゐる物など推奬するに足るものであつた。

この珍籍に就て更に説明すると「ぎやどべかどる」とはスペインの名僧ルイスの著書を原本出版後四十四年、慶長四年（西暦一五九九年）に飜譯出版した邦譯本で、その意は「罪人を善に導く」といふ切支丹の教へであるが、この慶長刊行本は我が國には決して傳はらず、僅かにイギリスの大英博物館に上下完一部を、パリのビブリオテク・ナショナルには下卷一部、ローマのバルベリニ・ライプルリーに下卷一部（不完全なもの）を珍藏するのみであり、我が國では京都中谷家の秘藏する古寫本を大正十一年に發見した時は、國寶を發見したやうな喜びであつた。然るに丸善では先年來イタリー、トリエストの某家の藏書の中にその一卷が含まれて賣られた事を探知し、密かに人を派して探してゐた結果、昭和五年暮れから交渉が具體化し六年數萬圓の代價を拂つて買受け、七年十月この珍寶が到着したので、早速十一月十七日から日本橋丸善本社樓上に開かれた天正使節渡歐三百五十年紀念の珍籍展覽會に特に出陳して一般の展覽に供した。之は上卷一冊だけであるが、東北大學教授村岡典嗣博士や幸田友成博士の鑑定によれば、右の英國本に比して卷末の集字の部分が一枚多く、裏表紙は原本の姿を止め、裝幀の糸もその儘で何等改裝の跡なく（英國本は改裝したもの）實に上卷の刊行當時そのまゝの姿を殘せる世界唯一の原本であると。

十二月

滿洲國地理訂正

十五日午後一時半から文相官邸において教科書調査會が開かれ鳩山文相、鎌田會長、明石副會長外十三名の教科書調査委員が集つた。委員には帝大、文理大の教授の外陸軍からは教育本部長香椎中將、海軍からは教育局長後藤少將が出席、議題は高等小學校地理教科書卷の一であつて滿洲國を始めアジア大陸に關する事項を改正する原稿について各委員が討議訂正し、午後六時散會。

活版界先覺者紀念會

故平野富二氏は活字製造活版印刷の先覺者で我國文化の隱れたる功績者の一人であるが、氏が東京築地活版製造所の前身たる長崎新塾出張所活版製造所を創立してから七年が六十年に相當するので、氏の活字啓蒙六十年紀念「印刷に關する講演會」が十二月二日夜六時から國民新聞社講堂で催され、尚三日午後一時からは谷中墓地平野氏墓前で追悼法要が行はれ、同午前十時から午後四時迄隣接地おもだか屋茶店で遺品參考資料展覽會を催した。

小泉八雲氏の紀念館建設

日本を世界に紹介した恩人小泉八雲氏の著述は氏の歿後三十年の今日尚盛に愛讀され、その講義や書翰雜筆の類に至る迄廣く蒐集整理の上續々出版されつゝあるが、此の不朽の文豪の遺品の大部分は

松江市廳の土藏内に保管されて居り燒火の憂があり、又氏を敬慕して遙々松江に赴く内外人士の觀覽にも不便が多いといふので豫て松江市に於て舊居の隣接地に鐵筋コンクリートの紀念館を建設してそれ等の品々を陳列すると共に關係圖書類を蒐集して舊居と共に觀覽させることになつた。而して種々の事情の爲容易に實行を見るに至らないのを遺憾とし氏を敬慕する左記の人々が今回發起して廣く同好の人々から左の要項により資金を募り其の實現を期する事となつた。

一、紀念館（三間半に五間の鐵筋コンクリート平家建）建築費五千圓を募集して松江市に寄附する事（松江市は隣接の土地を買收し且つ氏舊居の保存法を講ずる筈）

二、剩餘金の生じた時は、其使途は實行委員に任されたしと。

英文「俳句集」完成

「日本人の博愛心」の著書を海外に御紹介遊ばされた高松宮殿下には今度俳句研究の英文學者東洋大學教授宮森麻太郎氏が日本獨得の「俳句集」を英譯して廣く海外に紹介する趣きを聽召され、先ごろ多額の御賜金あり、同氏は感激し銳意編纂に力をいたしてゐたが廿四日製本が出來上つたので同氏は同日午後宮殿下に献上殿下には近く天皇皇后兩陛下の御手許に差し上げ天覽に供することゝなつた

同書は菊判九百頁で日本字とローマ字に英譯が施され批評註釋並に英、米、佛の飜譯も添へてある、そして外務省を經て海外の文學者など五百名に日本の俳句の眞髓を博く徹底させる爲めに海外に送られた。

シーボルトの植物志

日本植物に關する群書中の大寶典で植物研究に志すものゝ垂涎措くあたはざるシーボルト氏、ツツカリニ氏共著の日本植物志（原名フロラ・ジヤポニカ）は日本でもその原本は十部を出でずといはれ、時價千五百圓といふ稀觀中の稀觀であるが、大阪の藥種商武田長兵衛氏はかねて同社伊藤純一郎氏をして本章に關する圖書蒐集中本書を入手し、これが廣く研究家の手に行き渡つてゐないのを遺憾に思つてゐたところ藥學博士朝比奈泰彦氏の推奬もあつたので植物文獻刊行會をこしらへて複製したこの譽れの「日本植物志」は原本二冊で一八三五年（今より九十八年前、安政二年）の刊行になりラテン語、フランス語で記述され本文八十九ページ、附圖百五十の精巧を極めたものであるが武田氏の複製はこれを背革赤表紙の一冊にまとめ大きさも半分の四六倍判の美本となり卷尾に牧野富太郎博士の跋がついてゐる。

昭和八年

一月

東京書籍商組合總會

東京書籍商組合の本年定時恒例により都下各組合に魁けて一月十日午後一時から麴町區丸の内東京府商工奬勵館で開催された。組長上原才一郎氏議長席に着き七年以上勤續店員二百六十名の表彰式を擧行、一時半より議事に入り、七年度庶務報告七年度決算、八年度豫算案を報告承認を求め本年度評議員の選擧を行つた。

東京出版協會總會

東京出版協會の本年度定時總會は二十三日午後三時から芝公園内三緣亭に開催、出席者百四十五名目黑會長議長となつて開會の挨拶を述べ、次いで各特別委員長から夫れ〴〵七年度の庶務を報告、矢島會計委員から七年度決算、八年度豫算の報告と說明あり全部異議なく承認、最後に規約の修正を可決し五時議事を終つた。十分間休憩懇談會を開き

一、圖書に對する出版者側の希望

一、東京書籍商組合に對する出版協會の對策（即ち選擧の結果に相當考慮すべきであるとの見解の下に）

二件を中心に意見の交換をなし、二件共に出版業者として今後積極的に行動することを申合せ、七時から宴會を開き同九時散會した。

中等教科書協會總會

中等教科書協會の本年定時總會は二十日午後二時半から丸の内東京會館廣間に於て開催された。會長富山房坂本嘉治馬氏議長となつて開會の辭を述べ直ちに議事に入り會長から七年度庶務を報告、次いで副會長明治書院森下松衛氏七年度決算並に八年度豫算案を報告

說明し大した異議もなく可決して議事を終り、最後に本年度幹事並に正副會長の選擧を行ひそれより同所に懇親會を催し散會した。尙會長には坂本氏副會長には森下氏が重任した。

日本雜誌協會總會

日本雜誌協會の本年定時總會は十八日午後三時から駿河臺東京書籍商組合樓上に於て開催、會長代理小倉秀道氏議長となつて七年度庶務並に會計を報告承認を求め次いで八年度豫算案を審議可決し、同五時平穩裡に散會した、席上雜誌協會事務所新築に關して協議ありこれが建築費として三萬圓を計上承認を得た、尙本年は幹事改選はない。

東京雜誌販賣業組合總會

東京雜誌販賣業組合の第二十回定時總會は二十四日午後一時から麴町區丸の內東京府商工奬勵館で開かれた。開會に先立つて第二回勤續者表彰式を行ひ大野組長から式辭朗讀の後受賞者二百三十三名に對して茶菓料の授與があり二時大野議長の開會の挨拶に次いで直ちに議事に移り、七年度の庶務報告七年度決算並に八年度豫算案を審議可決、幹事の改選を行つた。

大阪組合の總會

大阪書籍雜誌商組合の第二十一回總會は十四日午前十時東區內本町實業會館に於て開催された。議事に先立ち恒例の店員表彰式を行ひそれより庶務報告、七年度決算、八年度豫算案を審議可決し本年度評議員の選擧を行つた。

大阪出版組合總會

大阪出版組合總會は廿四日午後三時より書林倶樂部に於て開かれ庶務報告に次で七年度決算、八年度豫算を異議なく可決、役員改選を行つた、改選の結果、前年通り當選。

學習帖値下げ陳情

神奈川縣書籍雜誌商組合では九日の定例評議員會に於て神奈川縣教育會編纂、同縣國定教科書特約販賣の夏季學習帳が元價二錢內外に過ぎざるものを五六錢にて落札販賣してゐることは暴利であるとてこれが値下げを當局へ陳情することに決定左の如き陳情書を横山知事に手交した。

陳情書——神奈川縣下に於ける各小學校は夏季休暇期に於て本縣教育會にて編纂せる夏季學習帳を其總數二十六萬冊にして本縣教育會に於て之を公入札に附し居れども十數年に亘り株式會社神奈川縣國定教科書特約販賣所に於て例年落札の上定價一部金五錢乃至六錢にて縣下小學兒童に販賣なし居るも右は一部の元價約二錢內外に過ぎず取次者に交附する手數料及經費を支出するも金二錢五厘を出でず仍て甚だしき高利を貪ることは教育の本義に反する義につき實情御調査の上本年度より適當なる定價に引下げて縣民の負擔を輕減せしめん事を昭和八年一月九日書籍雜誌商組合評議員會全員一致決議を經て此の段陳情候也

印刷代値上げの交渉

東京の各印刷所は各社競爭の結果極端なところまで印刷料金を引下げたところ近頃の物價騰貴につれ諸材料が一齊に騰貴し就中色物に用ふる輸入材料の如きは九割程度まで暴騰、加ふるに最近は各雜誌發行元共原稿の締切期日が非常に遲く爲に發行期日間際になつて急遽夜をつゞけて間に合はせる狀態なので割增手當は要する、利益を減少すると言つた有樣で各社共非常に困難を感じ、舊臘印刷組合でも印刷料金を一割乃至三割の値上を決定したが一向實現されてゐない。かくては結局共倒に終ることになるので日清印刷、共同印刷、秀英舍の四社は廿四日偕樂園に雜誌發行者を招待して印刷料金値上につき諒解を求めた。

一月中の新聞廣告

昭和八年一月中に有力新聞に掲載された書籍廣告の行數は左の如くである。（×印減）

新聞名	（一月）	（十二月對比）
東日	八八、八四八	五六、〇九四
國民	六〇、四八三	一八、五八七
讀賣	七三、二〇五	一六、六五八
時事	七二、二四〇	二二、九七五
東朝	九二、二九三	五六、六四一
報知	八八、五七六	二五、六五三
中外	五四、七四八	二〇、七一二
大朝	七八、九二六	四九、一三七
大毎	七八、〇五八	四三、二八二
日福	五一、二七二	三二、九一二
河北	四七、八一四	三一、五六八
新愛知	五一、二三六	三七、五〇六
北ムス	五五、四一七	二四、九〇二
小樽	四〇、六六二	一七、四四八
名古屋	六四、一〇三	二四、二五八
信毎	三六、七六二	一三、三八四
新毎	三八、五三四	一五、六〇四
廣中	四八、九九六	二五、七七三

出版物類別月表

一月（昭和七年）

類別	圖書數	前月對比	本年累計
政法	一	減	一
經	五	減	五
社	三	減	三
統	六	減	六
評	一	減	一
神	五	減	五
宗	二	減	二
哲	六	減	六
教	九	減	九
教	五	減	五
科	三	減	三
書	七	減	七
育	一	增	一
學	四	減	四
教	七	減	七
書	六	減	六
論	三	減	三
計	七	減	七
會	一	減	一
濟	二	減	二
律	六	減	六
治	一	減	一
產	一	減	一
醫	五	減	五
工	三	減	三
理	七	減	七
數	七	減	七
紀	一	增	一
地	七	減	七
傳	九	減	九
歷	六	減	六
語	三	減	三
文	一	減	一
業	一	減	一
學	一	減	一
學	二	減	二
學	三	減	三
學	一	減	一
學	一	減	一
誌	三	減	三
記	二	減	二
史	一	減	一
學	二	減	二
學	一	減	一
合	一	減	一
雜	一	減	一
娛	一	減	一
家	一	減	一
叢	一	減	一
辭	一	減	一
技	一	減	一
音	一	減	一
美	一	減	一
兵	一	減	一
交	一	減	一
通	一	減	一
事	一	減	一
術	一	減	一
樂	一	減	一
藝	一	減	一
書	一	減	一
書	一	減	一
庭	一	減	一
樂	一	減	一
計	一、四三六	減	一、四三六
單行本	八四二	減	八四二
リーフレット	四〇二	減	四〇二
パンフレット	一八五	減	一八五
ビラ	六九	增	六九
寫眞玩具類	二三	減	二三
地圖樂譜圖畫	二三	減	二三
合計	一、四三六	減	一、四三六

二月（昭和七年）

類別	圖書數	前月對比	本年累計
政法	一	增	一
經	三	增	三
社	〇	增	〇
統	六	減	六
評	七	減	七
神	九	減	九
宗	七	減	七
哲	六	減	六
教	一	減	一
教	〇	減	〇
科	一	減	一
書	三	減	三
育	一	減	一
學	三	減	三
教	七	減	七
書	六	減	六
論	三	減	三
計	七	減	七
會	一	減	一
濟	二	減	二
律	六	減	六
治	一	減	一
產	一	減	一
醫	五	減	五
工	三	減	三
理	七	減	七
數	七	減	七
紀	一	增	一
地	七	減	七
傳	九	減	九
歷	六	減	六
語	三	減	三
文	一	減	一
業	一	減	一
學	一	減	一
學	二	減	二
學	三	減	三
學	一	減	一
學	一	減	一
誌	三	減	三
記	二	減	二
史	一	減	一
學	二	減	二
學	一	減	一
合	一	減	一
雜	一	減	一
娛	一	減	一
家	一	減	一
叢	一	減	一
辭	一	減	一
技	一	減	一
音	一	減	一
美	一	減	一
兵	一	減	一
交	一	減	一
通	一	減	一
事	一	減	一
術	一	減	一
樂	一	減	一
藝	一	減	一
書	一	減	一
書	一	減	一
庭	一	減	一
樂	一	減	一
計	一、四三六	減	一、四三六
單行本	八四二	減	八四二
リーフレット	四〇二	減	四〇二
パンフレット	一八五	減	一八五
ビラ	六九	增	六九
寫眞玩具類	二三	減	二三
地圖樂譜圖畫	二三	減	二三
合計	一、四三六	減	一、四三六

出版物類別月表

三月（昭和七年）

類別	圖書數	前月對比	本年累計
政法	五	減	五
經	三	減	三
社	九	減	九
統	四	減	四
評	三	減	三
神	九	減	九
宗	二	減	二
哲	六	減	六
教	三	減	三
教	一	減	一
科	一	減	一
書	三	減	三
育	一	增	一
學	八	增	八
教	一	增	一
書	一	增	一
論	一	增	一
計	一	增	一
會	二	增	二
濟	三	增	三
律	六	增	六
治	一	增	一
產	一	減	一
醫	五	減	五
工	三	減	三
理	七	減	七
數	七	減	七
紀	一	增	一
地	七	增	七
傳	一	增	一
歷	六	增	六
語	三	增	三
文	一	增	一
業	一	減	一
學	一	減	一
學	二	減	二
學	三	減	三
學	一	增	一
學	一	增	一
誌	三	增	三
記	二	增	二
史	一	增	一
學	二	增	二
學	一	增	一
合	一	減	一
雜	一	減	一
娛	一	減	一
家	一	減	一
叢	一	減	一
辭	一	減	一
技	一	減	一
音	一	減	一
美	一	減	一
兵	一	減	一
交	一	減	一
通	一	減	一
事	一	減	一
術	一	減	一
樂	一	減	一
藝	一	減	一
書	一	減	一
書	一	減	一
庭	一	減	一
樂	一	減	一
計	一、八五九	減	一、八五九
單行本	一、一六〇	減	一、一六〇
リーフレット	四八二	增	四八二
パンフレット	一六六	減	一六六
ビラ	四一	減	四一
寫眞玩具類	一四	減	一四
地圖樂譜圖畫	一六六	減	一六六
合計	一、八五九	減	一、八五九

四月（昭和七年）

類別	圖書數	前月對比	本年累計
政法	一	減	一
經	三	減	三
社	〇	減	〇
統	六	減	六
評	七	減	七
神	九	減	九
宗	七	減	七
哲	六	減	六
教	一	減	一
教	〇	減	〇
科	一	減	一
書	三	減	三
育	一	減	一
學	三	減	三
教	七	減	七
書	六	減	六
論	三	減	三
計	七	減	七
會	一	減	一
濟	二	減	二
律	六	減	六
治	一	減	一
產	一	減	一
醫	五	減	五
工	三	減	三
理	七	減	七
數	七	減	七
紀	一	減	一
地	七	減	七
傳	九	減	九
歷	六	減	六
語	三	減	三
文	一	減	一
業	一	減	一
學	一	減	一
學	二	減	二
學	三	減	三
學	一	減	一
學	一	減	一
誌	三	減	三
記	二	減	二
史	一	減	一
學	二	減	二
學	一	減	一
合	一	減	一
雜	一	減	一
娛	一	減	一
家	一	減	一
叢	一	減	一
辭	一	減	一
技	一	減	一
音	一	減	一
美	一	減	一
兵	一	減	一
交	一	減	一
通	一	減	一
事	一	減	一
術	一	減	一
樂	一	減	一
藝	一	減	一
書	一	減	一
書	一	減	一
庭	一	減	一
樂	一	減	一
計	一、八五九	減	一、八五九
單行本	一、一四五	增	一、一四五
リーフレット	七七〇	減	七七〇
パンフレット	一九九	增	一九九
ビラ	六四	減	六四
寫眞玩具類	一九	減	一九
地圖樂譜圖畫	一八〇	增	一八〇
合計	一、八五九	減	一、八五九

出版物類別月表

五月（昭和七年）

類別	圖書數	前月對比	本年累計
政法	三〇	增一二	三〇
經濟	五五	減一二	五五
社會	五一	增一三	五一
統計	六〇	減二二	六〇
評論	二〇	增一五	二〇
神社	一八	增六	一八
宗教	五五	增二五	五五
哲學	一〇	增三	一〇
教育	一〇	減二	一〇
教科書	一七	減一三	一七
合計	三〇五	增一六	三〇五
文學	一七九	增一二	一七九
語學	八四	減一三	八四
歷史	四七	減二五	四七
傳記	七七	增三	七七
地誌	四三	增一五	四三
紀行	七七	增一八	七七
數學	八四	減一八	八四
理學	三九	減二七	三九
工學	一八	減一五	一八
醫學	二七	減二	二七
產業	一七	減一	一七
合計	一、一七五	增一五	一、一七五
交通	一四一	減二	一四一
兵事	三四	減七	三四
美術	二五	減一五	二五
音樂	一八一	增一三	一八一
技藝	一七〇	增一七	一七〇
辭書	八七八	增一八	八七八
叢書	五五一	減一二	五五一
家論	五五〇	減一	五五〇
嫁計	三二〇	減一〇	三二〇
娛會	三五四	減一三	三五四
合計	一、九六五	增一六	一、九六五
單行本	一、一四八	增二〇四	八、六九四
リーフレット	三三六	減一三	三、六六五
パンフレット	四九	八	四二九
ビラ			
寫眞			
玩具類	一〇八	二	一、〇六二
地圖			
樂譜			
圖畫			
合計	一、六四一	九三	一三、八四九

六月（昭和七年）

類別	圖書數	前月對比	本年累計
政法	三〇	減一〇	三〇
經濟	五五	減一二	五五
社會	六〇	減二	六〇
統計	二〇	減一一	二〇
評論	一八	減一三	一八
神社	五五	減一二	五五
宗教	一〇〇	增一〇	一〇〇
哲學	一〇	減一	一〇
教育	一三	減一	一三
教科書	一七	減一	一七
合計	三〇五	減一六	三〇五
文學	一七九	增一二	一七九
語學	八四	減一三	八四
歷史	四七	減二五	四七
傳記	七七	增三	七七
地誌	四三	增一五	四三
紀行	七七	增一八	七七
數學	八四	減一八	八四
理學	三九	減二七	三九
工學	一八	減一五	一八
醫學	二七	減二	二七
產業	一七	減一	一七
合計	一、一七五	減一五	一、一七五
交通	一四一	減二	一四一
兵事	三四	減七	三四
美術	二五	減一五	二五
音樂	一八一	增一三	一八一
技藝	一七〇	增一七	一七〇
辭書	八七八	增一八	八七八
叢書	五五一	減一二	五五一
家論	五五〇	減一	五五〇
嫁計	三二〇	減一〇	三二〇
娛會	三五四	減一三	三五四
合計	一、九六五	增一六	一、九六五
單行本	一、一七五	增一	五、四六八
リーフレット	六一五	增一三	二、三二六
パンフレット	三四	減七	二八一
ビラ			
寫眞			
玩具類	一四一	減二	七三五
地圖			
樂譜			
圖畫			
合計	一、九六五	增一六	八、八〇〇

七月（昭和七年）

類別	圖書數	前月對比	本年累計
政法	三三	減一〇	三三
經濟	二九	減一二	二九
社會	八二	減二	八二
統計	一〇	減一	一〇
評論	九	增一	九
神社	二一	減一	二一
宗教	八〇	減一九	八〇
哲學	一九	減一	一九
教育	一三	減一	一三
教科書	一七	減一	一七
合計	三〇五	減一	三〇五
文學	一七九	減一	一七九
語學	八四	減一	八四
歷史	四七	減一	四七
傳記	七七	增一	七七
地誌	四三	增一	四三
紀行	七七	增一	七七
數學	八四	減一	八四
理學	三九	減一	三九
工學	一八	減一	一八
醫學	二七	減一	二七
產業	一七	減一	一七
合計	一、一七五	減一	一、一七五
交通	一四一	減一	一四一
兵事	三四	減一	三四
美術	二五	減一	二五
音樂	一八一	減一	一八一
技藝	一七〇	減一	一七〇
辭書	八七八	減一	八七八
叢書	五五一	減一	五五一
家論	五五〇	減一	五五〇
嫁計	三二〇	減一	三二〇
娛會	三五四	減一	三五四
合計	一、九六五	減一	一、九六五
單行本	九四四	減一九〇	七、五四六
リーフレット	四五七	減八九	三、三二九
パンフレット	四一	減一七	三八〇
ビラ			
寫眞			
玩具類	一〇六	減一六	九五三
地圖			
樂譜			
圖畫			
合計	一、五四八	減三一二	一二、一〇八

八月（昭和七年）

類別	圖書數	前月對比	本年累計
政法	三一	減二	三一
經濟	二五	減四	二五
社會	八〇	減二	八〇
統計	一〇	減一	一〇
評論	一八	減一	一八
神社	二〇	減一	二〇
宗教	七五	減五	七五
哲學	一〇	減一	一〇
教育	一三	減一	一三
教科書	一七	減一	一七
合計	二九九	減一六	三〇五
文學	一七九	減一	一七九
語學	八四	減一	八四
歷史	四七	減一	四七
傳記	七七	減一	七七
地誌	四三	減一	四三
紀行	七七	減一	七七
數學	八四	減一	八四
理學	三九	減一	三九
工學	一八	減一	一八
醫學	二七	減一	二七
產業	一七	減一	一七
合計	一、一七五	減一	一、一七五
交通	一四一	減一	一四一
兵事	三四	減一	三四
美術	二五	減一	二五
音樂	一八一	減一	一八一
技藝	一七〇	減一	一七〇
辭書	八七八	減一	八七八
叢書	五五一	減一	五五一
家論	五五〇	減一	五五〇
嫁計	三二〇	減一	三二〇
娛會	三五四	減一	三五四
合計	一、九六五	減一	一、九六五
單行本	九四四	減一九〇	七、五四六
リーフレット	四五七	減八九	三、三二九
パンフレット	四一	減一七	三八〇
ビラ			
寫眞			
玩具類	一〇六	減一六	九五三
地圖			
樂譜			
圖畫			
合計	一、五四八	減三一二	一二、一〇八

九月（昭和七年）

類別	圖書數	前月對比	本年累計
政法	三〇	減一	三〇
經濟	二八	減三	二八
社會	五五	減二	五五
統計	一〇	減一	一〇
評論	一八	減一	一八
神社	二〇	減一	二〇
宗教	七五	減五	七五
哲學	一〇	減一	一〇
教育	一三	減一	一三
教科書	一七	減一	一七
合計	二九八	減七	三〇三
文學	一七九	減一	一七九
語學	八四	減一	八四
歷史	四七	減一	四七
傳記	七七	減一	七七
地誌	四三	減一	四三
紀行	七七	減一	七七
數學	八四	減一	八四
理學	三九	減一	三九
工學	一八	減一	一八
醫學	二七	減一	二七
產業	一七	減一	一七
合計	一、一七五	減一	一、一七五
交通	一四一	減一	一四一
兵事	三四	減一	三四
美術	二五	減一	二五
音樂	一八一	減一	一八一
技藝	一七〇	減一	一七〇
辭書	八七八	減一	八七八
叢書	五五一	減一	五五一
家論	五五〇	減一	五五〇
嫁計	三二〇	減一	三二〇
娛會	三五四	減一	三五四
合計	一、九六五	減一	一、九六五
單行本	九四四	減一九〇	七、五四六
リーフレット	四五七	減八九	三、三二九
パンフレット	四一	減一七	三八〇
ビラ			
寫眞			
玩具類	一〇六	減一六	九五三
地圖			
樂譜			
圖畫			
合計	一、五四八	減三一二	一二、一〇八

十月（昭和七年）

類別	圖書數	前月對比	本年累計
政法	三一	增一	三一
經濟	二五	減三	二五
社會	八一	減一	八一
統計	一〇	減一	一〇
評論	一八	減一	一八
神社	二〇	減一	二〇
宗教	七五	減五	七五
哲學	一〇	減一	一〇
教育	一三	減一	一三
教科書	一七	減一	一七
合計	二九九	減六	三〇二
文學	一七九	減一	一七九
語學	八四	減一	八四
歷史	四七	減一	四七
傳記	七七	減一	七七
地誌	四三	減一	四三
紀行	七七	減一	七七
數學	八四	減一	八四
理學	三九	減一	三九
工學	一八	減一	一八
醫學	二七	減一	二七
產業	一七	減一	一七
合計	一、一七五	減一	一、一七五
交通	一四一	減一	一四一
兵事	三四	減一	三四
美術	二五	減一	二五
音樂	一八一	減一	一八一
技藝	一七〇	減一	一七〇
辭書	八七八	減一	八七八
叢書	五五一	減一	五五一
家論	五五〇	減一	五五〇
嫁計	三二〇	減一	三二〇
娛會	三五四	減一	三五四
合計	一、九六五	減一	一、九六五
單行本	九四四	減一九〇	七、五四六
リーフレット	四五七	減八九	三、三二九
パンフレット	四一	減一七	三八〇
ビラ			
寫眞			
玩具類	一〇六	減一六	九五三
地圖			
樂譜			
圖畫			
合計	一、五四八	減三一二	一二、一〇八

九月（昭和七年）

内容類別	圖書數	前月對比	本年累計
政治	二、七一七	減 九、六六四	一、四一四、五五五
法律	九四〇	增 四〇七	一、〇〇〇、〇〇〇
經濟	四〇	減 一、九一〇	一、〇〇〇、〇〇〇
社會	六七	增 一、一九一	一、〇〇〇、〇〇〇
統計	九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
評論	一、三八六	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
神社	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
宗教	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
哲學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
教育	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
教科書	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
教育學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
教學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
教書	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
論	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
計	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
會	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
濟	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
文學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
語學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
歷史	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
傳記	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
地誌	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
紀行	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
數學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
理學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
工學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
醫學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
產業	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
交通	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
兵事	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
美術	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
音樂	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
技藝	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
辭書	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
叢書	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
家庭	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
雜誌	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
娯樂	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
合計	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇

體裁分類	圖書數	前月對比	本年累計
單行本	一、三七七	增 二三九	一〇、〇七二
リーフレット	四一	增 一〇五	四、一〇六
パンフレット	六七	增 一八	四九六
ビラ	一八	增 一〇	一、一七九
寫眞玩具類	三五	增 三六二	一五、八五二
地圖樂譜圖畫	一、一四一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
合計	二、〇〇三	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇

十月（昭和七年）

内容類別	圖書數	前月對比	本年累計
政治	二、一七七	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
法律	九四〇	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
經濟	四〇	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
社會	六七	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
統計	九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
評論	一、三八六	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
神社	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
宗教	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
哲學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
教育	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
教科書	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
教育學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
教學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
教書	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
論	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
計	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
會	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
濟	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
文學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
語學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
歷史	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
傳記	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
地誌	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
紀行	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
數學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
理學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
工學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
醫學	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
產業	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
交通	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
兵事	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
美術	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
音樂	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
技藝	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
辭書	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
叢書	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
家庭	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
雜誌	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
娯樂	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
合計	一、一九一	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇

體裁分類	圖書數	前月對比	本年累計
單行本	一、三四五	減 三二	一一、四一六
リーフレット	四五六	增 一五	四、五六二
パンフレット	五八	減 九	五五四
ビラ	三一	增 一〇三	一、四〇〇
寫眞玩具類	一八	增 一〇	一、一七九
地圖樂譜圖畫	二、〇八〇	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇
合計	二、〇八〇	減 一、一一一	一、〇〇〇、〇〇〇

十一月（昭和七年）

内容類別	圖書數	前月對比	本年累計
政治	二、一三三	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
法律	九四〇	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
經濟	四〇	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
社會	六七	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
統計	九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
評論	一、三八六	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
神社	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
宗教	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
哲學	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
教育	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
教科書	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
教育學	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
教學	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
教書	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
論	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
計	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
會	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
濟	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
學	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
文學	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
語學	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
歷史	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
傳記	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
地誌	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
紀行	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
數學	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
理學	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
工學	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
醫學	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
產業	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
交通	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
兵事	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
美術	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
音樂	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
技藝	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
辭書	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
叢書	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
家庭	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
雜誌	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
娯樂	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
合計	一、一九一	增 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇

體裁分類	圖書數	前月對比	本年累計
單行本	一、四九四	增 一四九	一二、九一〇
リーフレット	四七六	增 二一〇	五、〇三八
パンフレット	六〇	減 一〇	六〇二
ビラ	四八	減 一一一	一、五一〇
寫眞玩具類	一一〇	減 一一一	一、〇〇〇
地圖樂譜圖畫	二、一二八	增 四八	二〇、〇六〇
合計	二、一二八	增 四八	二〇、〇六〇

十二月（昭和七年）

内容類別	圖書數	前月對比	本年累計
政治	二、二三三	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
法律	九四〇	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
經濟	四〇	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
社會	六七	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
統計	九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
評論	一、三八六	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
神社	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
宗教	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
哲學	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
教育	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
教科書	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
教育學	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
教學	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
教書	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
論	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
計	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
會	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
濟	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
學	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
文學	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
語學	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
歷史	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
傳記	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
地誌	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
紀行	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
數學	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
理學	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
工學	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
醫學	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
產業	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
交通	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
兵事	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
美術	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
音樂	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
技藝	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
辭書	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
叢書	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
家庭	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
雜誌	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
娯樂	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
合計	一、一九一	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇

體裁分類	圖書數	前月對比	本年累計
單行本	一、三七七	減 一、一一一	一一、四一六
リーフレット	四一	減 一、一四一	四、五六二
パンフレット	六七	減 一、一四一	五五四
ビラ	一八	減 一、一四一	一、四〇〇
寫眞玩具類	三五	減 一、一四一	一、一七九
地圖樂譜圖畫	二、〇〇三	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇
合計	二、〇〇三	減 一、一四一	一、〇〇〇、〇〇〇

出版物月次增減表

昭和七年一月	納本數 總數	普通出版物	雜誌 省略	雜誌 非省略	官版
前對年	減 四、六六八	減 一、四三六	減 九六一	減 一、五六一	減 七一〇
前對月	減 一、五九九	減 五六三	減 五五九	減 四一四	減 六三
累計年比	減 四〇〇	減 一一三	減 一一三	減 二一八	增 五〇
本月	四、六六八	一、四三六	九六一	二、五六一	七一〇

昭和七年二月	納本數 總數	普通出版物	雜誌 省略	雜誌 非省略	官版
前對年	增 五、七七七	增 一、六九一	增 一、二八〇	增 一、九六三	八四四
前對月	增 一、一〇九	減 二五五	增 三一九	減 四〇一	增 一三四
累計年比	減 九二	減 一三	增 四九	減 三三	增 七八
本月	一〇、四四五	三、一二七	二、二四一	三、五一三	一、五五四

昭和七年三月	納本數 總數	普通出版物	雜誌 省略	雜誌 非省略	官版
前對年	增 六、一七〇	增 一、八五九	增 一、三六八	減 二、一七九	減 七六四
前對月	增 三九三	增 一六八	增 八八	減 二一七	減 八〇
累計年比	增 六五七	增 四九	增 七二	減 三九五	減 一四一
本月	一六、六一五	四、九八六	三、六〇九	五、七〇二	二、三一八

昭和七年四月	納本數 總數	普通出版物	雜誌 省略	雜誌 非省略	官版
前對年	增 六、一八四	減 一、四三六	減 九六一	減 一、五六一	減 七一〇
前對月	減 一四	減 五六三	減 五五九	減 四一四	減 六三
累計年比	減 一六〇	減 一一三	減 一一三	增 二一八	增 五〇
本月	二、二九九	一、四三六	九六一	二、五六一	七一〇

昭和七年五月	納本數 總數	普通出版物	雜誌 省略	雜誌 非省略	官版
前對年	增 七、八〇二	增 一、六二七	增 一、二八〇	增 一、九六三	八四四
前對月	增 一、五六三	減 二五五	增 三一九	減 四〇一	增 一三四
累計年比	減 六〇〇	減 一三	增 四九	減 三三	增 七八
本月	三〇、六〇〇	一、四三六	二、二四一	三、五一三	一、五五四

昭和七年六月	納本數 總數	普通出版物	雜誌 省略	雜誌 非省略	官版
前對年	減 七、一八八	減 一、八六〇	減 一、〇五九	減 三、四二五	增 八四四
前對月	減 六二三	減 一〇五	減 二三四	減 三一四	增 三〇
累計年比	減 七四九	減 一〇四	減 四八〇	減 一、二六八	增 六五
本月	三七、七八八	一〇、六六〇	七、〇三九	一五、三三八	四、七五三

昭和七年七月	納本數 總數	普通出版物	雜誌 省略	雜誌 非省略	官版
前對年	減 七、〇七五	減 一、五四八	減 九八八	減 一、八三	減 七四三
前對月	減 一一三	減 三一三	減 一二四	減 一七六	減 一〇一
累計年比	減 四六	減 三一九	減 五三一	減 八九七	減 九三
本月	四四、八六三	一三、一〇八	八、二二〇	一八、九二九	五、四九六

昭和七年八月	納本數 總數	普通出版物	雜誌 省略	雜誌 非省略	官版
前對年	減 六、二五七	增 一、六四一	減 一、〇二三	減 二、九二三	減 六七一
前對月	減 八八八	增 九三	減 一六〇	減 六九九	減 七二
累計年比	減 九七四	減 三五	減 二三六	增 一、八七	增 二
本月	五一、一二〇	一三、八四九	九、二四三	二一、八六一	六、一六七

昭和七年九月	納本數 總數	普通出版物	雜誌 省略	雜誌 非省略	官版
前對年	增 七、九四五	增 一、六八八	增 一、五三一	增 三、六〇三	八〇八
前對月	增 一、四二五	減 一二八	增 五〇八	增 六八一	增 一三七
累計年比	減 〇六五	減 三六二	增 一三四	增 一、七〇七	減 二八八
本月	五九、〇六五	一五、八五三	一〇、七七四	二五、四六四	六、九七五

昭和七年十月	納本數 總數	普通出版物	雜誌 省略	雜誌 非省略	官版
前對年	減 七、七一五	減 二三〇	減 二、〇八〇	減 九八八	減 一
前對月	減 二三〇	減 一九一	減 七七	減 五四三	減 一〇五
累計年比	減 八九九	減 三一九	減 一九一	減 七四三	減 九三
本月	六六、七八〇	一七、九三三	一〇、七六二	二一、七八二	七、七八四

昭和七年十一月	納本數 總數	普通出版物	雜誌 省略	雜誌 非省略	官版
前對年	增 八、三五〇	增 二、一二八	增 一、〇四三	增 四、四七九	減 七〇〇
前對月	增 一、四九六	增 四八	增 五五	增 六四一	減 一〇九
累計年比	增 六三五	增 二六三	減 四四一	增 二、七四五	減 七二
本月	七五、一三〇	二〇、〇六〇	二二、八〇五	三三、七八一	八、四八四

昭和七年十二月	納本數 總數	普通出版物	雜誌 省略	雜誌 非省略	官版
前對年	增 一〇、二二七	減 二、〇四四	增 一、三一四	增 六、〇五七	增 八〇八
前對月	增 一、八七七	增 八四	減 二七一	增 一、五七八	增 一三七
累計年比	增 三、九六〇	增 四五	減 二〇六	增 四、〇八二	減 二八八
本月	八五、三五七	二二、一〇四	一四、一一九	三九、八三八	九、二九六

昭和七年九月	納本數 總數	普通出版物	雜誌 省略	雜誌 非省略	官版
前對年	增 七、九四五	增 一、六八八	增 一、五三一	增 三、六〇三	八〇八
前對月	增 一、四二五	減 一二八	增 五〇八	增 六八一	增 一三七
累計年比	減 〇六五	減 三六二	增 一三四	增 一、七〇七	減 二八八
本月	五九、〇六五	一五、八五三	一〇、七七四	二五、四六四	六、九七五

新聞紙月次增減表

（雜誌を含む）

	總數	有保證金新聞紙 日刊	有保證金新聞紙 月四回以上	有保證金新聞紙 月三回以下	有保證金新聞紙 計	無保證金新聞紙 日刊	無保證金新聞紙 月四回以上	無保證金新聞紙 月三回以下	無保證金新聞紙 計
一月									
合計	一〇、六〇一	一、〇八八	四、六七	四、七一五	六、二七〇	二〇一	二四四	三、八八六	四、三三一
前月比	增 三五四	增 五五	減 四〇	減 一五一	減 二四六	增 一四	減 二四	減 七〇	增 一〇八
同月比	減 六五	減 五	九	一六	二〇	四	三	四六	四五
對年比									
二月									
合計	一〇、六七九	一、一〇九	四八六	四、七一六	六、三一一	一九四	二四八	三、九二六	四、三六八
前月比	增 五五七	增 七六	增 五六	增 一四三	減 二七五	增 三二	增 三二	增 二四七	增 二八二
同月比	增 七八	增 二一	增 一九	增 一	增 四一	增 七	增 四	增 四〇	增 三七
對年比									
三月									
合計	一〇、七〇一	一、一一〇	四八〇	四、六五三	六、二四三	一九五	二四九	四、〇一四	四、四五八
前月比	增 五四七	增 七六	減 四六	減 九一	減 二一三	增 二	增 三一	增 三〇一	增 三三四
同月比	增 二二	增 一	減 六	減 六三	減 六八	增 一	增 一	增 八八	增 九〇
對年比									

	總數	有保證金新聞紙 日刊	有保證金新聞紙 月四回以上	有保證金新聞紙 月三回以下	有保證金新聞紙 計	無保證金新聞紙 日刊	無保證金新聞紙 月四回以上	無保證金新聞紙 月三回以下	無保證金新聞紙 計
四月									
合計	一〇、六七五	一、一一〇	四八一	四、六五〇	六、二四一	二〇一	二五〇	四、〇七三	四、五二四
前月比	增 六三一	增減ナシ	增 五〇	減 一一一	增 二三八	增 九	增 二三	增 三六一	增 三九三
同月比	增 六四	增 七七	增 四四	增 三	減 二	增 六	增 一	增 五九	增 六六
對年比									
五月									
合計	一〇、七三三	一、一一四	四八三	四、六五三	六、二五〇	一九九	二四五	四、〇三九	四、四八三
前月比	減 六七八	增 七四	增 五〇	增 九九	增 一一	減 二五	減 五	減 三四	減 四五五
同月比	增 三二	增 四	增 二	增 三	減 九	減 二	減 五	減 四一	減 四一九
對年比									
六月									
合計	一〇、六一四	一、一二四	四八五	四、六一六	六、二二五	二〇六	二三五	三、九四八	四、三八九
前月比	減 四五一	增 八一	增 四七	減 七九	減 二〇七	增 一二	增 六	增 二二六	增 二四四
同月比	增 一一九	增 一〇	減 二	減 三七	減 二五	減 七	減 一〇	減 九一	減 九四
對年比									

七月

總數	有保證金新聞紙 日刊	有保證金新聞紙 月四回以上	有保證金新聞紙 月三回以下	有保證金新聞紙 計	無保證金新聞紙 日刊	無保證金新聞紙 月四回以上	無保證金新聞紙 月三回以下	無保證金新聞紙 計
一〇、七一一	一、一一七	四九四	四、六四五	六、二五六	二〇二	二三二	四、〇二一	四、四五五
前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減
四二七	六六	五一	七四	一九一	一一	三	二二八	二三六
對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減
九七	七	九	二九	三一	四	三	七三	六六

八月

總數	有保證金新聞紙 日刊	有保證金新聞紙 月四回以上	有保證金新聞紙 月三回以下	有保證金新聞紙 計	無保證金新聞紙 日刊	無保證金新聞紙 月四回以上	無保證金新聞紙 月三回以下	無保證金新聞紙 計
一〇、六五五	一、一一六	四八四	四、六一九	六、二一九	二〇四	二三四	三、九九八	四、四三六
前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減
五六二	六一	一〇	二六	三七	二	二	二三	一九
對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減
一三八	一〇	三八	一三	一〇	一一	四	一一八	一二四

九月

總數	有保證金新聞紙 日刊	有保證金新聞紙 月四回以上	有保證金新聞紙 月三回以下	有保證金新聞紙 計	無保證金新聞紙 日刊	無保證金新聞紙 月四回以上	無保證金新聞紙 月三回以下	無保證金新聞紙 計
一〇、七九八	一、一二四	四七一	四、六二六	六、二二一	二〇二	二三六	四、一三九	四、五七七
前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減
一四三	八	一三	七	二	二	二	一四一	一九
對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減
三六三	五三	一七	一	六九	六	五	二九三	二九四

十月

總數	有保證金新聞紙 日刊	有保證金新聞紙 月四回以上	有保證金新聞紙 月三回以下	有保證金新聞紙 計	無保證金新聞紙 日刊	無保證金新聞紙 月四回以上	無保證金新聞紙 月三回以下	無保證金新聞紙 計
一〇、七八四	一、一三六	四六五	四、六一五	六、二一六	二〇二	二二八	四、一三八	四、五六八
前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減
一四	一二	六	一一	五	—	八	八	九
對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減
三八四	五四	一〇五	一三六	八五	八	一〇	三〇一	二九九

十一月

總數	有保證金新聞紙 日刊	有保證金新聞紙 月四回以上	有保證金新聞紙 月三回以下	有保證金新聞紙 計	無保證金新聞紙 日刊	無保證金新聞紙 月四回以上	無保證金新聞紙 月三回以下	無保證金新聞紙 計
一〇、九六〇	一、一三一	四六三	四、六六七	六、二六一	二〇五	四二九	四、〇六五	四、六九九
前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減	前月比 增減
一七六	四五	八	三八	四五	九	一八一	三一四	五〇四
對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減	對年同比 增減
五七九	增	減	增	增	增	增	增	增

十二月

總數	納本誌 普通出版物 雜誌 省略	納本誌 普通出版物 雜誌 非省略	納本誌 官版	前月對比 增減	前年同月對比 增減	本年累計 增減
一〇、二二七	二、〇四四	一、三一四	六、〇五七	一、八七七	二七一	一一二
				三、九六〇	二〇六	三九
				八五、三五七	一四、一一九	九、二九六

單行本府縣別統計表

（昭和七年自一月至十二月）

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
北海道	一六	九	四〇	二三	二三	一七	一八	一九	一九	二二	一六	二九
東京都	九四九	一、一八六	一、三五一	一、三六四	一三一	一、三九	九三三	一、〇七三	一、三九八	一、二九一	一、三六〇	一、二五八
京都	六三	五	四〇	五五	五九	八三	六四	五七	四四	七〇	五六	七五
大阪	九八	九八	一三〇	一四一	一〇一	一〇九	九九	一四五	一六	一六	一九三	一三
神奈川	一五	一〇	一二	一〇	一三	一三	一〇	一三	一八	一三	一八	一三
兵庫	二〇	二九	五九	三三	四二	四〇	二八	三	二八	三五	三〇	三七
長崎	六	四	六	四	五	六	七	六	八	四	五	一〇
新潟	一	五	六	一六	一九	一	七	九	八	七	一〇	一〇
埼玉	四	三	二	三	四	一四	一三	一四	一六	一二	二	一四
群馬	四	五	一三	一九	一四	八	六	八	一三	一六	一三	一四
千葉	七	八	六	一一	六	一〇	一〇	七	六	九	一〇	一四
茨城	五	五	三	五	四	五	四	四	一一	一〇	一三	一四
栃木		三	三	八	九	九	七	六	九	八	七	六
奈良	七	七	九	九	一五	七	一〇	一五	一七	一九	一九	一六
三重	五	六	六	一三	九	一〇	一五	一六	一五	一九	一六	一九
愛知	二六	四〇	三七	四〇	四一	五〇	二九	三六	五一	二八	五七	六八
靜岡	一〇	一五	二四	一四	九	二五	二〇	一三	八	一〇	一六	一九
山梨	一〇	六	六	五	七	七	六	一一	五	四	七	七
滋賀	四	一	四	三	四	三	三	一三	一二	七	一五	一二
岐阜	三	一〇	一〇	一五	一四	一二	一三	一七	一二	一五	一三	一三
長野	一〇	一一	一六	一六	一八	一七	一三	一七	一九	一七	一九	二三
宮城	六	四	二四	二	一三	一一	七	六	五	一〇	一四	一三
福島	七	二	六	七	二	二八	二	一	一二	五	五	八
岩手	七	二	六	七	三	二	二	一	一	二	一	五
青森	五	三	二	一	四	六	四	四	三	一三	三	三
山形	三	四	五	三	三	四	五	二	二	五	四	五
秋田	二	二	一	四	六	一	二	二	二	二	三	三
福井	四	六	一	一〇	四	一	五	六	四	四	一	一
石川	四	八	八	四	七	一四	一一	一四	一一	四	一四	一三
富山	四	四	五	五	五	五	一四	一四	一〇	一七	一九	一九
鳥取	五	四	六	一〇	五	五	五	五	一三	一〇	一〇	一三
島根	六	一三	一三	六	六	六	七	一三	一三	一一	一二	一三
岡山	六	一三	一五	一五	一五	五	七	一四	一五	一五	一四	一三
廣島	八	一五	一四	一三	一四	一六	一六	一四	一八	一三	一九	一八
山口	一四	一四	一三	九	一〇	一〇	一〇	一二	一五	一一	一九	一八
和歌山	一四	一二	一一	一〇	一三	一三	一三	一三	一二	一五	一九	二九
徳島	五	三	四	二	二	七	七	七	九	一三	一六	九
香川	四	七	七	一二	一二	一六	一六	一三	一四	一二	一三	一三
愛媛	一〇	五	七	五	一五	一六	一〇	一六	一五	一五	一九	一八
高知	二	二	二	一五	九	二四	二	一四	一九	一〇	五八	一九
福岡	一六	一七	一三	一六	二四	二七	一七	一七	二三	二〇	二三	二八
大分	三	五	一〇	三	一一	四	五	一四	六	一五	一六	一七
佐賀	二	二	四	四	五	二	五	一一	一五	一〇	一三	一三
熊本	七	八	二	五	六	二七	五	一四	一八	一七	二二	一三
宮崎		三	二	九	三	一	一	六	三	一〇	一五	一三
鹿兒島	三	二	三	三	六	一	一	二	二	一	二	二
沖繩	一	一		一	一	一	一	一	一	一	一	一
發行地不明	五	五	二	五	八	五	四	六	五	七	二	三
計	一、四三六	一、六九一	一、八五九	一、八四九	一、九六五	一、八六〇	一、五四八	一、六四一	二、〇〇三	二、〇四〇	二、一三八	二、〇四四

昭和七年の出版物發行數は合計貳萬貳千百〇四種である。

官營印刷工場機構一覽表

機械種別		活版之部 輪轉機械 菊二倍版（A四版）	菊二倍版	四六全版	特殊四六全版	四六半截	葉書印刷機械（ポッター）	同（フインベル）	凸版四六半截四色版	郵便切手及印刷機械
閣局	内印刷	四	一				四	一	八	四
局	專賣									
局場	東京鐵道工刷					一				
省場	印刷道工			一						
局場	東京市電氣工刷									
部場	陸地測量工刷									
省場	外務工刷									
部	水路									
部場	海軍艦政本工刷									
局場	商工省貿易工刷									
局場	特許工刷									
局場	東京稅務監督工刷									
局場	貯金工刷				一					
課室	簡易保險局調査技度									
課場	逓信省經理局監査工刷				二					
省場	宮內工刷									
合計		四	一	一	三	一	四	一	八	四

機械種別		活版之部 ロータリーマシン 四六全版 自働	四六全版 手差	菊全版 自働	菊全版 手差	四六半截	菊半截	四六四截	菊四截	四六八截	フートプレス ヴクトリヤ型 自働	ヴクトリヤ型 手差	普通型 美濃版	普通型 美濃半截版	普通型 半紙版	ハンドプレス 美濃版	美濃半截版	半紙版	雜 乘車券印刷機械	ライノタイプ
閣局	内印刷			一〇	一〇							五								二
局	專賣																			
局場	東京鐵道工刷					四		一											三	
省場	印刷道工						五		五											
局場	東京市電氣工刷						三		三									一		
部場	陸地測量工刷												三							
省場	外務工刷																			
部	水路																			
部場	海軍艦政本工刷																			
局場	商工省貿易工刷																			
局場	特許工刷																			
局場	東京稅務監督工刷																			
局場	貯金工刷																			
課室	簡易保險局調査技度																			
課場	逓信省經理局監査工刷																			
省場	宮內工刷																			
合計		一	二	一〇	一〇	四	一	一	一	一	二	六	七	二	三	三	四	一	二三	四

| 活版之部 | | |

| | 平版之部 | | |

東京鐵道局印刷工場（一、電報用紙並荷物發送通知書其他小物　一、新橋運輸事務所報（日刊）千八百部　一、局報（日刊）五千二百部　一、乘車券印刷枚數年二億枚内二千萬枚ヲ民間會社分ヲ引受ク）

鐵道省印刷工場（一、公報（日刊）一萬八千部　一、荷物彙報（日刊）六千部　一、其他小物）

東京市電氣局印刷工場（一、生産額二十一萬圓、インキ使用料四千圓　一、普通印刷物五萬圓　一、乘車券十六萬圓）

陸地測量部印刷工場（一、陸軍用地圖及陸軍省内一部印刷物　一、公報）

外務省印刷工場（一、公報　一、外務省關係印刷物一切）

水路部（一、海軍省用海圖及海軍及水路部關係印刷物　一、一年用紙二百噸使用　一、豫算ハ用紙一封度十三錢五厘ノ割一、用紙ハ印刷局及三菱製紙ヨリ買入）

海軍艦政本部印刷工場（一、海軍關係印刷物ヲ全部印刷外部ヘ出サス　一、一年約四百噸ノ用紙使用　一、公報）

商工省貿易局印刷工場（一、公報　一、貿易統計書　一、其他小物印刷物）

特許局印刷工場（一、豫算十六萬圓　一、定期刊行物五十八種類　一、用紙使用月八百噸）

東京税務監督局印刷工場（一、一週一回ノ局報百三十部　一、年二期ニ經濟雜誌三百部　一、其他局内税務關係印刷物）

貯金局印刷工場（一、局報　一、貯金帳　一、臺帳　一、局内小物印刷物）

簡易保險局調査課用度技工室（一、局報　一、證券　一、臺帳　一、證券用袋　一、局内小物印刷物）

遞信省經理局監査課印刷工場（一、公報　一、電報用紙　一、振替貯金用紙　一、其他小物）

宮内省印刷工場（一、省内小物印刷　一、公報）

東京書籍商組合規約

東京市神田區駿河臺一ノ二
（電話神田八五四番）

第一章　總　則
第二章　組　合　員
第三章　役　員
第四章　會　議
第五章　會　計
第六章　營　造　物
第七章　制　裁
第八章　規約及規程ノ變更
第九章　附　則

第一章　總　則

第一條　本組合は東京市内ニ營業所ヲ有シ圖書ノ出版又ハ販賣ヲ業トスル者ヲ以テ組織ス

第二條　本組合ハ東京書籍商組合ト稱シ事務所ヲ東京市ニ置ク

第三條　本組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ斯業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第四條　本組合ノ目的ヲ達センカ爲メ左ノ事項ヲ執行ス

一　圖書ノ出版及販賣ニ關スル利害得失ヲ調査研究シ其ノ改善ヲ圖ルコト

二　本組合ノ機關雜誌、圖書目錄、書籍商名簿其ノ他ニ必要ナル圖書ヲ發行スルコト

三　組合員出版圖書ノ大市會ヲ開催スルコト

四　圖書ノ出版及販賣ニ關スル法令ノ制定及改廢ニ關シ官廳若クハ議會其ノ他ニ意見ヲ開申シ又ハ請願スルコト

五　組合員ノ從業者ヲ表彰スルコト

六　組合員間ノ營業上ノ紛議ヲ調停スルコト

七　全國書籍商組合聯合會ニ加入スルコト

八　前各號ノ外本組合ノ目的ヲ達スルニ必要ト認ムル事項

第二章　組　合　員

第五條　本組合ニ加入セントスル者ハ本組合所定ノ用紙ニ其ノ營業所、商號、氏名、年齢及業別（出版、販賣）ヲ記シ加入金五拾圓ヲ添ヘ紹介者タル組合員二人ノ連署ヲ以テ申込ムヘシ但紹介者ノ一人ハ評議員タルコトヲ要ス

分店、支店、出張所等ハ各別ニ加入スヘキモノトス

本組合從業者表彰規程ニ依リ表彰セラレタル者ハ加入金ヲ要セス但一旦脱退シタル者又ハ本條第二項ノ規程ニ依リ加入スル者ハ此限ニアラス

第六條　本組合ハ加入申込者ニ對シ評議員ノ互選ヲ以テ定メタル調査委員十人ニ審査セシメ評議員會ノ決議ヲ以テ其ノ許否ヲ定ム

加入ノ許可ハ其ノ通知ノ到達ニ因リテ效力ヲ生ス

第七條　組合加入ノ許可ヲ與ヘタル後ト雖加入ヲ許可スヘカラサル事由ノ存スルコトヲ發見シタルトキハ評議員會ノ決議ヲ以テ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第八條　左ノ各號ニ該當スル者ハ本組合ニ加入スルコトヲ得ス

一　露店若クハ道路ニ於テ圖書ノ販賣ヲ營ム者

二　專ラ戸々ニ就キ圖書ノ行商ヲ營ム者

三　官衙學校及病院ノ構内ニ設ケタル營業所ニ於テ圖書ノ販賣ヲ營ム者

第九條　組合員ハ左記各號ノ場合ニ於テハ之ヲ本組合ニ屆出テ其ノ承認ヲ經ヘシ

一　營業所ノ移轉

二　出版業者ニシテ販賣業ヲ營マントスルトキ

三　販賣業者ニシテ出版業ヲ營マントスルトキ

第十條　組合員ハ左記各號ノ場合ニ於テハ七日以内ニ之ヲ本組合ニ屆出ツヘシ

一　氏名若クハ商號ノ變更

二　商號ノ併用若クハ廢止

三　廢業

第十一條　組合員ハ組合ノ經費トシテ月費五十錢ヲ負擔ス

第十二條　組合員ハ其ノ出版又ハ專賣ノ圖書ニ定價ヲ記載スヘシ

第十三條　組合員ハ卸取引ノ外總テ圖書ハ定價ヲ以テ販賣スヘシ

第十四條　組合員ハ本組合及各地書籍商組合ノ組合員ニアラサル者ト卸取引ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條　前三條ノ規定ニ付テハ別ニ販賣規程ヲ以テ細則ヲ定ム

第十六條　組合員ニ對シ取引上ノ義務ヲ履行セサル者アルトキハ別ニ定メタル取引規程ニ依リ之ヲ處分ス

第十七條　組合員間ニアリテハ既ニ組合員カ圖書ノ出版ニ關シテ有スル發行販賣ノ利益ヲ侵害スヘカラス

組合員カ新タニ出版セントスル圖書ニツキ既ニ組合員ト其ノ著作者若クハ藏版者トノ間ニ出版若クハ專賣ノ契約ヲ締結セル場合ニ於テハ豫メ前約者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第十八條　組合員間ニアリテハ現ニ組合員ノ使用スル商號ト同一ノ商號ヲ用フルコトヲ得ス其ノ著シク相類似スルカ爲メニ取引上紛雜ヲ來タスノ虞アルモノニツキ亦同シ但先用者ノ承諾ヲ得タルトキハ此限ニアラス

第十九條　組合員ニシテ本組合ニ特ニ功勞アリタル者ハ之ヲ表彰スル事アルヘシ

第二十條　組合員ハ自己ニ關スル件ニ付組合ヨリ出頭ヲ求メタルトキハ故ナク之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十一條　組合員タル資格ハ其ノ相續人若クハ法律上ノ家族ニ於テ營業ヲ繼續スル場合ニ限リ之ヲ承繼スルコトヲ得

個人若クハ法人ノ營業ヲ個人若クハ法人ニ於テ讓受ケタル場合及法人ノ組織ヲ變更シ又ハ合併新設アリタル場合ニハ總テ新タニ加入ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス但評議員會ニ於テ特別ノ事情アリト認メタル者ニ限リ加入金ヲ免除スル事ヲ得

第二十二條　組合員ハ左ノ事由ニ因リテ其ノ資格ヲ喪失ス

一　任意ノ脫退

二　廢業又ハ營業ノ全部讓渡

三　營業所ノ組合地域外移轉

四　死亡若クハ法人ノ解散

五　破産

六　除名

第二十三條　組合員ニシテ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ之ニ對シ財産ノ分配並ニ加入金ノ返還ヲ爲サス

第三章　役員

第二十四條　本組合員中ヨリ評議員五十人ヲ選出ス

評議員ハ互選ヲ以テ組長一人副組長二人ヲ定ム

評議員ハ互選ヲ以テ會計主任二人ヲ定ム

評議員ハ互選ヲ以テ全國書籍商組合聯合會代表議員十人ヲ定ム

第二十五條　評議員ノ選擧ハ總會ニ於テ無記名連記投票ニ依リテ之ヲ行フ

有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トシ得票同數ナル者ノ間ニアリテハ年長者ヲ取リ年齡ニ依リテ決定シ難キ者ノ間ニアリテハ選擧委員會ニ於テ選擧長抽籤ニ依リテ當選者ヲ定ム

第二十六條　評議員ノ選擧ハ總會ノ議長ヲ以テ選擧長トス

選擧長ハ總會ニ於テ選任セラレタル選擧委員二十人ト共ニ投票ヲ管理ス

投票終リタルトキハ選擧長ハ選擧委員會ヲ開キ開票、審査及當選ノ決定ヲ爲ス

第二十七條　評議員ノ選擧ハ代人ヲ以テ投票スルコトヲ得ス

投票用紙ハ選擧ノ當日會場ニ於テ之ヲ交付ス

第二十八條　左ノ各號ニ該當スル投票ハ無效トス但第二號ノ場合ニ於テハ其ノ資格アル者ヲ有效トス

一　所定ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二　被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三　被選人以外ノ事項ヲ記シタルモノ

第二十九條　本組合ニ特ニ功勞アリタル者ハ評議員會ノ決議ヲ經テ總會ニ於テ名譽評議員ニ推薦スルコトヲ得名譽評議員ハ終身トシ其ノ職務權限ハ評議員ニ同シ

第三十條　評議員ノ任期ハ一箇年トス

第三十一條　評議員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ辭任スルコトヲ得ス

第三十二條　評議員ニ十人以上ノ缺員ヲ生シタルトキハ臨時總會ヲ開キ補缺選擧ヲ行フ

補缺評議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期トス

第三十三條　評議員ハ無報酬トス但功勞アリタル者若クハ繁劇ノ事務ヲ處理シタル者ニ對シテハ評議員會ノ決議ヲ經テ表彰若クハ謝禮ヲ爲スコトヲ得

第三十四條　役員ノ職務權限左ノ如シ

一　組長ハ本組合ヲ代表シ組合全般ノ事務ヲ統轄ス

二　副組長ハ組長ヲ補佐シ組長事故アルトキハ之ヲ代理ス

三　會計主任ハ會計ニ關スル事務ヲ掌理ス

四　評議員ハ諸般ノ議案ヲ審議シ且規約第四條各號ノ事務ヲ分掌ス

第三十五條　評議員會ハ其ノ決議ニ依リ必要ノ規程又ハ細則ヲ定ムルコトヲ得但組合員共通ノ利害ニ重大ナルモノハ特ニ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第三十六條　組長ハ評議員會ノ決議ヲ經テ事務員ヲ任免ス

第四章　會　議

第三十七條　會議ヲ分テ左ノ三種トス

一　定時總會

二　臨時總會

三　評議員會

第三十八條　定時總會ハ毎年一月之ヲ開キ左ノ事項ヲ付議ス

一　前年度ノ庶務、收支決算及財產目錄ノ報告

二　歲入出ノ豫算案

三　前各號ノ外豫メ組長ヨリ提案シタル事項

第三十九條　臨時總會ハ評議員會ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ組合員總數十分ノ一以上ノ同意ニ依リ其ノ目的事項ヲ明示シテ組長ニ請求アリタルトキ之ヲ開ク

第四十條　總會ヲ招集スルトキハ開會七日前組長ヨリ會議ノ目的タル事項日時及場所ヲ組合員ニ通知スヘシ但急速ヲ要スル場合ニ於テハ通知期間ヲ短縮スルコトヲ得

總會ニ於テハ豫メ組長ヨリ通知シタル事項ノ外議スルコトヲ得ス

第四十一條　評議員會ハ毎月一回之ヲ開クモノトシ組長之ヲ招集ス

組長ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時ニ評議員會ヲ開クコトヲ得

評議員會ハ評議員半數以上ノ出席ヲ以テ成立ス

第四十二條　會議ノ議長ハ組長之ニ當ル組長事故アルトキハ副組長之ヲ代理シ組長副組長事故アルトキハ評議員ノ互選ヲ以テ代理者ヲ定ム

第四十三條　組合員ハ總會ニ於テ發言及表決ノ權ヲ有ス但會議ノ事項ニ關シ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ會議ニ列スルコトヲ得ス

第四十四條　會議ハ本規約ニ特別ノ規定アル場合ノ外出席員過半數ヲ以テ其ノ可否ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第四十五條　會議中議場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ議長之ヲ制止シ其ノ制止ニ從ハサル者ハ之ニ退場ヲ命スルコトヲ得

第五章　會　計

第四十六條　組合ノ經費ハ月費、加入金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第四十七條　緊急ノ場合ニ際シ臨時支出ヲ要スルトキハ評議員會ノ決議ヲ經テ支辨スルコトヲ得

第四十八條　組合ノ基金及收入金ハ評議員會ニ於テ定メタル銀行ニ寄託ス

第四十九條　組合ノ會計年度ハ曆年ニ依ル

第六章　營造物

第五十條　組合ハ必要ナル營造物ヲ所有スルコトヲ得

第五十一條　營造物ハ評議員會ニ於テ選定シタル管理者ヲ以テ之ヲ管理セシム

第五十二條　營造物ハ事務ニ妨ケナキ限リ之ヲ貸與スルコトヲ得

第七章　制　裁

第五十三條　組合員ニシテ本規約及附屬規程ニ違背シタル者ハ評議員會ノ決議ニ依リ左ノ制裁ヲ加フ

一　戒　告

二　違約料

三　除　名

第五十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ戒告若クハ壹千圓以下ノ違約料ニ處ス

一　第五條第二項、第九條、第十二條、第十四條、第十七條、第二十條ノ規定ニ違背シタル者

二　販賣規程第二條乃至第六條ノ規定ニ違背シタル者

三　取引規程第十一條ノ規定ニ違背シタル者

四　虛僞ノ申告ヲ爲シ其ノ他組合員ノ信用ヲ毀損シタル者

第五十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ除名ニ處ス

一　月費ノ滯納六ケ月ニ亘ル者

二　違約料ノ徵收ニ應セサル者

三　三年以內ニ取引停止若クハ違約料ニ處セラルルコト通シテ五回ニ及ヒタル者

四　本組合ノ體面ヲ汚損シタル者

第五十六條　除名ニ處セラレタル者改悛ノ實アリト認メタルトキハ更ニ加入ヲ許スコトアルヘシ

第八章　規約及規程ノ變更

第五十七條　本規約及特ニ總會ノ決議ヲ經タル規程ハ總會ノ決議ニ依ルニアラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第五十八條　本規約及特ニ總會ノ決議ヲ經タル規程ノ變更ヲ議スヘキ總會ニアリテハ出席者ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可否ヲ決ス

第九章　附　則

第五十九條　本規約施行前ニ制定セラレタル商號使用規程、取引帳簿取扱規程、圖書大市會規程及圖書出版研究會々則ハ之ヲ廢止ス

第六十條　本規約ハ昭和六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

東京書籍商組合評議員

神田區通神保町六(電神三〇八七)　組長　光風館　上原才一郎
日本橋區室町四ノ五(電日三六二六)副組長　寶文館　大葉　久吉
麴町區飯田町三ノ六二(電九段二四三八)同　つるや書房　岸　他丑
麴町區麴町三ノ二(電九段三七一七)　日本書院　福田滋次郎
神田區岩本町二二二(電浪四五九六)　天分社　石村　菊次
同　通神保町五(電神一三九九)　稻垣書店　稻垣　近義
同　錦町三ノ一八(電神三〇六〇)　東京堂　大野　孫平
同　通神保町一(電神一二五八)　三省堂　龜井　豐治
同　南神保町一〇(電九段七一)　北澤書店　北澤彌三郎
同　表神保町二(電神三一八九)　栗田書店　栗田　確也
同　通神保町五(電神七五)　一誠堂書店　酒井　宇吉
神田區今川小路一ノ四(電九段四五六)精華書房　式　正次
同　通神保町六(電神一三三八)　高岡書店　高岡安太郎
同　仲町二ノ六(電下五九五)　辰文館　中島卯三郎
同　通神保町一(電神一二六)　學習社　西村辰五郎
同　中猿樂町一(電九段三六一)　巖松堂波多野重太郎
同　駿河臺三ノ一(電神一〇五九)　目黑書店　目黑　甚七
日本橋區通三ノ五(電日三〇八八)　青野書店　青野友三郎
同　大傳馬町一ノ二(電浪五九〇七)　淺見文林堂　淺見　四郎
同　通三ノ五(電日六八四)　明文館　飯島竹次郎
同　本町四ノ二(電浪五三三五)　文盛堂書店　榊原　友吉
同　通二ノ五(電日二四九〇)　大東館　長井庄一郎
同　本町三ノ九(電日三〇三)　博文館　吉谷　專吉
日本橋區通二ノ六(電日二二二)　丸　善　山崎　信興
同　元柳町八(電浪一五五五)　新明堂　山本芳之助
京橋區銀座西六ノ二(電銀五五二一)　東海堂　國領友太郎
同　京橋二ノ七(電京一六四七)　中川文林堂　中川治三郎
同　銀座西五ノ五(電銀一七八八)　北隆館　福田金次郎
麻布區新堀町一一(電高三九六九)　小川書店　小川　勝藏
四谷區忍町二〇(電四谷三六五九)　文展堂　相川　治平
同　新宿三ノ二八(電四谷三四)　池田屋書店　池田　定
同　傳馬町三ノ二三(電四谷三三一三)宮子書店　宮子　音吉
牛込區天神町一(電牛六九四)　積文堂　鈴木　銀一
本郷區本富士町二　(電小三七〇七)　文光堂　淺井光之助
同　森川町七一(電小三七四八)　大橋書店　大橋　信一
同　湯島天神町三ノ三　丸屋書店　堀內德太郎
下谷區坂本町三ノ三五(電下四七三七)　市川博進堂　市川松之輔
淺草區仲見世東八二號(電淺六五五〇)　清水屋　伊藤　貫一
淺草區向柳原町一ノ一六(電淺二六五五)信明堂　土屋　右近
本所區龜澤町一ノ二一(電墨三六二八)　杉本翰香堂　松崎善太郎
同　業平橋一ノ五(電墨三六八九)　塚越商店　塚越郁四郎
品川區南品川二ノ一八〇(電高四六一呼)　城南堂　土屋　宏
大森區入新井四ノ八三六(電大森一九七六)眞文堂書店　櫻井作太郎
同　新井宿三ノ一三八七(電大森七一〇)　正美堂　平林　正男
淀谷區上通三ノ一三(電青一〇一四)　成蹊堂　中山　軍治
淀橋區角筈二ノ三七(電四谷一七三三)　本間三陽堂　本間　龍藏
杉並區高圓寺七ノ九七四(電中三三四)湘南堂　小澤作次郎
豐島區巢鴨二ノ五(電大塚五五五)　文川堂　川合初太郎
同　目白町三ノ一七二(電大塚三九一三)目白書房　常田　正治
江戸川區逆井一ノ九四　酉元堂本店　丸山　常藏

名譽評議員

麴町區上六番町四三(電九段四二一)　大橋新太郎
日本橋區南茅場町二二一(電茅四一五)　大倉保五郎

全國書籍商組合聯合會規約

東京市神田區駿河臺一ノ二
(電話神田八五四番)

第一章　總　則

第一條　本會ハ全國書籍商組合ヲ以テ組織ス

第二條　本會ハ全國ノ書籍商組合ヲ以ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ東京市神田區

駿河臺一丁目二番地ニ置ク

第二章　目　的

第四條　本會ハ圖書ノ定價販賣ヲ勵行シ營業上ノ利害得失ヲ研究シ文化ノ普及ト斯業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三章　會　員

第五條　各府縣、北海道、臺灣、朝鮮滿洲、樺太ヲ一組合ノ區域トス但左記ノ六市ハ各特別一區域トナスコトヲ得

東京市、大阪市、京都市、横濱市、神戸市、名古屋市

地方ノ事情ニ依リ數區域ヲ併合シテ一組合ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ一區域毎ニ代表議員一人ヲ選出スルコトヲ得

第六條　各組合ハ左記ノ代表議員ヲ選出スルモノトス

各府縣、北海道、臺灣、朝鮮、滿洲　各一人
樺太　一人

東京市　十人
大阪市　三人
京都市　二人
横濱市、神戸市、名古屋市　各一人
新潟縣、福岡縣、北海道ハ尙一人ヲ增員スルコトヲ得

第七條　各組合ハ其ノ規約及附屬規程ヲ本會ニ提出シ承認ヲ經ヘシ其ノ變更シタル場合亦同シ

第八條　各組合員ハ組合ニ加入セサル同業者ト商取引ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　各組合ハ其ノ組合員ノ異動アリタルトキハ直ニ本會ニ報告スヘシ

第十條　各組合ハ其ノ組合ニ加入ノ申込ヲ爲シタル者ニ對シ正當ノ理由ナクシテ其ノ加入ヲ拒ミ又ハ加入ノ許否ヲ遷延スルコトヲ得ス

加入ヲ拒ミ又ハ加入ノ許否ヲ遷延シタル場合ハ本會ハ其ノ理由書ヲ提出セシメ又ハ其ノ加入ヲ許スコトヲ催告スルコトアルヘシ

第十一條　各組合ニ於テ組合員ヲ違約處分ニ付シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ之ヲ本會ニ報告スヘシ

前項ノ報告アリタルトキハ本會ハ常任幹事會ニ於テ之ヲ調査シ其ノ處分ヲ適當ナリト認メタルトキハ取引停止又ハ除名處分ニ限リ直ニ各組合ニ通知スルモノトス

第十二條　前條第二項ノ通知アリタルトキハ組合員ハ其ノ違背者ニ對シ解除ノ通知アルマテ商取引ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　本會ヨリ通知シタル要件ハ各組合ハ其ノ組合員ニ通知スヘシ

第十四條　各組合ハ新加入者ニ對スル加入金ハ五拾圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第十五條　本會ハ組合間又ハ組合ト組合員トノ間ニ起リタル營業上ニ關スル紛議ヲ調停スルコトアルヘシ

第四章　會　議

第十六條　會議ヲ分チテ左ノ四種トス

一、定時總會
二、臨時總會
三、常任幹事會
四、幹事會

第十七條　定時總會ハ毎年十月東京ニ於テ之ヲ開キ左ノ事項ヲ付議ス

一、前年度庶務、收支決算及財産目錄ノ報告
二、收支ノ豫算案
三、前各號ノ外豫メ會長ヨリ發案シタル事項

第十八條　總會ハ各組合ノ代表議員ヲ以テ組織シ議決權ハ一人一箇トス

第十九條　出席議員ニシテ各組合ノ正副組長ニアラサル者ハ組長ノ證明ヲ要ス但役員ニ限ル

第二十條　會長ハ必要ト認メタルトキハ臨時總會ヲ開クコトヲ得

第二十一條　總會開會ノ通知ハ十四日前ニ會長ヨリ之ヲ發ス但緊急ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第二十二條　常任幹事會ハ毎月一回以上之ヲ開キ幹事會ハ必要ニ依リ之ヲ開ク

第二十三條　各組合ノ建議案ハ幹事會ニ於テ審議シ總會ニ提出ノ可否ヲ決ス

第二十四條　會議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第二十五條　總會ニ於テ當該問題ニ利害關係ヲ有スル出席議員ハ其ノ會議ニ列スルコトヲ得ス

第五章　役　員

第二十六條　本會ニ左記役員ヲ置ク其ノ任期ハ三ケ年トス

會長　一人
副會長　一人
幹事　十八人

第二十七條　幹事中八人ヲ東京ヨリ選出シ之ヲ常任幹事トス

第二十八條　役員ノ選擧ハ定時總會ニ於テ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

第二十九條　役員ニ缺員ヲ生シタルトキハ次期ノ總會ニ於テ其ノ補缺選擧ヲ行フ但其ノ任期ハ前任者ノ殘任期トス

第三十條　會議ハ總テ會長ヲ以テ議長トシ會長事故アルトキハ副會長之ニ代リ會長副會長事故アルトキハ幹事之ニ代ル

第三十一條　會長ハ會務ヲ總理シ役員選擧ノ場合ハ選擧長トナル副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

常任幹事會ハ諸般ノ事項ヲ審議シ會務ヲ處理ス

幹事會ハ會長ノ�問事項ヲ審議ス

第三十二條　會長ハ常任幹事會ノ決議ヲ經テ會務執行ニ必要ナル附屬規程ヲ設クルコトヲ得

第三十三條　本會ハ常任幹事會ノ協議

ヲ經テ事務員若干人ヲ置ク

第三十四條　役員ハ總テ無報酬トス但實費ヲ支辨ス

第六章　會　計

第三十五條　本會ノ會計年度ハ十月一日ヨリ翌年九月末日迄トス會計主任ハ常任幹事ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條　本會ノ經費ハ代表議員ノ一人ヲ一箇トシ均一ニ負擔スルモノトス

第三十七條　豫算外ノ支出ニシテ緊急ヲ要スル場合ハ常任幹事會ノ決議ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第七章　制　裁

第三十八條　各組合ニシテ本規約ニ違背シ又ハ總會ノ決議ニ服從セサル場合ハ總會ノ決議ヲ以テ左ノ處分ヲナス

一、戒　告

二、千圓以下ノ違約料

第三十九條　各組合ニシテ前條ノ制裁ニ應セサルモノハ除名ス

第四十條　本規約ハ總會ノ決議ニアラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

附　則

第四十一條　本規約ハ昭和六年十月十一日ヨリ之ヲ施行ス

聯合會常任幹事

會長	目黑　甚七	同　亀井　豐治
副會長	上原才一郎	同　山崎　信興
常任幹事	大葉　久吉	同　大野　孫平
同	岸　他丑	同　塚越郁四郎
同	大倉保五郎	同　淺井光之助

東京出版協會規約

東京市神田區小川町三ノ八
（電話神田九三〇番）

第一章　總　則

第一條　本會ハ東京出版協會ト稱シ事務所ヲ東京市ニ置ク

第二條　本會ハ東京市ニ營業所ヲ有スル圖書出版業者ヲ以テ之ヲ組織シ共同ノ利益ヲ增進シ斯業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條　本會ハ會員相互ノ和親ヲ敦ク

第四條　本會ノ目的ヲ達スル爲メ諸般ノ事項ヲ調査シ必要ト認ムル事業ヲ經營ス

第五條　本會ハ協議員會ノ決議ニ依リテ別ニ必要ナル各種ノ規程ヲ制定スルコトヲ得但シ其ノ規程ニシテ會員共通ノ利害ニ重大ナル影響アルヘキモノハ特ニ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第二章　會　員

第六條　本會ニ加入セントスル者ハ本會所定ノ申込用紙ニ本人ノ氏名商號營業所ノ所在地及開業ノ時期其ノ他必要ノ事項ヲ記載シ紹介者タル會員ノ連署ヲ得テ之ヲ本會ニ提出スヘシ

第七條　加入ノ申込アリタルトキハ協議員會ノ決議ニ依リテ其ノ許否ヲ決ス

第八條　本會ニ加入スル者ハ加入金三十圓ヲ本會ニ納付スルコトヲ要ス

第九條　會員ハ平等ニ會費ヲ負擔ス會費ノ額ハ總會ノ決議ニ依リテ之ヲ定ム

第十條　會員其ノ營業所ヲ移轉シ又ハ氏名若クハ商號ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク之ヲ本會ニ屆出ツルコトヲ要ス

第十一條　會員ハ左ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ喪失ス

一　住意ノ退會
二　出版業務ノ廢止
三　營業所ノ地域外移轉
四　死亡
五　法人ノ解散
六　破産
七　除名

前項第四號ノ場合及會員カ隱居ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ相續人カ營業ヲ繼續スルトキニ限リ會員タル資格ヲ承繼スルコトヲ得

第十二條　前條ノ規定ニ依リテ會員タル資格ヲ喪失シタル者ハ本會ニ對シ財産ノ分配若クハ加入金ノ返還ヲ請求スルノ權利ヲ有スルコトナシ

第三章　役　員

第十三條　本會ニ協議員二十五人ヲ置ク

第十四條　協議員ハ會員中ヨリ總會ニ於テ無記名投票ニ依リテ之ヲ選擧ス有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トシ得票同數ナル者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ取リ年齡ニ依リテ決定シ難キ者ノ間ニ在リテハ選擧委員會ニ於テ選擧長抽籤シテ之ヲ定ム

第十五條　協議員ノ選擧ハ總會ノ議長ヲ以テ選擧長トス

選擧長ハ總會ニ於テ選任セラレタル選擧委員十人ト共ニ投票ヲ管理ス投票終リタルトキハ選擧長ハ選擧委員會ヲ開キ開票、審査及當選ノ決定ヲ爲ス

第十六條　協議員選擧ノ投票ハ會員一人每ニ一票ヲ限リ協議員ノ定數以下ノ被選人ヲ連記スルコトヲ得

總會ノ招集通知書ニ添附セラレタル會員名刺ヲ提出シタル者ヲ以テ會員ト看做ス

第十七條　投票ノ用紙ハ本會ヨリ之ヲ交付ス

第十八條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　所定ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二　被選人以外ノ事項ヲ記載シタルモノ

第十九條　投票ニ會員ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シ又ハ被選人ノ何人タルカヲ確認シ難キ字句ヲ記載シタルモノアルトキハ其ノ部分ヲ無效トス

第二十條　協議員ノ任期ハ二年トス但シ次ノ總選擧ヲ行フヘキ總會招集ノ便宜ニ因リ新ニ當選シタル協議員ノ就任スル迄ノ間任期ヲ延長スルコトヲ妨ケス

協議員ニ缺員ヲ生シタルトキハ補缺選擧ヲ行フコトヲ得

協議員ニ五人以上ノ缺員ヲ生シタルトキハ補缺選擧ヲ行フコトヲ要ス但シ前任者ノ殘任期六ケ月以内ニシテ且會務ニ支障ナキ場合ハ協議員會ノ決議ニ依リテ補缺選擧ヲ行ハサルコトヲ得

第二十二條　補缺選擧ニ於ケル投票ニハ選擧ヲ要スル協議員ノ定數以下ノ被選人ヲ連記スルコトヲ得

第二十三條　補缺選擧ニ依リテ當選シタル協議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期トス

第二十四條　協議員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ辭任スルコトヲ得ス

第二十五條　協議員ハ報酬ヲ受クルコトナシ但シ其ノ在任中顯著ナル功勞アリタル者又ハ特ニ劇務ヲ處理シタル者ニ對シテハ協議員會ノ決議ニ依リテ相當ノ謝儀ヲ贈ルコトヲ妨ケス

第二十六條　協議員ハ會長一人及副會長二人ヲ互選ス

第二十七條　會長ハ本會ヲ代表シ全般ノ事務ヲ統轄ス

第二十八條　會長ハ本規約ニ明定スル事務ノ外總テ總會ノ決議及協議員會ノ決議ヲ執行ス

第二十九條　副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第三十條　協議員ハ協議員會ヲ組織シテ各般ノ議案ヲ審議決定スルノ外協議員會ノ委任ニ依リ各自ニ會務ヲ分掌ス

協議員ハ豫メ協議員會ノ承認ヲ得テ相當ノ代理者ヲ定メ代理セシムルコトヲ得

第四章　會議

第三十一條　會議ヲ分テ總會及協議員會ノ二種トス

第三十二條　定時總會ハ毎年一月中ニ之ヲ開ク

定時總會ニ於テハ前年度ノ庶務及會計ノ報告ヲ爲シ且當年度ノ收支豫算ヲ付議スルコトヲ要ス

第三十三條　臨時總會ハ協議員會ニ於テ必要ト認メタルトキハ何時ニテモ之ヲ開クコトヲ得

會員三十人以上ノ同意ニ因リ付議事項ヲ明示シテ臨時總會ヲ招集スヘキコトヲ請求シタルトキハ遲滯ナク之ヲ開クコトヲ要ス

第三十四條　總會ニ於テハ前條第二項ノ場合及本規約ニ依リ總會ニ付議スルコトヲ要スルモノト定メタル場合ノ外協議員會ノ決議ニ依リテ總會ニ付議スヘキ事項ヲ議スルコトヲ得

第三十五條　總會ヲ開クトキハ開會七日前ニ會員ニ對シ付議事項、日時及場所ヲ記載シタル招集通知書ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ急速ヲ要スル事情ノ存スル場合ニ限リ之ヲ二十四時間迄ニ短縮スルコトヲ得

第三十六條　總會ニ於テハ豫メ通知シタル事項ノ外之ヲ議スルコトヲ得ス

第三十七條　總會ノ招集通知書ニ添附セラレタル會員名刺ヲ提出シタル者ニ非サレハ總會ニ於テ發言及表決ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條　協議員會ハ毎月一回之ヲ開ク

會長ニ於テ必要ト認メタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス臨時ニ協議員會ヲ開クコトヲ得

第三十九條　協議員會ニ於テハ本規約又ハ本規約ニ基キテ制定セラレタル各種ノ規程ニ依リ協議員會ノ決議ヲ要スヘキ事項及隨時協議員ノ提案シタル事項ヲ審議決定ス

第四十條　會議ヲ開クトキハ總テ會長之ヲ招集ス

第四十一條　會長ハ會議ノ議長ト爲リ議場ヲ整理ス

會長事故アルトキハ副會長之ニ代リ副會長事故アルトキハ協議員ノ互選ニ依リテ議長ヲ定ム

第四十二條　會議ニ於ケル付議事項ハ本規約ニ特別ノ規定ヲ存スルモノノ外出席者ノ過半數ヲ以テ可否ヲ決ス

付議事項ニ關シテ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第五章　會計及財産ノ管理

第四十三條　本會ノ經費ハ會費及加入金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第四十四條　緊急ノ須用ニ因リ豫算外ノ支出ヲ爲シ又ハ一時借入ヲ爲スノ必要アルトキハ協議員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第四十五條　會計年度ハ曆年ニ依ル

第四十六條　會計ノ事務ハ會計主任ノ管理ニ屬ス

會計主任ハ二人トシ協議員ノ互選ニ依リテ之ヲ定ム

第四十七條　事務ノ便宜ニ因リ通常會計ノ外ニ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第四十八條　本會ノ基本金及收入金ヲ寄託スヘキ銀行ハ協議員會ノ決議ニ依リテ之ヲ定ム

第四十九條　本會ノ有スル主要財産ノ管理ニ付別ニ協議員ノ互選ニ依リテ管理委員ヲ置クコトヲ得

管理委員ノ員數及權限ハ協議員會ノ決議ニ依リテ之ヲ定ム

第六章　制　裁

第五十條　會員ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ハ之ヲ除名ス

一　會費ノ納付ヲ怠ルコト六ケ月以上ニ及ヒタル者

二　過料ノ制裁ヲ科セラレテ之カ徵收ニ應セサル者

第五十一條　會員ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ハ情狀ニ因リ之ヲ除名シ若クハ之ニ千圓以下ノ過料ヲ科ス

一　故意ニ本會ノ信用ヲ毀損シタル者

二　著シク本會ノ體面ヲ汚損シタル者

三　不正競爭ノ目的ヲ以テ他ノ會員ノ信用ヲ毀損シタル者

四　他ノ會員カ圖書ノ出版ニ關シテ專有スル發行販賣ノ利益ヲ侵害シタル者

第五十二條　本規約ニ基キテ制定セラレタル各種ノ規程ニ於テ別ニ制裁ノ規定ヲ設クルコトヲ妨ケス但シ制裁ノ種類及限度ハ前二條ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十三條　本章ノ規定ニ依リ會員ニ對シ制裁ヲ科スル場合ニハ協議員會ニ於テ事實ヲ審査シ其ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ヲ爲スヘキ協議員會ニハ協議員十五人以上出席シテ其ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第七章　規約ノ變更

第五十四條　本規約ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第五十五條　本規約ヲ變更スヘキ總會ノ議事ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可否ヲ決ス

附　則

第五十六條　本規約ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十七條　本規約施行ノ際現ニ協議員タル者ノ任期ハ仍ホ舊規約ニ依ル

第五十八條　本規約施行前ニ制定セラレタル各種ノ規程ハ本規約ニ基キテ制定セラレタルモノト看做ス

東京出版協會協議員

會　長　目黑甚七

副會長　江草重忠

副會長　和田利彦

協議員　石川寅吉

橋本福松

西村辰五郎

大葉久吉

大橋進一

大倉保五郎

岡本正一

龜井豐治

神戸文三郎

中土義敬

長坂金雄

上原才一郎

山崎信興

矢島一三

松邑孫吉

藤田知治

小林又七

榊原友吉

坂本守正

三樹愛二

杉山常次郎

鈴木種次郎

中等教科書協會規約

東京市神田區小川町三ノ八

（電話神田九三〇番）

第一章　總　則

第一條　本會ハ中等教科書出版業者ヲ以テ組織ス

第二條　本會ハ中等教科書協會ト稱シ本部ヲ東京市ニ支部ヲ大阪市ニ置ク

第三條　本會ハ中等教科書ノ改善及ビ之カ供給普及ノ方法ヲ講ジ斯業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二章　會　員

第四條　本會ニ入會セントスル者ハ其營業所、商號、氏名ヲ記シ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込ムベシ

入會ノ申込ニ對シテハ幹事會之カ諾否ヲ決ス

入會者ハ入會ト同時ニ入會金トシテ金參拾圓ヲ納付スベシ

第五條　會員ハ本會ノ經費ヲ負擔ス

第六條　退會セントスル者ハ書面ヲ以テ其旨本會ニ申出ヅベシ

退會ノ諾否ハ幹事會之ヲ決ス

第七條　退會者、失格者、除名者ニ對シテハ入會金及ビ會費ノ返還又ハ財産ノ分配ヲナサズ

第八條　會員ニシテ特ニ本會ノ爲ニ功勞アリタル者ニハ總會ノ決議ヲ經テ報酬ヲナスコトアルベシ

第三章　役　員

第九條　本會ハ會員中ヨリ幹事十四名ヲ選出ス內十名ハ本部ニ於テ四名ハ支部ニ於テ選擧ス

但シ支部選出ノ幹事ハ三名ヲ大阪會員中ヨリ一名ヲ京都會員中ヨリ選ブモノトス

幹事ノ選擧ハ本部ニ在リテハ毎年一月ノ定時總會ニ於テ支部ニ在リテハソレヨリ五日前ニ支部會ヲ開キテ無記名連記投票ヲ以テ之ヲ行フ

但シ再選ヲ妨ゲズ

幹事ノ任期ハ定時總會終了後次ノ定時總會迄トス

第十條　幹事ニ半數以上ノ缺員ヲ生ジタルトキハ臨時總會ヲ開キ補缺選擧ヲ行フ

但シ幹事會ニ於テ必要ト認メタルトキハ半數以内ノ缺員ノ場合ト雖モ補缺選擧ヲ行フコトヲ得

補缺幹事ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十一條　幹事ハ會長一名副會長一名ヲ互選ス

別ニ支部選出ノ幹事ハ支部長一名ヲ互選ス

第十二條　役員ノ權限左ノ如シ

會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ統理シ會議ヲ召集シ其議長トナル副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ニ代ル

幹事ハ各般ノ會務ヲ處理シ會長副會長事故アルトキハ之ニ代ル

支部長ハ會長指揮ノ下ニ支部ノ會務ヲ管理シ支部會ヲ召集シ其議長トナル支部長事故アルトキハ支部選出ノ幹事之ニ代ル

第十三條　會長ハ事務員ヲ任免ス

第十四條　役員ハ無給トス

但シ役員ニシテ繁劇ノ事務ニ當リ又ハ特ニ功勞アリタル者ニハ總會ノ決議ヲ經テ報酬ヲナスコトアルベシ

第四章　會議

第十五條　會議ヲ分チテ左ノ五種トス

一、定時總會

二、常集會

三、臨時總會

四、幹事會

五、支部會

第十六條　定時總會ハ毎年一月之ヲ開キ左ノ事項ヲ議決ス

一、前年度ノ庶務及ビ財産目錄、收支決算ノ報告

二、經費ノ賦課、其徴收法及ビ收支豫算

三、幹事ノ選擧

四、前各項ノ外豫メ會長ヨリ提出シタル議案

第十七條　常集會ハ毎月一回之ヲ開キ會務ヲ議ス

第十八條　臨時總會ハ幹事會ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ開キ會長提出ノ議案ヲ審議ス

第十九條　幹事會ハ毎月一回之ヲ開キ會務ヲ處理ス

但シ會長ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時ニ之ヲ開クコトヲ得

第二十條　支部會ハ毎月一回之ヲ開キ會務ヲ議ス

但シ支部長ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時ニ之ヲ開クコトヲ得

第二十一條　會議ハ本規約ニ特別ノ規定アルモノノ外ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第五章　會計

第二十二條　本會ノ經費ハ會費、入會金其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第二十三條　本會ノ會計年度ハ曆年ニ據ル

第二十四條　本會ハ篤志ノ寄附金又ハ經費剩餘ノ一部ヲ積立テ基本金トナス

基本金ハ永遠ニ保存スルモノトシ其利子ハ經常收入トス

但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テ基本金ノ支出ヲ要スルトキハ會員ノ過半數出席シタル定時總會又ハ臨時總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第六章　制裁

第二十五條　會員ハ他ノ會員ノ契約セル圖書ノ發行者シクハ專賣ノ依託ヲ受クルコトヲ得ズ

第二十六條　中等教科書出版業者ニシテ故意ニ本會ニ入會セズ本會ノ目的ヲ阻碍シ會員共同ノ利益ニ反スル行爲アリタル時ハ本會ヨリ中等教科書販賣業者ニ向ツテ該出版業者ノ發行セル中等教科書ノ販賣ヲ拒絶スルコトヲ申込ムモノトス中等教科書販賣業者ニシテ前項ノ申込ニ應ゼザルトキハ別ニ定メタル取引規定ニヨリ之ヲ處分ス

第二十七條　會員ニ對シ中等教科書代金ノ支拂ヲ延滯シタル者アルトキハ會員ハ本會ニ向ツテ其處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ本會ハ之ガ調査ヲナシ其延滯者ニ對シ支拂方ヲ勸告ス延滯者勸告ニ應ゼザル場合ハ會員ナルトキハ第二十八條ニヨリテ處分シ會員外ナルトキハ其者ト會員全體トノ取引ヲ停止ス

前項ノ勸告ニ應ゼザル者ト尙取引ヲ繼續スル會員ニ對シテモ第二十八條ヲ準用ス

第二十八條　會員中左ノ行爲アリタルトキハ常集會又ハ總會ノ決議ヲ以テ金五百圓以内ノ違約金ヲ課シ又ハ除名スルコトアルベシ

一、本會ノ體面ヲ汚損シタル者

二、會費又ハ賦課金納入ノ義務ヲ三個月以上怠リタル者

三、本規約及ビ取引規定又ハ本會ノ決議ニ違背シタル者

第七章　規約變更

第二十九條　本規約ハ會員ノ過半數出席シタル定時總會又ハ臨時總會ニ於テ決議スルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ

附則

第三十條　本規約ハ昭和六年一月二十日ヨリ施行ス

第三十一條　本規約施行以前ニ會員タル者ハ第一條ノ資格ナキ者ト雖モ引續キ會員タルコトヲ得

以上

中等教科書協會幹事

會長　富山房
副會長　明治書院
幹事　三省堂
同　東京開成館
同　目黑書店
同　寶文館
同　光風館
幹事　大日本圖書會社
同　泰文堂
同　東洋圖書會社
支店幹事　大阪修文館
同　三宅書店
同　大阪寶文館
同　京都金港堂

日本雜誌協會規約

東京市日本橋區江戸橋二ノ七
（電話日本橋一九三二番）

第一章　總則

第一條　本會ハ全國ニ於ケル雜誌發行業者及本會ニ於テ承認シタル雜誌元取次業者ヲ以テ組織ス

第二條　本會ハ日本雜誌協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ東京市ニ置ク

第四條　本會ハ雜誌ノ發行及販賣ニ付會員共通ノ利益ヲ擁護シ斯業ノ發達ヲ圖ル目的ヲ以テ左ノ事業ヲ行フ

一　雜誌販賣規程ヲ定メテ雜誌ノ販賣ニ關スル弊害ヲ防止シ取引ノ圓滑ヲ圖ルコト

二　分科會規程ヲ定メテ同種ノ雜誌ニ共通ナル事項ノ協定ヲ爲スコト

三　會務上ノ重要事項ヲ報告スル爲メ會報ヲ發行スルコト

四　前各號ノ外會員共通ノ利害ニ關スル諸般ノ事項ヲ研究處理スルコト

第二章　會員

第五條　本會ニ入會セントスル者ハ雜誌元取次業者ノ紹介ヲ以テ本會所定ノ入會申込書ニ記名捺印ノ上入會金參拾圓、會費六ケ月分及雜誌見本一部ヲ添ヘテ申込ヲ爲シ本會ノ承認ヲ經ヘキモノトス

第六條　雜誌發行業者タル會員ハ會費月額壹圓ヲ負擔スルモノトス但二種以上ノ雜誌ヲ發行スル者ハ一種ヲ增ス毎ニ附加會費トシテ月額五拾錢ヲ負擔スルモノトス

雜誌元取次業者タル會員ハ會費月額五圓ヲ負擔スルモノトス

第二項ノ會費ハ三ケ月分宛前納スルモノトス

第七條　會員ハ左ノ事項ノ生シタルトキハ七日以內ニ之ヲ本會ニ屆出ツルコトヲ要ス

一　雜誌ノ創刊、改題

二　雜誌發行權又ハ營業權ノ讓受

三　相續若クハ組織變更ニ因ル名義ノ變更又ハ商號ノ變更

四　雜誌ノ休刊若クハ廢刊、營業所ノ移轉若クハ業務ノ廢止

前項第一號乃至第三號ノ事項ニ付テハ本會ノ承認ヲ經ヘキモノトス

第八條　前條第一項第二號ノ屆出ニハ讓渡人ノ連署ヲ要ス

第九條　會員ハ雜誌ノ創刊又ハ發行權若クハ營業權ノ讓受ニ付テハ一件每ニ貳拾圓、雜誌ノ改題又ハ名義若クハ商號ノ變更ニ付テハ一件每ニ拾圓ノ登錄料ヲ本會ニ納入スルモノトス

第十條　雜誌ノ休刊一ケ年ニ及フモノハ廢刊ト看做シ登錄ヲ削除ス休刊中ノ雜誌ヲ復活發行シタル場合ハ發賣前本會ニ屆出ツヘシ

第十一條　第五條、第六條及第九條ニ依ル納付金ハ退會、廢刊其ノ他如何ナル事由アルモ之ヲ返還セサルモノトス

第十二條　會員ハ他ノ會員ノ使用スル商號又ハ雜誌題號ト同一若クハ類似ノ商號又ハ雜誌題號ヲ用フルコトヲ得ス但先用者ノ承諾ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ハ先用者ノ承諾書ヲ添ヘ本會ニ屆出ツルモノトス

第十三條　會員ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル者ハ會員タル資格ヲ喪失スルモノトス

一　任意ノ退會

二　業務ノ休止一ケ年ニ亙ルモノ

三　除名

第三章　役員

第十四條　本會ニ評議員二十人ヲ置ク

評議員ハ會長、副會長各一人及會計主任二人ヲ互選ス

第十五條　評議員ハ總會ニ於テ無記名連記投票ニ依リ會員中ヨリ之ヲ選擧シ得票最高ノモノヨリ順次當選トス得票同數ナルトキハ年長順ニ依リ、年長順ニ依リ難キ場合ハ抽籤ニ依ル

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル投票ハ無效トス

一　本會所定ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二　被選人以外ノ事項ヲ記載シタルモノ

投票中ニ被選人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノアルトキハ其ノ部分ヲ無效トス

第十七條　總會ノ議長ハ選擧長トナリ總會ニ於テ選任セラレタル選擧委員二十人ト共ニ選擧委員會ヲ組織シテ

256967

投票ノ監理、開票及審査ヲ爲ス

第十八條　評議員ノ任期ハ二年トス但次期ノ評議員選擧ヲ終ルマテ其ノ任期ヲ延長ス

第十九條　評議員ニ缺員ヲ生シタルトキハ評議員會ノ決議ニ依リ補缺選擧ヲ行フコトヲ得

補缺選擧ニ依リ當選シタル評議員ノ任期ハ先任評議員ノ殘任期間トス

第二十條　會長ハ本會ヲ代表シテ會務ヲ統轄ス

第二十一條　副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第二十二條　會計主任ハ本會ノ會計ニ關スル事務ヲ監理ス

第二十三條　評議員ハ評議員會ヲ組織シ會務ニ關スル事項ヲ決議スル外評議員會ニ於テ決定シタル擔任ニ依リ會務ヲ分掌ス

第四章　會　議

第二十四條　會議ヲ分チテ評議員會及總會トス

第二十五條　會議ハ總テ會長之ヲ招集ス

第二十六條　會議ニ於テハ總テ會長ヲ以テ議長トス

議長ハ議事ヲ整理シ議場ノ秩序ヲ維持ス

第二十七條　評議員會ハ毎月一回之ヲ開ク但必要アルトキハ臨時ニ之ヲ開クコトヲ得

第二十八條　評議員會ハ評議員ノ半數以上出席スルニ非サレハ成立セス

第二十九條　定時總會ハ毎年一月中ニ之ヲ開キ左ノ事項ヲ議ス

一　前年度庶務ノ報告

二　前年度收支決算ノ報告

三　收支豫算案ノ審議

四　前各號ノ外豫メ通知シタル事項

第三十條　臨時總會ハ評議員會ノ決議ニ依リ何時ニテモ之ヲ開クコトヲ得

會員三十人以上ノ同意ニ因リ付議事項ヲ明示シテ臨時總會ノ招集ヲ請求シタルトキハ遲滯ナク之ヲ開クコトヲ要ス

第三十一條　總會ヲ開クトキハ開會七日前ニ付議事項、日時及場所ヲ記載シタル通知ヲ發スルコトヲ要ス但特ニ急速ヲ要スル場合ニ於テハ通知期間ヲ短縮スルコトヲ得

第三十二條　總會ニ於テハ豫メ通知シタル事項ノ外之ヲ議スルコトヲ得ス

第三十三條　會議ニ於テハ總テ出席者ノ過半數ヲ以テ可否ヲ決ス

第三十四條　會議ニハ會員本人若クハ其ノ代表者トシテ豫メ本會ニ屆出テ承認ヲ經タルモノニ非サレハ出席スルコトヲ得ス

第五章　會　計

第三十五條　本會ノ經費ハ會費、入會金、登錄料其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第三十六條　現金、有價證券其ノ他財

產ノ保管方法ハ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第三十七條　會計年度ハ曆年ニ依ル

第三十八條　毎年度ノ收支決算ハ定時總會ニ報告スルコトヲ要ス

第三十九條　毎年度ノ收支豫算ハ定時總會ノ審議ヲ經テ之ヲ決定ス

第四十條　臨時緊急ノ必要アルトキハ評議員會ノ決議ヲ經テ豫算外ノ支出ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ總會ニ報告シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第六章　制　裁

第四十一條　會員ニシテ本規約若クハ本規約ニ基キテ制定セラレタル諸規程ニ違背シ又ハ分科會ノ協定ヲ侵犯潛脫スルノ行爲アリタルトキハ事態ノ輕重ヲ裁量シテ左ノ處分ヲ爲ス

一　戒　告

二　貳千圓以下ノ違約金徵收

三　期間ヲ定メタル取引停止

第四十二條　會員ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル者ハ除名ス

一　會費ノ滯納六ケ月以上ニ及フ者

二　本會ノ體面ヲ甚シク汚損シタル者

三　前條第二號及第三號ノ處分ニ服從セサル者

第四十三條　除名處分ヲ受ケタル者悔悛ノ實アリト認メタルトキハ更ニ入會ヲ許スコトヲ得

第四十四條　前三條ノ適用ニ付テハ評議員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

附　則

第四十五條　本規約ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四十六條　本規約ハ昭和五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十七條　本規約施行ノ際現ニ幹事タル者ハ當然評議員タルモノトス但其ノ任期ヲ延長スルコトナシ

第四十八條　本規約ノ施行前幹事會ニ於テ決議セラレタル事項ニシテ現ニ存續スルモノハ本規約ニ抵觸セサル限リ變更ヲ受クルコトナシ

日本雜誌協會評議員

會長	實業之日本社	評議員	小學館
副會長	新潮社	同	講談社
評議員	東京堂	同	博文館
同	東海堂	同	ポケット講談社
同	北隆館	同	婦女界社

評議員　主婦之友社
同　大東館
同　研究社
同　政教社
同　改造社

評議員　文教社
同　婦人之友社
同　中央公論社
同　博英社
同　東京社

東京雜誌販賣業組合規約

東京市神田區駿河臺四ノ二
（電話神田六六七番）

第一章　總則

第一條　本組合ハ東京市内ニ營業所ヲ有スル雜誌販賣業者ヲ以テ組織ス

第二條　本組合ハ東京雜誌販賣業組合ト稱シ事務所ヲ東京市ニ置ク

第二章　目的

第三條　本組合ハ組合員間ノ利益增進ト共濟親睦ヲ旨トシ無益ノ競爭ヲ避ケ斯業ノ發達ヲ圖リ營業上ノ弊害ヲ矯正スルヲ以テ目的トス

第四條　本組合ハ組合員間ノ一方若クハ双方ノ請求ニヨリ營業上ヨリ起ル紛議ノ調停ヲナスコトヲ得此場合ハ幹事會ノ互選ヲ以テ調停委員若干人ヲ擧ケ之ヲ調停セシム

第五條　本組合ノ目的ヲ達センカ爲メ組合員ハ左ノ事項ヲ嚴守スヘキモノトス

一　組合員外ノ營業者ト取引ヲ爲サルコト

二　雜誌ハ凡テ定價ヲ以テ販賣スルコト但前金拂込ノ購讀者ニ對シテハ各雜誌奥附記載ノ價格ヲ以テ販賣スルコトヲ得、尙奥附記載ノ發行日ヨリ三ケ月ヲ經タルモノハ除外ス

三　雜誌ヲ販賣スルニ景品ヲ添附シ送料負擔若クハ割引ニ類スル行爲ヲ爲ササルコト

四　貸覽及回覽ノ營業ヲ爲ササルコト

五　貸覽及回覽業ヲ營ムモノニ雜誌ヲ販賣セサルコト

六　取引停止中ノ組合員ト取引ヲ爲ササルコト

七　營業休止中ノ組合員ト取引ヲ爲ササルコト

第三章　組合員

第六條　本組合ニ加入セントスル者ハ本組合所定ノ加入申込書（第一號書式）ニ一定ノ店舗ヲ有スル營業所及商號、氏名、年齡ヲ記載シ所要地圖（店舗ノ位置及附近組合員ノ位置ヲ明記シタルモノ）書約證ヲ添付シ紹介者タル組合員二人ノ連署ヲ以テ申込ムヘシ但紹介者ノ一人ハ幹事タルコトヲ要ス

加入金ハ貳百圓トシ加入ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ本組合ニ納入スヘシ

金額納入ノ日ヨリ組合員タルノ資格ヲ生ス

支店、分店若クハ出張所ノ設置ハ各別ニ加入スヘキモノトス

組合員（加入後滿七ケ年以上）ノ從業者ニシテ滿七ケ年以上勤續シタル者ハ加入金ヲ拾圓トス此場合ハ第二號書式ノ證明書ヲ申込書ニ添付スルコトヲ要ス但一旦脫退シタル者ハ此限ニアラス

第七條　加入申込者ニ對シテハ調査ヲ行ヒタル後幹事會ニ於テ其ノ許否ヲ決ス

第八條　申込者ノ營業所カ組合員ノ營業所ニ接近シ甚敷支障アリト認メタル場合ハ其ノ加入ヲ許可セサルコトアルヘシ

第九條　加入申込者ニシテ組合員營業所ノ讓渡ヲ受ケントスルトキハ第四號書式ニヨリ讓渡人讓受人連署ノ上屆出テ其ノ許可ヲ受クヘシ此場合讓渡人ハ脫退（第六號書式）ノ手續ヲ要シ讓受人ハ加入登錄料トシテ金壹百圓ヲ納入スルコトヲ要ス其ノ營業所ニ對シテハ前條ニ依ラスシテ其ノ加入ヲ許可スルコトアルヘシ但讓受人カ勤續者ノ場合ハ登錄料金拾圓トス

第十條　組合員ニシテ其ノ營業所ヲ移轉セントスルトキハ移轉前必ス第五號書式ニ依リ本組合ニ屆出テ許可ヲ受クルコトヲ要ス

移轉場所カ第八條ニ該當スル場合ハ其ノ移轉ヲ許可セサルコトアルヘシ

第十一條　組合員ニシテ其ノ營業所移轉ニ際シ第八條ニ該當スル場合ト雖營業休止ノ誓約證ヲ提出スルトキハ其ノ移轉ヲ許可スルコトアルヘシ

第十二條　組合員ハ死亡若クハ隱退ノ場合相續人又ハ法律上ノ家族ニ其ノ營業ヲ繼承セシムルコトヲ得此手續ハ第三號書式ニ依リ戸籍謄本（或ハ抄本）其ノ他ノ證明書相添屆出テ許可ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ加入金ヲ要セス

第十三條　組合員ハ他ノ組合員ト同一ノ商號ヲ有スルコトヲ得ス但先用者ノ承諾ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第十四條　組合員ハ其ノ店頭ニ組合員タルノ標章ヲ揭出スルコトヲ要ス但標章ハ組合ヨリ交附ス

第十五條　組合員ニシテ氏名商號ヲ變更シ若クハ廢業シタルトキハ一週間以内ニ組合ニ屆出ツヘシ但商號變更ノ場合ハ第十三條ニ據ル

第十六條　組合員ハ組合經費負擔ノ義務ヲ負フ

長二人常任幹事五人會計二人規約勵
拂ヲ延滯シタル者アルトキハ被害者
ヨリ其ノ處分ヲ組合ニ請求スルコト
ヲ得

第十八條　組合ハ前條ノ請求アリタル
トキ事實ヲ調査シ其ノ延滯ヲ認メタ
ルトキハ日ヲ限リ支拂フヘキ旨通告
シ之ニ應セサルトキハ第五十二條ニ
據リ處分スヘシ

第十九條　組合員ハ自己ニ關スル件ニ
付キ組合ヨリ出頭ヲ求メラレタルト
キハ故ナク之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條　組合員ニシテ組合員タル品
位ヲ汚損シ若クハ幹事會ニ於テ不都
合ノ行爲アリト認メタルトキハ第五
十二條ニ據リ處分スヘシ

第二十一條　組合員ニシテ滿一ケ年間
以上營業ヲ休止シタルトキハ第八條
ヲ適用セサルモノトス
營業休止ノ起算日ハ組合員ノ屆出若
クハ調査ノ上其ノ營業休止ノ事實ヲ
幹事會ニ於テ確認シタル上之ヲ決定
ス

第二十二條　組合員ハ左ノ事由ノ發生
ニ因リテ組合員タルノ資格ヲ喪失ス
一　任意ノ脫退
二　廢　業
三　營業所ノ讓渡
四　營業ヲ休止スルコト滿二ケ年ニ
　亘ルモノ
五　營業所ノ組合地域外移轉
六　許可ヲ得スシテ其ノ營業所ヲ移
　轉シタルモノ
七　死　亡　但第十二條ヲ適用シテ
　其ノ資格ヲ繼承スルコトヲ得
八　法人ノ解散
九　破　産
十　除　名

第二十三條　本組合ハ規約第三條ノ目
的ヲ達スル爲メ本組合ニ共濟會ヲ設
ケ幹事中ヨリ委員若干人ヲ置キ特別
會計ヲ以テ組合員ノ共濟事務ヲ擔任
ス
共濟會細則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十四條　組合員ニシテ本組合ニ特
ニ功勞アリタル者ハ之ヲ表彰スルコ
トアルヘシ

第二十五條　組合員ノ從業者ニシテ滿
七ケ年以上勤續シタル者ハ本組合ニ
於テ表彰ス
表彰規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十六條　組合員ノ從業者ニシテ規
約ニ反スル行爲アリタル場合ト雖組
合員ハ其ノ責任ヲ負フモノトス

第二十七條　組合員ニシテ其ノ資格ヲ
喪失シタル場合ニ於テハ之ニ對シ加
入金ノ返還又ハ組合財産ノ分配ヲ請
求スルコトヲ得ス

第四章　役　員

第二十八條　組合ハ組合員中四十人ニ
對シ一人ノ比率ヲ以テ幹事ヲ選擧ス
幹事選擧施行細則ハ別ニ之ヲ定ム
幹事ハ其ノ互選ヲ以テ組長一人副組

第十七條　組合員間ニ於テ商取引ノ支
行委員十人共濟會委員十人ヲ定ム
事務取扱ノ爲メ事務員若干人ヲ置ク
事務員ハ幹事會ノ決議ヲ以テ組長之
ヲ任免ス

第二十九條　組長ハ本組合ヲ代表シ會
議ノ際議長ノ職ヲ掌ル副組長ハ組長
ヲ補佐シ組長ヲ代理ス常任幹事ハ緊
急ヲ要スル事件ヲ審議シ會計ハ會計
事務ヲ掌ル規約勵行委員ハ規約運用
ノ事務ヲ掌リ共濟會委員ハ共濟事務
ヲ處理シ幹事ハ諸般ノ議案ヲ審議シ
事務ヲ分掌ス

第三十條　幹事ノ任期ハ一ケ年トス

第三十一條　幹事ニ當選シタル者ハ正
當ノ理由ナクシテ辭任スルコトヲ得
ス

第三十二條　幹事ハ無給トス但特ニ費
用ヲ要シタルトキハ實費ヲ支辨ス

第三十三條　本組合ハ本組合ニ特ニ功
勞アリタルモノニ對シ幹事會ノ決議
ヲ經テ總會ニ於テ相談役ニ推薦スル
コトヲ得
相談役ハ終身トス

第三十四條　幹事中特ニ功勞アリタル
者若クハ繁劇ノ事務ヲ處理シタル者
ニ對シテハ幹事會ノ決議ヲ以テ表彰
若クハ報酬ヲ爲スコトヲ得

第五章　會　議

第三十五條　會議ヲ分ツテ左ノ六種ト
ス
一　定　時　總　會
二　臨　時　總　會
三　幹　事　會
四　常　任　幹　事　會
五　規約勵行委員會
六　共　濟　會　委　員　會

第三十六條　定時總會ハ毎年一月之ヲ
開キ左ノ事項ヲ擧行ス
一　前年度ノ事務報告及財産目錄會
　計收支決算報告
二　豫算案審議
三　組長ヨリ豫メ提出シタル議案ノ
　審議
四　役員ノ選擧

第三十七條　臨時總會ハ幹事會ニ於テ
必要ト認メタルトキ又ハ組合員十分
ノ一以上ノ同意ニヨリ其ノ目的タル
事項ヲ明示シテ組長ニ請求アリタト
キ之ヲ開ク

第三十八條　總會ヲ開カントスルトキ
ハ七日前組長ヨリ會議ノ目的タル事
項、場所及日時ヲ組合員ニ通知スヘ
シ但緊急ヲ要スル場合ハ其ノ通知期
間ヲ短縮スルコトヲ得

第三十九條　總會ニ於テハ豫メ組長ヨ
リ通知シタル事項ノ外他ノ事項ヲ議
スル事ヲ得ス

第四十條　幹事會ハ毎月一回之ヲ開ク
常任幹事會及規約勵行委員會共濟會
委員會ハ隨時之ヲ開キ必要ノ場合ニ
ハ臨時幹事會ヲ招集スルコトアルヘ
シ

第四十一條　組合員ハ總會ニ於テ幹事ハ幹事會ニ於テ發言贊否ノ權ヲ有ス但幹事會ニ於テ會議ノ事項ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ其ノ會議ニ列スルコトヲ得ス

第四十二條　議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第六章　會計

第四十三條　組合員ハ組合維持費トシテ月額參拾錢ヲ支出スルモノトス

第四十四條　本組合ノ經費ハ月費、加入金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第四十五條　緊急及非常ノ場合ニ際シ臨時支出ヲ要スルトキハ幹事會ノ決議ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得但此場合ハ次期ノ總會ニ之ヲ報告シ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第四十六條　組合ノ基金及收入金ハ幹事會ニテ定メタル銀行又ハ信託會社ニ寄託ス

第四十七條　組合員ハ事務ニ妨ケナキ限リ會計帳簿ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第七章　制裁

第四十八條　組合員ニシテ本規約ニ違背シタル者ハ幹事會ノ決議ヲ以テ左ノ制裁ヲ爲ス

一　譴責

二　拾圓以上壹千圓以下ノ違約料

三　期限ヲ定メタル取引停止

四　期限ヲ定メサル取引停止

五　除名

第四十九條　左ノ條項ノ一ニ該當スル者アルトキハ第五十一條ヲ適用ス

第五條、第六條第四項、第十條第一項、第十八條、第十九條、第二十條

第五十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ除名ニ處ス

一　月費ノ滯納六ケ月ニ亘ルモノ

二　違約料ノ徵收ニ應セサルモノ

三　組合員ニシテ貸覽及貸覽業ニ類スル行爲アルモノ

第五十一條　期限ヲ定メサル取引停止ニ處セラレタル者ニシテ悔悛ノ實アリト認メタル場合ハ組合員二人ノ保證ニヨリ幹事會ノ決議ヲ以テ之ヲ解除スルコトアルヘシ

第五十二條　組合員ハ組合員中ニ規約違反者アルコトヲ認知シタルトキハ速ニ組合ニ申告セラルヘシ申告者ノ氏名ハ絶對ニ秘密トス

第五十三條　前條ノ申告者カ故意ニ他ヲ中傷セントスル虚構ニ出タルトキハ申告者ハ第五十二條ノ制裁ヲ受ク

第五十四條　本章ノ制裁ニ對シ組合員ハ異議ノ申立ヲナスコトヲ得ス

第八章　附則

第五十五條　本規約ハ總會ノ決議ニ依ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

第五十六條　本規約ハ昭和六年一月一日ヨリ施行ス

東京雜誌販賣業組合幹事

組長　大野孫平
副組長　塚越郁四郎
同　岸他丑
幹事　石村菊次
同　福田滋次郎
同　宮子音吉
同　中川治三郎
同　植野錄夫
同　山本芳之助
同　福島孝太郎
同　淺見四郎
同　伊藤貫一
同　市川松之輔
同　堀内德太郎
同　土屋右近
同　上原七五三造
同　稻川佐八
同　岡崎傳五郎
幹事　土屋宏
同　中川謙
同　櫻井作太郎
同　島田和助
同　清水一雄
同　平林正男
同　紅谷安久
同　小澤作次郎
同　吉川保治
同　中山軍治
同　酒卷修三
同　長谷川留吉
同　林五郎
同　大川義雄
同　大曾根銈治
同　國領友太郎
同　石塚隆美
同　長井庄一郎

書籍の名稱

古來書籍の名稱は大體左の如くである

△大本△中本△小本、豆本△三切本△半紙本△美濃板△菊判△四六判△三五判△菊倍判△菊半截△四六半○△四六倍判△ポケット△折本△切付本△横本△枕本△地本△赤本△青本△黑本△五行本△六行本△床本△小說本△講談本△軍談本△音曲本△巷談本△草双紙△黄表紙本△物語本△蒟蒻本△西鶴本△合卷本△金平本△光悦本△京傳本△奈良繪本△智恩院本△讀本△八文字屋本△浮世草紙△洒落本△小泉本△唐本△朝鮮本△字典△石刻△石摺△和刻△畫帖△淨瑠璃本△畫譜△原稿本△院本△人情本△手入本△シラミ本△手擇本△抄本△嵯峨本△元本△古渡り本△角倉本△初版本△創刊本△節用△初摺本△卷物△官碑△復製本△寫本△丹册△書き本△繪本△錦繪△唐刻△卷子本△古文書△草稿本△書入本△初印本△再版本△改版本

東京書籍商組合員分布情態

區名	出版業	出版及販賣	販賣業	合計
麹町	九一	二〇	四九	一六〇
神田	一五五	一二六	二二一	五〇二
日本橋	四一	二八	四八	一一七
京橋	五二	二四	六〇	一三六
芝	三六	一一	八九	一三六
麻布	九	四	三八	五一
赤坂	一九	三	三一	五三
四谷	一八	四	三二	五四
牛込	五八	八	九四	一六〇
小石川	五一	一四	八一	一四六
本郷	六四	二八	一〇七	一九九
下谷	二〇	五	七三	九八
淺草	一二	四	八二	九八
本所	一	一	九四	九五
深川	四	二	四五	五一
品川	八	一	七二	八一
目黒	六	一	五一	五七
荏原	四	一	四四	四九

區名	出版業	出版及販賣	販賣業	合計
大森	六	三	六〇	六九
蒲田	二	二	四〇	四四
世田谷	七	二	五四	六三
澁谷	一三	九	九七	一一九
淀橋	二九	二	七六	一一六
中野	八	一	五七	六六
杉並	四	六	五七	六七
豐島	二七	九	九三	一二九
瀧野川	七	一	三四	四一
荒川	二	一	五二	五四
王子	二	二	三一	三五
板橋	三	一	四一	四〇
足立	一	一	三〇	三〇
城東	一	一	三三	三三
向島	一	一	三九	四〇
葛飾	一	一	二三	二三
江戸川	一	一	二五	二五
合計	七五八	三三一	三五三	三二四二

東京書籍商組合員一覽

あ

相澤福井堂　本所林町三ノ三九
愛山堂　中野宮前町二三
愛文堂　淺草地方今戸町九五
青木商店　本所江東橋三ノ一二
青木堂　城東南砂町二ノ七三〇
青木文化堂　日本橋本町四ノ七
青野書店　同通三ノ五
青野書店支店　同通三ノ八
明石書店　本所綠町五ノ一七
赤石正文堂　神田錦町三ノ五
赤い島社　淀橋西大久保一ノ四六一
赤城書店　世田谷上馬町三ノ九六八
アカギ堂　本所東駒形町三ノ六
アカシヤ　神田表神保町二
赤玉書店　牛込若松町一二一
曉堂書店　世田谷若林町三八九
赤トンボ　京橋銀座西七ノ三
茜屋書店　淺草永住町五四
赤門堂　本郷本郷六ノ一八
秋元書店　品川大崎本町一ノ四三
淺井厚生堂　本郷本富士町二
淺井商店　淀橋柏木一ノ八七二
淺草出版社　淺草公園仲見世八二號
淺倉屋　同北仲町五
淺野書店　神田美土代町四ノ五　小川ビルデング
淺見文林堂　日本橋大傳馬町一ノ二
淺見文林堂(株式)　同大傳馬町一ノ二
朝倉書店　小石川小日向台町二ノ三四
蘆田書店　神田新銀町一六
東書店　同通神保町一
東屋　品川大井原町五二一二
足立書店　中野住吉町八
梓書房　神田北甲賀町四
アトラス社　牛込北町三〇
アトリエ社　同喜久井町三四
朝日商工株式會社　神田錦町一ノ一二
朝日書店　本郷湯島三ノ九
朝日書房　神田錦町三ノ二〇
朝日堂　淀橋戸塚町一ノ四〇二
朝日屋　王子豐島町三〇四
アサヒ堂　中野朝日ケ丘一〇
アサヒヤ書店　赤坂青山北町六ノ四六
旭堂　牛込原町二ノ一〇
旭屋　向島寺島町一ノ一五二
油屋　江戸川今井町一一三四
安倍一心堂　本郷西片町二
阿部書店　葛飾高砂町八〇一
阿部盛文館　京橋寶町二ノ一
阿部勉强堂　荒川尾久町五ノ二六六
アポロ　下谷谷中町五
天野書店　牛込長延寺町五
天野書店　足立千住橋戸町四〇
雨宮書店　本郷森川町八〇
アメリカヤ　日本橋米澤町一ノ四
アヤセ堂書店　葛飾小岩町八〇七
新井石禮全集刊行會　芝公園十一號地ノ八　總持寺東京出張所內
新井堂　板橋上板橋町三ノ六一三一
新井文明堂　京橋銀座七ノ一
荒井書店　小石川大塚辻町六
荒尾書店　中野江古田三ノ一三三四
荒木昭文堂　瀧野川上中里町四〇六
有牛有文堂　大森新井宿六八〇
アルス合資會社　神田今川小路二ノ一
アルパ社　豐島池袋五ノ二三九
アルプス堂　王子豐島町一四〇
粟生田書店　神田錦町二ノ五
安心堂　世田谷松原町三ノ九〇三

安盛堂　杉並成宗二ノ八七七
安藤書店　大森馬込千束三八二九
安藤書店　目黒碑文谷月光町一六九

い・ゐ

いろは書房　淺草南元町二四
いろは堂　淀谷下廣尾町一三
いろは堂　豐島池袋一ノ六五二
いづみ書店　中野打越三〇
いとう呉服店　下谷上野廣小路町一
イスクラ書房　豐島堀ノ内町一四二
イデア書院　淀橋西大久保一ノ五二五
イトウ博文堂　板橋上石神井一ノ四七九
色部勇林堂　神田錦町一ノ二
飯島書店　同南神保町九
飯沼商店　江戸川松本町九七二
飯野書店　向島隅田町一ノ二六九
飯野文明堂書店　品川五反田町一ノ四三
飯村書店　麻布霞町一
五十嵐商店　本所東駒形町四ノ三
伊川堂書店　豐島長崎東町三ノ五三七
伊坂出版部　京橋靈岸島町一
伊佐商店　淀橋戸塚町三ノ一二
伊勢川書店　荒川南千住町五ノ二〇
伊勢屋　本郷春木町三ノ一二
伊勢屋　王子上十條町一四九四
伊田商店　神田千代田町二八
伊藤書店　牛込東五軒町三五
伊藤書店　日本橋室町三ノ三
伊藤書店　大森南千束二〇
伊藤書房　神田新銀町四〇
伊藤書林　麴町飯田町四ノ二〇
伊藤屋　赤坂青山南町二ノ六
伊東屋　京橋銀座三ノ一二
伊林弘文堂　下谷上車坂町六四
育英館　豐島西巣鴨三ノ八〇七
育英書院　神田錦町三ノ八
育榮堂　牛込白銀町二九
育成館　瀧野川瀧野川町一六四三
育成洞　本郷元町一ノ一五
育文堂書店　同森川町七一
都文書院　下谷新坂本町三七
都文書院　小石川原町一二
都文舍　同丸山町六
都文舍株式會社　京橋鈴木町一二
都文堂　神田紺屋町三六
都文堂　淀谷上通一ノ二一
都文堂書店　向島隅田町五四七
都文堂書店　本郷森川町八〇
都文堂書店　神田小川町四〇
都文堂書店神田店　池上電車五反田等構内霞店　品川下大崎五反田二七一
池添紙店　淀橋上落合二ノ七一九
池田書店　淀谷幡ヶ谷笹塚町一〇四五
池田商店　世田谷野澤町一ノ九九
池田博文堂　牛込早稲田鶴巻町四四四
池田屋書店　京橋小田原町二ノ四
池田屋書店　四谷新宿町三ノ二八
池谷誠文堂　日本橋濱町二ノ七一
石井商店　中野住吉町七
石井明文堂　神田通神保町六
石井文具店　荏原小山町三〇九
石川商店　下谷區北大門町一一博品館内
石川書店　赤坂榎坂町四
石川書店　淀谷千駄ヶ谷五ノ七〇四
石黒書店　本郷駒込千駄木町二〇六
石島屋　深川門前仲町二三
石田昭和堂　本所中ノ郷業平町四五
石塚好文堂　板橋石神井關町二ノ一
石塚書店　牛込市ヶ谷富久町一六
石塚書店　品川大井鎧町三四九三
石野工業事務所　芝南佐久間町一ノ五一
石野日進堂　下谷中根岸町四〇
石橋正文堂　日本橋新和泉町四
石原書店　本所厩橋二ノ一二
石原書店　深川西六間堀川岸一五
石原屋　大森南千束町一三四
石原有文堂　豐島西巣鴨二ノ二七七
石渡正文堂　下谷仲徒士町四ノ六

石渡文榮堂　芝愛宕下町一ノ九
維新學會　小石川大塚仲町三六
磯部甲陽堂　日本橋本町四ノ二
磯部屋　麴町麴町四ノ一三
磯部屋　神田表神保町一額縁方
板垣商店　城東龜戸町五ノ一七五
市井勉強堂　芝横新町九
市岡近清堂　四谷鹽町二ノ一
市川書店　杉並上井草町八
市川博進堂　下谷坂本町三ノ三五
市原書店　京橋槇町一ノ七
一英堂　淀橋角筈三ノ一八〇
一貫堂　本郷駒込追分町六二
一貫堂　淺草南富坂町八
一元社　本郷弓町一ノ二五
一光社　麴町下二番町三七
一行會分店　目黒駒場町七六九
一進堂　神田美土代町二ノ一
一信堂　本所東駒形四ノ三
一心堂　牛込市ヶ谷甲良町七
一心堂　淺草小島町四〇
一眞堂　豐島池袋五ノ三六一
一清堂　大森堤方町六九
一誠堂書店　神田通神保町五
一成社　同南神保町一六
一到書院　麴町麴町八ノ二二
一二堂　下谷上車坂町一一
一歩堂　品川北品川三ノ三一九
一葉社　牛込新小川町一ノ二
一葉堂　淀谷千駄ヶ谷町四ノ六八二
一力堂　深川靈岸町四六
一や　大森池上本町三三二
商店　品川大崎町谷山四四
泉堂　目黒原町一三四九
泉屋　中野新井藥師町五〇八
泉屋書店　淀橋淀橋二ノ三三七
和泉支店　杉並和泉町一二〇
和泉屋　目黒下目黒二ノ四〇〇
逸文堂　中野本郷通リ二ノ一六
稲井書店　本郷彌生町三
稲垣支店　大森池上德持町四一九
稲垣書店　神田通神保町五
稲田堂　葛飾本田中原町三四
稲見書店　淀谷羽澤町五七
稲屋商店　牛込早稲田鶴巻町四三六
惟文堂　小石川竹早町一一四
以文館　品川大井金子町六四六六
以文堂　王子王子町五三六
以文堂支店　同上十條町一八六
今泉弘文堂　荒川日暮里町三四二
今泉文堂　蒲田今泉町一八二
今つる書店　淀橋柏木五ノ一一四五
今村紙店　足立本木町三ノ二六三五
井田書店　神田錦町一ノ一九
井筒屋　淀谷原宿町二ノ一七〇
井上辭典刊行會　日本橋本町四ノ一五
井上書店　神田南神保町八
井上書店　本郷菊坂町四八
井上書店支店　同菊坂町七七
井上商店　杉並阿佐ヶ谷六五六
井萩堂　同下井草町九九五
井屋　下谷下根岸町三五
岩岡書店　芝神明町八
岩城書店　赤坂新町三ノ三一
岩切商店　本郷弓町二ノ四
岩佐書店　牛込山吹町二六〇
岩瀨書店　神田通神保町六
岩波書店　同南神保町一六
岩丸書店　中野上高田一ノ一九一
岩本農園出版部　世田谷松原町三ノ八六五

う

潮田博文堂　本所龜澤町一ノ三一
牛島堂　同小梅町三ノ一五
臼倉書店　中野沼袋南二ノ一四九
臼田屋　大森新井宿一三〇五
宇田川商店　江戸川東船堀町八九
宇田川文房具店　王子志茂町一ノ九六〇

宇宙堂　渋谷幡ヶ谷笹塚一〇三八
宇宙堂書店　豐島高田本町一ノ三七
宇野出版社　神田表神保町二同三崎町三ノ一七四
内木屋　向島寺島町五ノ六九
内田書店　豐島長崎南町三ノ三九四四
内田屋　板橋練馬町一九三三
内海書店　神田表猿樂町二本郷元町二ノ四一
内山模型製圖社出版部
打村書店　本所兩國驛東口構内
右文館株式會社　神田表神保町三
右文書院　本郷千駄木町二七九
右文社　牛込東五軒町六
上田書店合資會社　神田通神保町六
上田泰文堂　淀橋戸塚町一ノ一三
上田屋　神田通神保町一
上野書店　小石川白山御殿町四〇
うへの堂　渋谷松濤町二一
梅澤書店　神田錦町三ノ五
梅原書店　麹町鐵道院内賣店
梅屋　同市ヶ谷驛構内
浦井文明堂　淀橋柏木一ノ八〇
浦島堂　淺草公園仲見世東側四二
浦田商店　瀧野川中里町二九四
雲水閣　世田ヶ谷經堂町五五
芸艸堂支店　本郷湯島一ノ一

運輸社代理部　芝新橋六ノ三

え・お

英語倶樂部社　麹町二番町四二
英語研究會　本郷動坂町九四
英語研究書刊行會　渋谷榮通二ノ一三
英山堂　神田錦町三ノ六
英信社　同表神保町二
英美堂　芝二本榎町二ノ一四
英風社　本郷菊坂町四九
英文學社　麹町富士見町一ノ二九
英文日本年鑑社　牛込原町三ノ六一
英文法通論發行所　神田美土代町四ノ五 小川町ビル内
英蘭書房　麹町富士見町四ノ一一
榮運商店　足立梅田町一九六二
榮久堂　大森入新井一ノ四四
榮松堂　日本橋住吉町一三
榮松堂支店　同蠣殼町三ノ一一
榮昭堂　小石川竹早町一〇八
榮進堂　杉並高圓寺六ノ六七四
榮文堂　芝三田四國町二ノ一
榮文堂分店　下谷豐住町三六
永久堂　淀橋下落合一ノ五五〇
永昌堂　淺草永住町一二五
永盛館書店　麹町飯田町五ノ三五
文堂　葛飾小谷野町三二〇

永樂堂　麻布市兵衛町二ノ三七
惠誠堂書店　淺草壽町一八
繪入文庫刊行會　麹町山元町三ノ四
益文堂　神田錦町二ノ四
エスカ堂　淺草千束町一ノ一四〇
エスペラント研究社　麹町三番町八三
エビス出版社　淀橋下落合六〇四
エロス堂　淺草千束町二ノ二五四
越後屋　淀橋下落合一六八八
越山堂　小石川大塚坂下町九三
江川三角堂　足立下沼田九四二
江戸川書房　江戸川東小松川二ノ三八七三
江戸屋　淺草千束町三ノ九
江戸屋　目黒原町一二一六
榎書房　牛込榎町三〇
榎本書店　杉並堀ノ内二一四
榎本商店　同馬橋三ノ三三六
榎本商店　瀧野川田端五一三
榎本文華堂　日本橋蠣殼町三ノ八
榎原書店　牛込北町二四
在原書籍株式會社　大森大森町二九八
在原堂書店　在原中延町五四二
惠比壽屋　渋谷山下町四七
海老屋　麹町竹平町一 東京外國語學校内賣店
A B C　芝白金今里町五五

颯文堂　荏原戸越町四三八
畑文堂　淺草石濱町一ノ五
演藝畫報社　本郷駒込動坂町一一〇
園藝書院　世田谷松原町三ノ八六五
遠藤誠文堂　本所石原町三ノ三〇二
遠藤文房具店　同林町三ノ三〇

を・わ

オーアミ書店　豐島西巢鴨三ノ九三〇
オーム社株式會社 オルゲストラ シンフオニカタケイ
おもだかや商店　神田錦町三ノ一八
をこと　本郷湯島三組町五九
おもだかや商店　杉並上井草町一三八一
大石書店　本所向島請地町一八二
大井書店　牛込戸山町九
大井商店　品川南品川三ノ一五三五
大内商店　淀橋東大久保一ノ四四三
大浦書店　芝西久保巴町四八
大岡書院　同高輪北町一四
大岡山書店　神田駿河臺三ノ五
大岡山堂　麻布笄町一七六
大川屋　目黒碑文谷一八七六
大神田書店　淺草三好町一
大木書店　小石川原町一二〇
大木屋書店　本所東兩國二ノ五
大國屋　向島吾嬬町西八ノ七
　淺草南松山町三七
大久保昌盛堂　本郷湯島天神町三ノ一四
大熊商店　江戸川逆井一ノ二七三
大雲堂　神田通神保町五
大雲堂　本所橫網町二ノ一〇 保善商業學校内
大雲堂支店　神田南神保町一五
大倉廣文堂　大森新井宿六ノ六八〇
大倉書店　京橋京橋一ノ八
大阪屋號書店　日本橋通一ノ一九
大阪屋號書店（合名）　同吳服橋二ノ五
大崎雜貨店　品川大崎停車場構内
大崎若林書店　同東大崎町三ノ二四
大澤商店　中野中野町二〇八三
大島書店　淀橋柏木四ノ九五九
大志滿屋　淺草新旅籠町二〇
大田商店　板橋練馬南町二ノ三七一
大田屋　淀橋西大久保二ノ二五五
大田屋書店　足立本木町二四七三
大竹書店　板橋板橋町五ノ九一四
大竹商店　日本橋蠣殼町二ノ一四
大谷書店　本所茅場町三ノ七
大谷龍文堂　中野桃園町一四
太田書店　蒲田小林町二二三
太田書店　本所林町一ノ一四
大澤商店　大森大森三ノ一三四二

大塚巧藝社　本郷金助町四五
大塚書店　日本橋室町四ノ一 日本橋坂本町櫻川岸二二號
大塚屋　赤坂新町二ノ四
大津光文堂　淺草猿屋町一七ノ七
大坪書店　神田通神保町四
大富堂　城東南砂町六ノ一〇一
大庭書店　豐島西巢鴨二ノ二〇三
大野書店　神田小川町三ノ六
大野商店　小石川林町八〇
大野書店　中野鷺宮一〇二七
大野屋　小石川同心町五
大廼家書店　四谷新宿町二ノ八一
大橋書店　本郷森川町七一
大橋堂　淺草北仲町九
大橋堂支店　葛飾新宿町三ノ六一八
大畑書店合資會社　神田一ッ橋通町三〇 教育會館
大場書店　下谷西町一
大林堂　麻布新堀町二
大原堂　荏原上神明町五四
大村書店　小石川武島町一〇
大矢書店　深川清澄町二ノ一
大屋書房　神田通神保町一
大山書店　大森大森五ノ二二四六
大和出版部　芝愛宕町三ノ二
岡崎屋書店　神田表神保町四

岡澤文信堂　神田多町一ノ一
岡書院　同駿河臺北甲賀町四
岡田三角堂　瀧野川西ケ原町八九四
岡田書店　京橋寶町一ノ三
岡田商店　小石川駕籠町五二
岡田商店　目黑衾町五五一
岡田新誠堂　澁谷千駄ケ谷四ノ六六六
岡田日榮堂　荏原中延町三四二
岡田屋　神田佐久間河岸三七號 神田川ビル内 深川門前仲町二ノ三
岡二松堂　澁谷伊達町四七
岡野商店　牛込早稻田鶴卷町四四四
岡村書店　淺草下平右衞門町九
岡安商店　本所向島小梅町一九二
奥上清文堂　中野沼袋南二ノ一〇一
奥澤書店　澁谷幡ケ谷九
奥澤文雅堂　世田谷玉川奥澤町一ノ三二五
奥田裁縫女學校出版部　杉並馬橋四ノ四〇一
奥田文昭堂　荒川三河島町二ノ二六五二
奥野書店　神田南神保町一一
奥村松榮堂　同今川小路二ノ一五
奥村商店　荏原小山町五四九
奥村商店　澁谷常磐松町六五
小笠原書院　品川五反田一ノ二七七
小川喜代次郎商店　下谷御徒町三ノ三
小川弘文堂　神田表猿樂町二

小川出版社　本郷春木町三ノ三七 芝三田四國町 東京高等女學校内
小川商店　麻布新堀町一一
小川書店　淺草茅町二ノ二
小川書店　澁谷上通二ノ一六
小川書店　牛込早稻田鶴卷町三〇八
小川南郊堂　大森新井宿五ノ五七五
小此木宏文堂　淀橋西大久保三ノ一三四
小此木宏文堂　荒川尾久町三ノ二五八
小澤書店　蒲田御園町二六二
小崎勉强堂　本郷根津清水町一〇
小澤書店　淺草元島越町六
小澤雄文堂　澁谷八幡通リ一ノ四
小田商店　下谷上車坂町六〇
小野光文社　荏原戸越町一二四八
小野澤書店　深川西平井町一五
小野塚本所堂　本所龜澤町四ノ四
小野勉强堂　澁谷代々木山谷町三二五
扇屋　豐島巢鴨二ノ二一六二
扇堂　神田今川小路一ノ三
歐米都市名著刊行會　淀橋下落合三ノ一七三
歐文社　麴町飯田町二ノ三 中山ビル内
歐米旅行案内社　芝櫻川町二五
櫻雲堂　小石川目白日本女子大學構内
櫻楓會商業部　下谷三ノ輪町八六
櫻文堂

近江屋　京橋松屋町一ノ四
荻原星文館　神田表猿樂町二〇
織内商店　牛込西五軒町四八
織田書店　麻布龍土町一三
落合書店　大森田園調布二ノ八三六
尾上書店　小石川白山御殿町七
尾西堂　荒川尾久町三ノ六〇七
尾張屋　京橋月島西仲通九ノ八
鶯林堂　瀧野川田端町二五六
應來社書房　神田西紅梅町六
旺文堂　麴町上六番町五
王子書店　王子下十條町六八七
王文堂　淺草玉姫町三三
音羽出版社　小石川音羽町四ノ二
音樂書屋　神田三崎町三ノ三六
溫故書屋　麴町飯田町二ノ六三

か

カオリ社合資會社　神田錦町一ノ一二
カジマ書店　淺草馬道町一ノ一伊藤方
カナモジカイ　京橋銀座西八ノ四
カナリヤ書店　中野江古田一三二二
カニ書店　下谷御徒町二ノ五
カネー社　同仲御徒町一ノ一四
カメヤ　中野新山通二ノ一四
かがみ社　小石川雜司ヶ谷一〇〇

かづさや　品川北品川二ノ八九
かどや　中野江古田一三三八
かね田屋　品川五反田一ノ三八四
かはくちや　向島吾嬬町西二ノ九一
がま金堂　深川永代町一ノ六
海岸堂　大森入新井一ノ三八
海外研究社　杉並馬橋四ノ五四七
海外社　芝愛宕町三ノ二一
海文堂　神田小川町二ノ一
改進堂　四谷新宿町二ノ五四
改造社　芝愛宕下町四ノ三九
開拓社　神田表猿樂町一〇
開田堂　下谷二長町二
開發社　麴町三番町六三
開文社　神田錦町一ノ二
開文社　世田谷赤堤二ノ五三五
開隆堂　神田錦町三ノ五
會計社　麴町下六番町六
會通社　小石川小日向臺町三ノ六二
外語書房　神田猿樂町二ノ一一
外語學院出版部　四谷右京町四二
外苑堂　澁谷千駄ケ谷町二ノ三六二
外國語學研究會　麴町下六番町一七
魁文堂　蒲田六郷町二九〇
快文堂　荒川尾久町五ノ一二七八
偕隆社　蒲田蒲田町一二八八

香山堂　小石川雜司ヶ谷町六二
香柏社　豐島堀ノ内町一〇三五
岳陽社　神田小川町四一
鶴鳴館　荏原戸越町一一九四
鶴嶺堂　神田同朋町二
學園堂　向島吾嬬町西五ノ九一
學海指針社　神田昌平河岸四號地
學究社　同錦町一ノ九
學藝書院　本郷湯島新花町三四
學校美術協會出版部　荒川日暮里三ノ一九六
學習社株式會社　神田通神保町一
學友社　淀橋東大久保一八〇
學友堂　葛飾本田川端町七〇四
掛川屋　小石川大塚仲町二〇
掛川屋西川支店　豐島堀ノ内町一二四
笠原書店　神田小川町三ノ八
笠原書店　江戸川小松川三ノ七五
笠原支店　同平井三ノ八一八
柏木書店　淀橋柏木町三ノ三二五
柏木堂　中野城山町二七
柏原書店　四谷内藤町一
柏屋書店　淺草石濱町二ノ八
堅木屋　神田今川小路三ノ一
歌人房新興學會出版部　板橋中新井町四ノ一七一五
數矢堂　神田末廣町二三
片桐商店

加島勉强堂　神田金澤町二二
加瀨商店　下谷金杉上町八五
加藤玉泉堂　大森田園調布四ノ五
加藤書院　本郷本郷六ノ九
加藤書店　京橋銀座西五ノ二
加藤商店　同月島西仲通一ノ五
加藤商店　豐島西巢鴨四ノ二二八
加藤文具店　同巢鴨二ノ二三
勝々堂　下谷數寄屋町一五
勝田書店　芝芝公園一五號ノ一一
勝田書店　城東龜戸町三ノ二四九
勝俱書房　板橋江古田町二一四六
活動社　下谷入谷町三三〇
夏汀堂　杉並西高井戸二ノ三八
家事及裁縫社　牛込矢來町二二
家庭醫學社　神田今川小路二ノ三 神保ビル
家庭生活改善會　本郷駒込動坂町四七
門野書店　神田今川小路三ノ六
鹿取豐文堂　牛込神樂町一ノ五
要書房　深川西平井町一五
金子書店　荏原下神明町二一八
金子商店　本所横網町二ノ六
金子昭文堂　豐島池袋二ノ一一五六
金子出版部　芝南佐久間町二ノ二
金子堂　小石川久堅町八三
金剌書店　神田今川小路一ノ五

金杉商店　日本橋吳服橋三ノ三
金富堂　小石川水道端町一ノ三
加納金星堂　荏原戸越町九三九
叶屋　淺草千束町二ノ二八五
ヿ平商店　蒲田麹谷町一ノ二二〇
蒲田文化堂　同御國町一二
鏑木屋　荏原小山町五七四
鏑木屋書店　同中延町二八四
上方屋書店　神田今川小路一ノ四
上方屋分店　同　同三ノ六
上山書店　澁谷下通二ノ一一
龜井堂　神田淡路町二ノ四
龜井屋　杉並高圓寺六ノ七五八
龜屋　豐島池袋三一五
龜屋　瀧野川瀧野川町二〇七五
茅沼書店　神田中猿樂町一五
唐木屋　淺草猿屋町一七
川合商店　城東龜戸町六ノ一二一
川崎書店　豐島巢鴨七ノ一八七六
川島書店　品川北品川三ノ二一五
川島商店　向島吾嬬町東三ノ六八
川島文魁堂　深川萬年町二ノ一七
川田商店　蒲田羽田鈴木町一五八
川津書店　神田多町一ノ四
川原書店　本郷森川町三〇
川邊書店　目黑上目黑八ノ五一一
川村商店　本所横綱町二丁目　日本大學普通部構內
川村書房　下谷上車坂町六〇
川村書房支店　神田三崎町三ノ一　日本大學構內
川村拓文堂書店　小石川大塚町六八
河上書店　芝新橋五ノ一八
河島書店　中野新井藥師町四七一
河內屋　麻布宮下町六
河鍋書店　牛込早稻田鶴卷町四三八
河本商店　日本橋通二ノ四
化學工業時報社　京橋京橋三ノ四
我觀社　京橋銀座西五ノ三對鶴館內
畫報社　本郷湯島切通坂町二五
畫覽堂　赤坂表町三ノ三
課外讀物刊行會　牛込西五軒町二〇
神田屋　足立千住仲町五八
神戸書店　麴町飯田町二ノ三七
神山書店　澁谷下通二ノ一三
嚴海堂　牛込早稻田鶴卷町四四三
嚴松堂　神田中猿樂町一
株式會社嚴松堂書店卸部　同表神保町二
株式會社嚴松堂書店　同中猿樂町二
嚴翠堂書店　同三崎町三ノ一日本大學內
嚴誠堂　淀橋戸塚町一ノ六二九
干城堂　麴町下六番町一七
觀音堂　江戸川東小松川三ノ三七〇七
考へ方研究社　神田一ツ橋通町二
菅公堂　向島寺島町五ノ五
含弘堂書店　神田三崎町一ノ一
貫文堂　淀橋角筈日本中學校內

き

紀伊國屋　淀橋角筈八二六
紀伊國屋書店銀座支店　京橋銀座六ノ一
紀元社　小石川丸山町六
紀芳堂　神田錦町三ノ一一
機械評論社　大森田園調布三ノ三二
機山閣　牛込肴町一二
桔梗屋　麻布田島町二〇
桔梗屋　豐島高田町三二七
きくや　淺草田中町九二
きむらや　下谷中根岸町七三
キクチ堂　本所龜澤町二ノ一九
キユーピー堂　神田新銀町四〇
キリヤ　向島寺島町一四二六
キング書籍雜誌部　中野上町二一
キンギ堂文具店　牛込北山伏町一九
菊川堂　本所菊川町一ノ二一
菊壽堂　神田大和町八
菊水書肆　世田谷玉川奧澤一ノ三七八
菊地商店　中野中野町三五〇二
菊地屋　四谷本村町九

菊原興文堂　神田中猿樂町一七
菊洋堂　同淡路町二ノ三
岸書店　荒川町屋三ノ一三五九
岸田書店　芝三田同朋町三
岸田商店　下谷下根岸町三四
岸田商店　澁谷幡ヶ谷本町三ノ一四
北川商店　王子岩淵町一ノ八五五
北澤書店　神田南神保町一〇
北澤書店支店　同　同　一五
北村書店　麻布北日ヶ窪町一一
吉備堂　澁谷代々木上原二四〇
甲子書院　神田小川町一共成社內
甲子社書房　赤坂青山南町五ノ六七
甲子堂　向島吾嬬町西三ノ一〇九
砧書店　世田谷玉川上野毛町一一八一
技能教育社　小石川小日向臺町一ノ七二
輝文堂書房　同　戸崎町一三
希望閣　牛込早稻田鶴卷町四七一
希望社出版部　淀橋西大久保四五八
希望堂　澁谷千駄ヶ谷町三ノ三六三
木下商店　王子上十條町一四一四
木下有文堂　神田三崎町二ノ一一
木田書店　深川萬年町二ノ一三
木原書店　本郷弓町一ノ一二
木村書店　京橋木挽町四ノ五
木村書店　豐島西巢鴨三ノ八八一
木村商店　本所柳島横川町一四六
木村屋　蒲田女塚町三一六
木屋　深川西平野町一
鳩居堂　澁谷千駄ヶ谷三ノ四六〇
鳩嶺堂　神田南神保町一六
救世軍出版部　同一ツ橋通町五
求我堂　小石川西青柳町一
求道發行所　本郷森川町一
久榮堂　深川三好町一
久文堂　蒲田蒲田町一〇七四
原華堂書店　中野谷戸二三九〇
京都弘文堂東京支店　神田駿河臺四ノ四
京文堂　世田谷代田三ノ七二〇
京文社　神田淡路町二ノ二
京屋書店　牛込肴町二一
京陽堂　荏原戸越町七九八
共益商社　大森田園調布三ノ三六六
共益商社書店　京橋銀座七ノ一
共榮堂支店　芝松本町四四
共榮堂書店　杉並荻窪三ノ一二〇
共生會出版部　同天沼一ノ二四八
共同　同　麻布笄町一二六
共同書籍株式會社　神田淡路町二ノ三
共立社　同錦町三ノ九
共和堂出版部　同駿河臺三ノ九
本郷春木町二ノ五九
協調會　芝芝公園六號地
恭文堂　目黑三谷町九〇六
協文堂　荒川尾久町一ノ七四七
喜久屋　大森田園調布三ノ三二
喜文堂　日本橋通三ノ三
喜吉堂　京橋築地二ノ四
旭光社　芝濱松町三ノ一
旭翠堂　小石川大塚辻町二
旭文堂　品川大井原町五一八八
旭邦堂　下谷池之端七軒町二二
極東書院　赤坂溜池三〇自動車ビル內
極東社　麴町隼町二四
清野書店　小石川茗荷谷町三七
玉英堂　本郷本富士町二
玉英堂支店　神田通神保町一
玉光堂　淺草龜岡町一ノ一五
玉文堂　荏原下神明町五〇五
玉森堂　淺草公園仲見世西側四六
玉森堂分店　本所向島町一ノ四
究明堂　小石川小日向水道町三五
橋南堂　荒川南千住町八ノ八
基督教思想叢書刊行會　神田區美土代町三ノ二　東京基督教青年會館
基督教出版社　同錦町一ノ八基督教會館內
基督教書類會社　京橋銀座四ノ四
桐山商店株式會社　麴町三番町四
麒麟堂　世田谷代田三ノ一〇三三

牛山堂　神田雉子町三〇
欣榮堂　品川五反田一ノ二七七
欽文堂　神田表神保町一〇
近代社　京橋銀座西五ノ三　對鶴ビル内
近代文明社　下谷谷中初音町四ノ一七
近代評論社　杉並阿佐ヶ谷六ノ二四四
近文堂　品川南品川四ノ三五〇
金榮堂支店　日本橋瀬戸物町二一
金櫻堂　神田材木町一〇
金華堂　四谷新宿町二ノ一八
金華堂支店　目黒下目黒町四ノ九五〇
金鷄學院　同大岡山三五
金港堂書籍株式會社　小石川原町一二
金書堂　神田今川小路二ノ一一
金松堂書店　下谷谷中初音町四ノ一六六
金松堂書店　赤坂新町三ノ一〇
金星堂　目黒上目黒七ノ二〇九
金の星社　神田今川小路一ノ四
金原商店　下谷二長町一六二
金文堂　本郷湯島切通坂町二一
金蘭社　芝三田町二ノ一二
金龍堂　豐島駒込一ノ二八
金鈴社　淺草小島町七五
錦碩堂　同　同　二二
錦華堂　足立千住五ノ三
錦耕堂　神田猿樂町二ノ八
錦晃堂書店　日本橋小傳馬町三ノ一四
錦秀堂　蒲田矢口町三三九
錦水堂　澁谷幡ヶ谷本町一ノ二
錦生堂　杉並高圓寺五ノ八二三
錦文堂　豐島長崎南町三ノ四四七
銀行研究社　京橋采女町一七
銀扇堂書店　麴町飯田町二ノ六八
吟舍　中野本町通一ノ一〇
吟葉社　神田表神保町二
琴隆堂支店　澁谷惠比壽通一ノ四
　　葛飾金町一七八九

く

日下有信堂　大森新井宿五ノ五六
合資會社草苅商店　神田通神保町五
草下書店　下谷竹町一二
草間書店　芝金杉四ノ二〇
楠豐文堂　豐島池袋二ノ九四八
九段書房　神田今川小路一ノ三
窪川書店　小石川白山前町五六
熊谷商店　神田花房町秋葉原驛橋内
熊谷書店　豐島西巢鴨二ノ二六一
雲田清光堂　下谷三輪町一二三
倉持書店　本郷本郷五ノ二八
倉持本店　同弓町二ノ一七
藏方商店　蒲田安方町三一五
グランド書店　下谷池ノ端七軒町五一
合資會社栗田書店　神田表神保町二
栗田書店　同
栗田商店　大森大森七ノ三一〇五
栗林三角堂　麴町飯田町三ノ二二
久留田書店　澁野川西ヶ原町五九五
久保屋　大森馬込町東三ノ七二
久保田書店　日本橋馬喰町四ノ一六
久保井書店　蒲田蒲田驛前
久野書店　牛込早稻田鶴卷町四三
黑田光文社　麴町平河町五ノ一七
黑田書店　王子赤羽町一ノ一〇四
黑田屋　淺草象潟町一〇
黑田屋　江戸川桑川町五九六
科學知識普及會　麴町丸ノ内二ノ六
風世流改訂本刊行會　神田今川小路三ノ九
軍事學指針社　四谷本村町九
軍事教育會　麴町紀尾井町六
軍需商會　牛込若松町一五〇

け

ケーキ堂　王子上十條町一四六五
慶應義塾販賣部　芝三田町二ノ二
慶雲堂　深川東森下町八五
慶文堂書店　神田錦町一ノ一九
圭運堂　同表神保町一〇

圭運堂出張所　神田錦町一ノ一三
圭文社　日本橋通四ノ七
圭文堂　荏原下神明町八八
株式會社桂文閣　神田區淡路町一ノ二
敬昌堂書店　淀橋角筈一ノ八〇〇
敬文館　神田小川町三ノ二四
敬文社　澁谷大向通七
啓成社株式會社　麴町丸ノ内三ノ六
啓文館　神田淡路町一ノ一
啓文社　本郷元町二ノ六六
啓明閣　神田駿河臺南甲賀町三
啓明堂　杉並松ノ木町一一六四
經濟新聞社　日本橋南茅場町二九
經濟知識社　麴町丸ノ内ビル三〇四區
經濟之日本社　日本橋坂本町一九
警醒社　京橋木挽町五ノ四
警眼社　日本橋通三ノ八
警友社　牛込横寺町五八
　　麴町丸ノ内二ノ一八　時事新報社ビル四
景氣研究所　世田谷北澤町三ノ一〇二六
溪文社　豐島巢鴨五ノ一〇二六
仰文堂　神田小川町四〇
藝文書院　麴町西日比谷一司法省構内
刑務協會財團法人　小石川原町六
鷄聲堂　杉並高圓寺一ノ四五四
螢雪堂　品川東大崎四ノ一四〇
月曜社書店　麴町富士見町五ノ九
教育研究會　京橋入舟町五ノ一
教育實際社　日本橋通三ノ八
教育社　神田仲町一ノ四　萬世ビルデング内
教育書院　下谷上根岸町四四
教育出版社　神田錦町三ノ一二
教育第一協會　小石川東青柳町二七
教育圖書出版社　牛込辨天町二八
教育用品研究會　澁谷綠岡町一三　日本メソジスト教會内
教界時報社　赤坂青山南町四ノ三
教學院書房　澁谷羽澤町五三
教化的國家社　京橋銀座四ノ一
教文館　本郷向ヶ岡彌生町三
教文書院　王子豐島町八〇九
教文堂　小石川表町一〇五
教報社　牛込矢來町六四
教明社　中野沼袋南二ノ五三
教佑社書房　神田仲猿樂町一
教康堂　品川南品川六ノ一四六九
建設工業社　神田今川小路三ノ六
建設社　豐島雜司ヶ谷一一五
健全社書店　芝高輪南町三〇
建築書院　神田今川小路三ノ六
建築書房　京橋西八丁堀三ノ六ノ四
建文館　牛込矢來町七九
健文社　麴町飯田町六ノ二三
言語學會　本郷動坂町九四
言誠社　神田通神保町八
言文社　牛込辨天町六
玄黃社　本郷西片町一〇
玄誠堂支店　芝白金臺町二ノ二〇
玄誠堂　目黒下目黒二ノ三三四
現代教育社　神田中猿樂町一二　前田ビル内
現代社　下谷西町三
研精社　豐島長崎東町三ノ四八
研精堂　神田表神保町三
研文社　牛込野川田端町東臺通四〇〇
賢榮書院　淀橋戸塚町一ノ四九〇
鋭櫻堂　淺草馬道町三ノ一四
研究社　麴町富士見町六ノ五
原泉堂　本所番場町六九
原理日本社　世田谷若林町二七八
源泉堂　神田元佐久間町五
元文堂　品川西大崎一ノ三九〇

こ

工學書院　神田表神保町三
工華堂　大森北千束町七七六
工玉堂書店　品川西大崎三ノ四九五
工業教育會　本郷眞砂町一九
工業雜誌社　京橋銀座七ノ三　朝日ビル内
工業書院　神田錦町三ノ一九
工事畫報社　麴町丸ノ内三ノ六

工人社　神田錦町三ノ八
社團法人工政會　麴町有樂町一ノ一
高華堂書店　本郷駒込林町二四五
高光堂　目黑上目黑二一九〇
高知屋　澁谷代々木富ケ谷町一四四七
高踏社　淀橋柏木一ノ一四二
高文館書店　荏原中延町一五八
高文堂　豐島高田本町二ノ一五二
高陽書院　神田小川町一ノ一 神田ビル三六號内
好球堂　赤坂青山北町四ノ二三
好文閣　葛飾本田淡之須町二八
好文社　小石川原町三一
好文堂　神田錦町三七
好文亭　淺草淺草町三二
弘學館　神田中猿樂町七
弘進堂　荏原中延町五九八
弘道閣　神田錦町三ノ一
弘道館　同北神保町一一
弘文館　同三崎町一ノ一
弘文社　同錦町一ノ二
弘文堂　同通神保町一
弘明堂書店　同　錦町一ノ一
弘陽堂　杉並阿佐ケ谷三ノ三〇八
公生堂書店　同荻窪四ノ四
公文館　神田表神保町一〇
公文書院　赤坂田町三ノ一六
公文堂　澁谷代々木上原町一〇四五
公文堂支店　同代々木一〇四五
公民社　淀橋下落合四ノ六〇〇
公覽社　王子稻付町四ノ四八〇
光榮館　神田三崎町三ノ一五五
光英堂　荒川南千住町一ノ六五
光華堂　豐島池袋一〇八九
光月堂　城東南砂町二ノ八五八
光昭館　小石川大塚窪町一七
光柳堂　荏原戸越町一三八二
光世館　日本橋本町四ノ一二
光星館　赤坂青山南町六ノ五〇
光成館　小石川大塚窪町三
光誠堂　品川大井立會町五七五
光大社　板橋板橋町三ノ二八七
光東館書店　向島寺島町一ノ一六七
光南堂　杉並大宮前六ノ三〇九
光風館　神田通神保町ノ六
光文館　小石川西江戸川町三一
光文社　豐島池袋二ノ九〇四
光文堂　荏原馬込町一ノ三七
光明社　本郷駒込追分町一五
光明館　豐島長崎町一〇〇八谷口方
光明堂　神田通神保町二
光融館　同猿樂町一ノ二
光有館　世田谷松原町二ノ六九四
光陽堂　向島吾嬬町東五ノ一
光林堂　小石川駕籠町七
光林堂支店　目黑上目黑八ノ四三七
孝歷堂書店　神田表神保町一〇
孝養堂　麻布六本木町一
河野書店　神田和泉町一
河野書房　芝三田北寺町七
河野明文館　芝愛宕町三ノ一
國榮堂　葛飾細田九三一
國華堂　神田豐島町二八
國光印刷株式會社　京橋築地二ノ二
國語傳習所　神田三崎町一ノ二
國際經濟新報社　京橋槇町二ノ七
國際出版印刷社　麴町有樂町二ノ六
株式會社國際書房　神田小川町三ノ五
國際情報社出版部　麴町內幸町一ノ三
國際美術社　牛込矢來町一一
國際聯盟協會　麴町丸ノ內二ノ一二
國史講習會　麴町飯田町六ノ二三
國書刊行會　麴町山元町三ノ四
國定教科書 坂次販賣所　京橋新榮町五ノ六
國風會出版部　牛込東五軒町一
國風閣　麻布北新門前町三
國文堂書店　澁谷八幡通一ノ一八
國民教育社　麴町飯田町五ノ三五
國民出版社　神田今川小路三ノ六

國民時論社　麴町元園町二ノ一〇
國民精神社　麻布宮村町六三
國民堂　本所緣町一ノ一九
國民圖書株式會社　麴町內幸町一ノ六
國民文化研究會　本郷西片町一〇
國民文庫刊行會　神田小川町一
國民法制學會　淀橋柏木一ノ一四一
國林堂　品川下大崎三八三
廣榮堂　品川大崎町本町二ノ三九
廣惠堂書店　澁谷下通四ノ一八
廣惠堂支店　澁谷中通一ノ二二
廣文庫刊行會 合資會社　本郷駒込林町三〇九
廣集堂　荏原小山八八
廣進堂　麴町紀尾井町六
廣文館　赤坂青山南町六ノ六六
廣文堂　大森新井宿二ノ一七九
廣陵社　神田通神保町五
廣林堂　蒲田新宿町六〇〇
廣臺社　中野北沼袋二六五
克誠堂　本郷本富士町二
克明堂　神田小川町一
紅城社　牛込南榎町二八
興學館　神田錦町一ノ一九
興學堂　本郷湯島三組町二五
興文堂書院　麴町日比谷公園市政會館內
興文社　日本橋馬喰町二ノ一
興文堂　下谷御徒士町二ノ四九
浩文館　本郷森川町九三
浩文社　芝新橋六ノ七
浩文堂　下谷金杉上町八
誠堂　芝櫻田善右衛門町一
交通經濟社　神田錦町一ノ九
交蘭社　小石川江戸川町一八
甲文堂　世田谷玉川用賀町二ノ一二九〇
甲房堂　本郷駒込神明町八三
向原堂　目黑向原町二二一
向山堂書房　麴町飯田町二ノ五二
向文堂　淀橋柏木一ノ五八
耕進社　本郷駒込動坂町二六四
耕文堂　中野高根町一七
耕山堂　中野前原二
幸堂　下谷竹町二二
幸文堂書店　澁谷氷川町一一
皇學書院　神田南神保町一一
皇典社　牛込早稻田鶴卷町一〇七
康文社　芝西大久保廣町三五
康文堂書店　四谷新宿町一ノ五
黃雲堂　世田谷玉川奥澤町一ノ三六三
黃楊堂　瀧野川西ケ原七四
郊外社　麴町內幸町一ノ七幸ビル
航空時代社　神田須田町二五
合資會社巧藝社　澁谷代々木初臺町四八一
皓山堂　更新出版社　麴町丸ノ內三菱二一號
厚生閣　同　下六番町四八
構成社書房　同　飯田町二ノ三
鄕土研究社　小石川茗荷谷町五二
鴻之巢書房　本郷駒込坂下町二
貢文堂　神田通神保町八
晃文堂　蒲田御園町一三六
鴻盟社　芝新橋五ノ四
洪洋社　牛込市ケ谷臺町一〇
港灣協會社團法人　麴町有樂町一ノ一
黑龍會出版部　麴町永田町二ノ八六 自由倶樂部內
護國團　小石川西丸町六〇
古今書院　神田駿河臺二ノ一〇
コウサン堂　澁谷代々木初臺町四九六
コシマヤ　世田谷三宿町三三
コドモ社　小石川林町五七
コドモヤ　澁谷千駄ケ谷五ノ八五六
コロナ社　小石川駕籠町一二
コンマーシャル ジャパン社　本郷弓町一ノ八
とびばり　豐島池袋七ノ二一六〇
兒島出版社　赤坂青山南町六ノ一〇一
五九堂　深川本村町一一
五聖閣出版局　神田須田町二二
五念屋　下谷龍泉寺町二六
五橋堂　城東龜戶町六ノ一四
五橋堂支店　向島吾嬬町三六三

胡蝶堂　豐島西巢鴨二ノ一九三四
滑稽堂　日本橋室町三ノ九
御殿山堂　品川北品川四ノ七一八
子供の日本社　神田猿樂町三ノ一
子寶倶樂部　瀧野川瀧野川町一九四九
言問堂書店　杉並馬橋二ノ二二三
駒井商店　神田新石町神田驛
小池書店　淺草千束町一九
小池書店　芝高輪北町一〇
小石川音樂協會　小石川宮下町一四
小泉榮文堂　下谷坂本町三ノ三
小泉商店　深川猿江裏町四
小泉商店　淺草田原町一ノ一四
小岩柏木書店　江戸川小岩町二一九八
小喜多商店　杉並荻窪四ノ一三四
小菅書店　王子下十條町六一五
小瀧堂　中野小瀧町二四
小西書店　本郷弓町二ノ三
小西支店　同　菊坂町五六
小西六本店　日本橋室町三ノ三
小沼日英堂　本郷駒込追分町六
小畑成美堂　四谷左門町七五
小林玉流堂　本郷根津八重垣町三六
小林書店　目黑原町一二四六
小林書店　蒲田六郷町二〇七
小林書店　杉並高井戸一三二
小林商店　淺草茅町一ノ八
小林昭文堂　板橋根之上町二九一一
小林昭和堂　大森入新井町六ノ四三
小林青雲堂　豐島池袋二ノ一六九八
小林精華堂　牛込市ケ谷藥王寺町六二
小堀商店　豐島池袋二丁目東鐵講習所
小堀堂　麻布東兩國四ノ二
小山書店　麻布飯倉町四ノ六
後地堂　荏原戸越町一五八
後藤勝三事務所　同　小山町五〇三
近藤出版部　牛込赤城下町七一
任康　麴町鐵道省構內
小松堂　牛込北町二四

さ

サイタ書林　牛込原町三ノ三四
サガミヤ　四谷東信濃町一一
サガミヤ　淺草馬道町六ノ三
サキガケ商會　中野多田町六八
サキガケ堂　大森馬込町東四ノ二三三
サクラヤ商店　豐島池袋五ノ二五〇
サツマ堂書店　芝本芝四ノ一六
さかゑや　中野沼袋南二ノ一〇〇
さつまや　芝白金臺町一ノ三九
齊雲堂書店　向島寺島町三ノ四四
齋藤書店　京橋木挽町一ノ一四
齋藤書店　江戸川逆井二ノ三六六
濟命堂書籍部　小石川戸崎町八八
濟生館　本郷本郷六ノ五
彩雲堂　京橋銀座西二ノ五
彩華堂　小石川關口町一七一
彩美堂　麻布飯倉町四ノ四
埼玉屋　荒川町屋二ノ四〇一
財政經濟時報社　麴町有樂町仲通六號館
座右寶刊行會　本郷龍岡町三四
相模屋　下谷南稻荷町四四
榮堂　大森入新井六ノ四九一
榮屋　芝白金三光町三八七
坂井書店　品川大井町四六七
坂井堂　淺草小島町七三
阪入書店支店　葛飾新宿町三三〇六
坂口共榮堂　日本橋箱崎町二ノ六
坂田書店　本郷森川町九〇
坂本書店　麴町飯田町二ノ六三
榊原文盛堂　日本橋本町四ノ二
酒井一貫堂　本所厩橋通三ノ二七
酒井十字堂　神田通神保町三
酒井書店　品川西大崎三ノ四七七
酒井書籍店　本郷駒込淺嘉町五〇
櫻井書店　四谷麴町一二ノ二四
櫻井書店　豐島西巢鴨一ノ三五七
櫻井商店　荒川三河島町一三三五

櫻井商店　城東北砂町二ノ二四〇
櫻川堂　芝新橋七ノ一〇
櫻木書房　神田錦町一ノ一二
櫻田文房具店　芝愛宕下町一ノ一二
櫻屋　下谷上根岸町一二四
櫻や　小石川柳町二七
佐伯明進堂　本所石原町一ノ一
佐久間商店　豐島西巢鴨二ノ二三七
佐久間堂　神田佐久間町四ノ六
佐藤商店　本郷千駄木町五〇
佐藤商店　下谷金杉上町八五
佐藤書店　杉並堀ノ內二ノ四四〇
佐藤書店　同和泉町一二〇
佐藤屋　足立本木町二四七二
佐野書店　同　千住仲町六一
佐野屋　芝白金臺町一ノ三二
佐野屋　品川大井南濱川町一六六
笹岡書店　京橋越前堀三ノ三
笹川書店　神田中猿樂町一四
薩州書店　澁谷羽澤町五七
澤崎書店　瀧野川田端町一〇四三
澤田信陽堂　淀橋西大久保二ノ二九
澤田屋　大森新井宿一ノ三五七
澤野榮松堂　城東龜戸町三ノ一一
三愛社書店　神田表神保町一〇
三一堂　豐島池袋八六六
三榮堂　牛込北町二〇
三榮堂本店　神田佐柄木町一九
三益出版社　麴町富士見町四ノ八
三角堂　小石川表町一〇
三角屋　芝高輪南町四六
三嘉堂　牛込早稻田南町三二
三共社　荒川三河島町一ノ一七九
三共商會　京橋銀座西五ノ二
三協社　神田錦町一ノ一八
三惠書店　同　猿樂町二ノ四
三圭社　芝二本榎西町二
三敬堂　神田錦町一ノ二菊地方
三元社　同　西今川町五
三元堂書店　同　錦町一ノ二
三原堂　品川大井町五二一二
三光院　品川南品川三ノ一五八八
三光堂　京橋新湊町四ノ一
三光堂書店　神田通神保町五
三晃書店　板橋練馬土支田町一ノ一五二
三江堂　本所江東橋一ノ三
三興堂　神田三崎町二ノ一二
三甲堂　豐島西巢鴨三ノ七二四
三才社　神田一ツ橋通町一七
三才堂　杉並高圓寺三ノ三四四
三思堂　瀧野川瀧野川町八六八
三書堂　荒川日暮里町二ノ二六
三書堂　足立千住旭町一三
三昭堂　本所廣網町八
三松堂　京橋槇町二ノ五
三秀舍　神田美土代町二ノ一
三信堂書店　世田谷大原町一三〇六
三進堂　神田表神保町二
三水社　芝神明町二五
三成社　豐島巢鴨六ノ一三九五
三星社書店　神田表神保町一
三星書店　牛込市ケ谷藥王寺町八三
三星堂　杉並馬橋三ノ三三六
株式會社三省堂　神田通神保町一
株式會社三省堂書店　同　通神保町一
三正堂　下谷竹町一二
三盛堂書店　神田南乘物町八
三泉堂　中野新井藥師町六六一
三鳥社　目黑下目黑七〇四
三德社　神田美土代町二ノ一
三也書社　豐島駒込三ノ三五一
三の丸商會　品川大井町鮫洲四三
三ノ丸商店　本郷西片町六
三ノ丸書房　芝芝公園五號地一〇ノ三
三寶閣　神田中猿樂町一七
三友社　四谷新宿町一ノ八八
三雄社書房　神田中猿樂町五
三友堂書店　牛込細工町六

三洋社　麹町飯田町三ノ一〇
三洋堂　板橋練馬南町一ノ三五六八
三葉堂　世田谷紘卷町二ノ三三
三葉堂　同　經堂町七九五
三樂堂書店　澁谷千駄ヶ谷八五六
三鈴社　小石川大塚仲町三六
參天堂書林　足立六月町四四五
參考圖書出版社　神田佐柄木町一一
參陽社　麹町三番町八三
山海堂出版部　神田北神保町二一
山喜房　本郷本郷六ノ九
山洲堂　芝二本榎西町三
山洞書院　下谷西町一四
山民書園　淀橋角筈二ノ九三
山陽堂　赤坂青山北町六ノ三七

し

椎橋商店　目黒碑文谷一ノ一〇八一
壽生堂　向島隅田町三ノ五三〇
紫雨出版社　本郷動坂町九四
紫雲堂　淺草芝崎町四八
使命社　世田谷下北澤七一〇
殖産協會　牛込津久戸町一二
常山堂　神田錦町一ノ二
省三堂　同　北神保町三
集英社　同　一ッ橋通町三
集英堂　下谷西町三
集成社　牛込原町二ノ四五
集文館　同　津久戸町三一
集文堂　荒川南千住町六ノ一八
十字屋　荏原小山町九
十字屋　京橋銀座三ノ二
重寶堂　深川大島町七
重學屋　蒲田羽田二ノ七一
修學社　淀橋柏木大町五ノ一〇四〇
修省堂　神田裏猿樂町一五
修心堂　本郷元町二ノ六六
修文館　神田表神保町二
鹽澤書店　澁谷下通三ノ一一
鹽野書店　麹町富士見町四ノ二一　法政大學構內
鹽田商店　足立花畑町五三二四
汐見堂　本郷千駄木町二二九
シグナル週報社　神田表神保町三
ジャパンツーリストビューロー　麹町東京驛構內
ジャパンタイムス社　同　內幸町一ノ六
シンフォニー樂譜出版社　牛込西五軒町三四
時事新報社合資會社　麹町丸ノ內二ノ一八
史省堂　四谷傳馬町三ノ五
司泉堂　淀橋西大久保二ノ二五五
手相學院出版部　赤坂青山南町二ノ三四
時代社　瀧野川西ケ原六八
習堂　豐島池袋八一五
市町村雜誌社　芝田村町六
靜岡屋　麻布笄町五四
實業界社　芝田村町二ノ一
實業教育會　澁谷穩田一ノ一五五
實業堂　牛込早稻田鶴卷町四一
實業之世界社　芝愛宕町三ノ二
實業之日本社　京橋銀座西一ノ三
實正活社　品川大井宮本町四五〇三
實誠堂　荏原戸越町九六四
實踐教育會　世田谷下北澤一六五
實踐女學校販賣部　澁谷實踐女學校內
實用工學社　京橋銀座西八ノ四
實力社　瀧野川田端町四八〇
自彊館　神田錦町一ノ一二　同北甲賀町二〇　自彊術學院內
自彊術學院出版部　同　今川小路二ノ一一
自治館　豐島池袋二
自習堂　小石川江戸川町七
自省堂　四谷傳馬町三ノ五
自生堂　麹町丸ノ內三ノ一二
自動車界社　豐島目白町二ノ一六四三
自動車工學會　麹町四番町七
自由社　本郷駒込追分町四
自由莊　同　西片町一近藤方
兒童科學教育會　日本橋住吉町二
至誠堂第一分店　本郷本富士町二
至誠堂第二分店　芝三田四ノ一

至誠堂　日本橋本町四ノ一五
合資會社至誠堂　同　本町四ノ一五
至誠堂出張所　本郷本富士町二
至誠書院　麹町富士見町二ノ二六
兒童教育社　牛込東五軒町一〇
支那時報社　麹町下六番町五
支那哲學叢書刊行會　小石川高田老松町六〇
柴田清海堂　淀橋角筈二ノ九三
柴田書房　同　西大久保一六九
柴田書店　品川上大崎二ノ五五三
柴善書店　本郷森川町一
柴又書店　葛飾柴又町一ノ七八
芝浦書店　芝芝浦町三ノ一
芝原書店　蒲田羽田町三ノ二五二
至文社　芝愛宕町一ノ一九
至文堂　牛込拂方町二七
斯文館　神田南神保町九
斯文書院　牛込新小川町二ノ一一
斯文堂　本郷駒込曙町二六
篠山書房　豐島巢鴨七ノ一六八八
資文堂書店　麹町飯田町二ノ三
四海書房　豐島巢鴨七ノ一六九四
四海堂書林　淀橋戸塚町一ノ五六八
四魂堂　本所柳原町三ノ四六
四誓堂　中野前原町四〇
四方堂エスペランド研究所　牛込矢來町六四
四方堂　本郷森川町一
四六書院　神田通神保町一
島崎書院　本郷本郷六ノ四
島商店　荏原戸越町八一三
島田書店　本郷駒込林町七
島田書店　品川下大崎三七一
島田文盛館　神田表神保町二
島宗書店　品川大井倉田町三六二
島村書店　本郷森川町九〇
島村商店　城東大島町三ノ四六八
島村文具店　江戸川平井三ノ一〇七八
島屋　淺草今戸町二ノ一四
島屋　澁谷新橋町五六
志賀商店　豐島西巢鴨二一二二
志賀大盛堂　麹町元園町二ノ六
志美津屋　日本橋鰐殼町二ノ一三
志美津屋支店　向島吾嬬町西ノ一〇七
志水書店　豐島池袋二ノ八九〇
清水一貫堂　淺草北富坂町八五
清水キング堂　芝新橋四ノ八
合資會社清水書店　神田今川小路二ノ二
清水書店　同　同　二ノ四
清水書店　芝三田二ノ一一
清水商店　豐島池袋二ノ一一〇五
清水商店　城東龜戸町五ノ一五一
清水支店　芝三田四ノ一
清水書房　世田谷上馬町三ノ一〇〇八
清水日進堂　板橋板橋町七六七
清水百貨店　目黒唐ケ崎五九二
清水文具店　神田佐久間町四ノ九
清水鳳文堂　下谷龍泉寺町三七六
清水屋　神田鍛冶町五
清水屋　本郷駒込神明町三一三
清水屋　淺草公園仲見世八二號
清水屋　瀧野川田端町五五
清水屋支店　本郷駒込神明町四一九
湘南堂　杉並高圓寺七ノ九七四
湘南堂分店　同　高圓寺七ノ九二一
城南國定教科書特約販賣店　品川大井坂下町二六七
城南堂　同　南品川二ノ一八〇
城西堂書店　澁谷神宮通一ノ二〇
城久堂　品川上大崎三三六
秀山堂文庫　中野中野町三六三一
秀美堂　向島寺島町八ノ五五
秀閣　芝愛宕町三ノ二
秀文館　王子下十條町一五三五
秀文社　芝高輪南町七
秀文書院　澁谷大和田町六三
秀文堂　王子堀船町一ノ五八三
秀名社　神田中猿樂町一七
下出書店　麹町永田町二ノ一

下澤書店　小石川小日向水道町五八
下田文榮堂　本郷龍岡町三六
下村書店　目黑駒場町九〇六
下山書店　世田谷上馬町一ノ八二
僕會出版部（社會運動往來社出版部）　豐島雜司ヶ谷六ノ八二九
社會學徒社　同　西巢鴨二ノ二四四六
社會教育協會　荏原下神明町二八〇
社會思想研究所　小石川白山御殿町二七
社會書房　豐島西巢鴨二ノ二九三
寫眞藝術社　神田錦町一ノ一六
寫眞の友社　京橋銀座七ノ二資生堂內
上海內山書店出張所　本郷根津須賀町二七
裝華房合資會社　日本橋久松町三九京華堂方
招德堂　麴町中六番町五四
女人藝術社　麻布飯倉片町二二
受驗研究社　牛込左內町三一
受驗講座發行所　神田表神保町一〇
受驗新誌社　牛込新小川町二ノ一一
受驗生社　神田中猿樂町一七
昭榮商事株式會社　同　小川町三七
昭興館　同　鎌倉河岸二三號地
昭光堂　淀橋戸塚町一ノ一六〇
昭光堂　芝濱松町二ノ一〇
照國會出版部　板橋板橋町三ノ三三二
照三堂書店　淀橋百人町三ノ三七三
昭々閣書房　大森堤方町四四
昭心堂　杉並高圓寺五ノ八五九
昭德堂　豐島長崎東町三ノ四七七
昭美堂　荒川日暮里町六ノ三二四
昭文館書店　杉並成宗二ノ八七八
昭文堂　神田今川小路二ノ六
昭陽堂書店　牛込市ヶ谷田町一ノ三
昭和堂　京橋木挽町一ノ一四
昭和書院　同　槇町一ノ五
昭和商店　芝新門前町一八
昭和書店　日本橋通二ノ五
榮堂　四谷花園町九七
昌弘堂　本郷本郷五ノ五
昌弘堂　荒川尾久町一二七〇
昌文堂　四谷谷町二ノ一二
松陰堂　澁谷上通三ノ四四
松雲堂　本郷湯島三ノ九
松榮堂　世田谷若林町二五〇
松鶴堂　神田今川小路二ノ一七
松華堂　小石川竹早町一〇八
松月堂　澁谷澁谷七七二
松光堂書店　中野宮園通三ノ二
松山書店　足立梅田町一四六二
松山堂　牛込水吹町四〇
松山堂　品川北品川二ノ四五
松誠堂　下谷新坂本町二六
松盛堂　豐島駒込一ノ二八
松驛堂　向島隅田町一ノ五四五
松生堂　麴町平河町五ノ二
松柏社　淺草北富坂町八五
松柏堂　同　新谷町四
松文堂　下谷徒士町三ノ三六
松榮堂　神田小川町七
松陽堂　淺草福井町一ノ一
松陽堂　同　同
松陽堂分室　葛飾本田立石町五八九
松林堂　世田谷經堂町一八五
松和堂　板橋志村町二三八
小學館　神田一ツ橋通三
小學學びの友社　本郷湯島兩門町一五
少年團日本聯盟需品部　神田一ツ橋通町三
正榮堂　麴町丸ノ內二ノ三
正金堂　京橋新川町一ノ六
正直堂　神田錦町一ノ一
正直堂　日本橋本石町三ノ六
正進堂　下谷坂町一
正美堂　澁谷上通二ノ一二
正文堂分店　大森新井宿三ノ一三八七
　澁谷幡ヶ谷笹塚一〇三

正札堂文房具店　葛飾本田淡之須町一四四
正チヤン堂　澁谷千駄谷四ノ六九六
正明堂　葛飾上平井町三九八
社團法人食糧評論社（食糧會事業部）　蒲田小林町一六六
祥華堂　荏原戸越町一一九四
祥光堂書房　本郷本郷六ノ二四
祥文堂　京橋銀座三ノ四
書齋社　荒川南千住町三ノ一四七
書籍販賣部　麻布笄町一二六（世田谷上馬町二ノ一二三　小川方）
書進堂　城東大島町六ノ六一六
榮堂　京橋岡崎町一ノ四
昇光堂　目黑中目黑二ノ六一〇
昇文堂　城東龜戸町五ノ一六一
照山堂　神田一ツ橋通町一七
照林堂　澁谷穩田二ノ一四四
合資會社尙美社　神田錦町一ノ一
尙文堂書店　同　元佐久間町一
敞文館　同　南神保町一六
聚精堂　同　表神保町一〇
趣味普及會　本郷龍岡町三二
株式會社主婦之友社　澁谷青葉町一〇
章華社　神田駿河臺一ノ六
奬學堂　目黑中目黑二ノ五八二
　澁谷榮通一ノ四三
情海堂　本所吾妻橋二ノ三
啓品堂　品川南品川五ノ七七
春江堂　日本橋藥研堀町四八
春光堂　牛込西五軒町五二
春古屋　足立千住二ノ五
春秋社　日本橋吳服橋二ノ五
春秋書院　神田中猿樂町二二
春秋堂　赤坂青山南町四ノ三〇
春草堂　神田通神保町一
春村堂　淀橋戸塚町一ノ二二〇
春鳥會　小石川駒井町三
春風堂　目黑下目黑三ノ五三三
春芳堂　澁谷代々木上原町三三五
春陽堂　神田今川小路一ノ三
春陽堂　日本橋通三ノ八
春洋社　神田錦町一ノ七
春祥堂　京橋銀座四ノ一二
春林堂　同　槇町一ノ一
白木屋　日本橋通一ノ八
株式會社白木屋分店（白木屋商店合資會社）　豐島巢鴨六ノ一三四四
白崎保善堂　板橋練馬南町一ノ三三三
白澤堂　麴町平河町六ノ一
新愛知新聞社東京支部　本所橫綱町二ノ五
新鋭堂　京橋銀座西七ノ五
新櫻堂　大森大森三ノ六六五
　本郷駒込東片町四三
新興科學社　豐島西巢鴨二ノ三九三
新光社　神田一ツ橋通町九
新光堂　同　錦町一ノ一九
新興社　芝白金臺町一ノ七八
新興社　神田小川町四一
新晃社　小石川大塚坂下町一七
新古畫粹社　京橋靈岸島町六
新國畫堂　本郷森川町一
新時代社　足立千住中組八七七
新書館　牛込若松町五四
新星館　小石川雜司ヶ谷七八
新政社　麴町富士見町二ノ二六
新星社書店　淀橋百人町二ノ一三七
新聲社書店　本所綠町二ノ二三
新盛堂　荏原中延町七二七
　神田三崎町一ノ三　大成中學校內
新誠堂　淺草新谷町一
新生堂書店　神田北神保町二
新泉堂　淺草馬道町六ノ一二
新知社　麴町下二番町七〇
新潮社　牛込矢來町七一
新富堂　城東北砂町四ノ一四七六
新日本書房　牛込市ヶ谷臺町一六
新橋堂　蒲田新宿町三四二
新橋堂出張所　四谷信濃町慶應醫科大學病院內
新聞之新聞社　神田今川小路一ノ四

新文化社　深川西平野町一
新報社　淀橋柏木町三ノ三二五
新明堂　日本橋元柳町八
新明堂支店　同　横山町一ノ一一
新陽社　四谷大番町八八
人格堂　深川東扇橋町三二
人生社　神田今川小路二ノ二
人文會　牛込矢來町三
人文社　小石川金富町一九
榮堂　世田谷玉川等々力町二ノ一九〇二
信義堂書店　日本橋蠣殼町一ノ三
信松堂　淺草七軒町一
信成館　渋谷千駄ヶ谷九〇五
信生堂　神田東福田町一
信正堂　目黒三田一六八
信誠堂　城東大島町一ノ一八一
信誠堂　淺草松清町九
信文堂　豐島池袋四ノ四九八
信明堂　淺草向柳原町一ノ一六
信友堂書店　神田通神保町六
信陽堂　芝芝公園五號地
信陽堂書店　中野桃園町一八
神宮館　下谷西町一
神誠館　本郷湯島四ノ五
神文堂　淺草千束町一ノ八二
神保書店　小石川原町九

進榮堂　神田表神保町六
進廣堂　同　通神保町三
進信堂　四谷花園町九〇
進省堂　神田南神保町一五
進誠堂　同　南神保町一〇
進善堂　小石川大塚仲町四一
進藤商店　同　林町一六
進步堂　本所龜澤町四ノ二一
振興館　京橋鎖座西七ノ五　國文社ビル內
振興堂　板橋縣馬土支田町一ノ一五二
晨美堂　渋谷上通二ノ四四
辰文館　神田仲町二ノ六
晋文館　四谷內藤町一
眞光堂　日本橋濱町二ノ一四
眞光堂　杉並高圓寺町五ノ七六一
眞文堂書店　大森入新井四ノ八三六
彰文館　神田小川町二ノ三
賞文堂　淺草北清島町七七
勝文堂　城東龜戸町四ノ四三
笑樂堂　小石川指ヶ谷町六四
純眞社　深川富川町三一
駿々堂　神田表神保町一〇
仁誠堂　杉並松庵北町一一〇
診斷と治療社　麴町丸ノ內三菱二一號
株式會社人文書房
審美書店　神田小川町一
京橋銀座西三ノ三

心友社　豐島巢鴨一七六八

す

瑞光堂　荒川南千住町五ノ三九
瑞光堂　同　南千住町一ノ十一
瑞芳堂　豐島巢鴨七ノ一六二三
水月莊　淀橋戸塚町三ノ八七八
水光社　杉並阿佐ヶ谷二ノ六一〇
水產社　京橋東湊町一ノ二一
水明書院　赤坂丹後町九八
燧洋堂　四谷鹽町三ノ一七
嵩山房　本郷西須賀町一七
崇文堂小寶部　麻布新網町二ノ六
崇文堂書店　神田表神保町一
數文館　同　錦町三ノ一九
末廣堂　瀧野川西ケ原町六四二
圖畫手工社　小石川春日町二九
菅沼支店　品川南品川一ノ二二一
菅沼書店　同北品川二ノ七六
菅野青雲堂　板橋板橋一ノ七七六
菅家東雲堂　麻布新廣尾町三ノ八三
巢鴨堂　豐島西巢鴨二ノ五三三
杉浦書店　芝三田松坂町三六
杉下書店　京橋寶町一ノ八
杉田日進堂　神田錦町三ノ三
杉野書店　足立千住三ノ四三渡邊方

杉原商店　大森大森二ノ九九一
合資會社杉本圖書室　本所龜澤町一ノ二一
株式會社杉本書店　神田猿樂町三ノ一文行社內
杉山書店　東京出張所
杉山書店　同　表神保町二
壽喜多屋　城東大島町四ノ四九
助六堂　深川門前仲町一ノ一
スギムラ書店　向島寺島町七〇〇
スギヤマ書店　淺草千束町二ノ三〇四
スズキ　神田元岩井町一〇
すゞや　世田谷新町二ノ四二五
スミレ書店　中野城山町六四
鈴木一心堂　豐島長島東町二ノ九三八
鈴木敬文堂　淺草北松山町七三
鈴木書店　渋谷上通二ノ一六
鈴木書店　日本橋通三ノ二
鈴木書店　杉並馬橋二ノ九五
鈴木書店　足立千住河原町七一
鈴木商店　芝西久保櫻川町一〇
鈴木商店　豐島西巢鴨七五三
鈴木商店　荒川三河島町七ノ八七七
鈴木商店出版部　京橋京橋一ノ六
鈴木書房　淀橋戸塚町二ノ一一二
鈴木昭文堂　荒川日暮里町七ノ六九三
鈴木堂　牛込市ヶ谷砂土原町一ノ二
鈴木文具商　麻布仲ノ町九
鈴木豐文堂　王子上十條町一四一七
鈴田光文堂　荏原戸越町一〇五一
鈴屋書店　牛込河田町一七
鈴蘭堂　本郷駒込上富士前町二
須賀樂器店　神田表神保町二
須田書店　牛込河田町一
須原屋　京橋京橋二ノ二
須永書店　芝新橋七ノ四
砂田東山堂　本所菊川町一ノ二六
西班牙語學會　目黒上目黒八ノ六三八
諏訪書店　芝今入町一五和合倶樂部內
牛込山吹町四〇

せ

星鳳社　神田今川小路二ノ二
正義時報出版部　芝高輪南町二九
正興館　牛込下宮比町一五
正光社　京橋入舟町四ノ二
正賞堂　小石川關口臺町八
正則英語學校出版部　神田錦町三ノ二
正文堂　王子赤羽町一ノ二二一
正文堂支店　同　稻付西町六ノ二四四
正門堂　牛込早稻田鶴卷町一〇七
菁我書房　小石川江戸川町二九
菁我堂書店　神田表猿樂町八
靜觀堂　同　錦町三ノ二
靜光社　赤坂一ツ木町八九
靜思堂　神田錦町一ノ一二
青雲堂　荒川三河島町二九九九
青海堂　大森新井宿六ノ六六五
青華堂　目黒碑衾町大岡山
青華堂本店　麻布新堀町七
青芽堂　荒川日暮里渡邊町一〇四〇
青甲社　日本橋大傳馬町一ノ二
青山堂書店　神田錦町一ノ一九
青々堂書店　日本橋元柳町一〇
青南堂　赤坂青山南町六ノ一三
青南堂　淀橋角筈二ノ八四
青年會寶店　神田美土代町三ノ三　東京基督教青年會館地下室
青蘭社書房　大森新井宿六ノ六一三
青林堂　中野住吉町五八
清英社　深川清澄町二ノ一
清海堂　渋谷千駄ヶ谷三ノ五四〇
清光社　小石川原町一三〇
清光堂　渋谷佐々木大山町一〇四五
清進堂　淀橋戸塚町一六四
清新堂　瀧野川中里町一一〇
清秋堂　下谷谷中初音町四ノ一二六
清勝堂　淺草森下町一一二
清文堂　神田鎌倉町七
清龍堂　同　鎌倉町六
清和書院　麻布竹谷町一ノ七六
精華書房　神田今川小路一ノ四